



清俗紀聞
第二

樂帙
卷之二
居家

77
3316
2



門 97
3316
卷 2

早稲田
大学
図書
蔵

青台紀聞卷之二

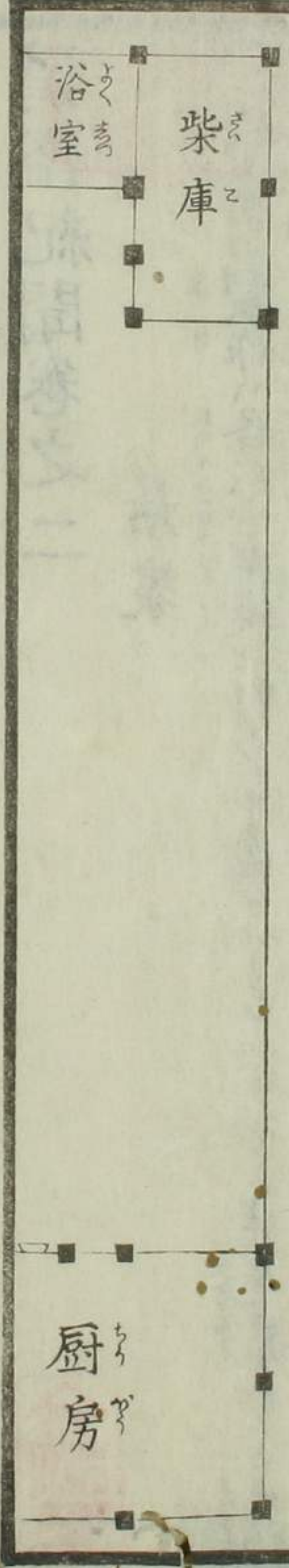
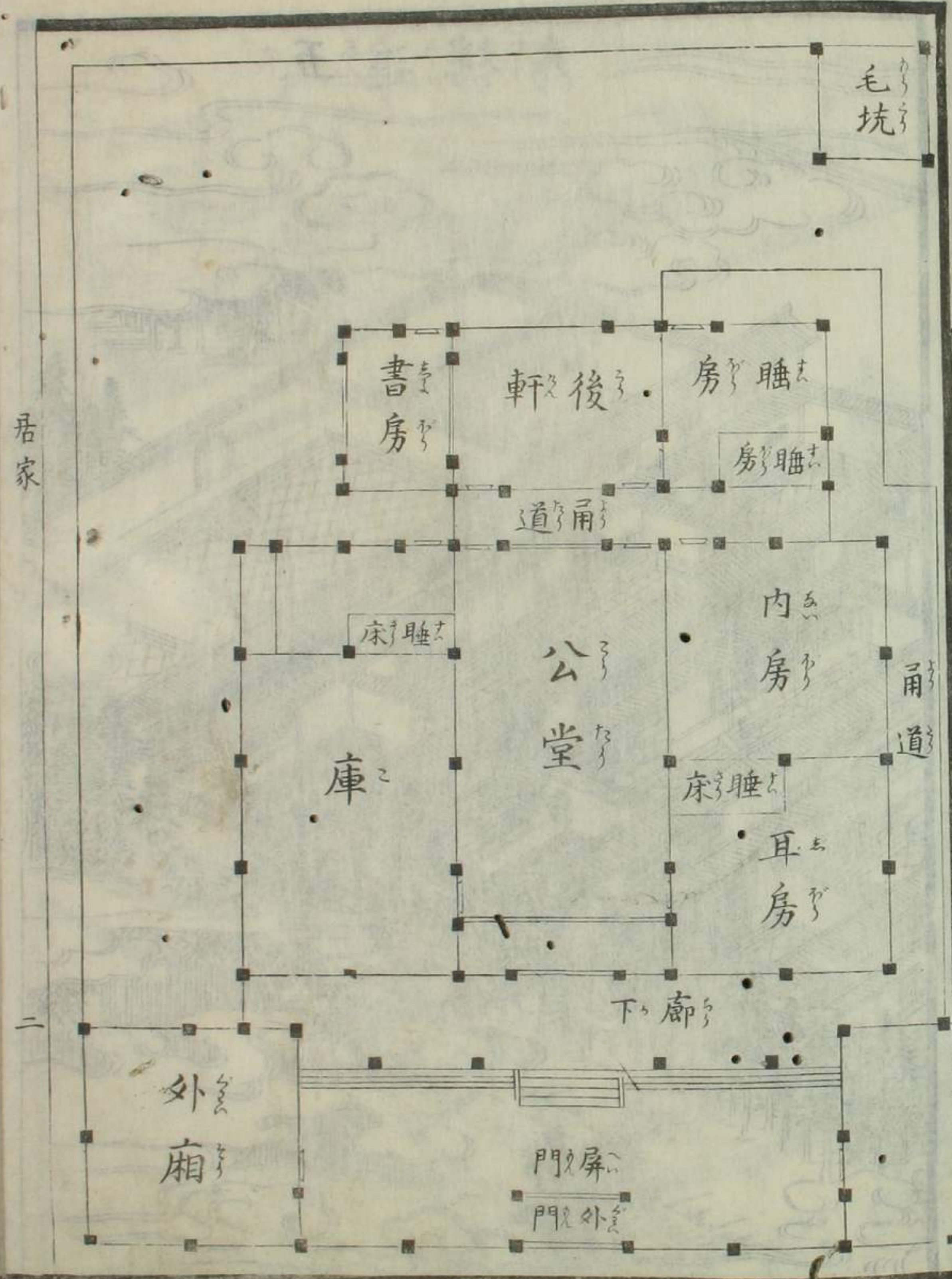
居家

居家の制は作り各大小廣狭は別ありて同一やをさくは皆瓦葺きして大約
 外面より泥墻板墻に面し大門を設け大門より二間二間行内儀門をたぐ
 儀門の内へ玄關向の板敷廣見一間板敷客入あり其際北時北向あり應
 對は是は廳堂より一外廳より公堂より
 ある一方書房或造作をかもつ廳より少く奥の方へおぼしく廳堂或
 建まらば内廳より大戸を是を兩楹建て川堂内廳と分別するあり
 内廳の側へ書房を設けたり内房へ通ふ一楹に建てつけたるあり
 内房に別み建ふあり其奥腹の方へ厨下あり惣として柱を圓方等一か
 廳堂むねの多く圓柱或用由柱毎み礎を並礎も圓方或は六角等不

居家

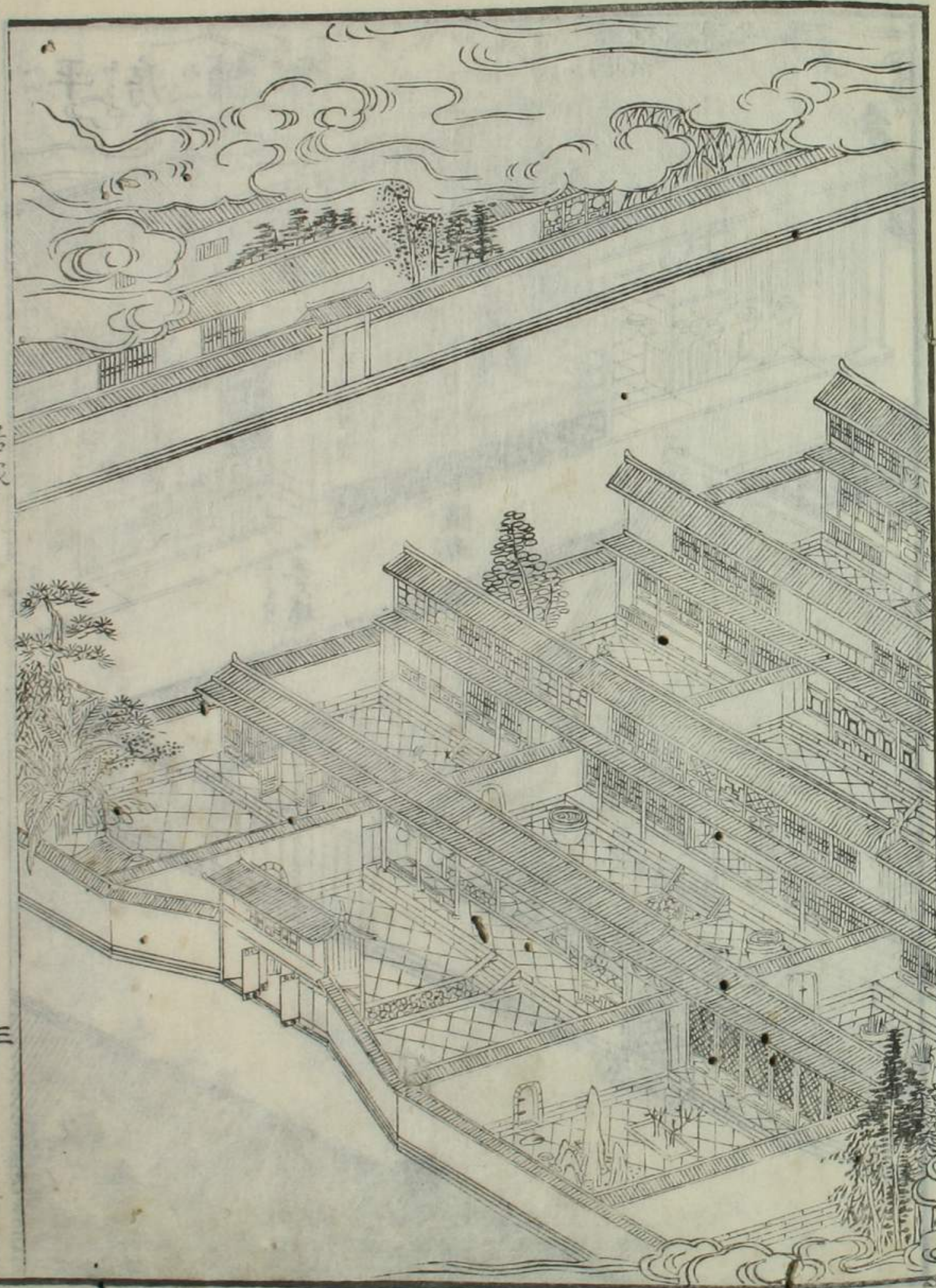
早稲田大学図書
昭和35.1.28
蔵書

早稲田
大学
図書
蔵



小戸平房

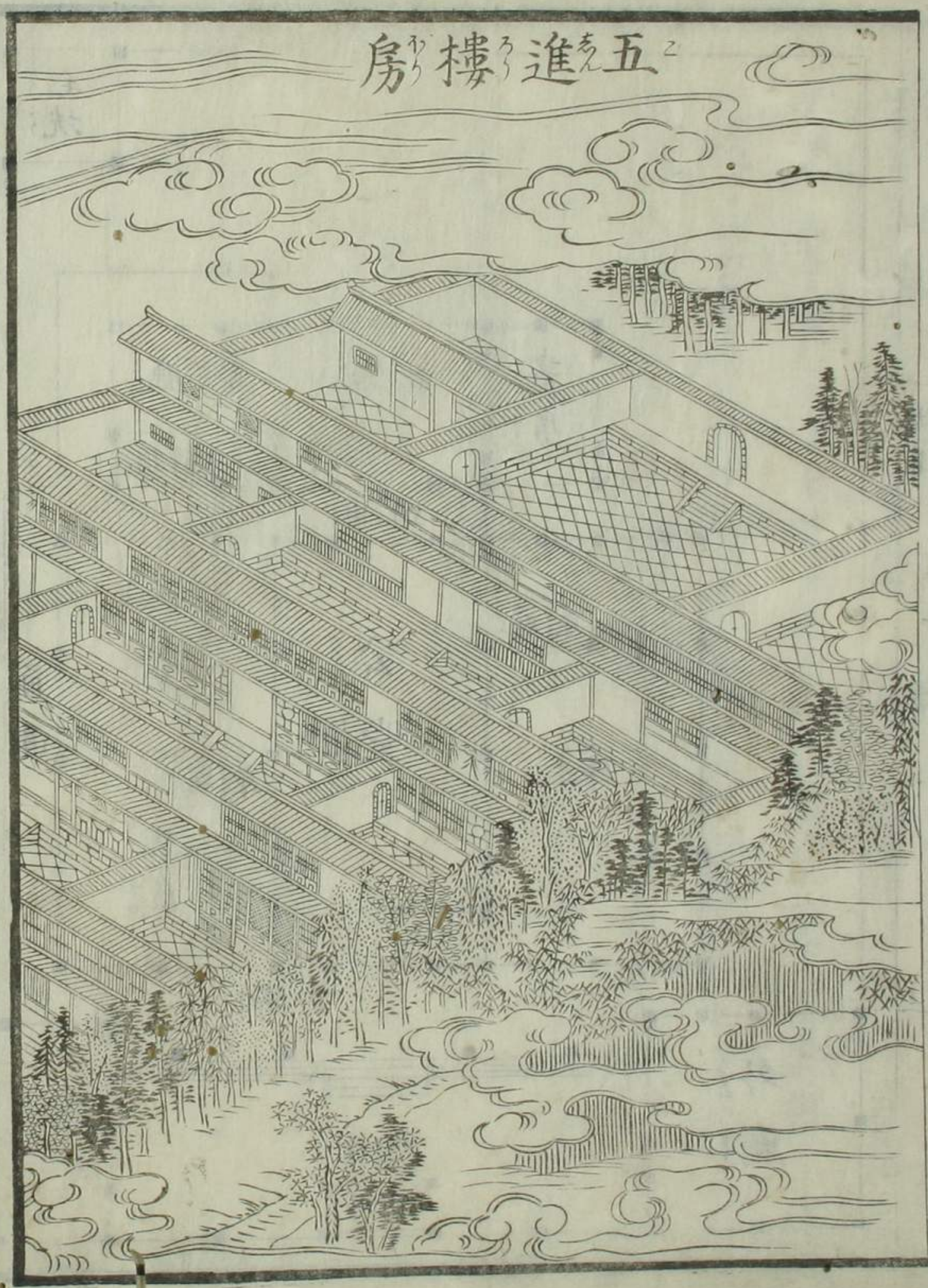
同様の壁の磚をぬぐ土めて築き厚は一尺程ありて上は白灰海苔
 黄土赤土等好に上塗成せる色土割底又定式あり屋中却り床
 を張るは方ありい亀甲形の瓦敷敷き成鋪敷といふ又厚板板あり
 輒の代りたきふもあり内房厨下等の床を張る板鋪みす板も又
 土間もあり通行の路成る何れも土間ありい平石成敷き成る用道と
 表端の高さ九六七三より一丈程あり

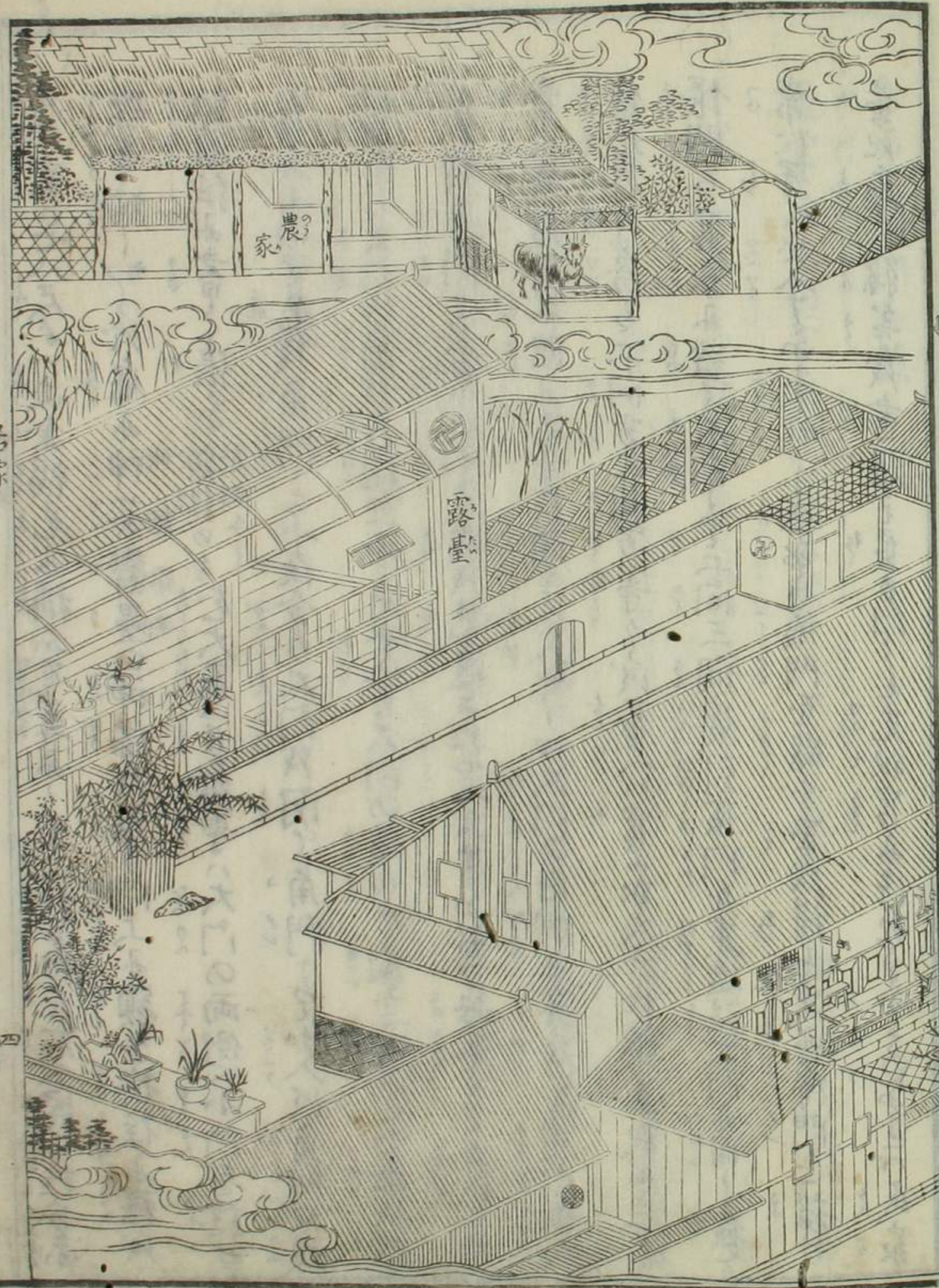


居家

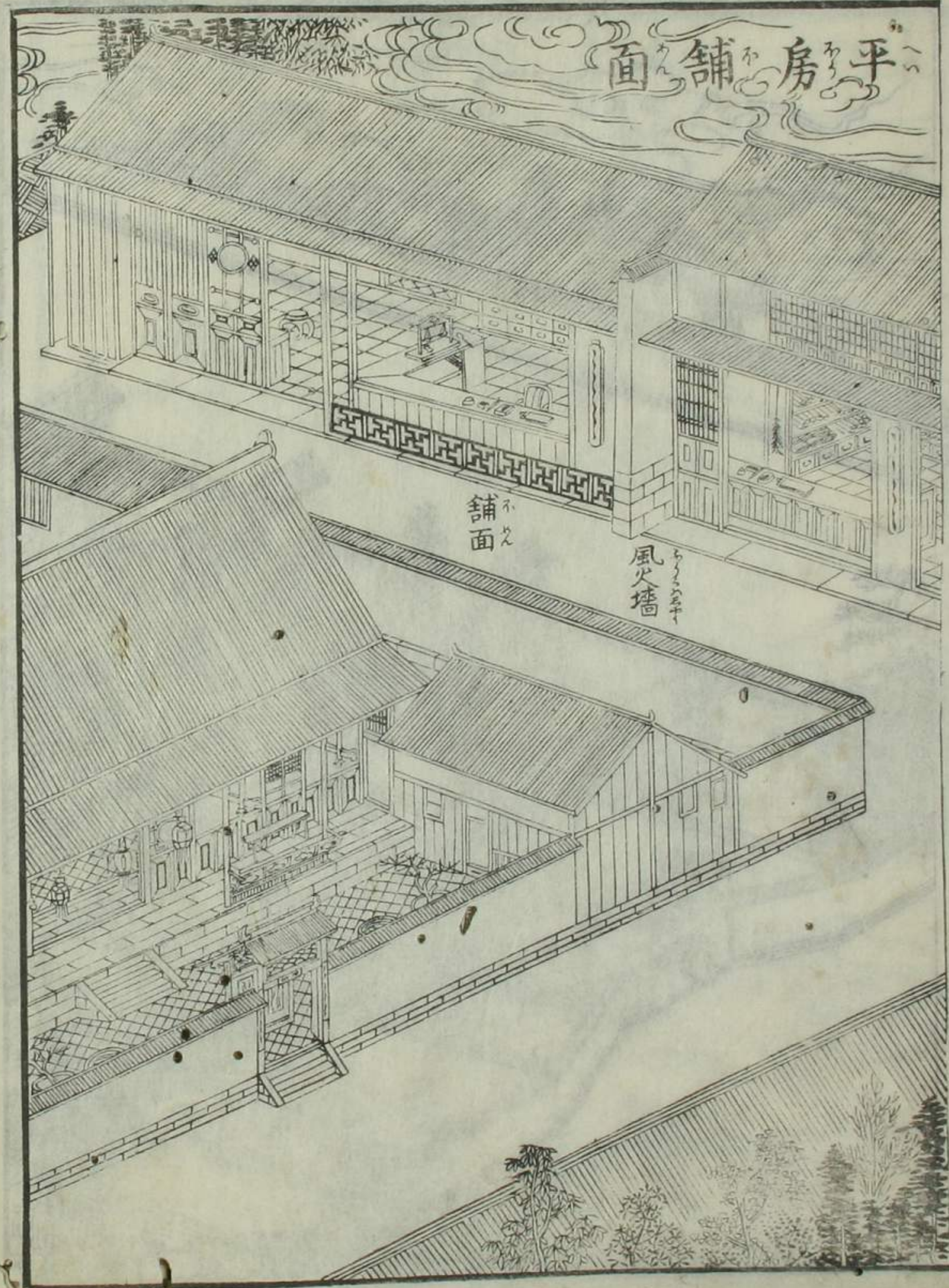
三

五進樓房





居家



平房 舖面

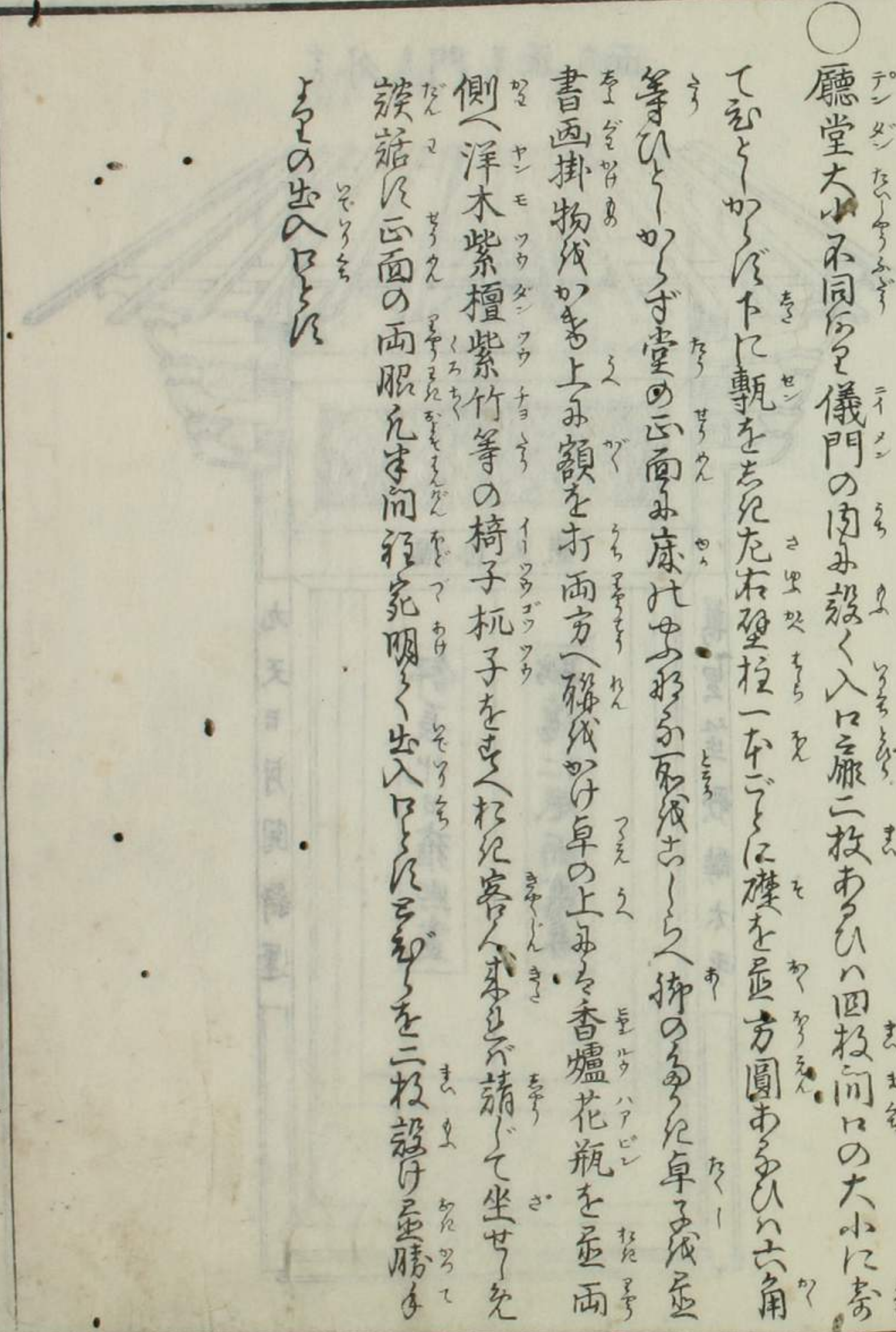
舖面

風火牆

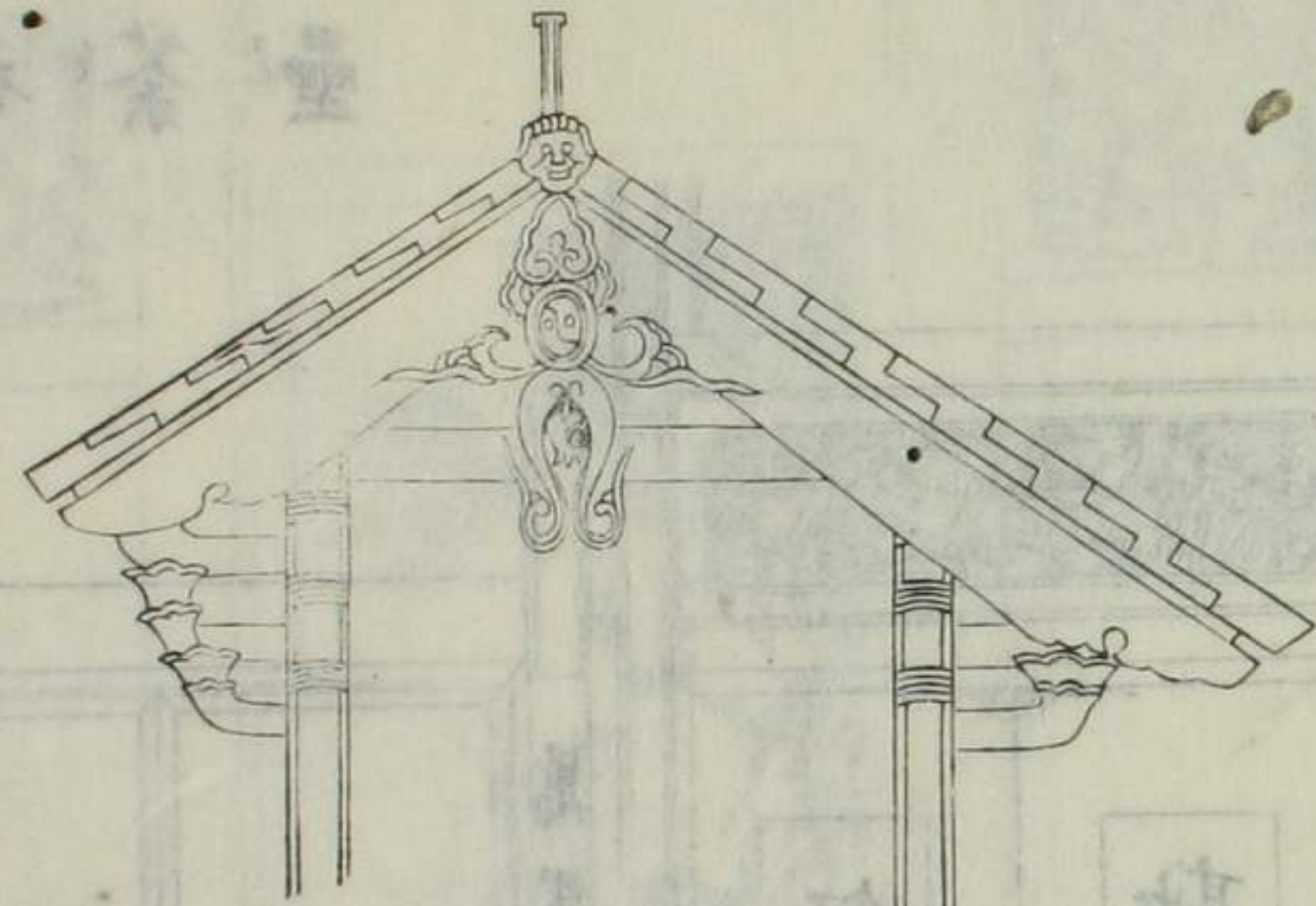
大門高三七八尺、一丈余幅、是れ稱ふ瓦葺きして二枚麻左右、空く柱方糸
 礎等、均し、かつ、扉扉神茶、櫛壘の神儀、成張り、門上、額を掛、柱、糸、礎、成
 紅唐紙、糸書、く、張る、額、録、の、向、を、大家、官、家、等、の、大門、の、両、側、小、門、を、設、け
 る、ふ、も、あ、り、是、れ、成、角、門、と、し、夜、分、と、大、門、成、開、て、角、門、と、し、出、入、以、角、門、を、設、け
 け、ら、ら、大、門、の、扉、成、片、開、け、し、て、出、入、を、大、門、の、内、側、一、間、を、設、く、又、成、成、設、け
 く、是、れ、成、屏、門、と、し、常、の、開、く、内、成、見、透、る、ぬ、や、あ、り、此、の、如、く、出、入、せ、し、
 貴、人、高、位、の、來、臨、お、し、成、開、き、出、入、せ、し、む、大、門、の、内、側、耳、房、を、建、門、番、人
 住、居、耳、房、と、二、間、方、二、間、方、等、く、以、番、人、の、官、家、大、戸、に、限、り、平、民、用、事、の
 儀、門、と、官、家、お、設、く、大、門、と、二、間、三、間、内、引、取、門、を、建、造、法、太、門、お、同、し、一、間、を
 常、に、穿、て、出、入、す、る、事、れ、一、氏、家、お、儀、門、を、設、か、事、成、得、を、以、お、屏、門、を、設、け
 成、成、麻、お、稱、等、成、書、張、り、成、成、の、先、祖、官、お、は、け、ら、ら、あ、り、一、氏、家、

○ 儀門を設く

儀門の内に設く入口は二枚、二枚あり、一回、柱、間、口、の、大、小、に、お、
 て、お、と、かつ、下、に、軌、を、お、成、右、左、柱、一、本、を、以、礎、を、成、方、圓、お、成、以、六、角
 等、ひ、し、かつ、お、堂、の、正、面、お、成、床、お、成、お、成、お、成、お、成、お、成、お、成、お、成、お、成、
 書、函、掛、物、成、お、成、お、成、額、を、お、成、打、兩、方、一、稱、成、お、成、卓、の、上、お、成、香、爐、花、瓶、を、お、成、兩
 側、一、洋、木、紫、檀、紫、竹、等、の、椅子、杓、子、を、お、成、お、成、お、成、お、成、お、成、お、成、お、成、
 談、話、成、
 成、



外門之側面

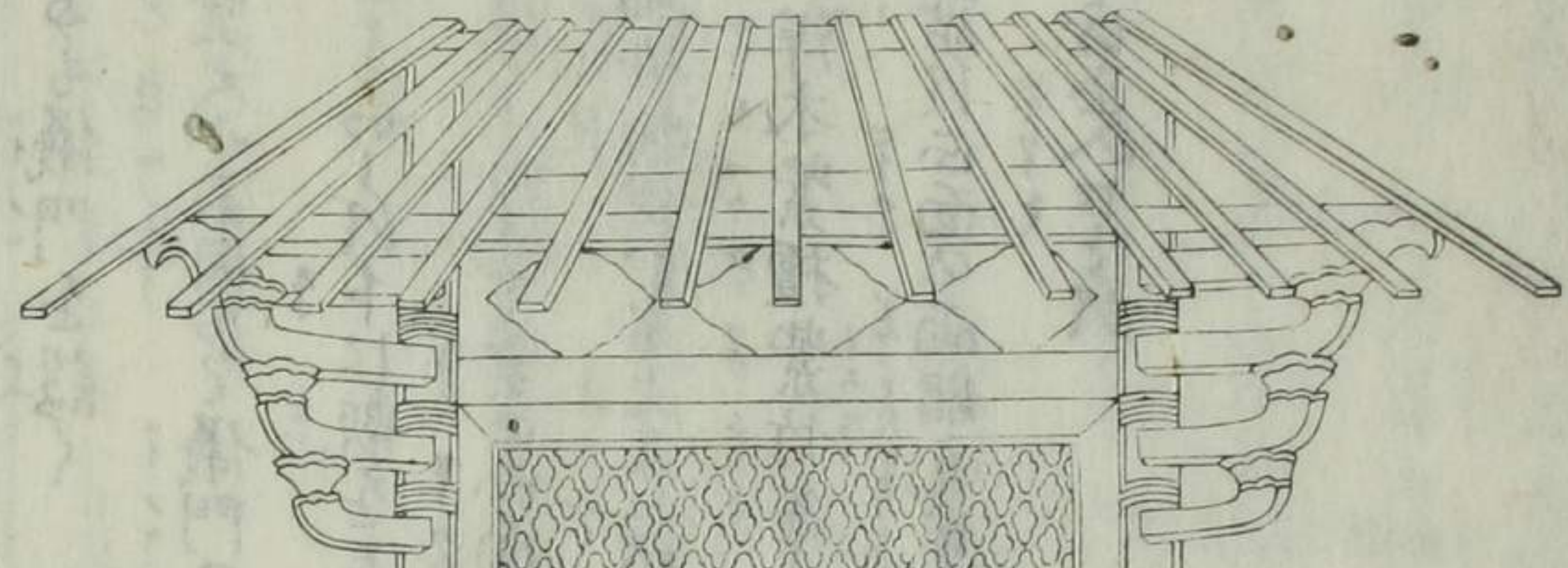


瑞氣二風雨露春

居象

六

外門之正面



福自天來

舒長化日雍熙晝

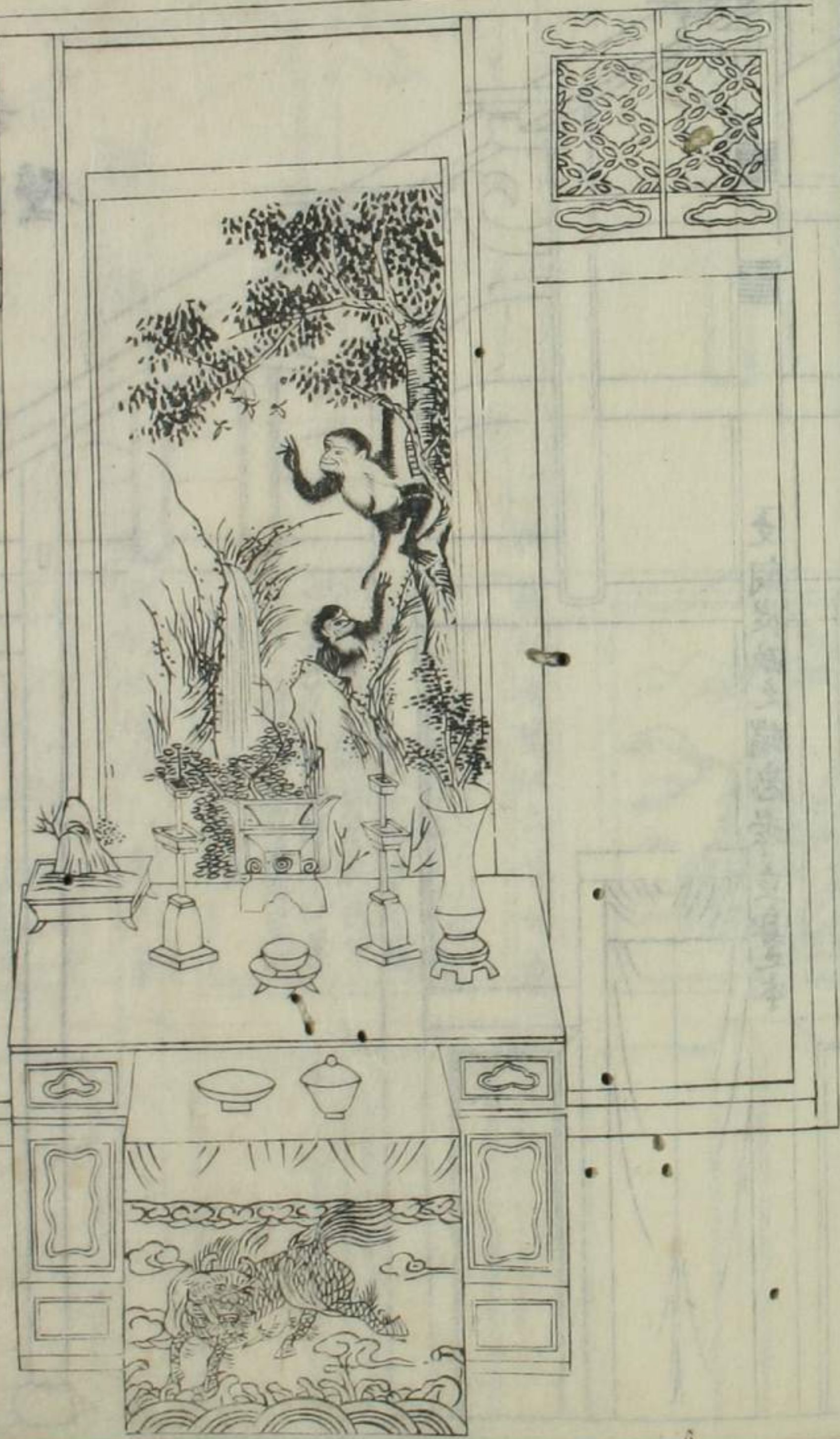
融蕩仁風雨露春

九天日月開新運

萬里生歌醉太平

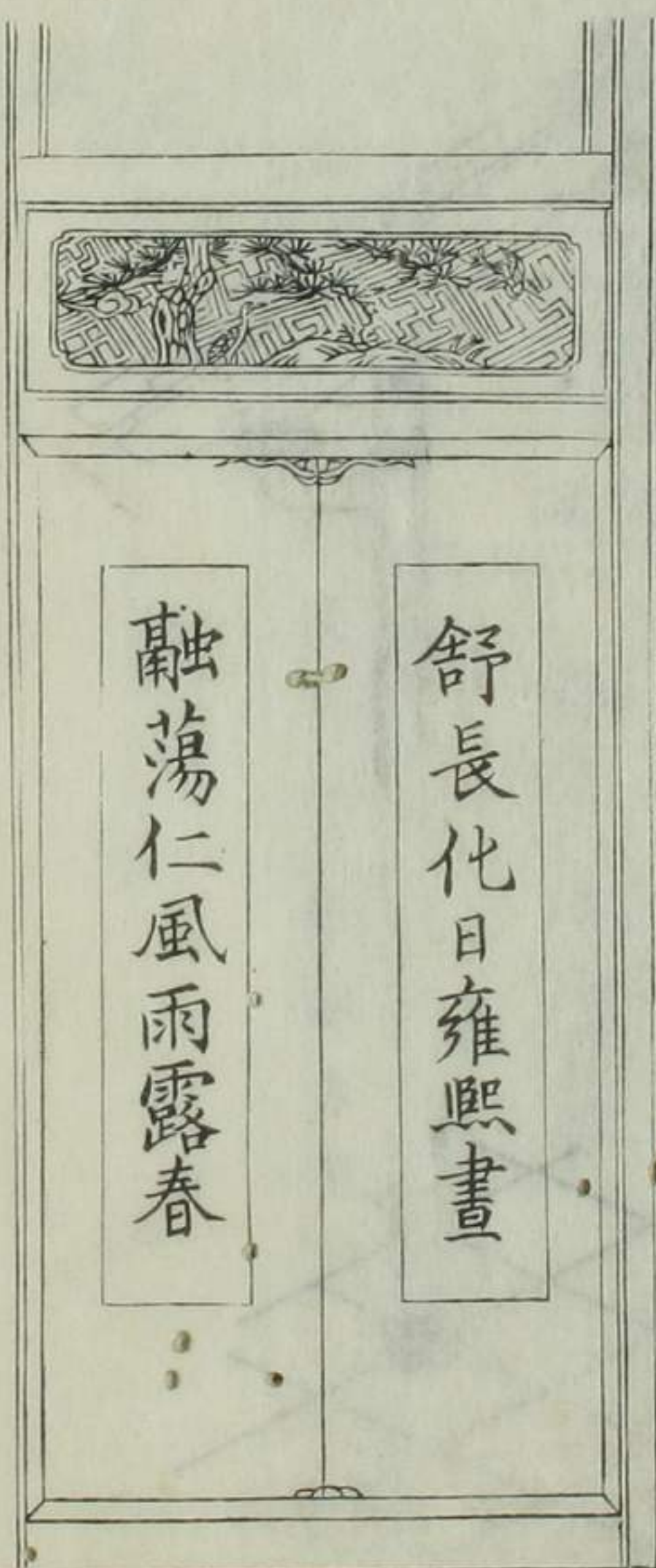
公堂正名面

居家



屏門扇

門神
神茶壘

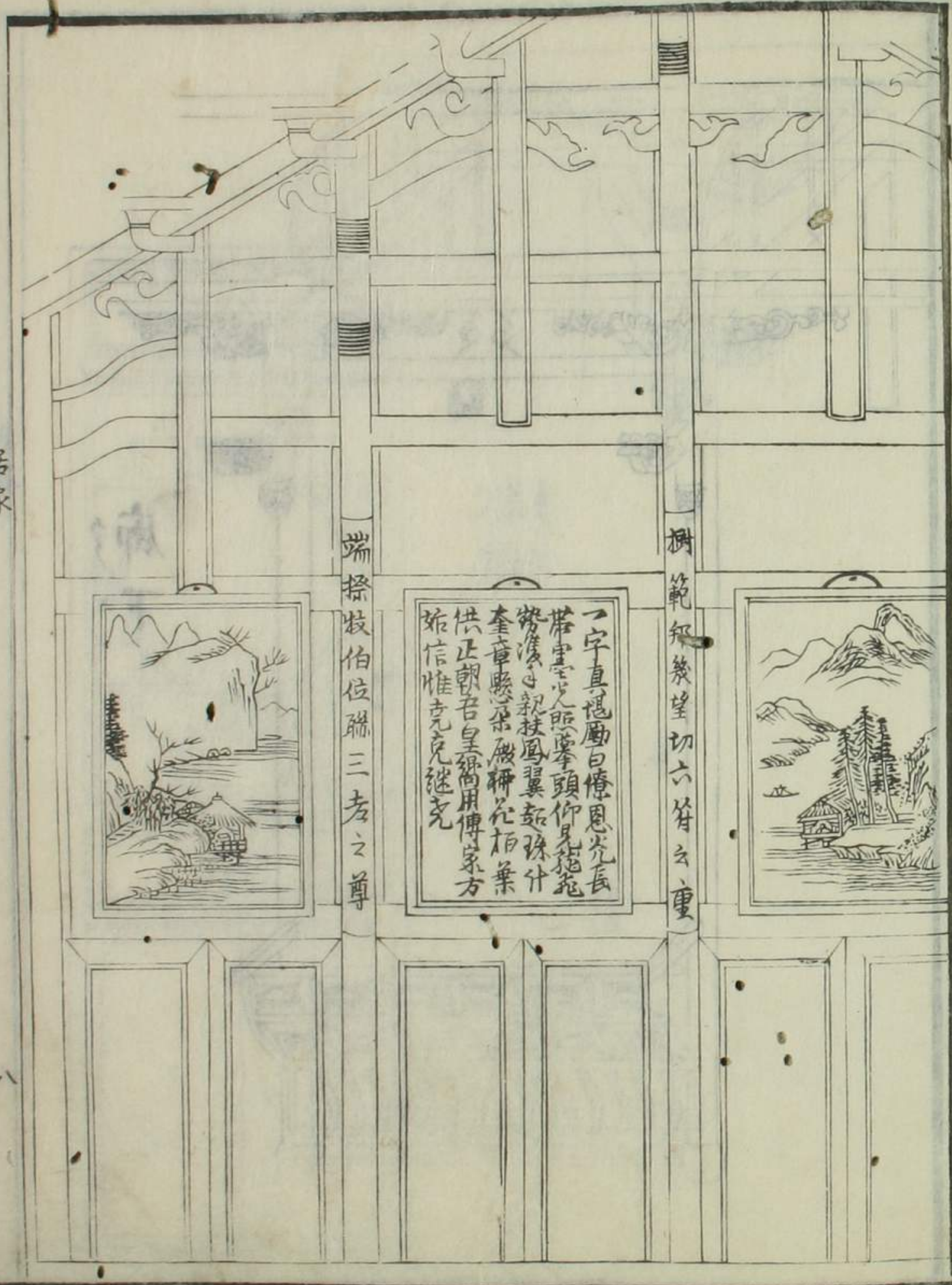


萬里笙歌醉太平



九天日月開新運

居家

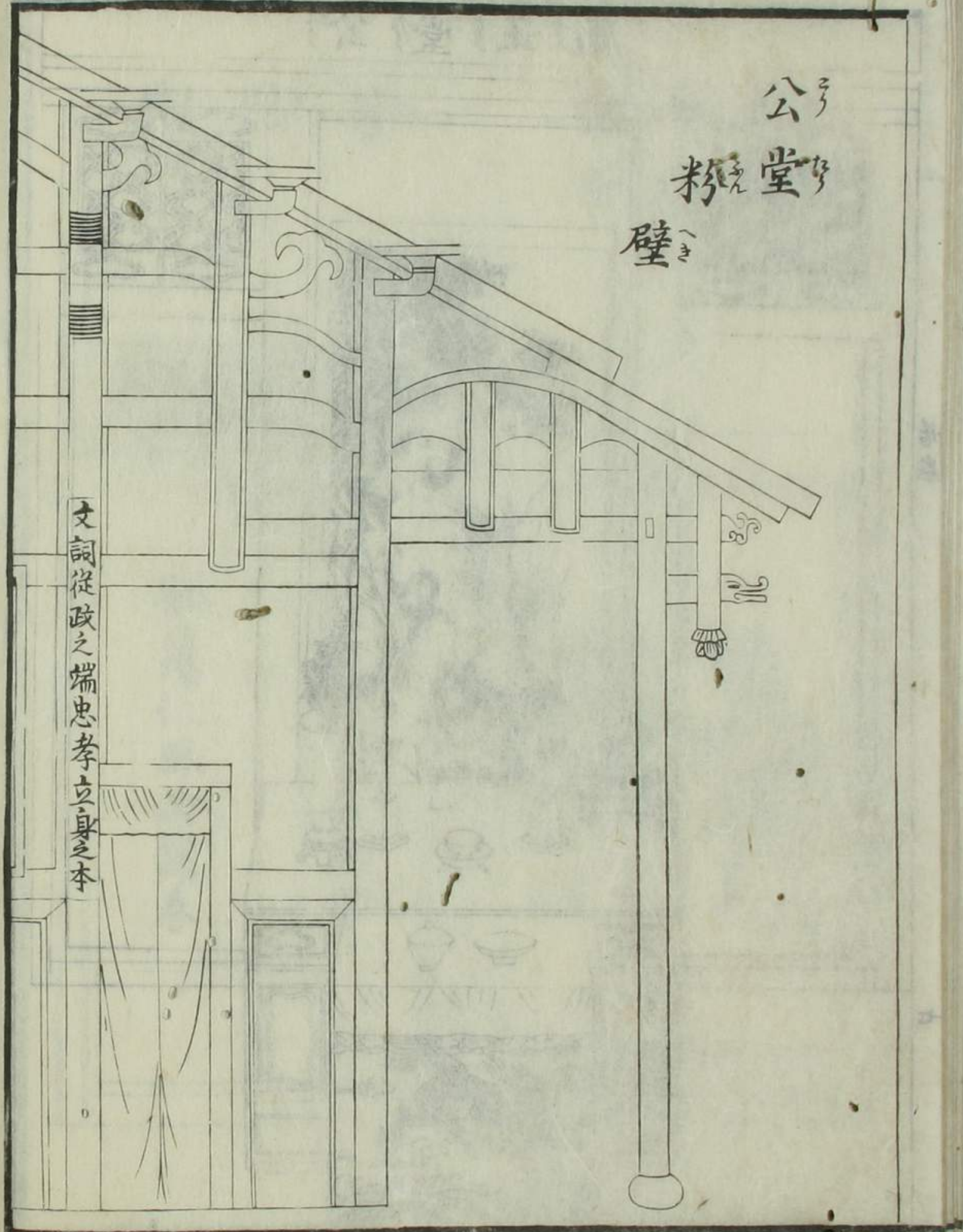


端操叔伯位聯三考之尊

一字真堪屬白憶恩光長
 若堂主人昭學頭仰見德苑
 勢漢子親枝鳳翼茲殊什
 奎章懸采殿研花柏葉
 供正朝君皇獨用傳家方
 始信惟克克繼克

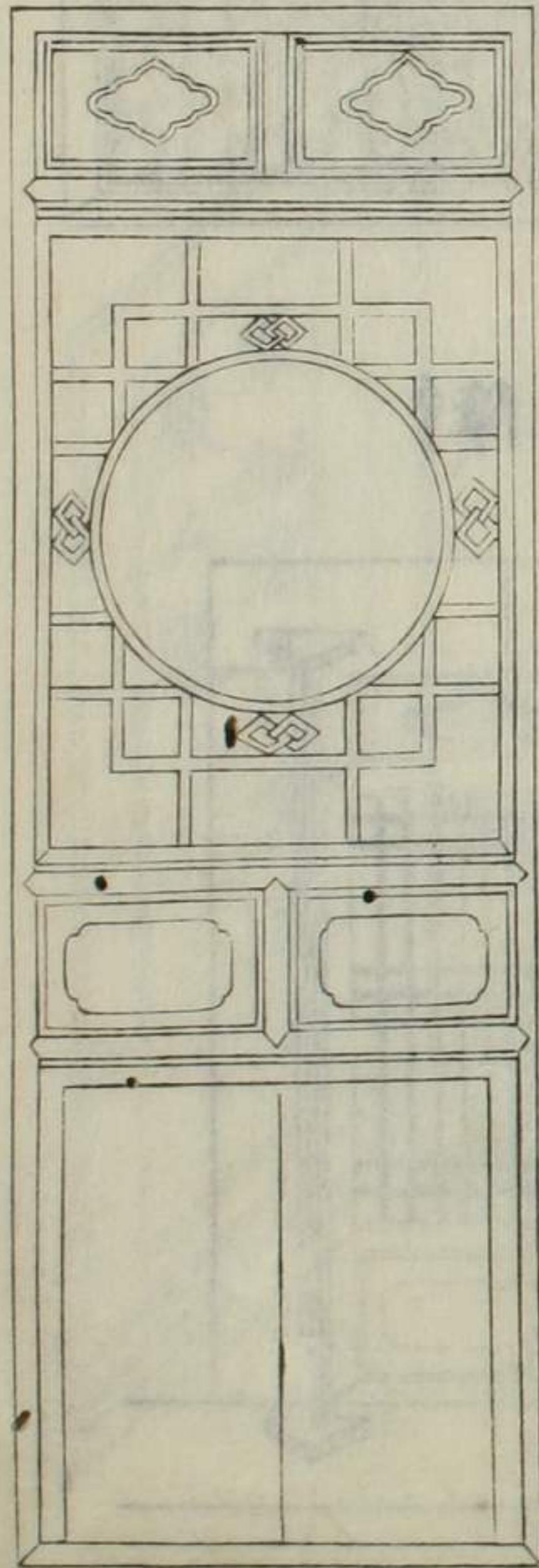
樹範知幾望切六符之重

公堂
 粉壁

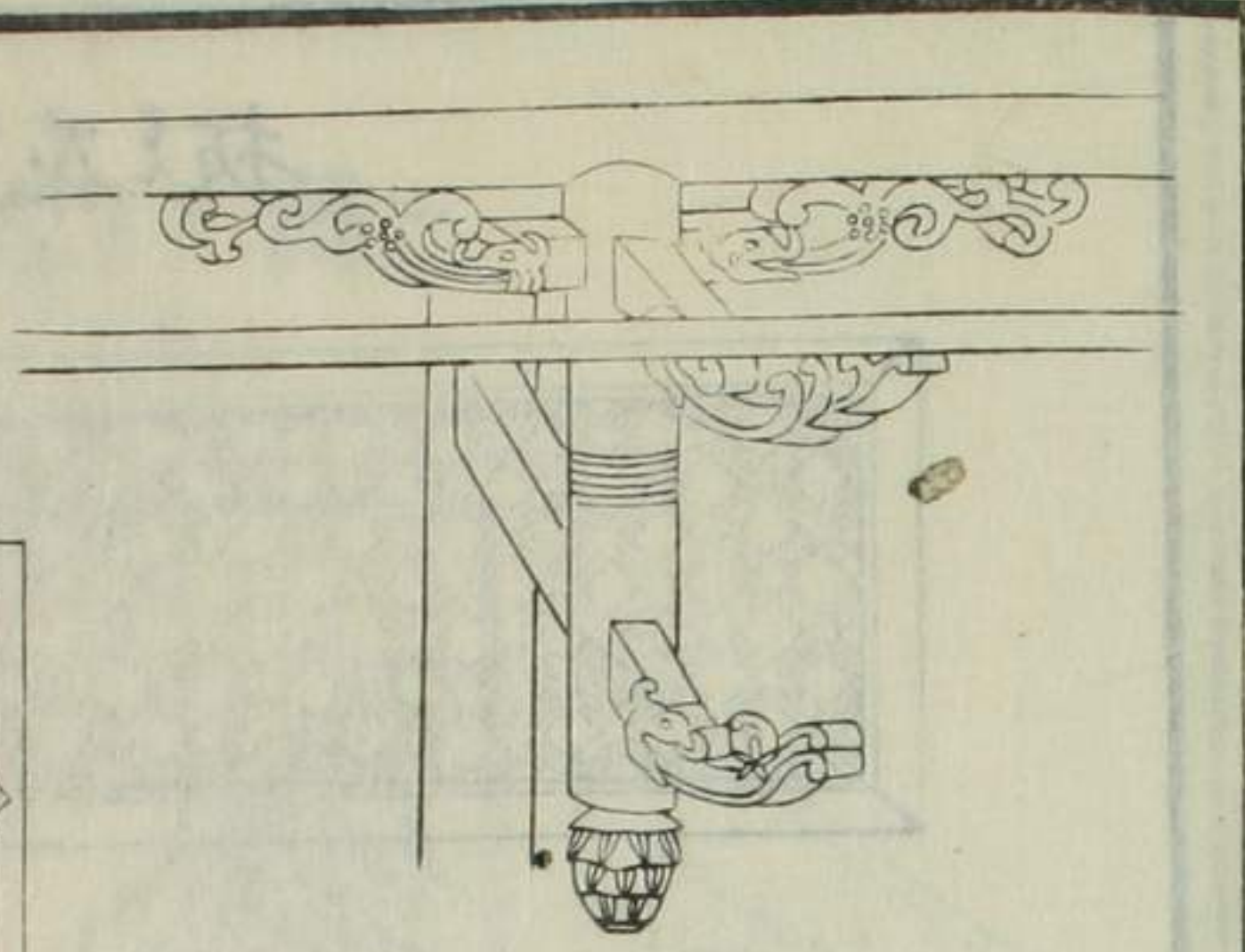


文詞從政之端忠孝立身之本

居家

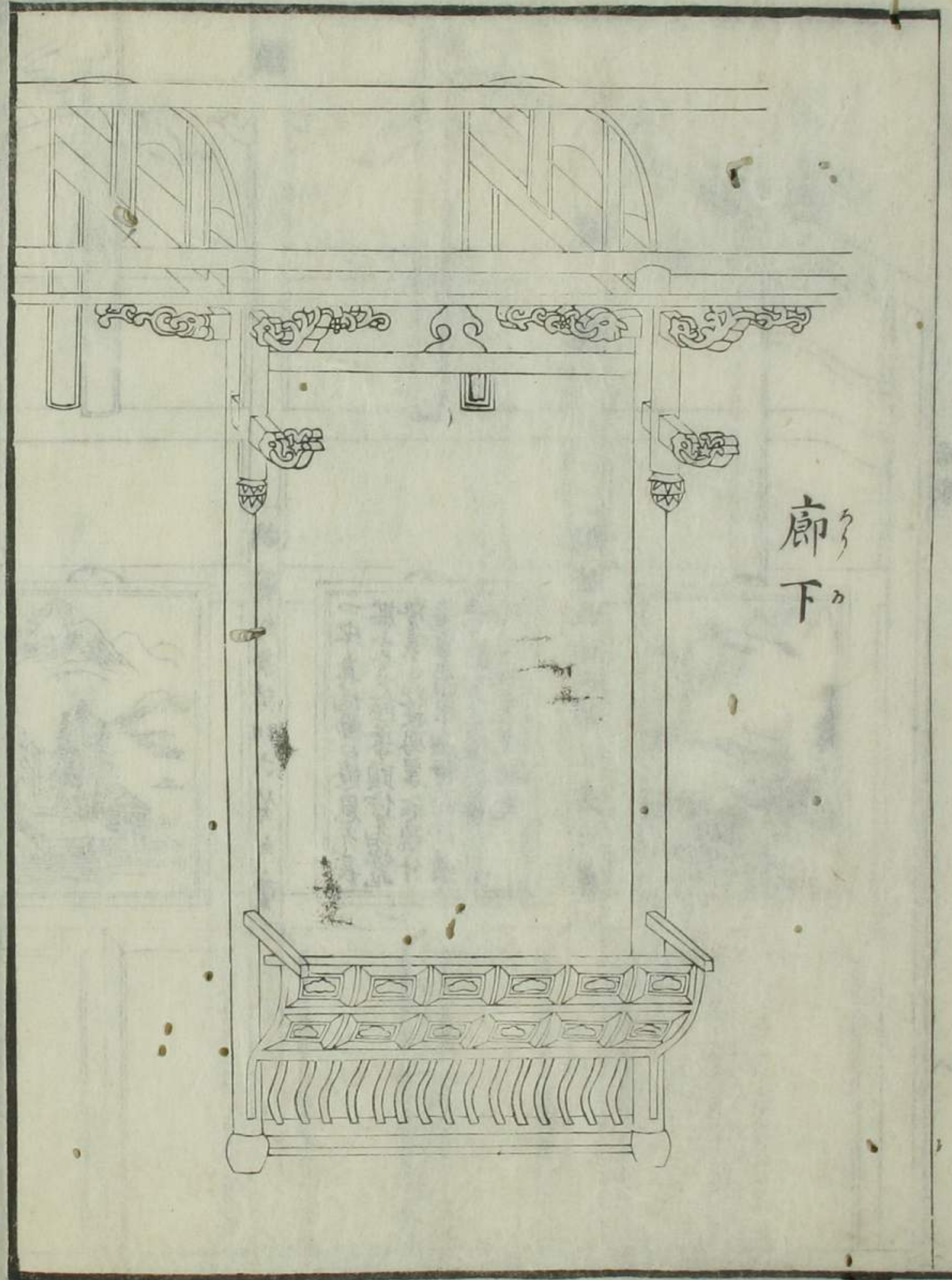


凉榻



九

廊下



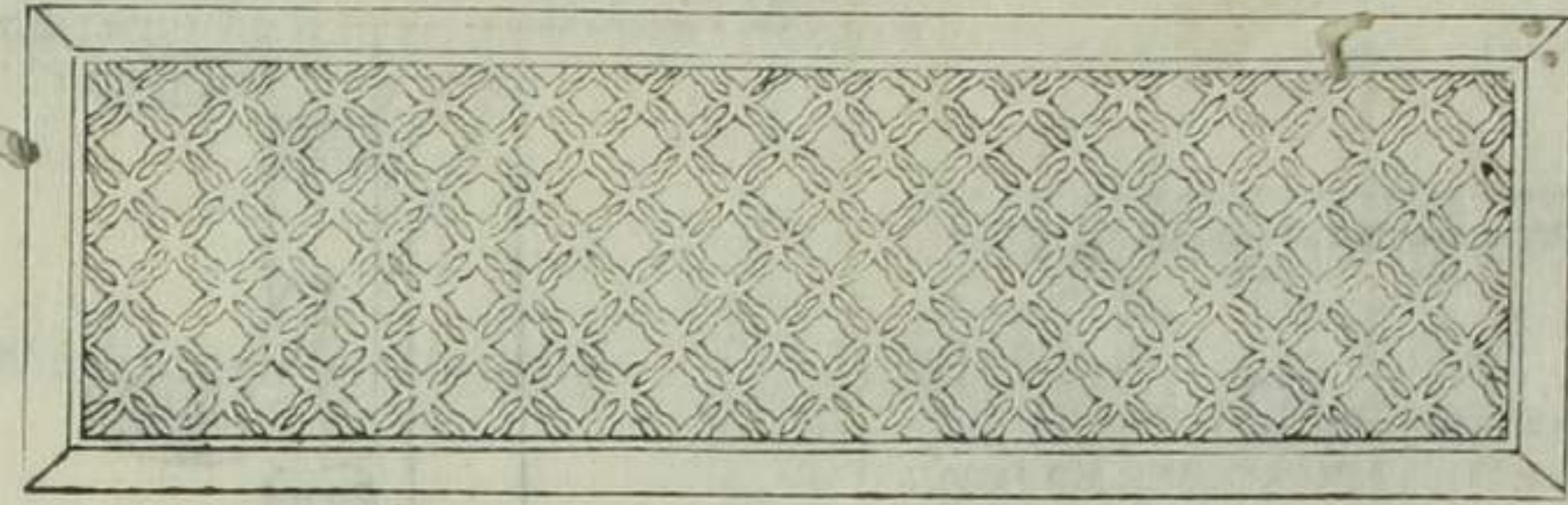
屏圍



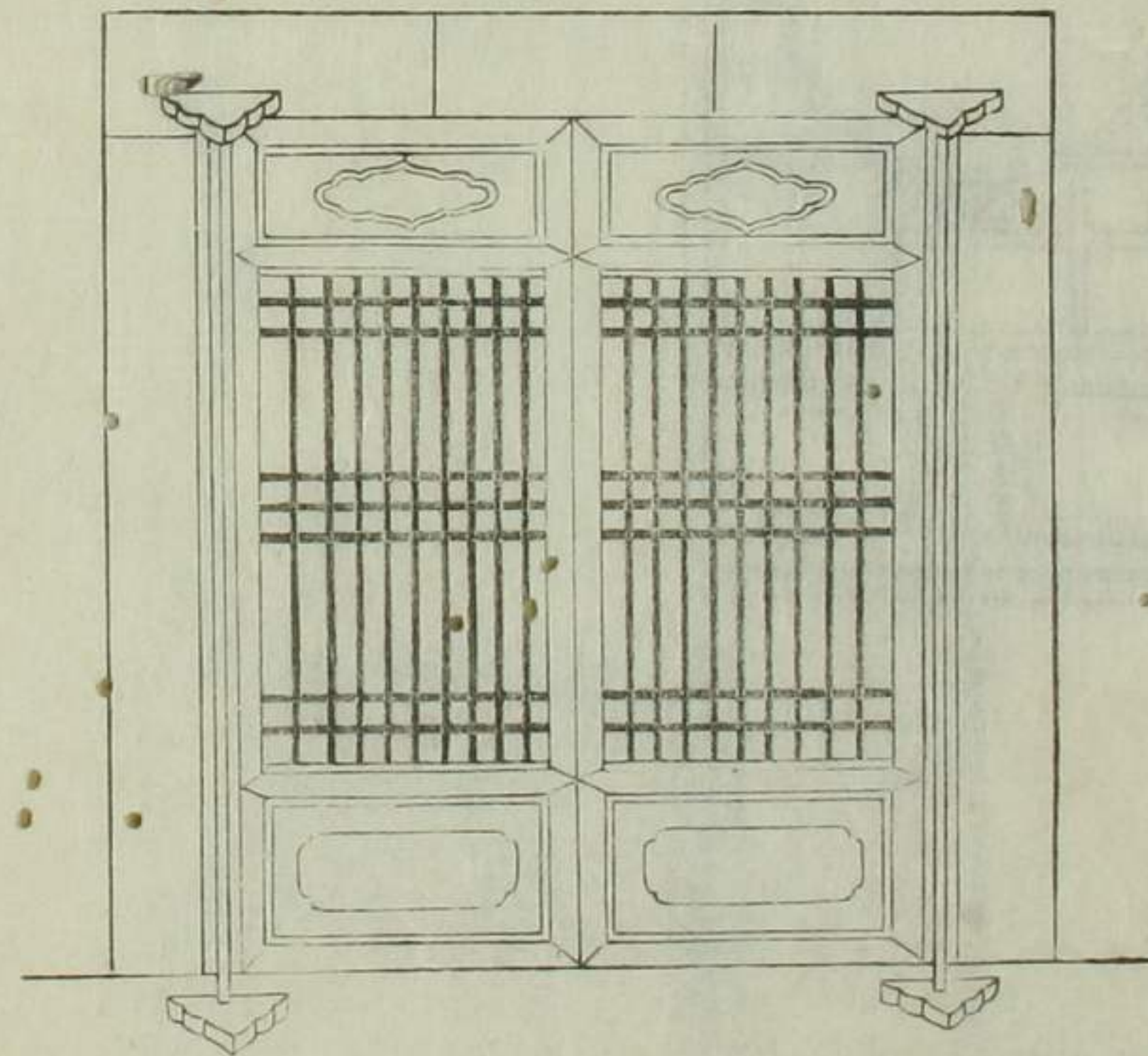
居家

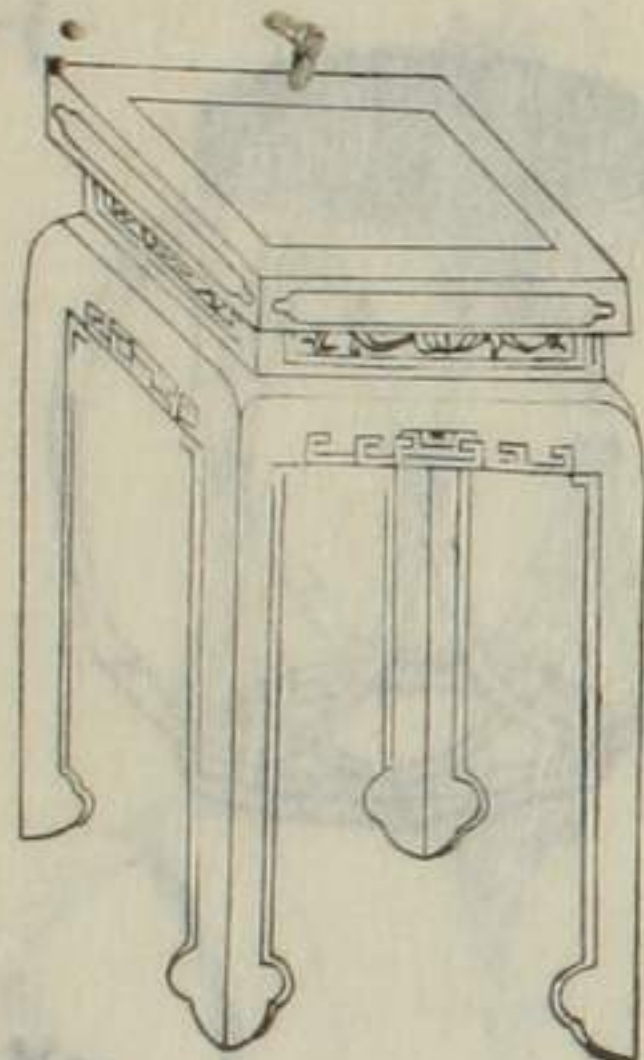
十

板花天



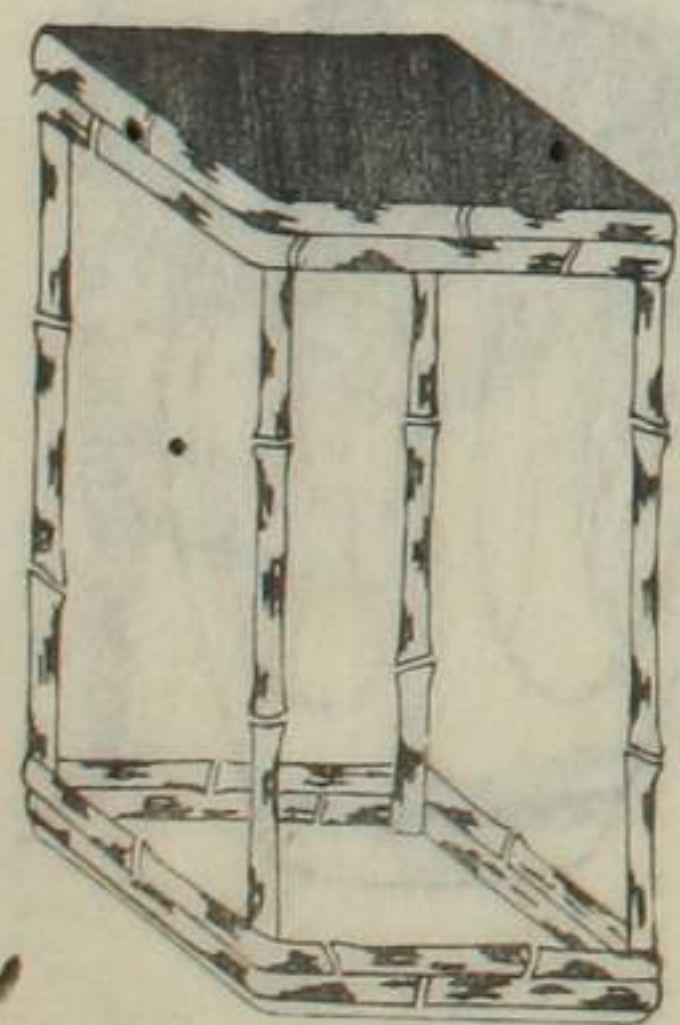
子障





杌子りし

居家



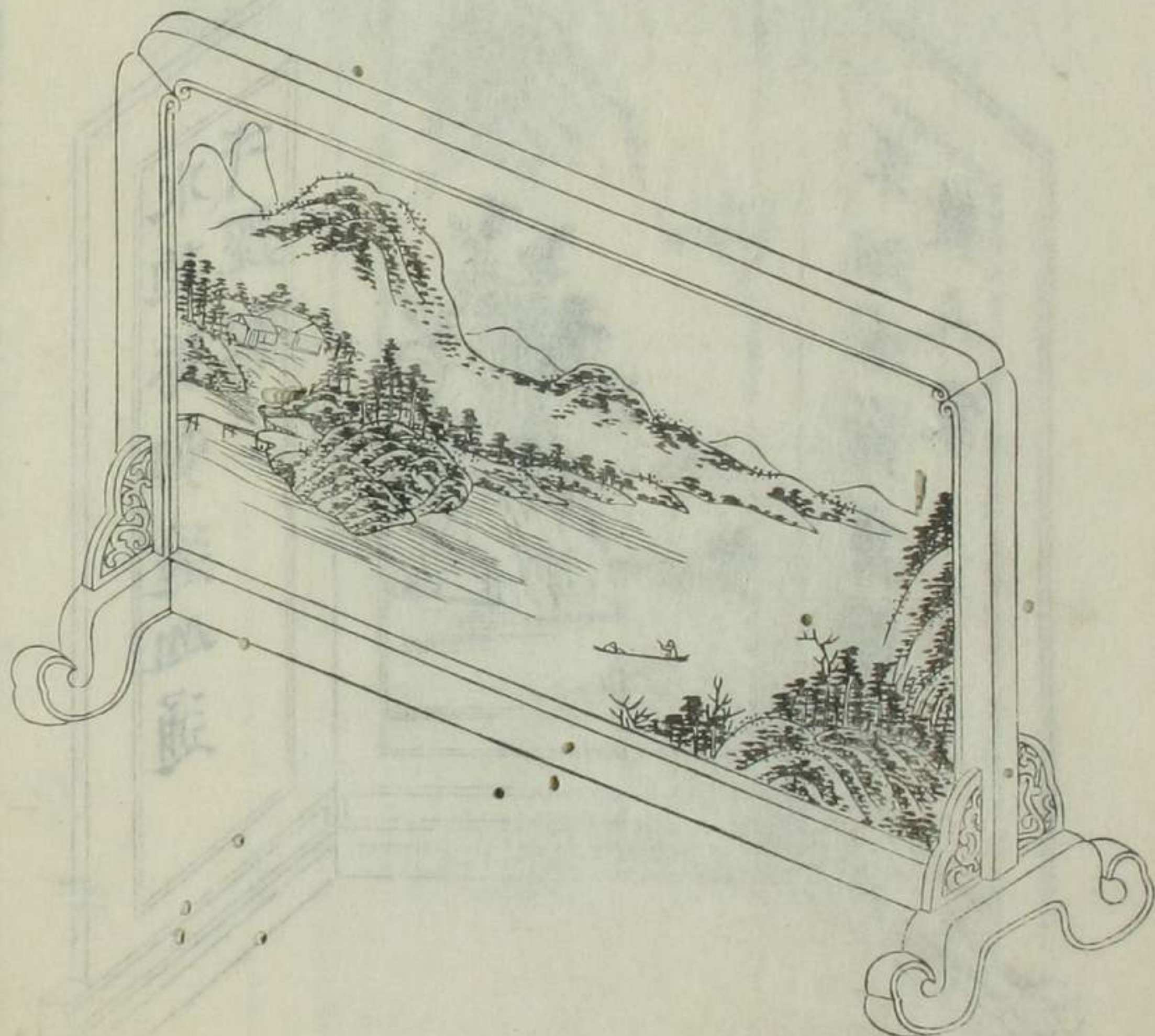
同上たふし

十一

挿屏さしびん

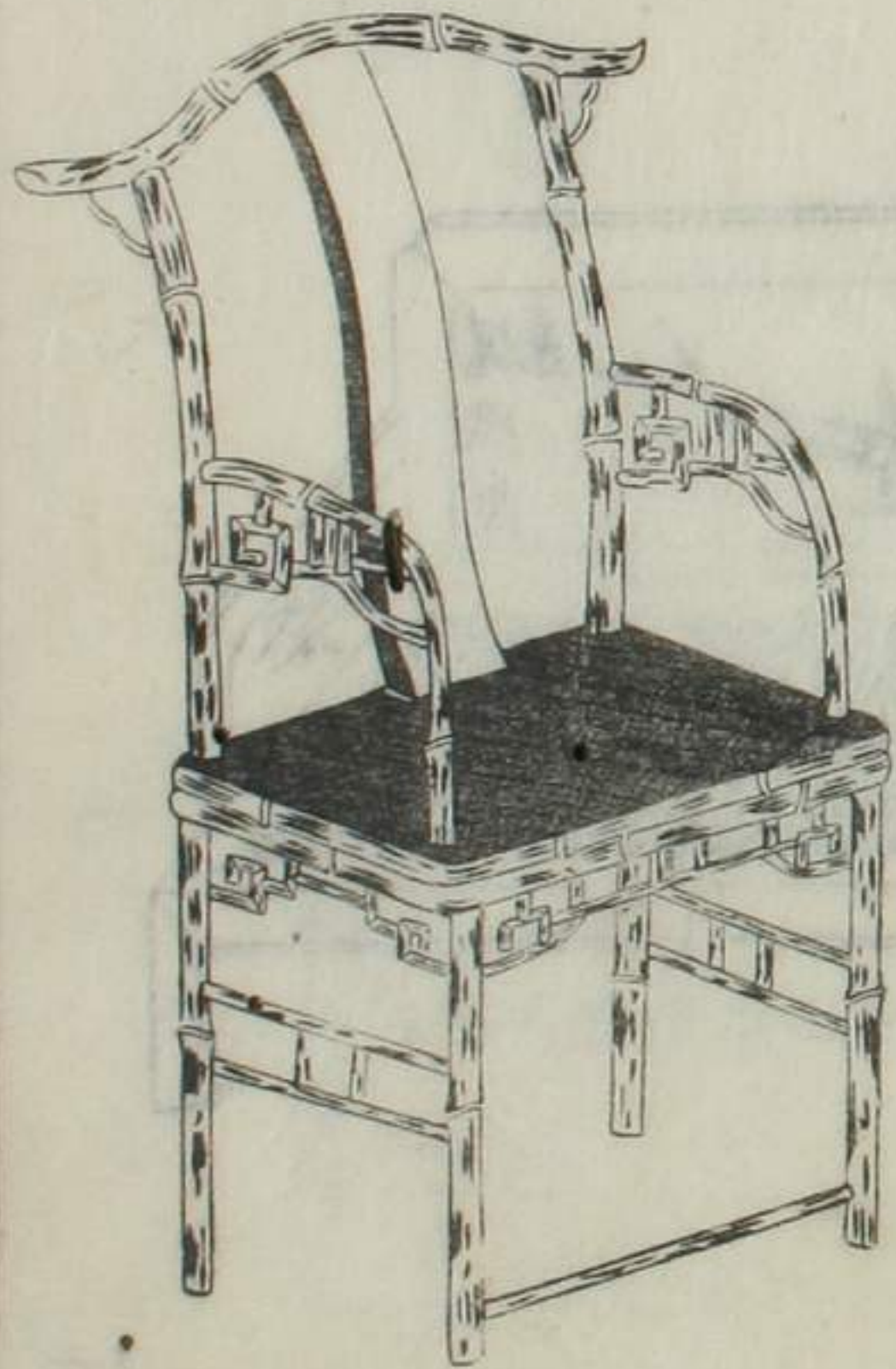


掩障おほりざう

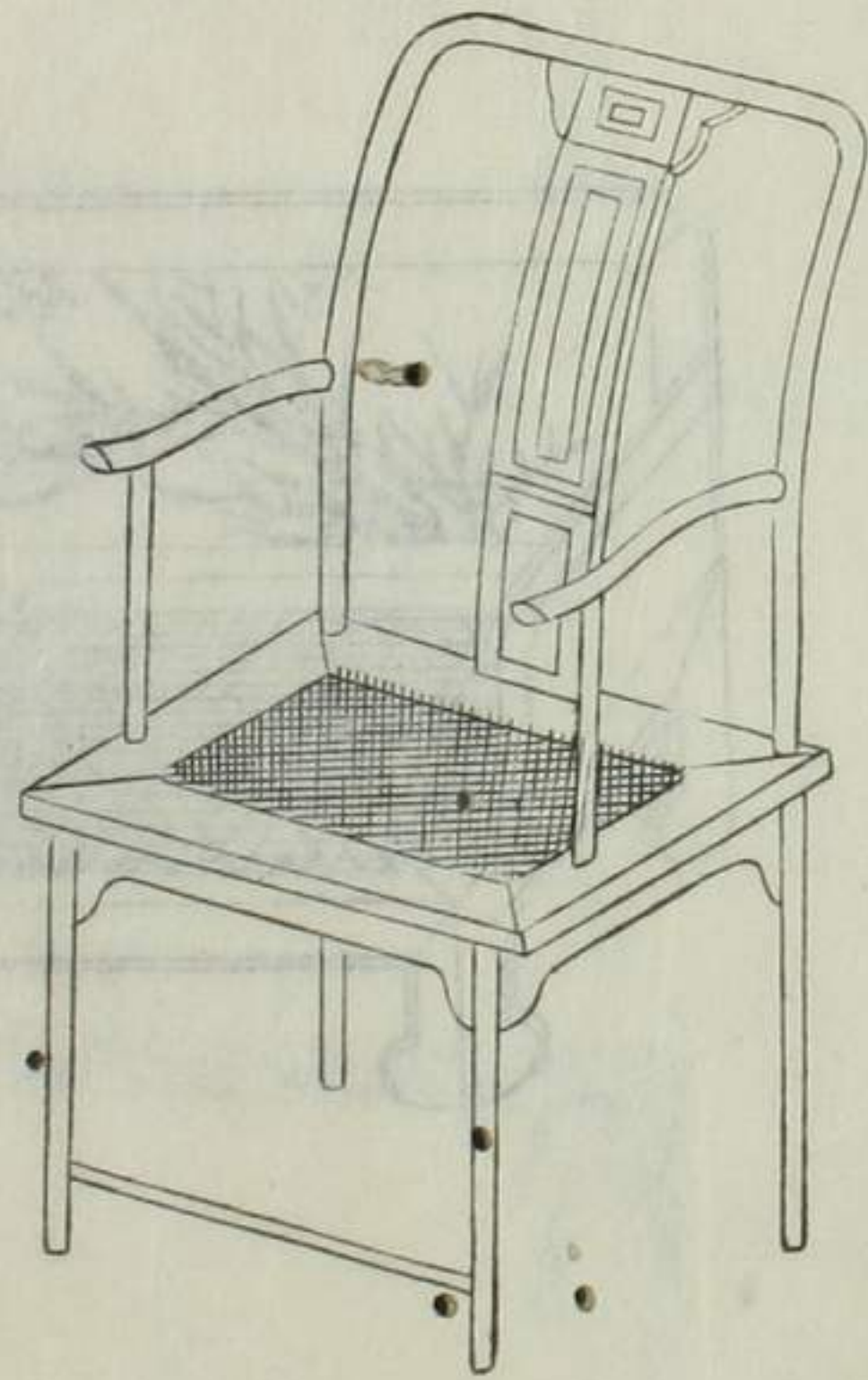


居家

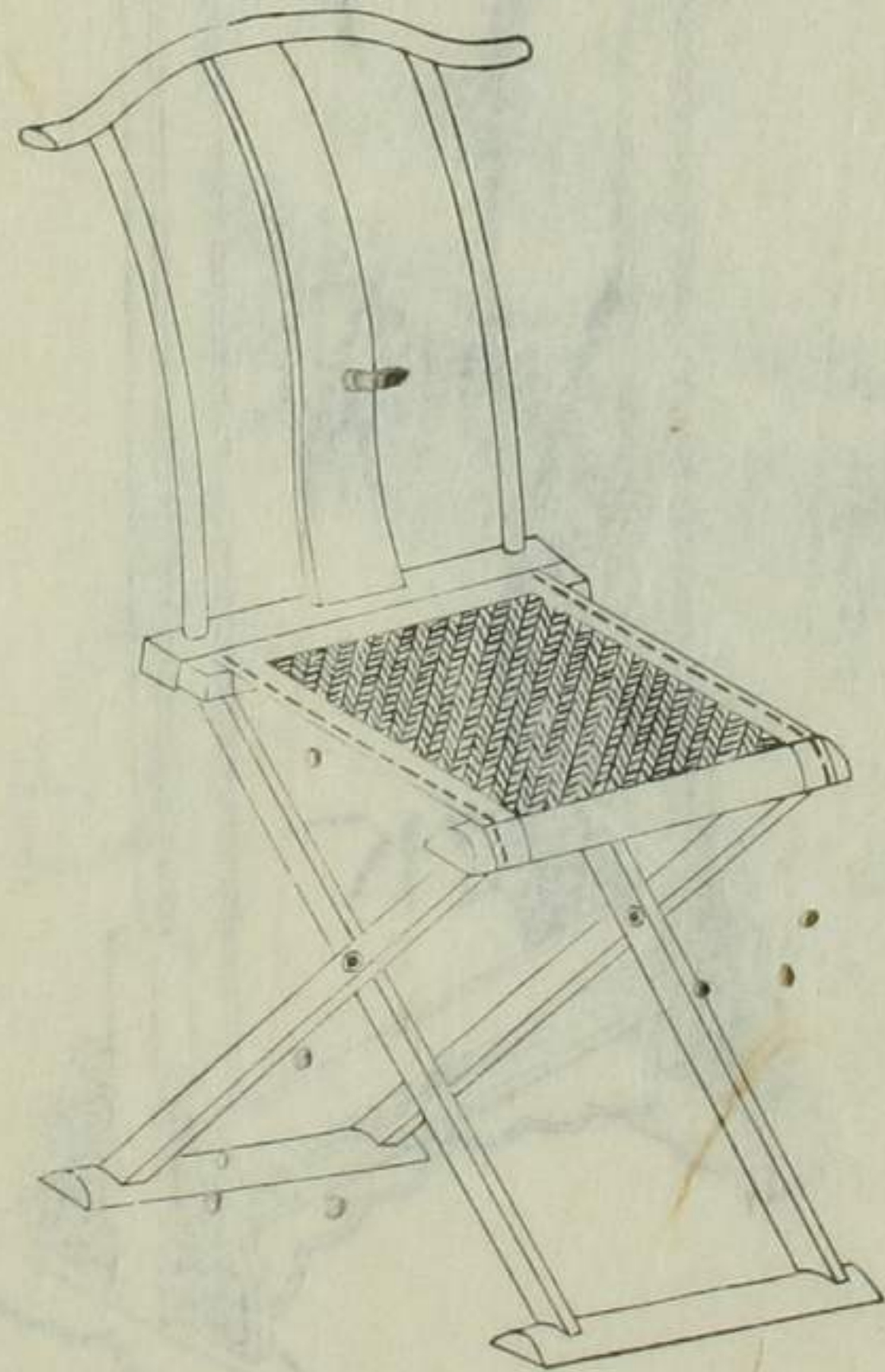
竹椅



靠椅



交椅子



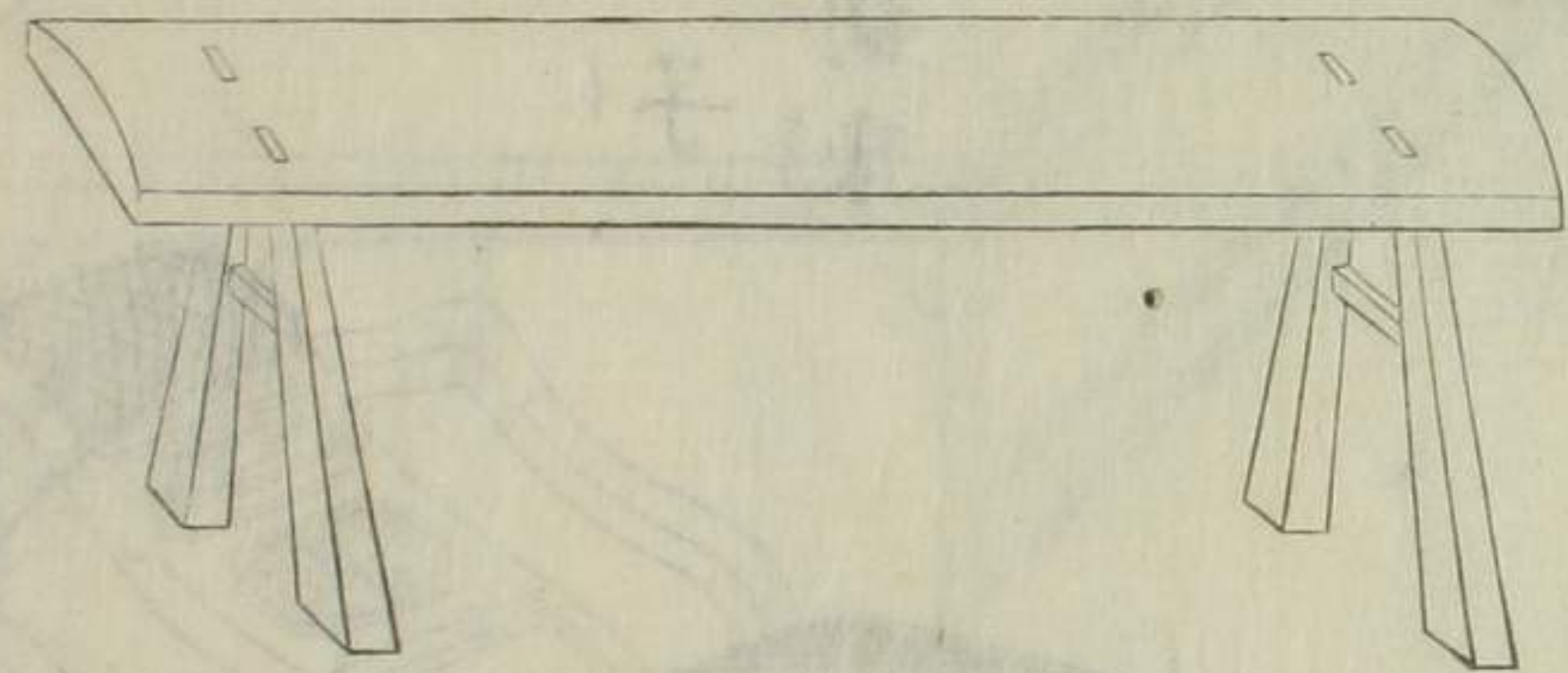
杌子



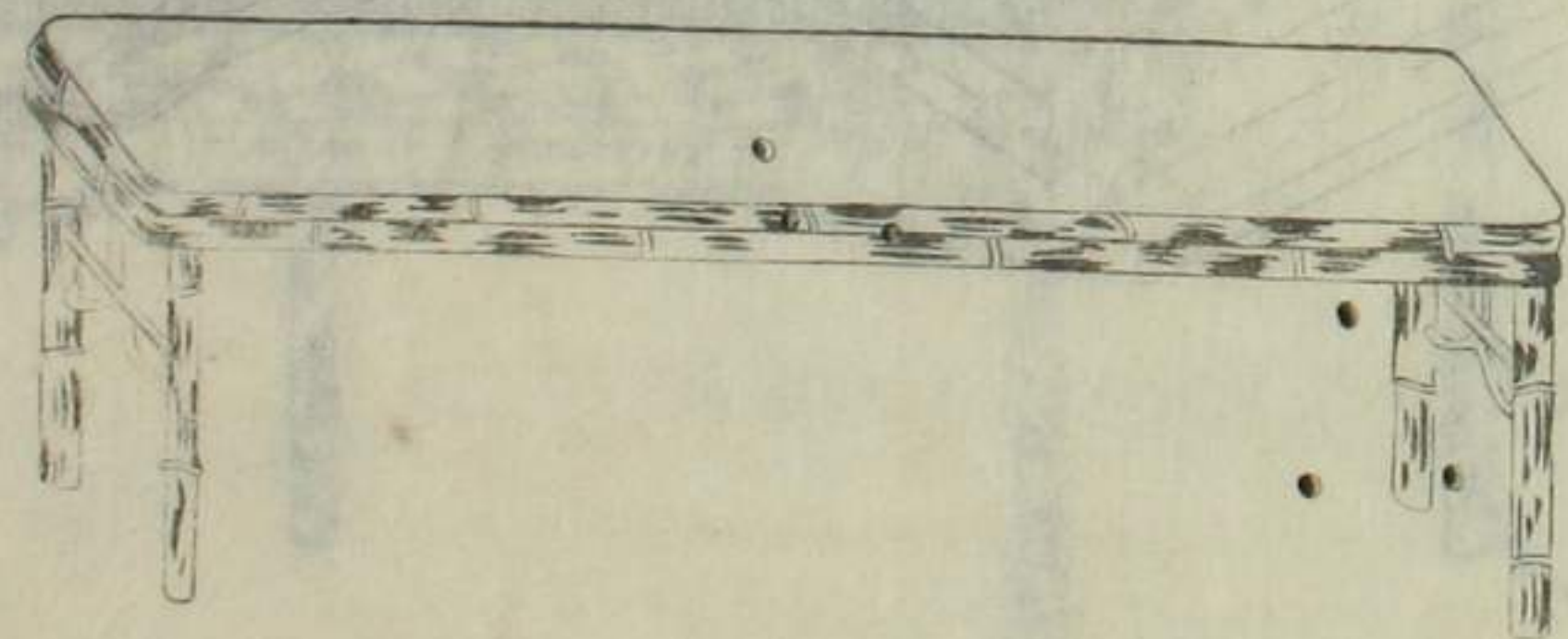
磁鼓橙



板橙



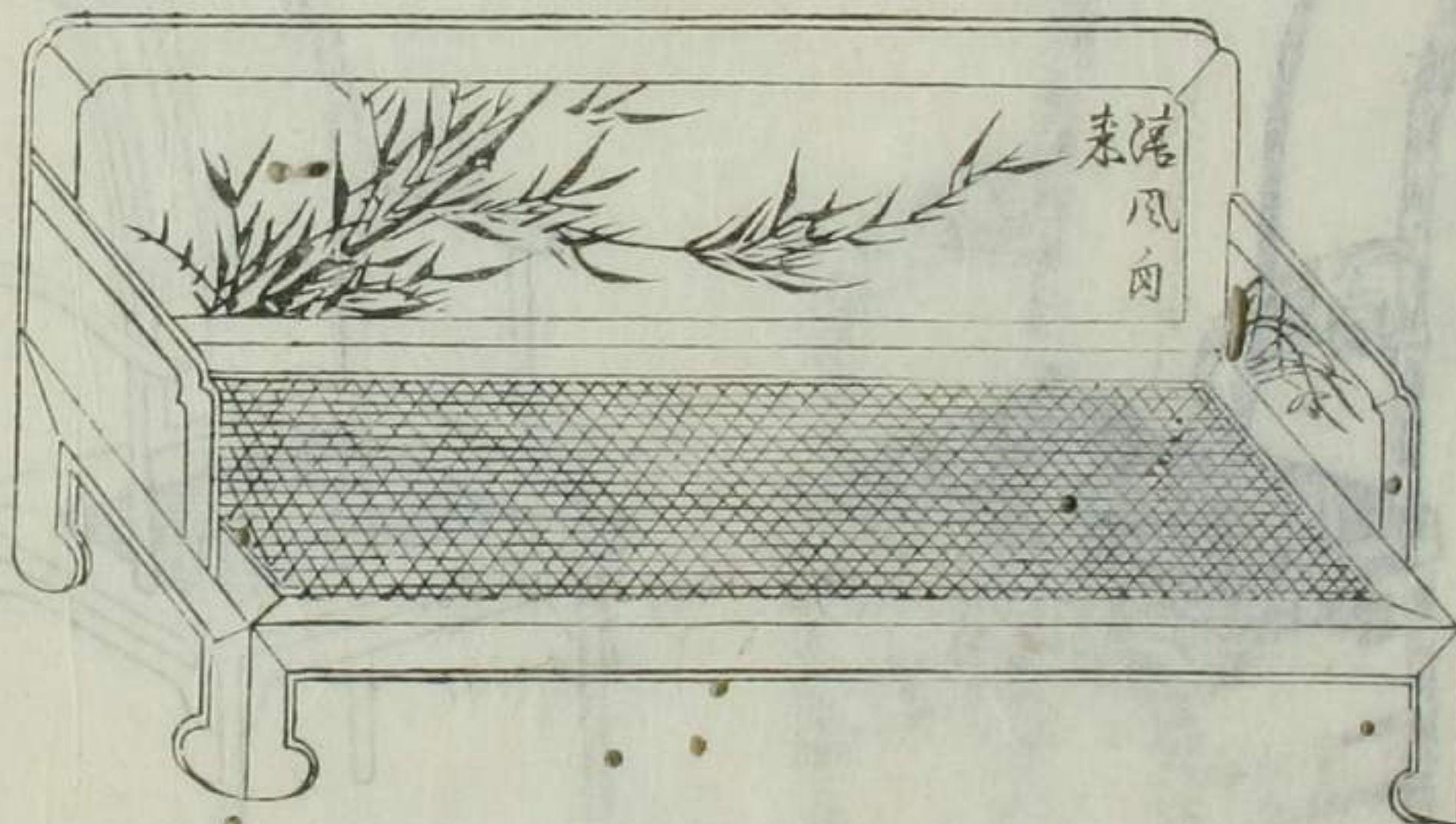
竹橙



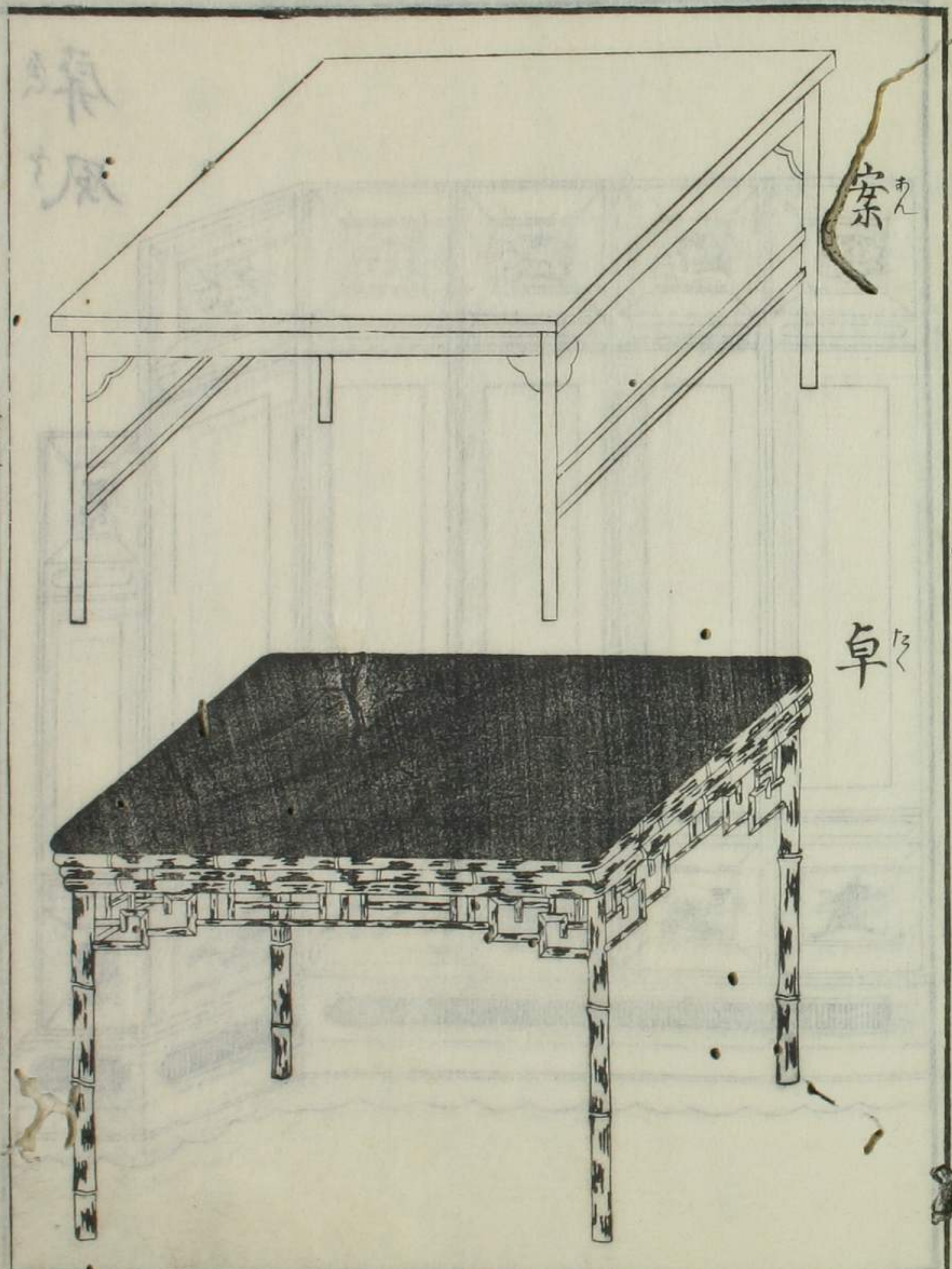
居家

十三

榻



素
風
因



案

案

卓

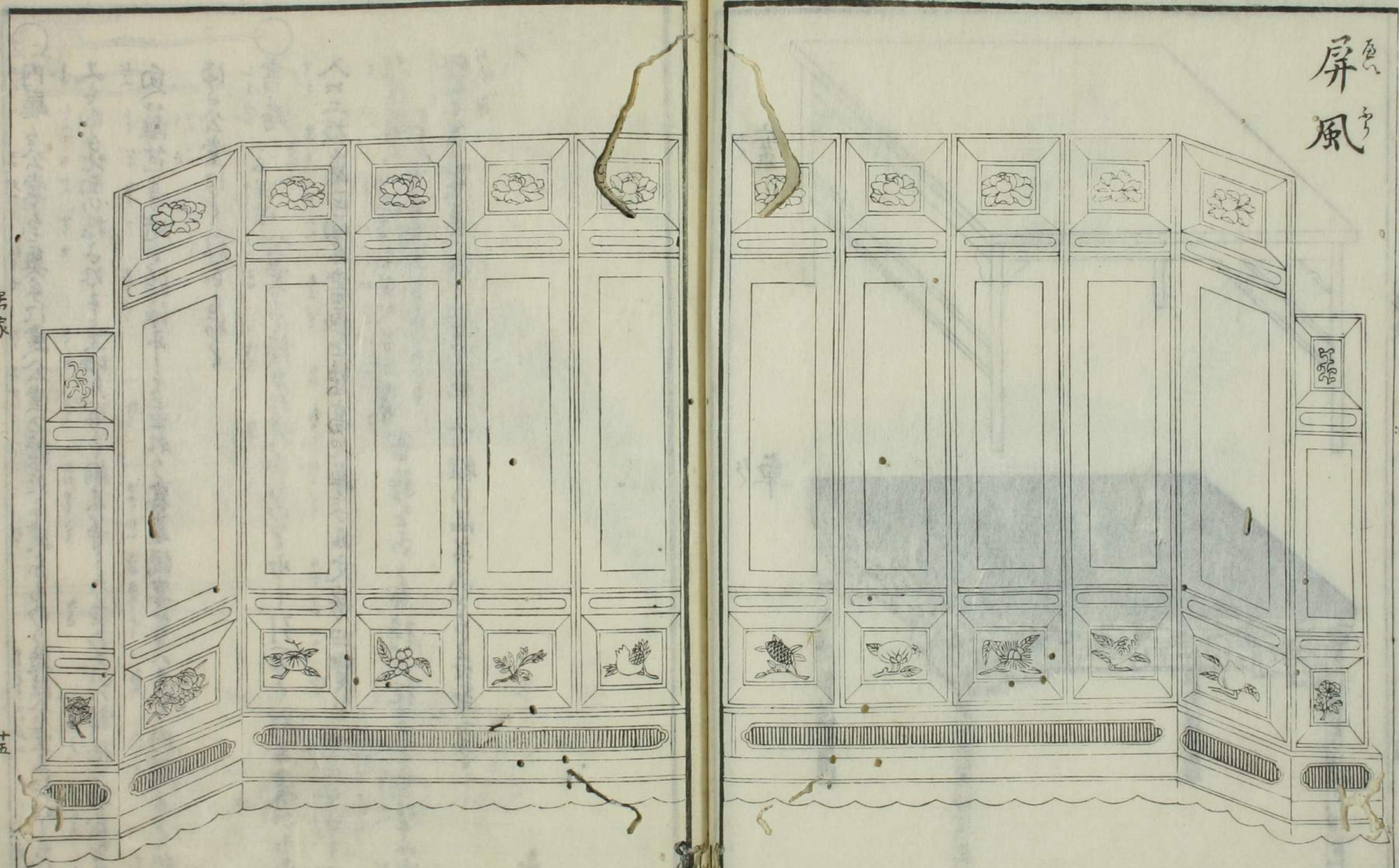
居家

十四



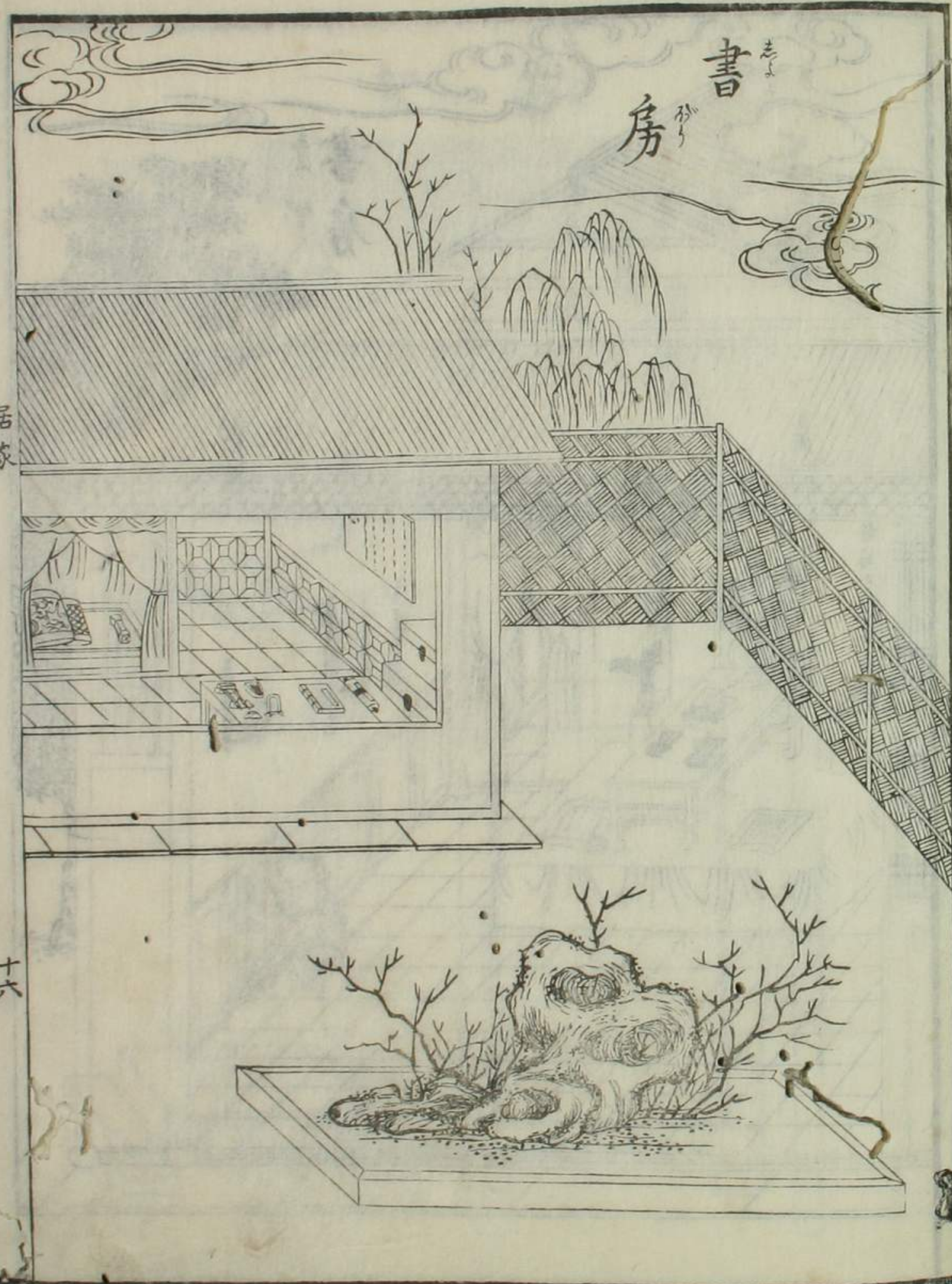
馬踏子
一名胡床

屏風



居家

十五

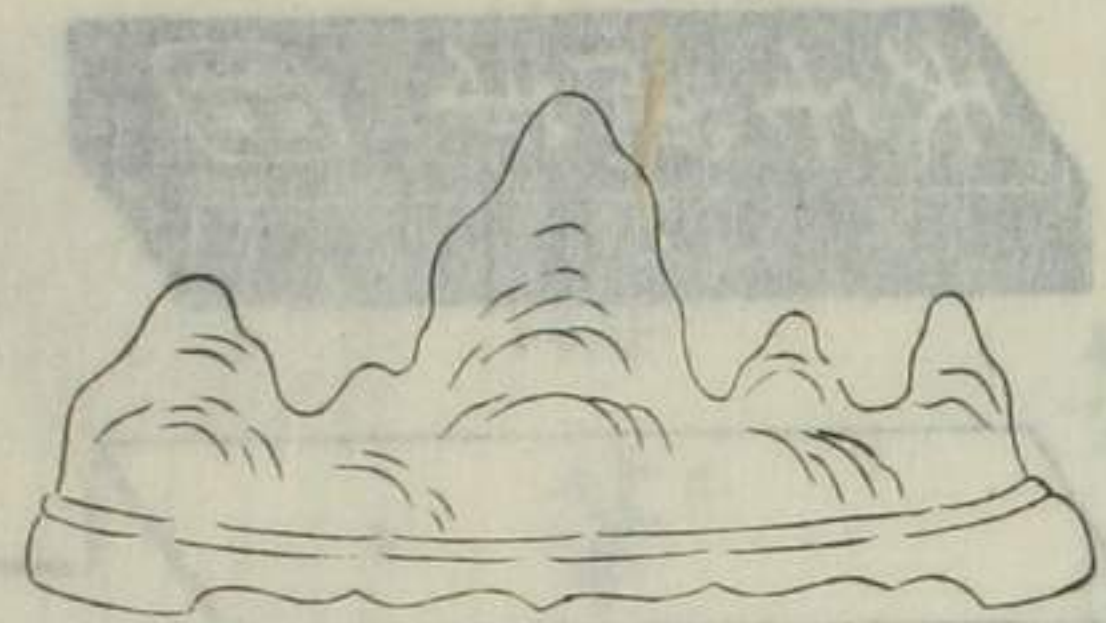


居家

十六

○内廳を公堂とて奥手に建公堂の傍に建ふもあり造法公堂より
 又と向ひ地面の松子に空地を取て樹木等々を並べ以て幹柱の草花を並べ
 向ひ離籠等造を清浄にして並べり客來酒宴等へ多く内廳めと設く
 公堂は公堂に設く
 ○書房 一は居室 公堂より清きた建ふもあり少く引取て別建ふもあり
 入口二枚の扉一面に書画を懸高几卓子に文房四寶を
 別様擺式 水盂筆筒筆架墨床圖書 書籍をあらけ椅子杭子を並べ樂器
 帽架等々を並べのりて色々古雅の品等かざると並置する

架の筆

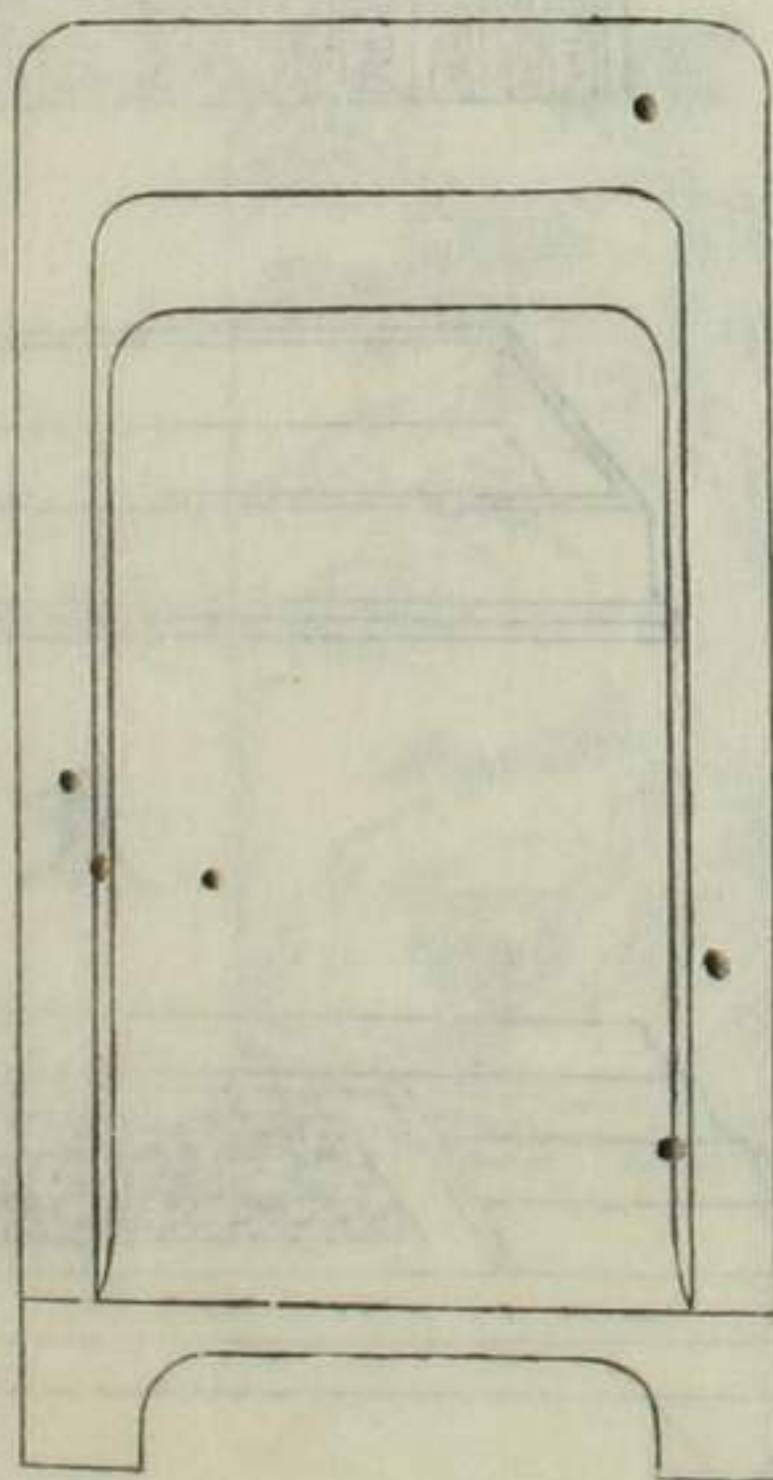


筆

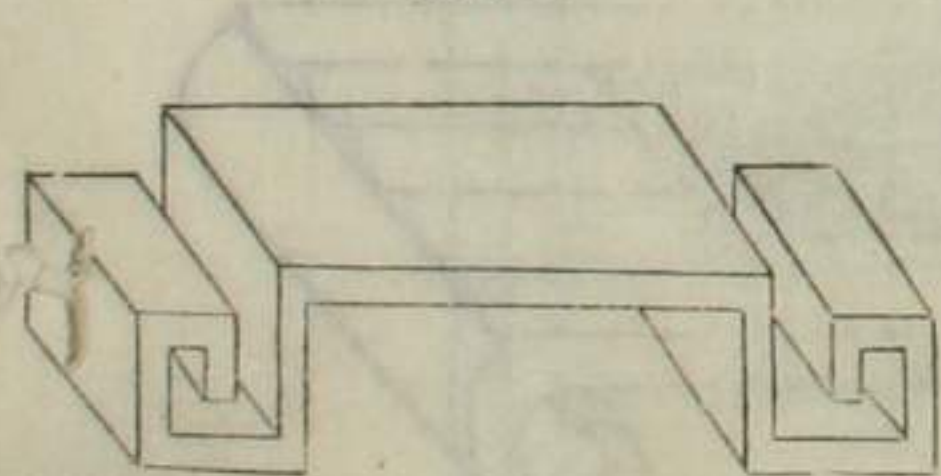
水盂



硯端



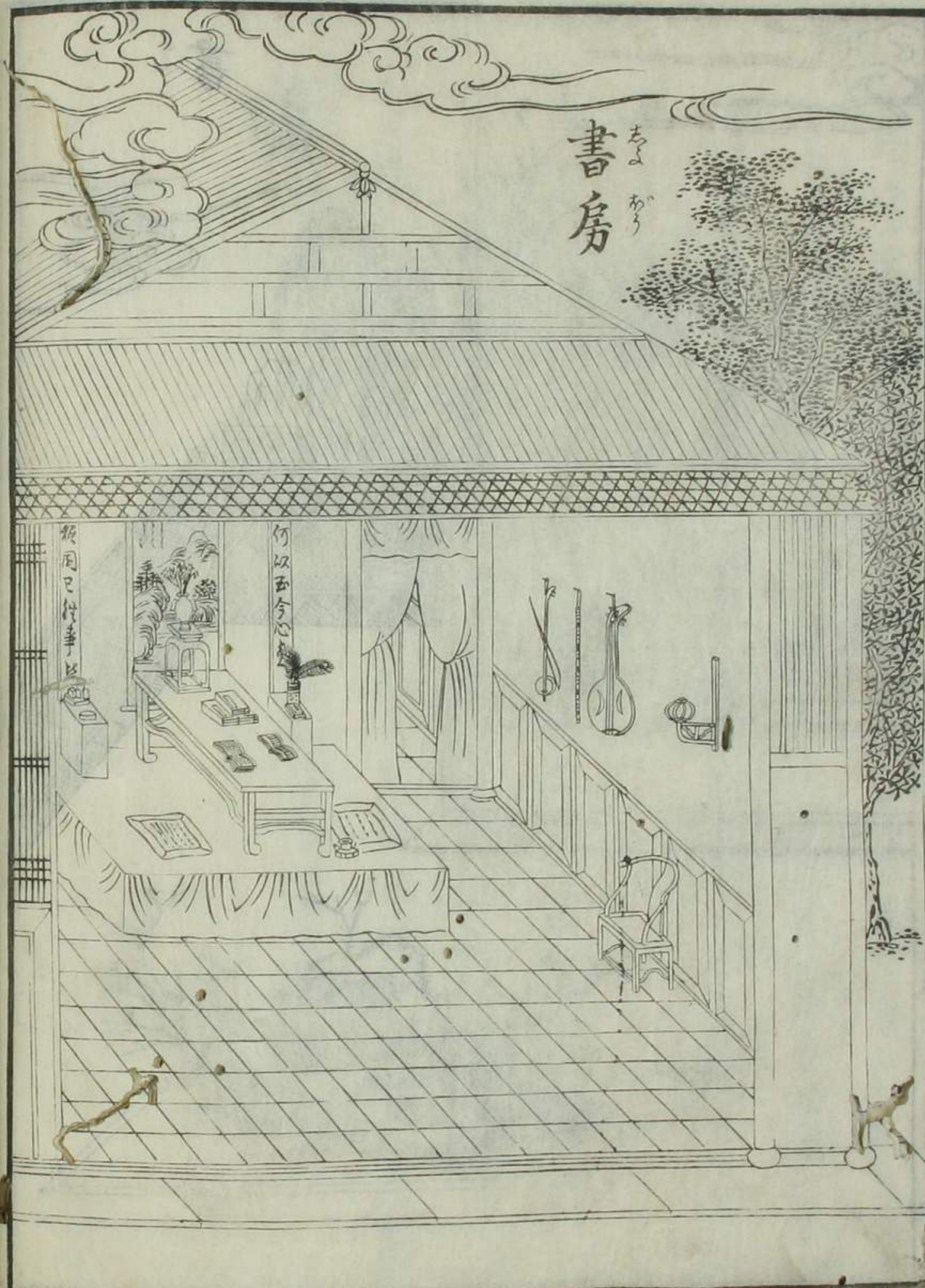
墨床



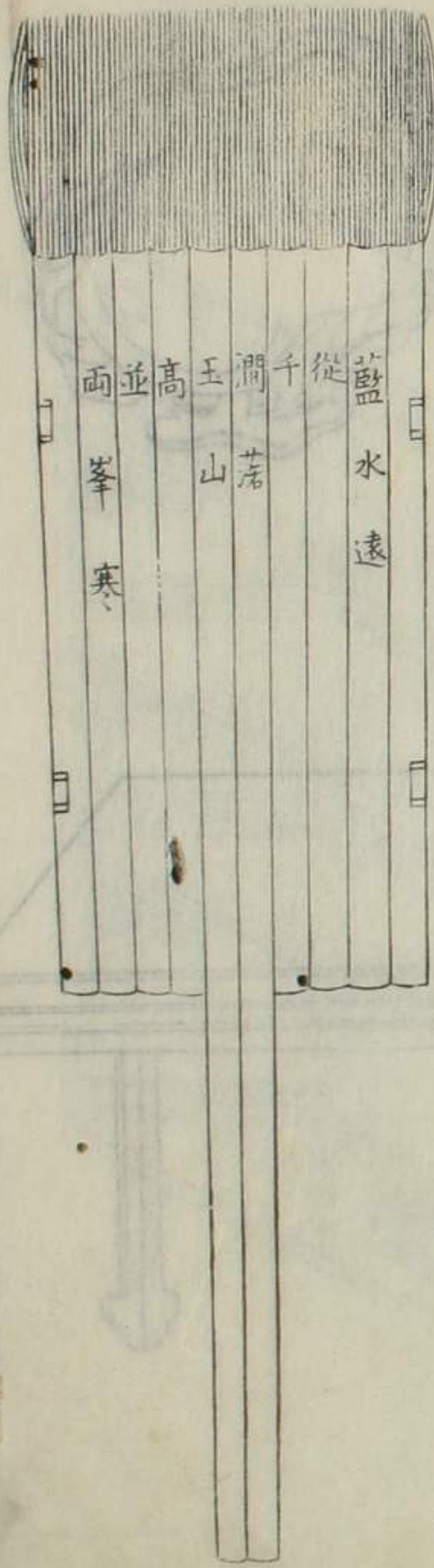
居家

十七

書房



筆筒



排筆

筆筒

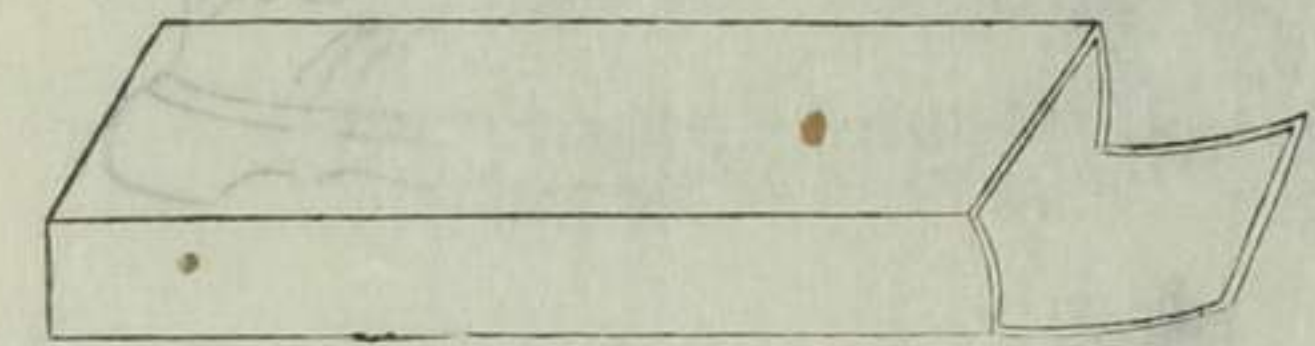


居冢

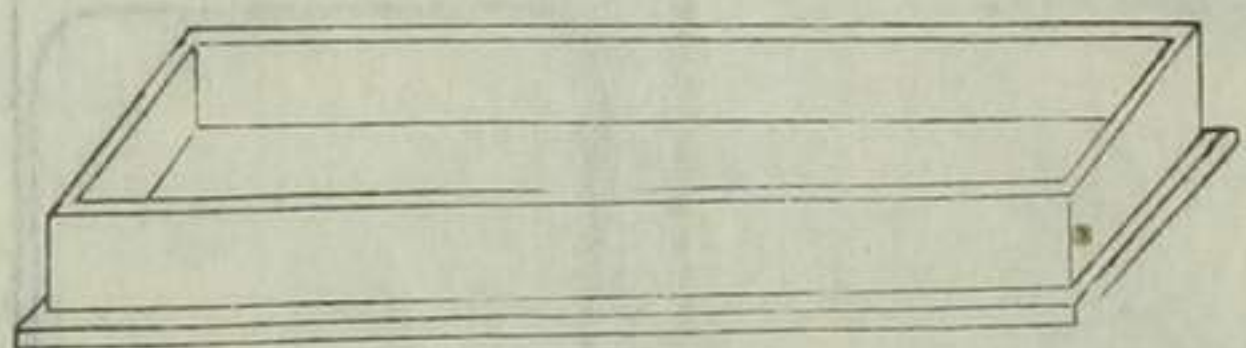
十八



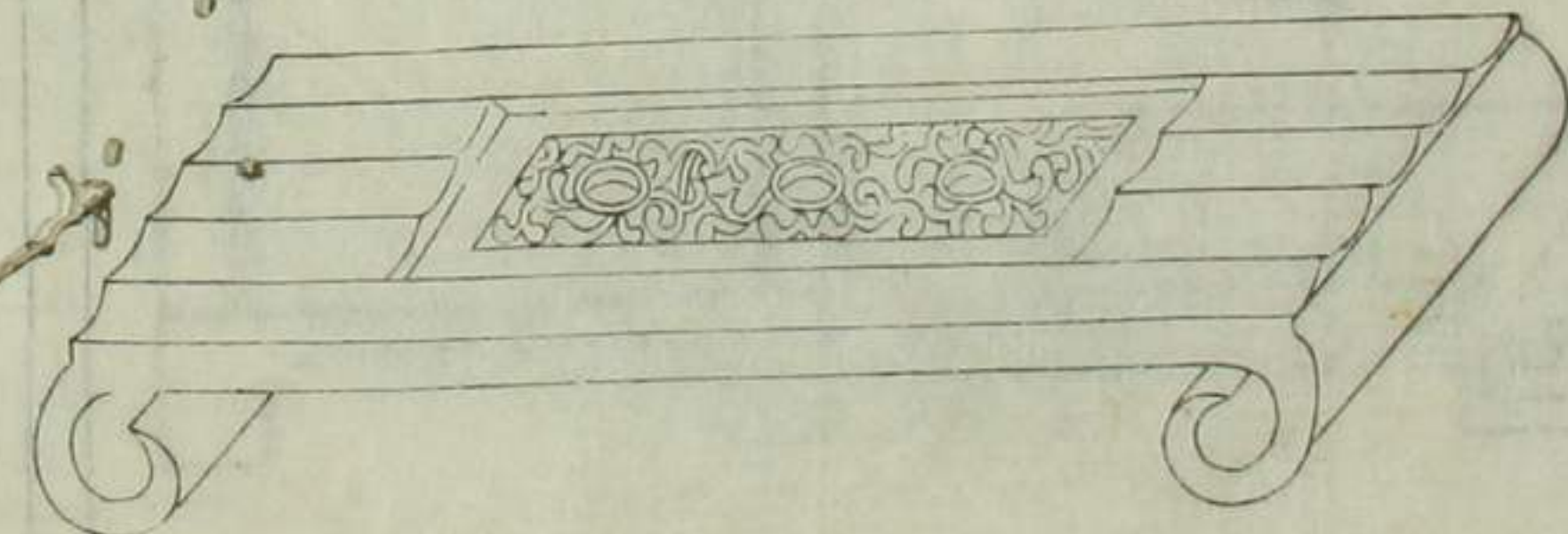
徽墨



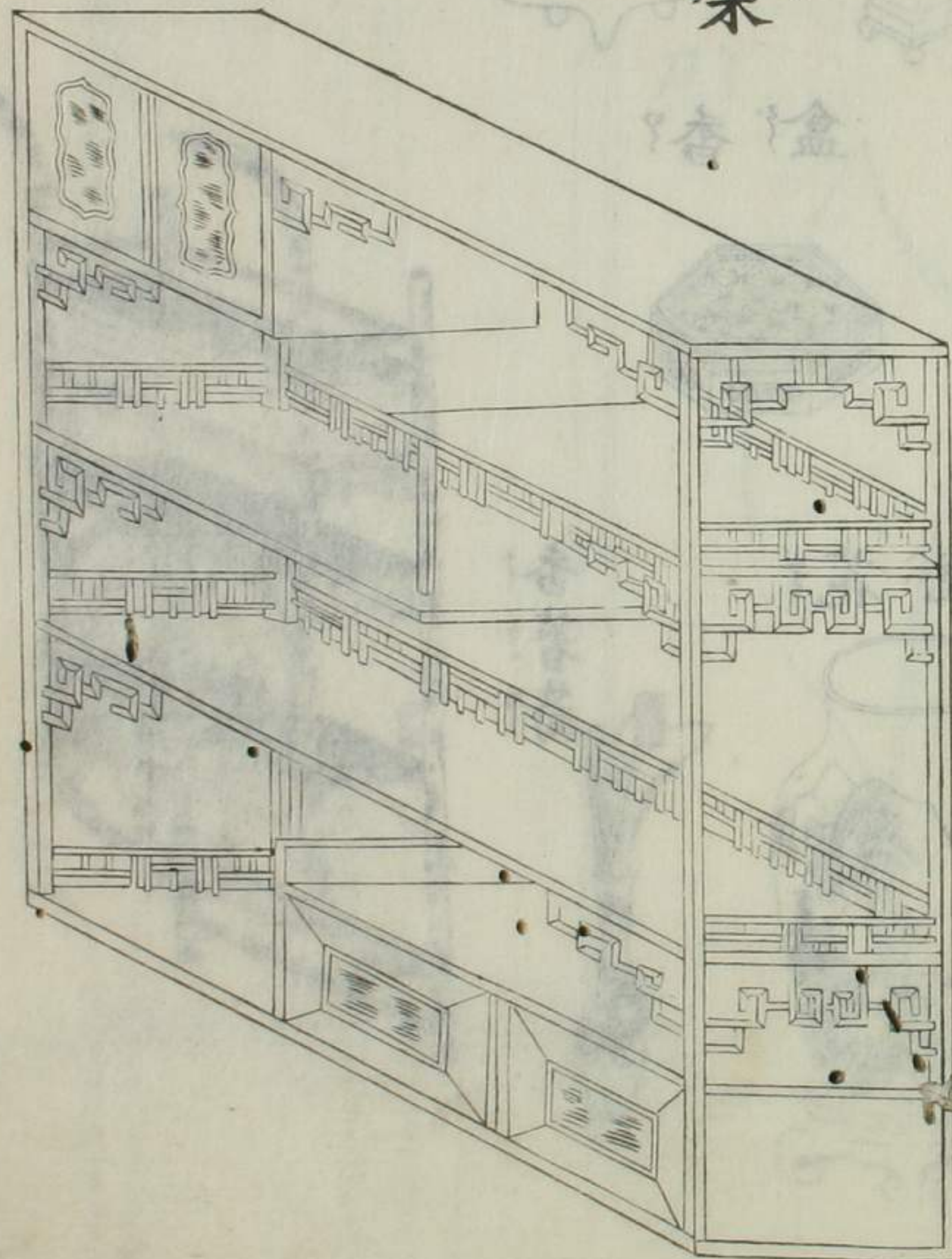
墨匣



床筆



居家



書架しよか

十九

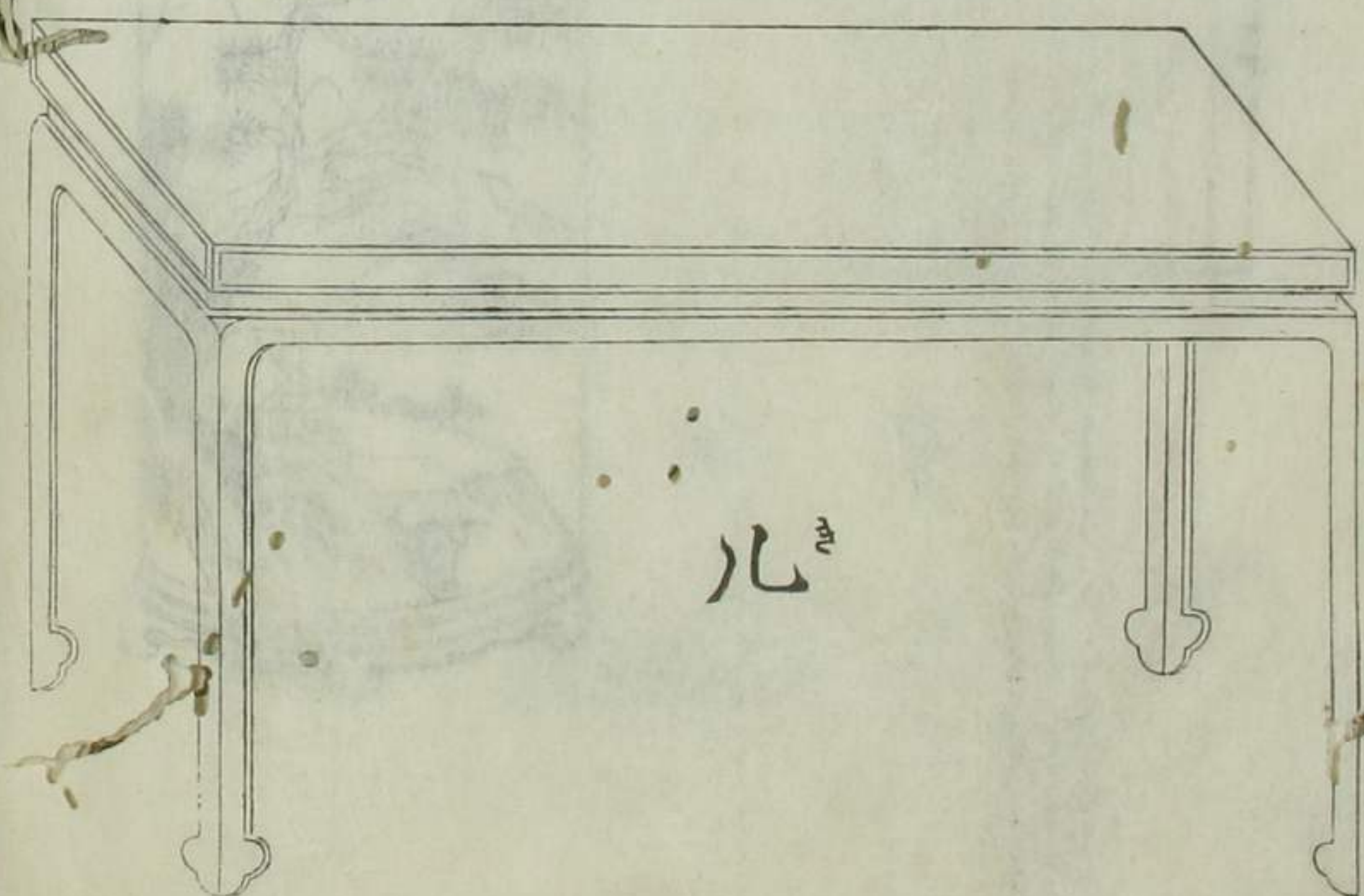
洗筆せんひつ



玉鎮紙たまぐし

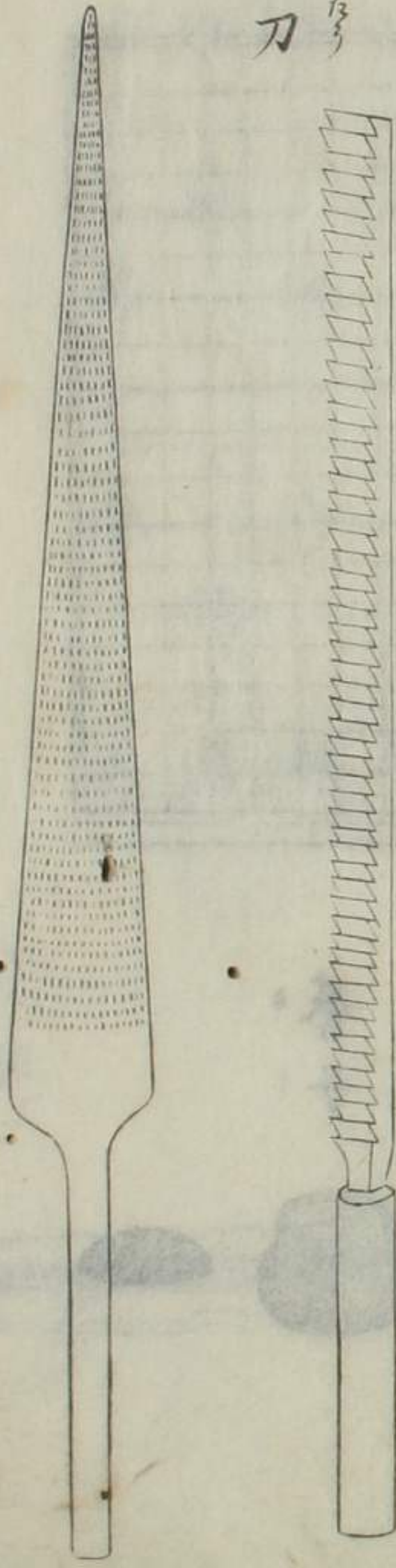


几こたゑ



居家

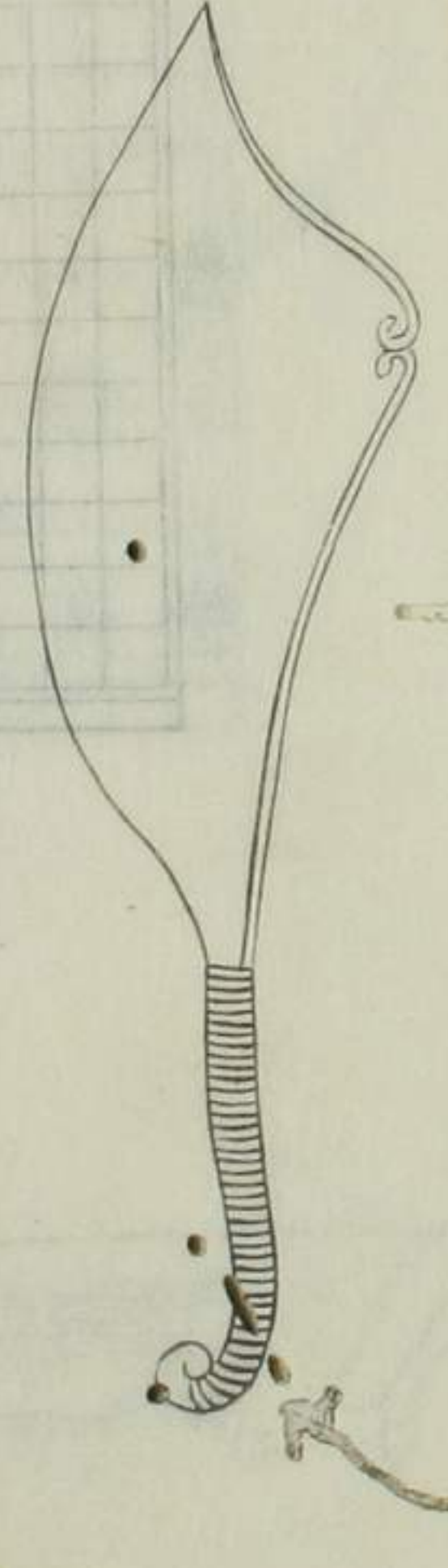
錯刀



印刀



裁刀

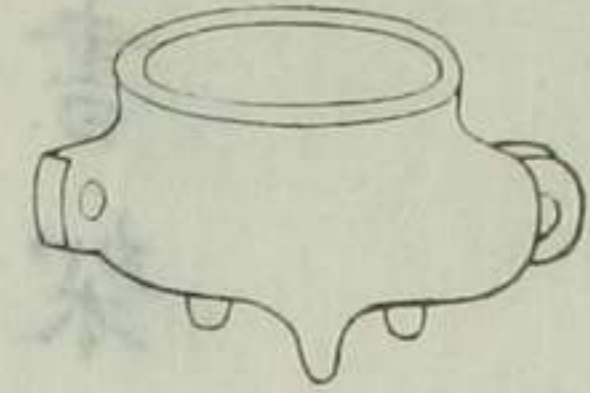


二十

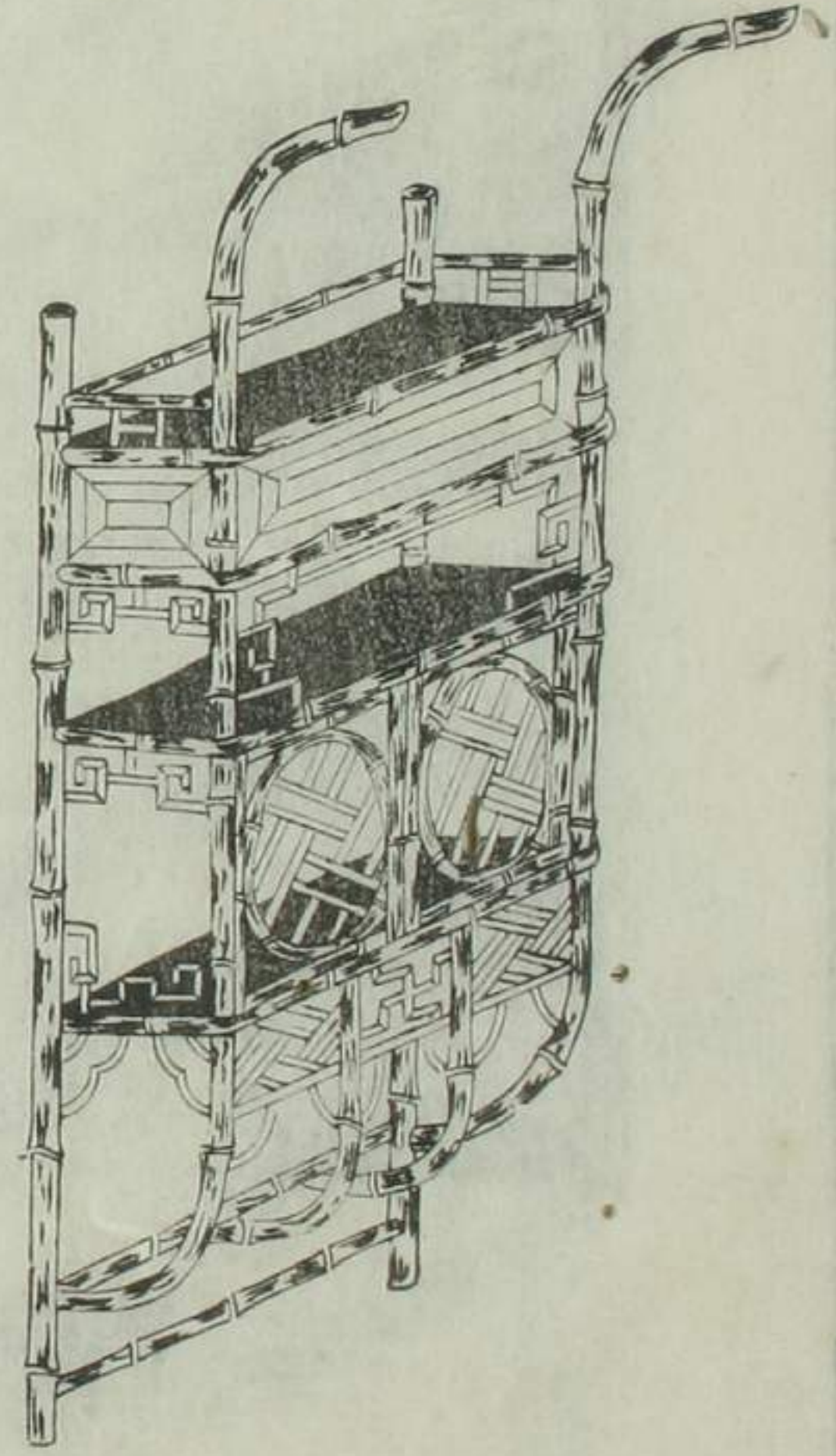
筆筒



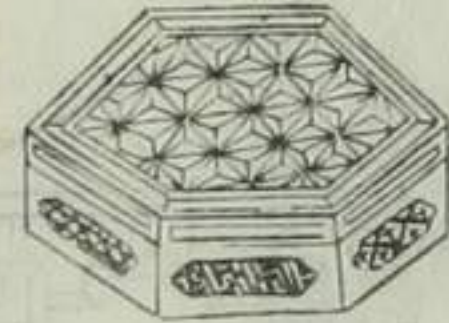
香爐



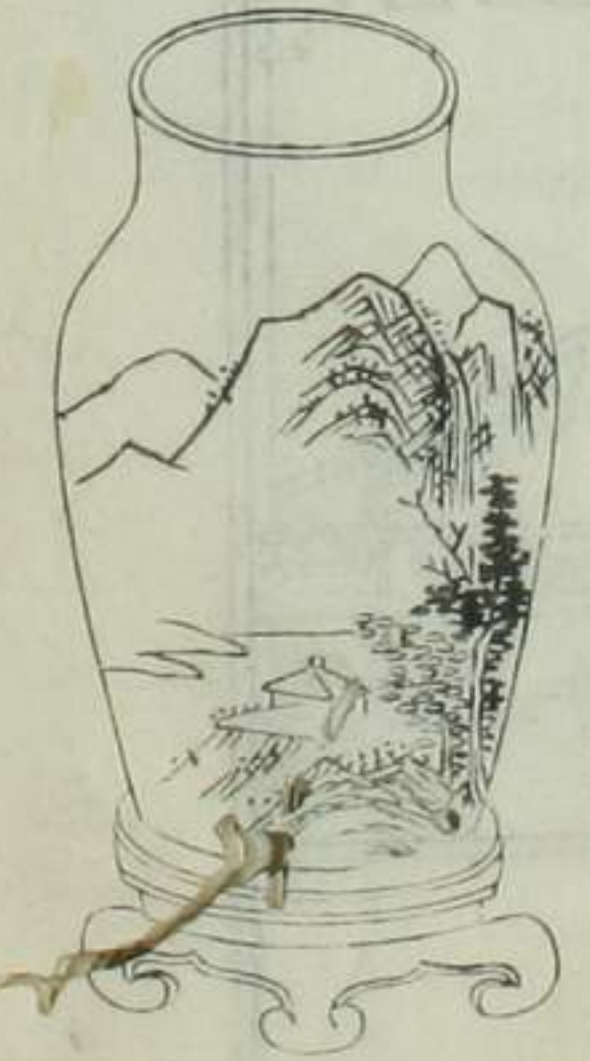
書架



香盒



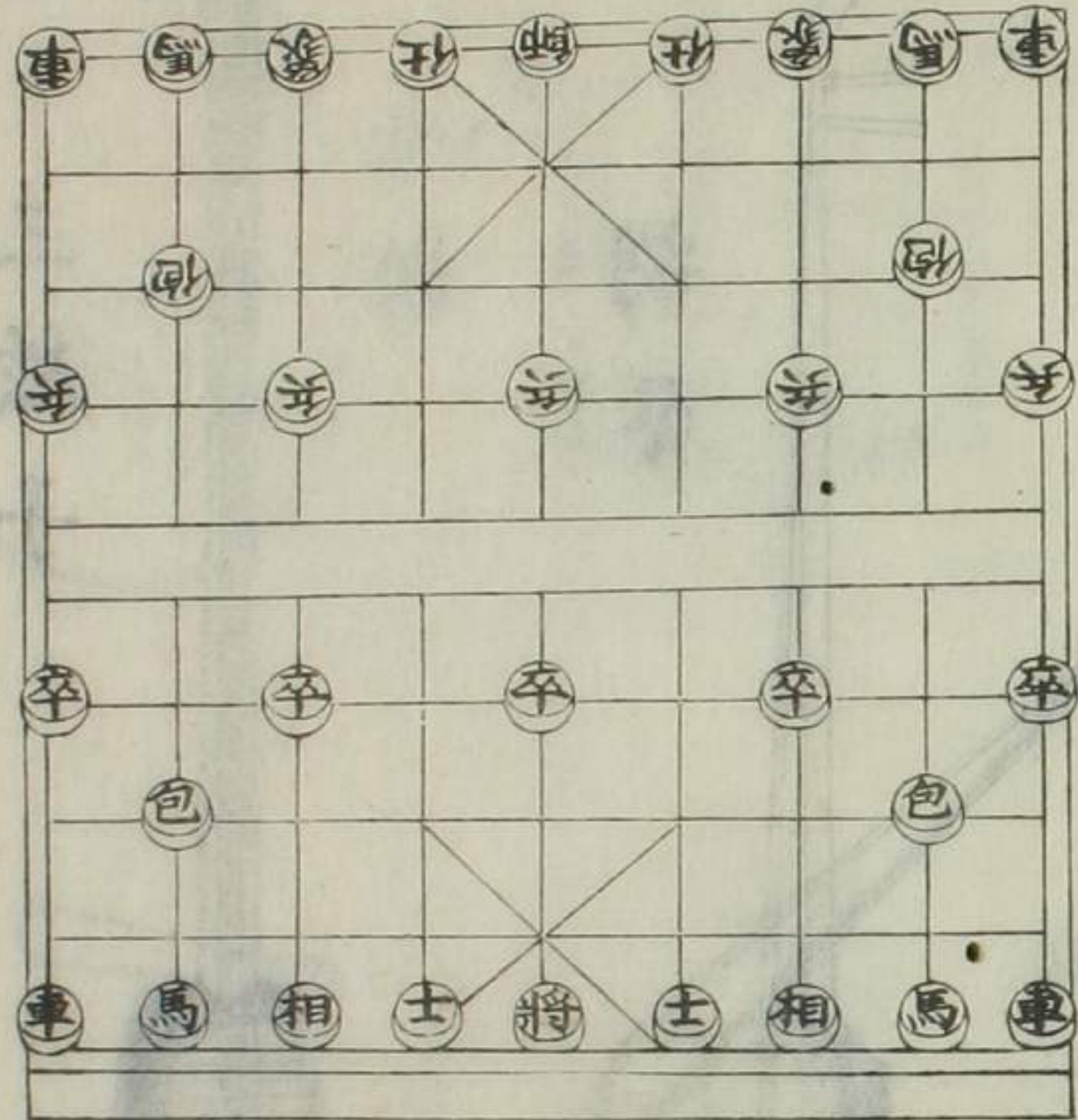
花瓶



香箸筒

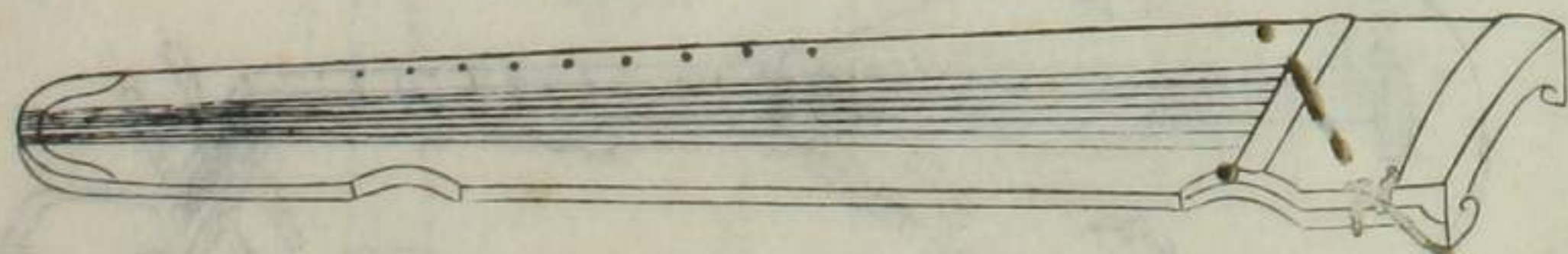


象棋盤



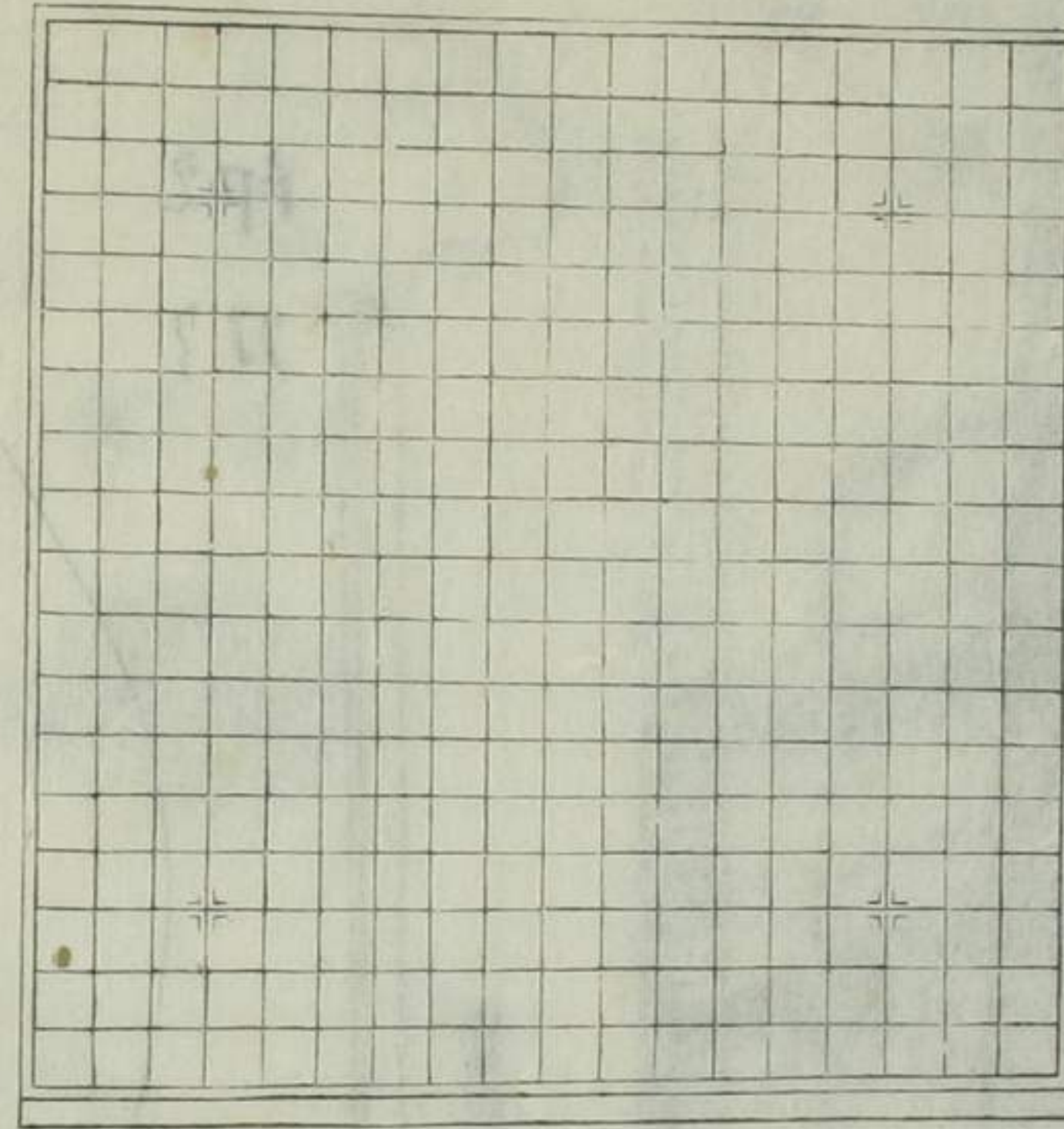
居家

琴



九

碁盤

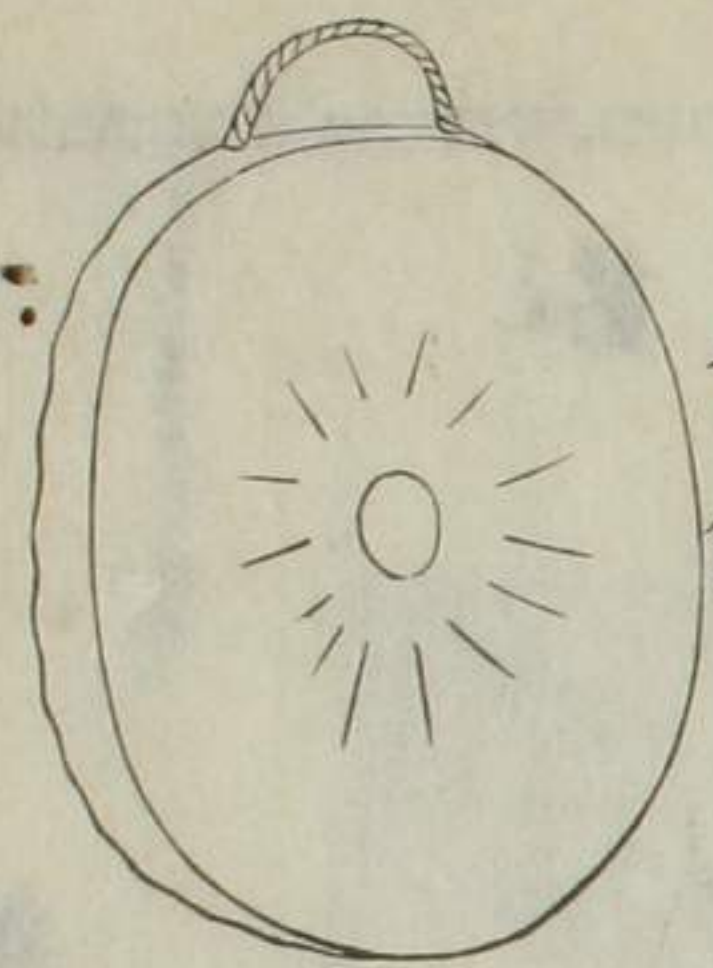


碁筒

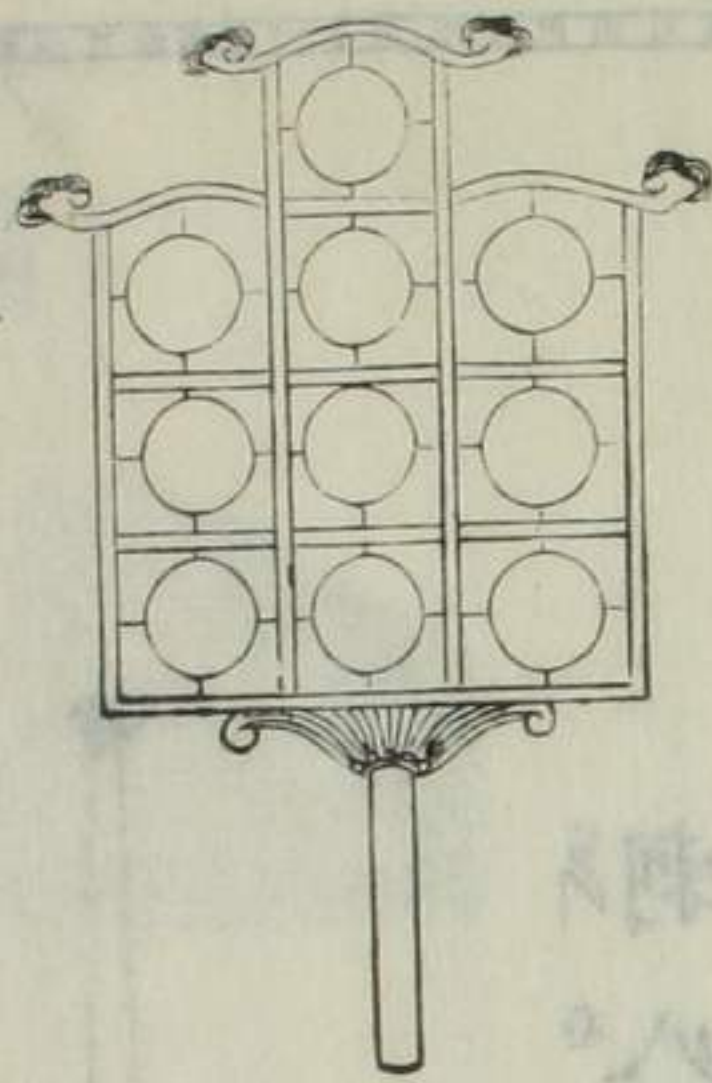


碁子

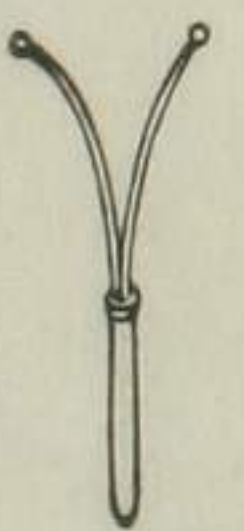




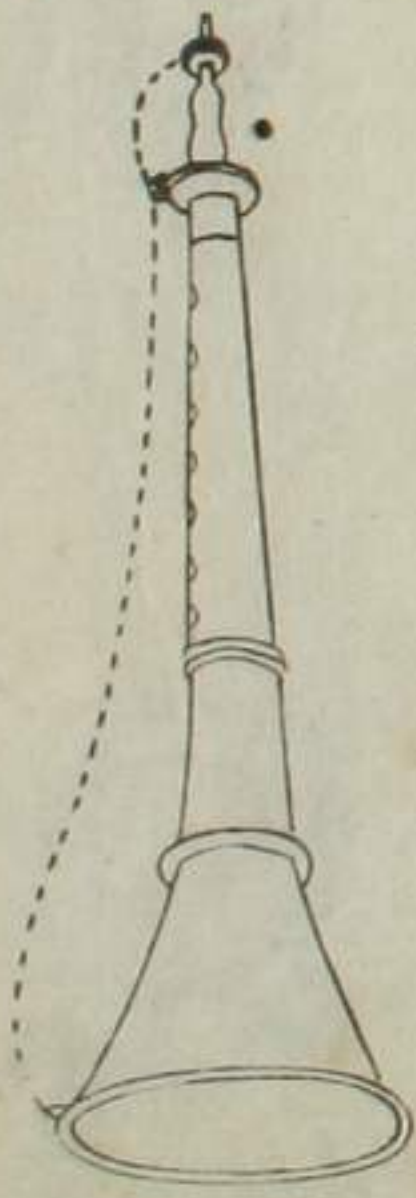
金鑼えら



雲鑼えら



撿子えら



鎖呐えら

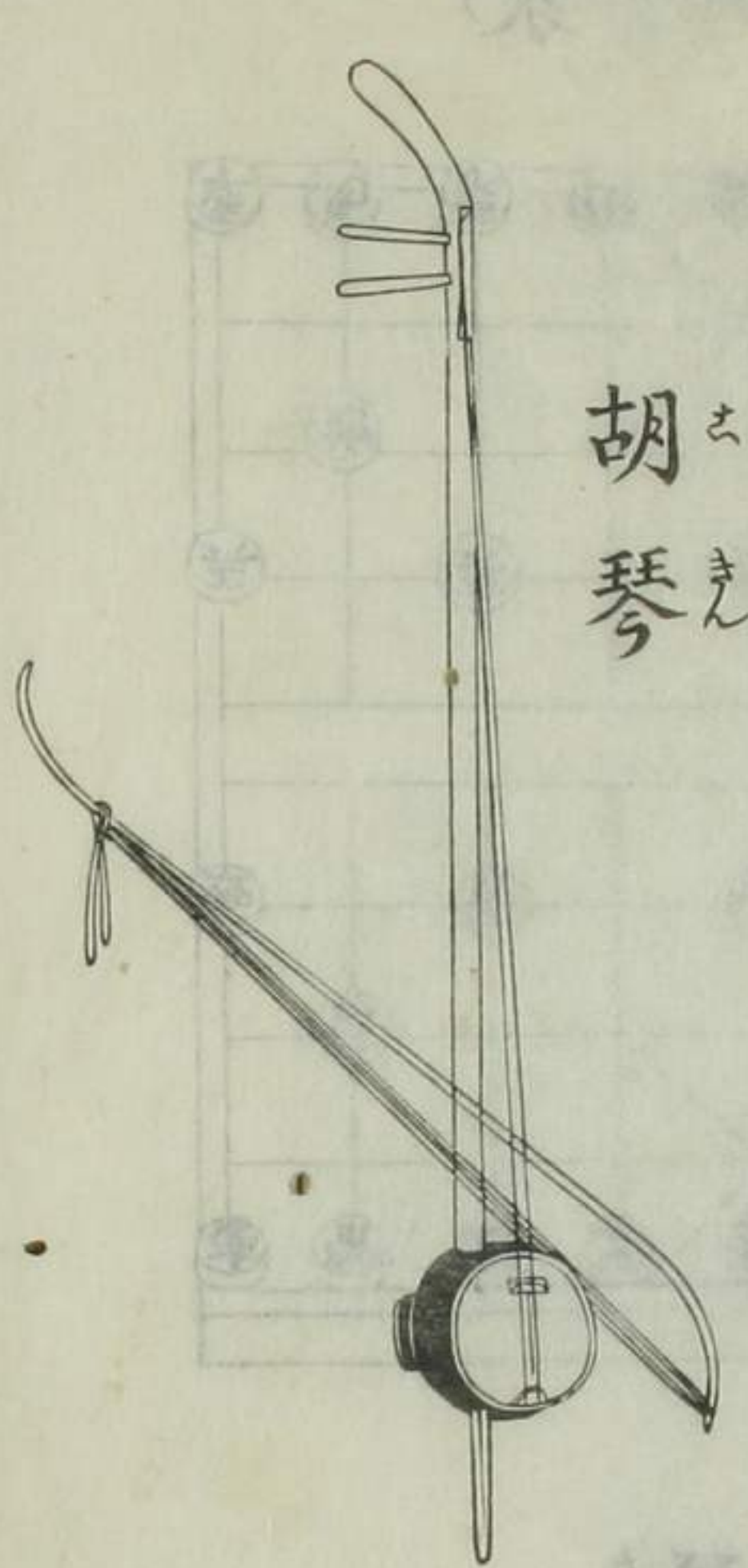


月鼓えら

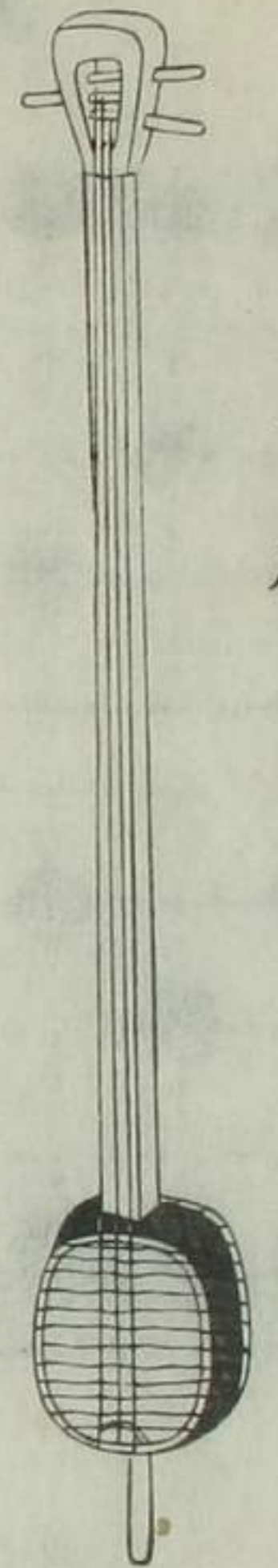


居家

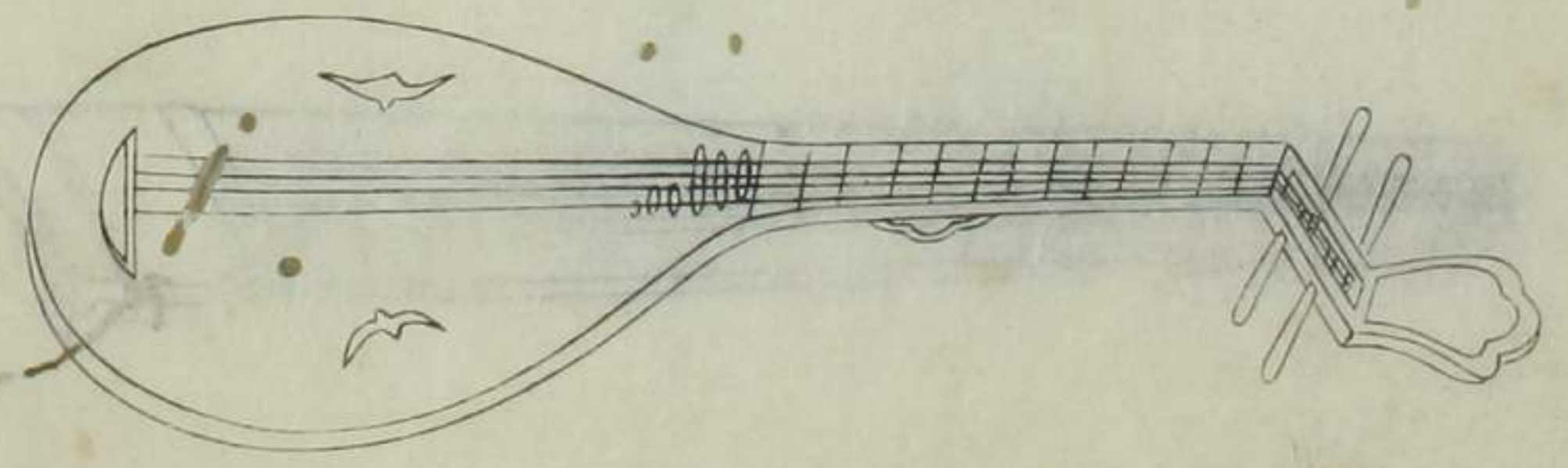
九二



胡琴えら

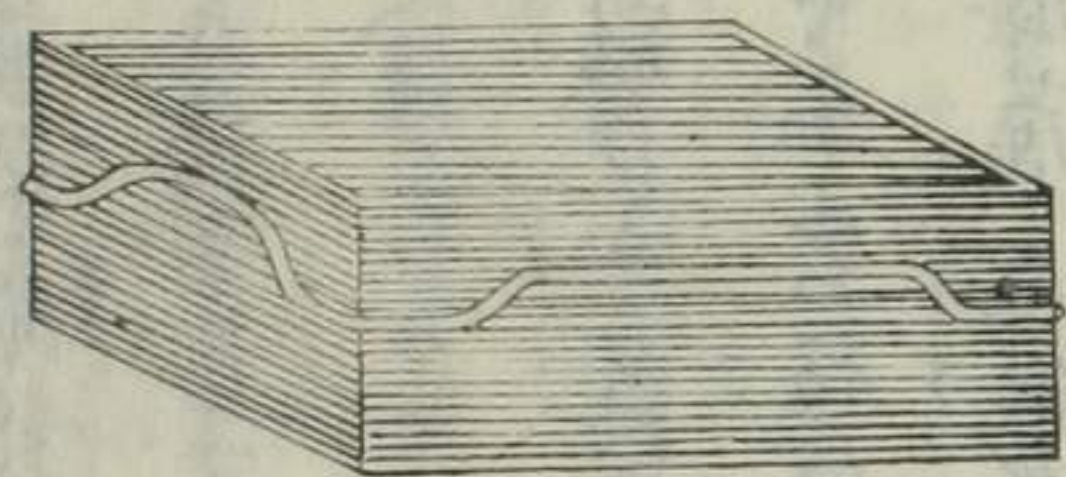


三絃子えら

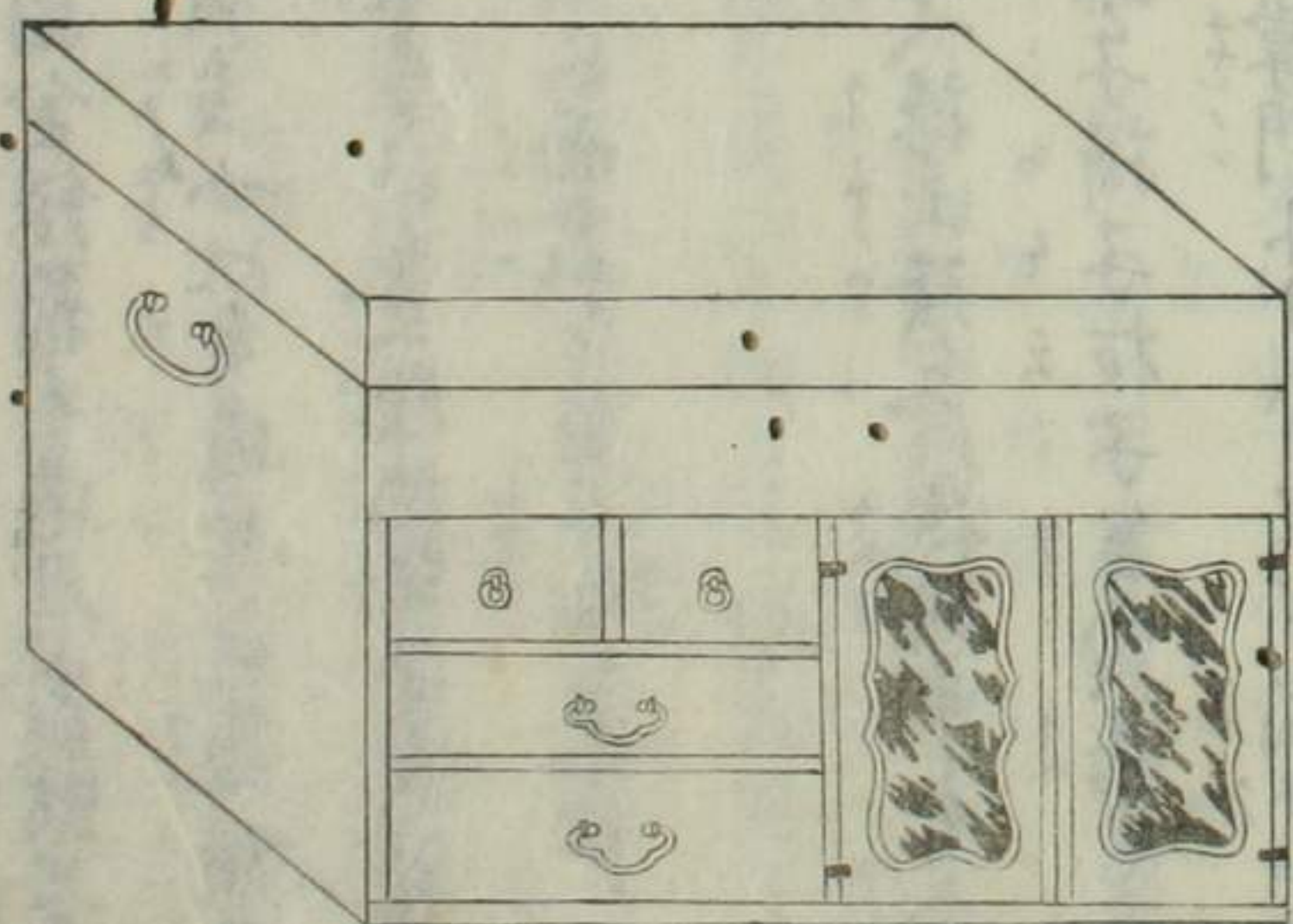


琵琶えら

紙箱



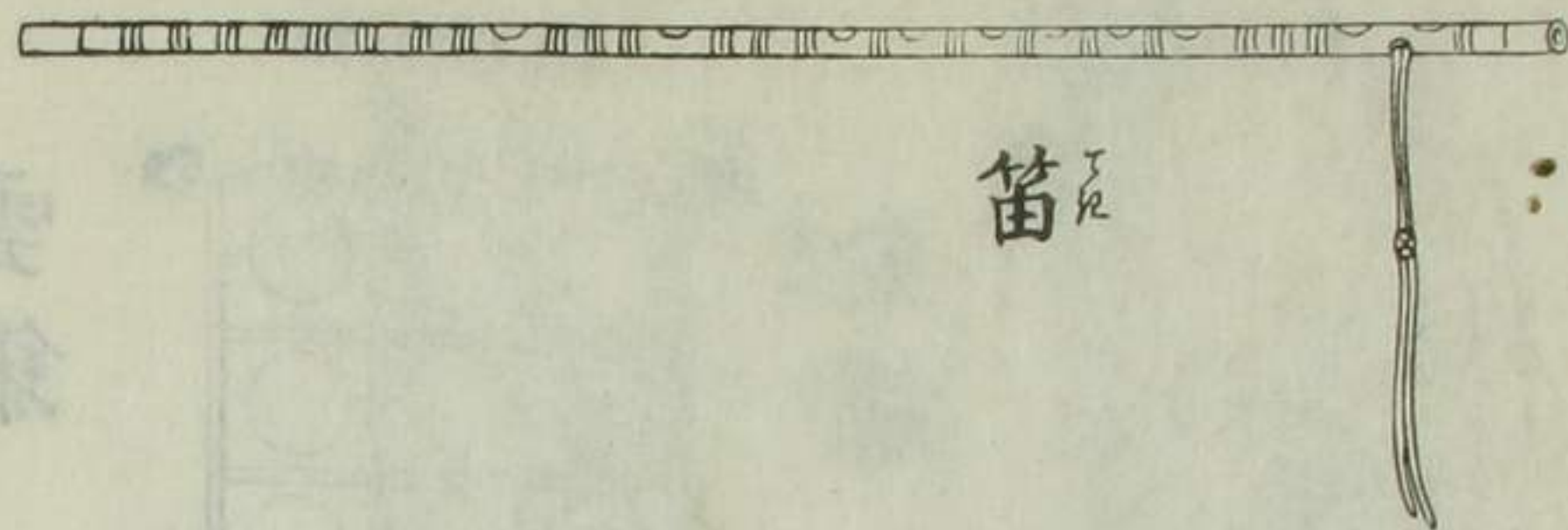
文具箱



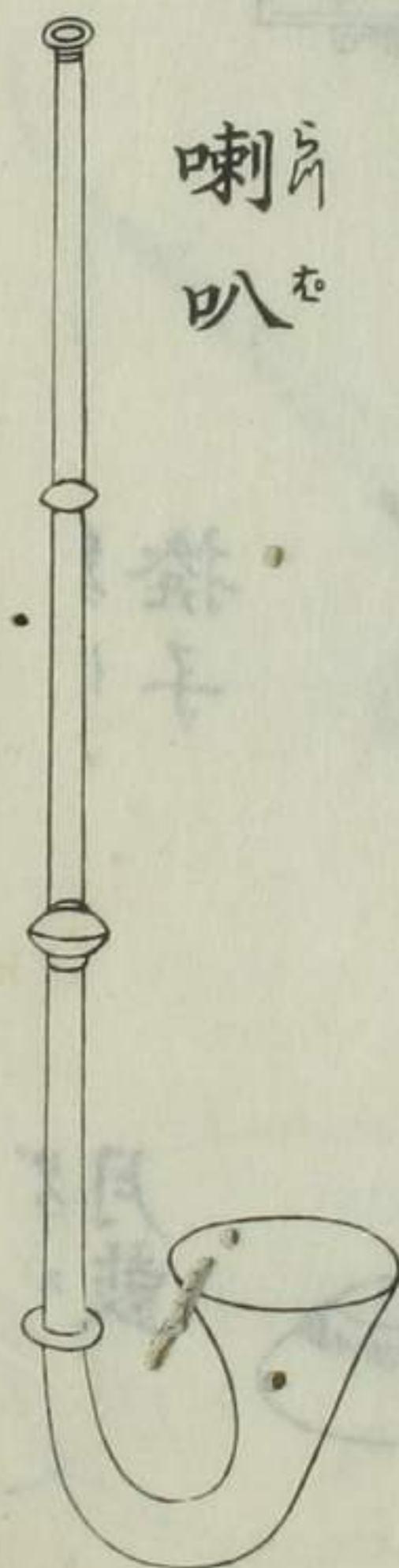
居家

九三

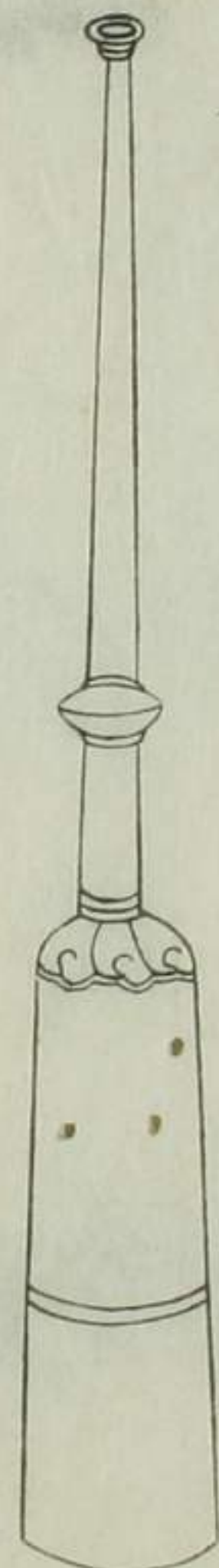
笛



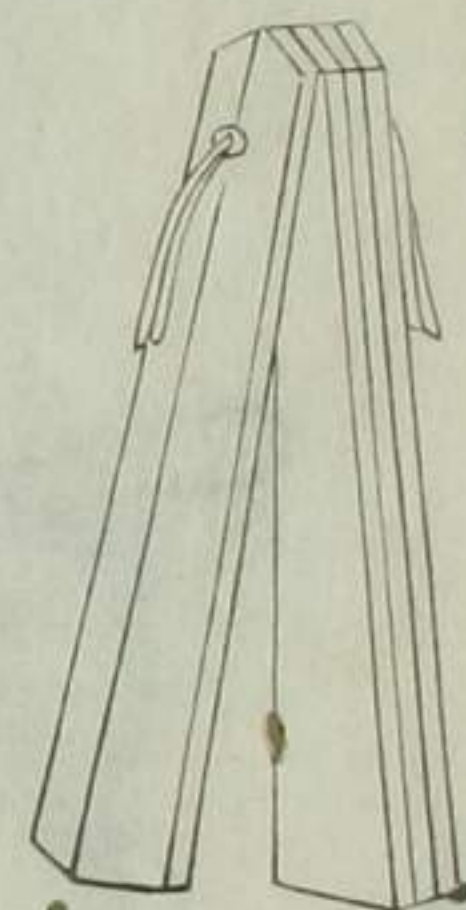
喇叭



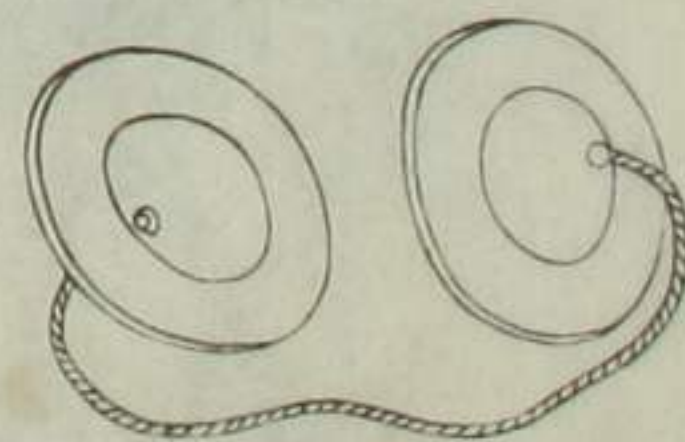
銅角 一名 唢囉



拍板



小鈸



○内房 女の居間 奥手に設け入口布簾をかける二枚扉夜分は内を關鎖し

内の隅にみ睡床を設け其側一向み衣箱金銀箱手道具家財等放入

出入の隙を設けて關鎖は片側み卓子或は女此手道具針箱鏡臺等

を多く置下に椅子杭子或は居室壁に帽架ありは三弦琵琶等或はかく

もわと便所通ひ口を麻鞋を並面盆架み面盆を並手巾をかける内房

の上み樓を設け女子此寢所とす
○樓上より下をみ板成はく胡梯を掲げ樓上張り板成はく入口二枚

扉板成はく藤蓆毛氈等或は或は卓子椅子杭子等或は居室を

方圓均しくは扉成はく左右屏風ありは障門みすかみあり欄干をあり

樓の先へ露臺或は設け地を柱を建樓に付く竹板成は床の志とくうら

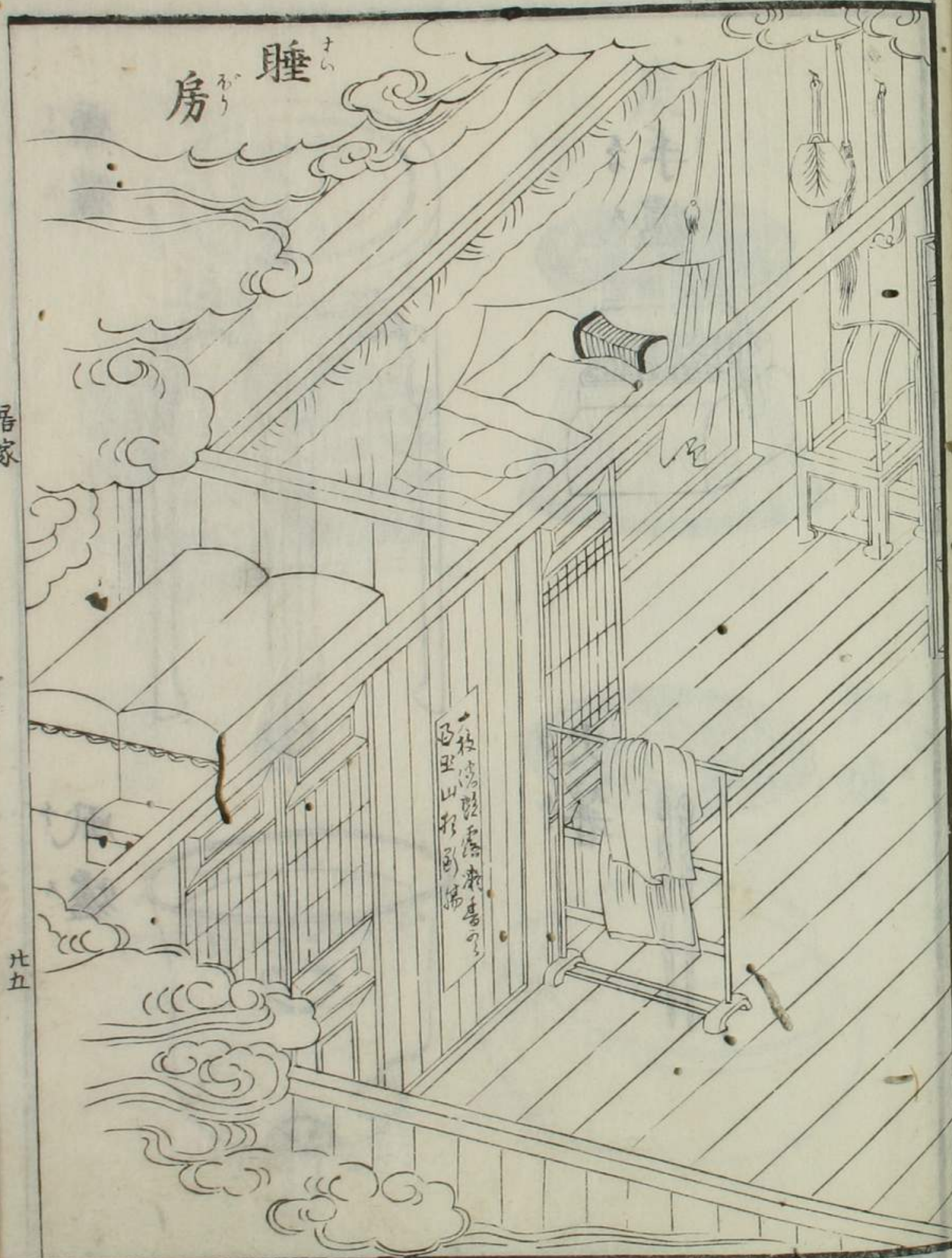
二方に欄干成は付も上より架子を造りて幔を張る日成或は露臺の内

房の樓成は多く用ひ書房等の樓成は夏席の涼所は内房の樓は女子

等此住居所寢所も此室とありて常に簾成は或は外見を避るなり
○蘓州杭列等城裏城外の町屋は皆樓房あり大約此方の住居は板成は

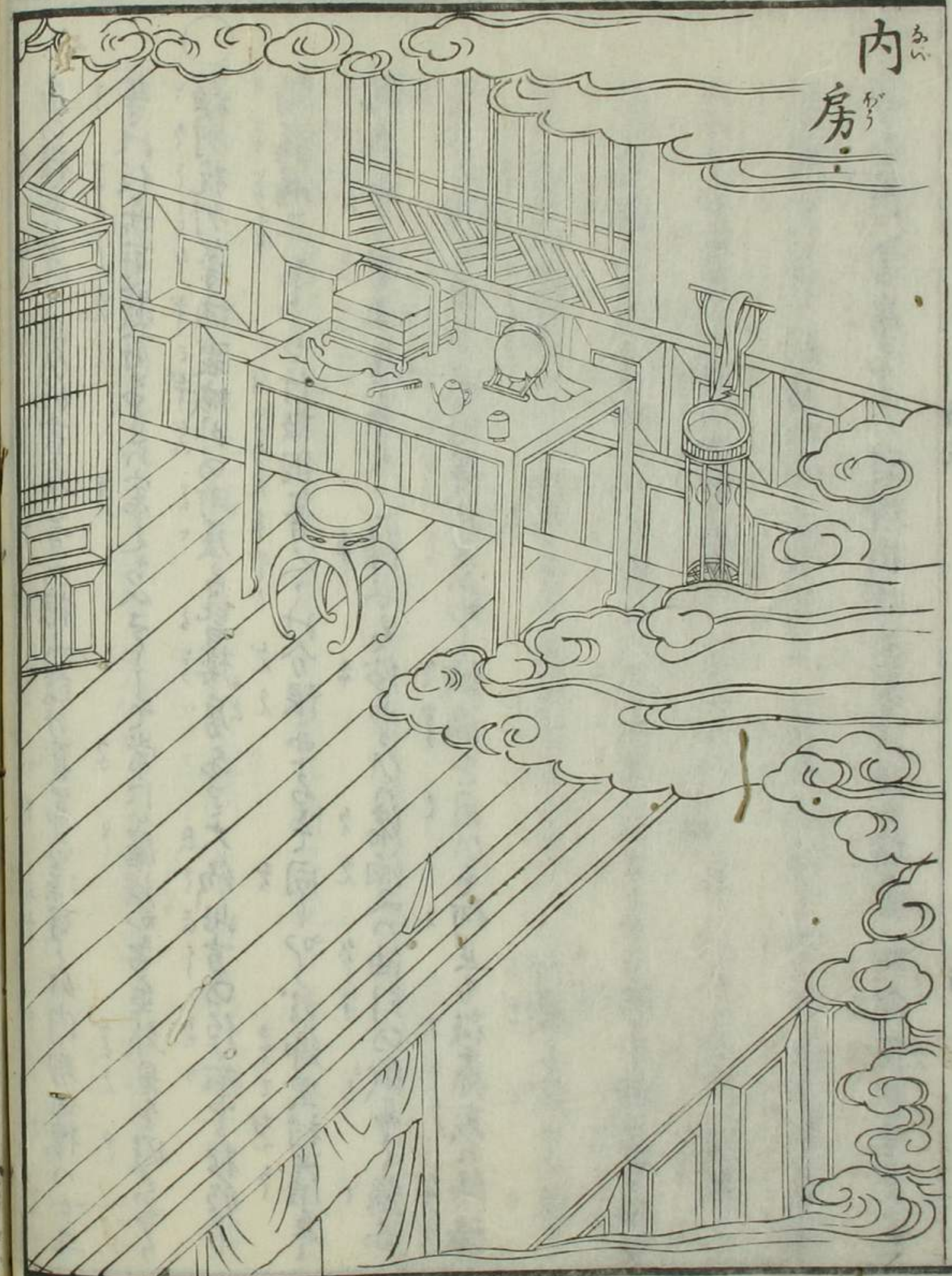
隔漏漏斗あり竹板銅等しく此分限みより同一くは綿里村居居を
樓房ゆく皆平房あり○障子と紗ありは編緞又は油引の紙あり張る

窓は明瓦雲母玻璃等成用み紙襖を用ひは何止も板成は或は紗障
あり扉の上は板成は或は屏風等ありは或は天花板とあり○仰塵は紙成は張る

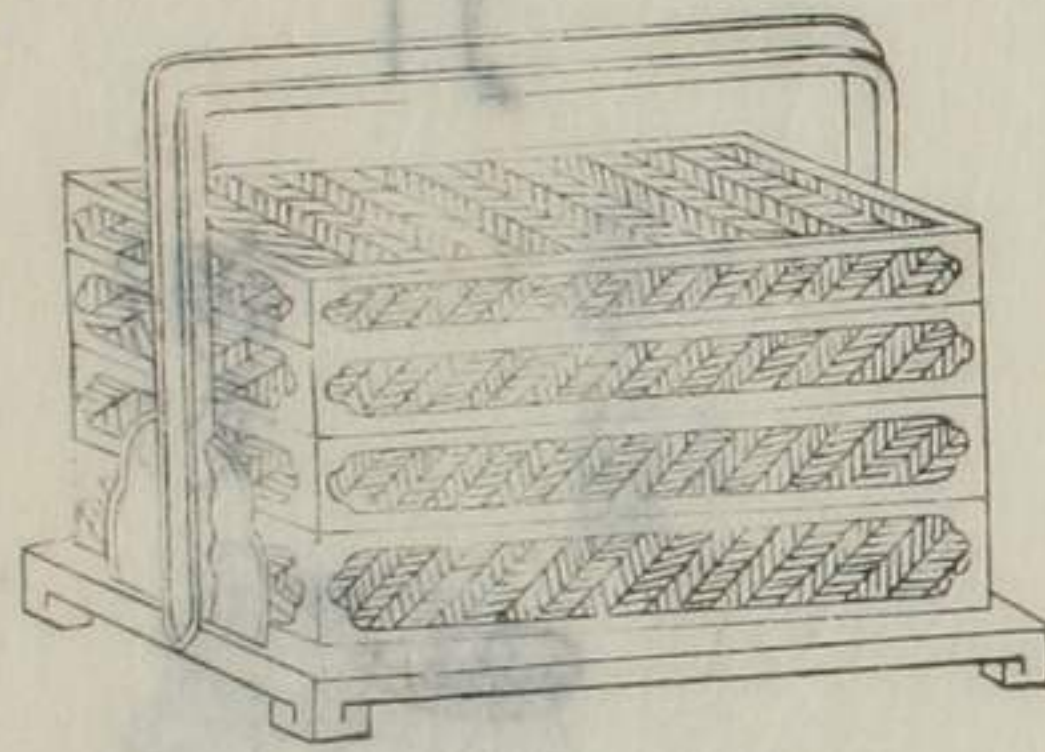


居家

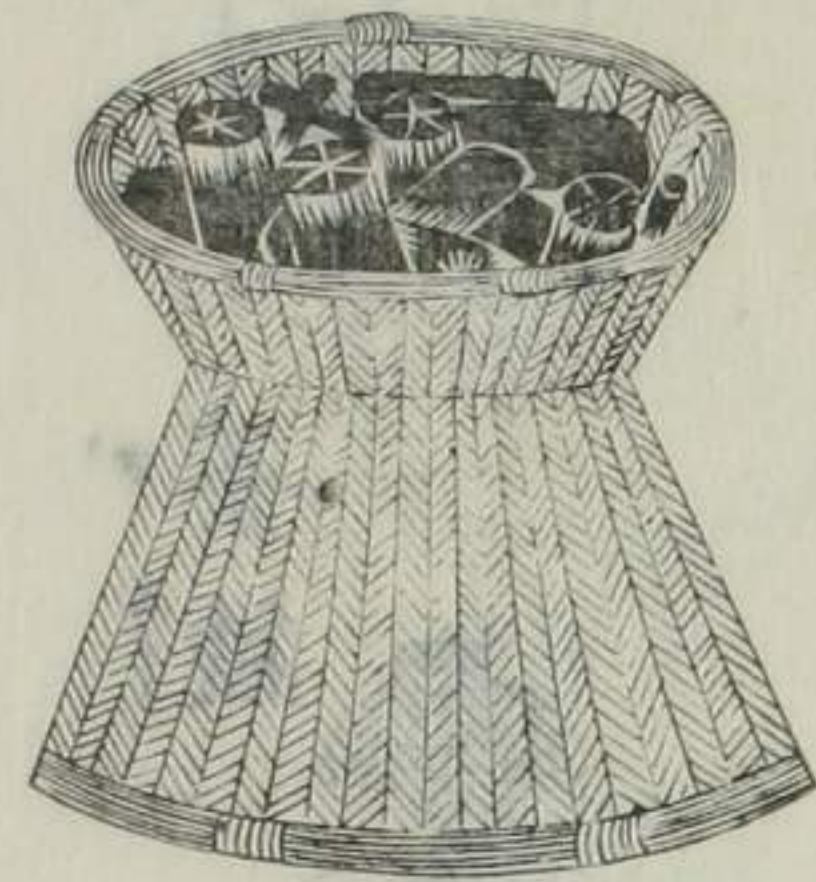
九五



食籃



炭斗



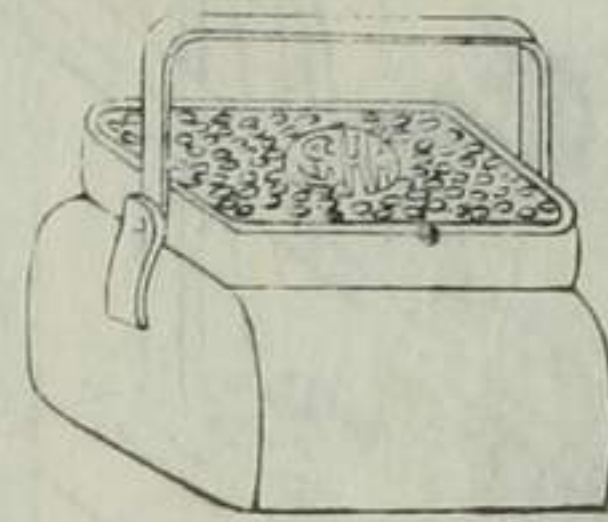
盤



脚爐



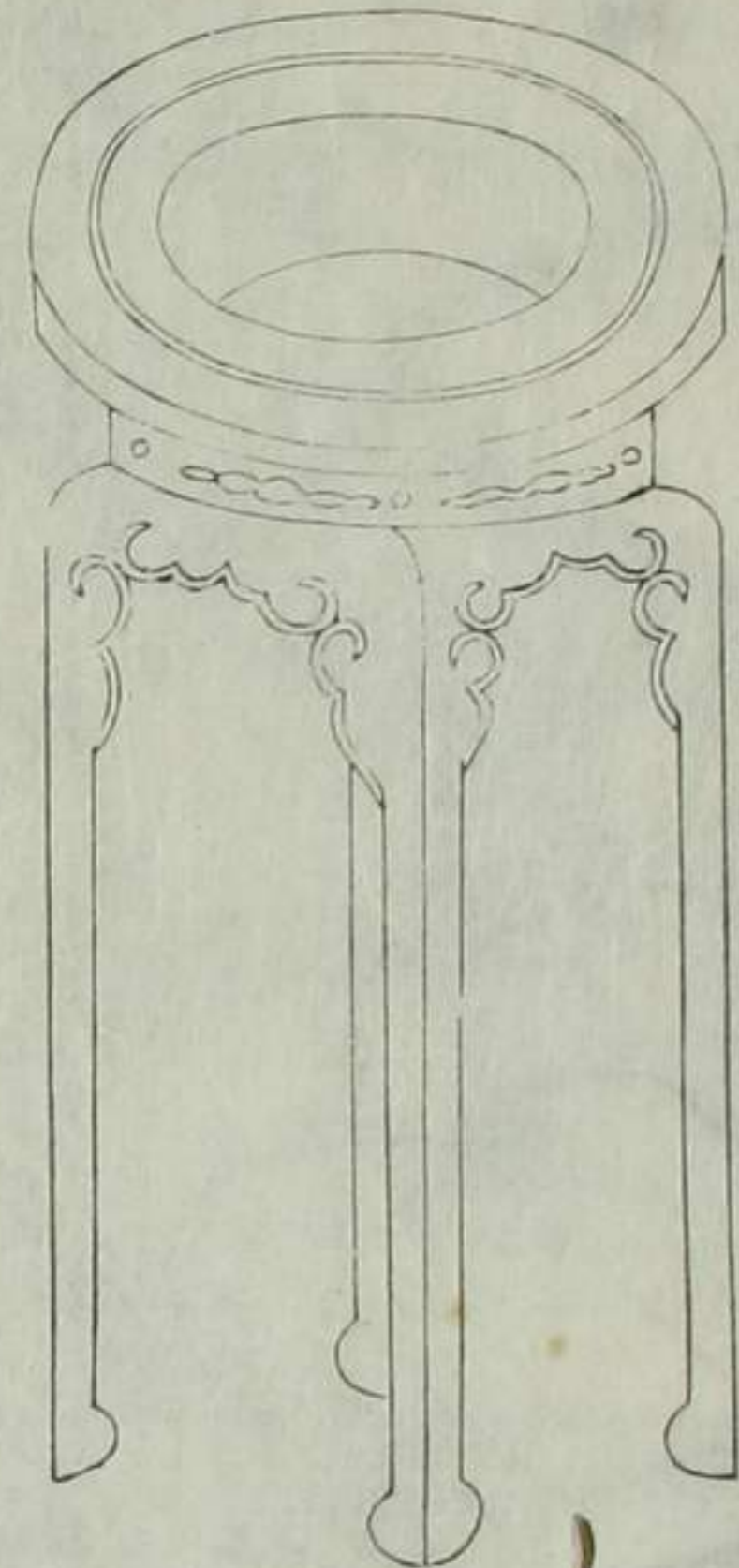
手爐



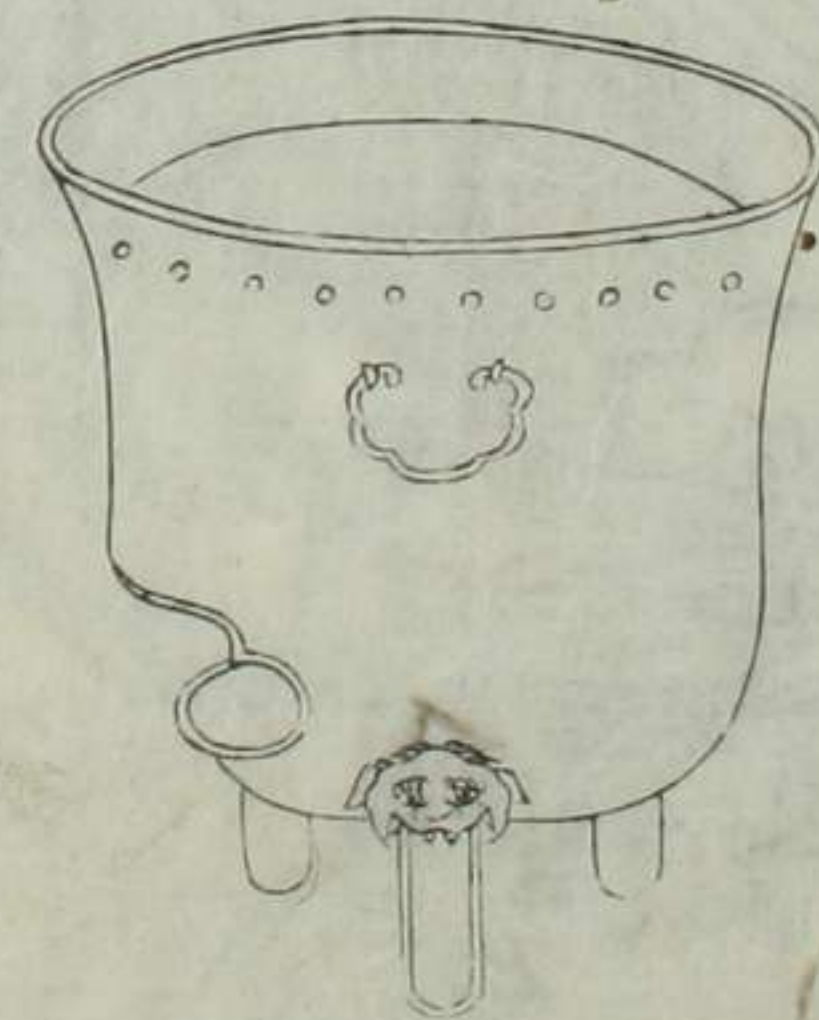
火箸



廳爐



風爐



布ふ 抹ま



茶ち 罐かん



茶ち 籃らん



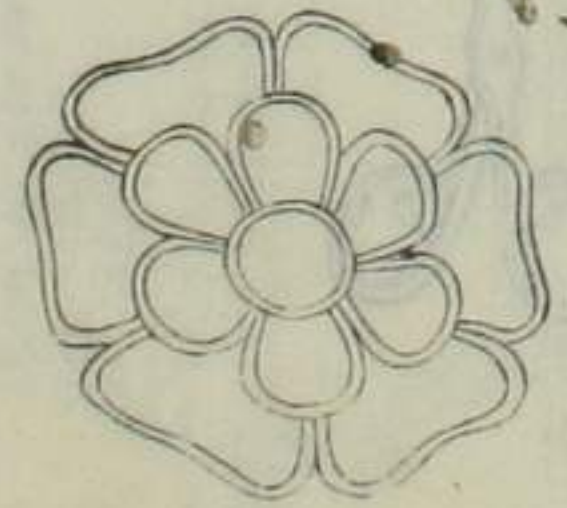
茶ち 瓶びん



茶ち 罐かん



托たく 子こ



居い 家か

九く 七しち

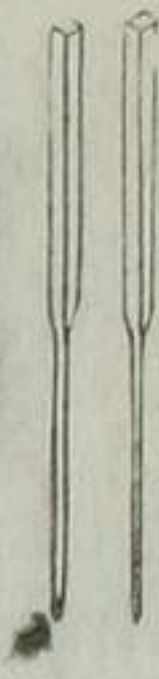
小せう 碟てつ



茶ち 鍾しゆん



筋ぢん



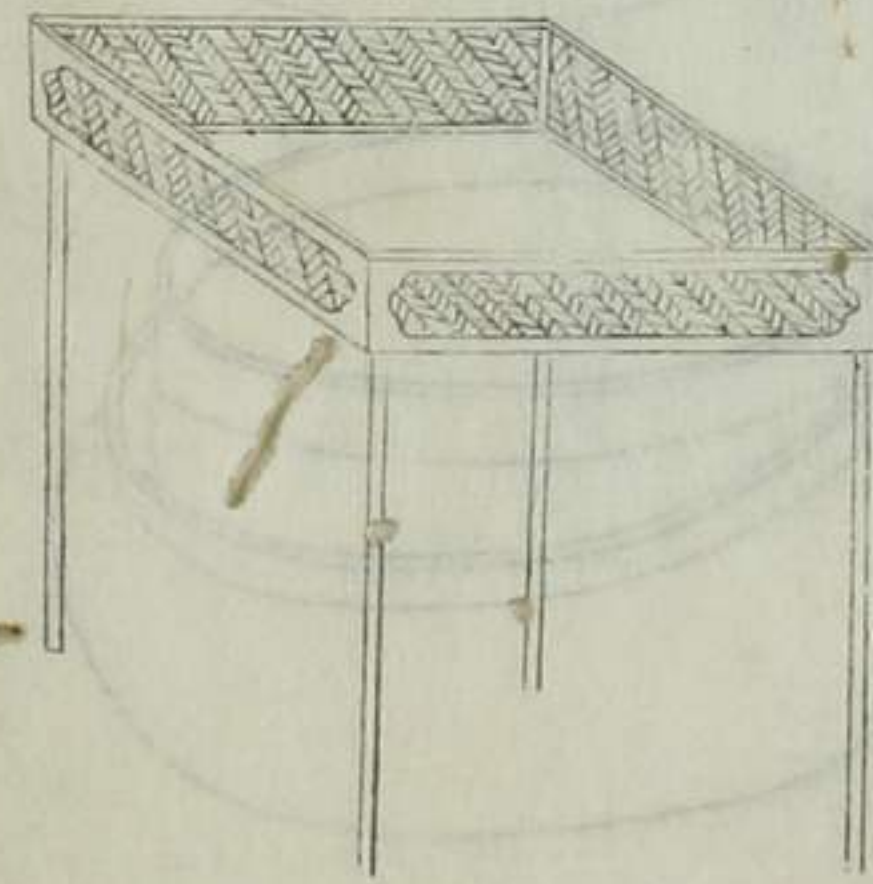
調てう 羹かう



茗めい 壺こ

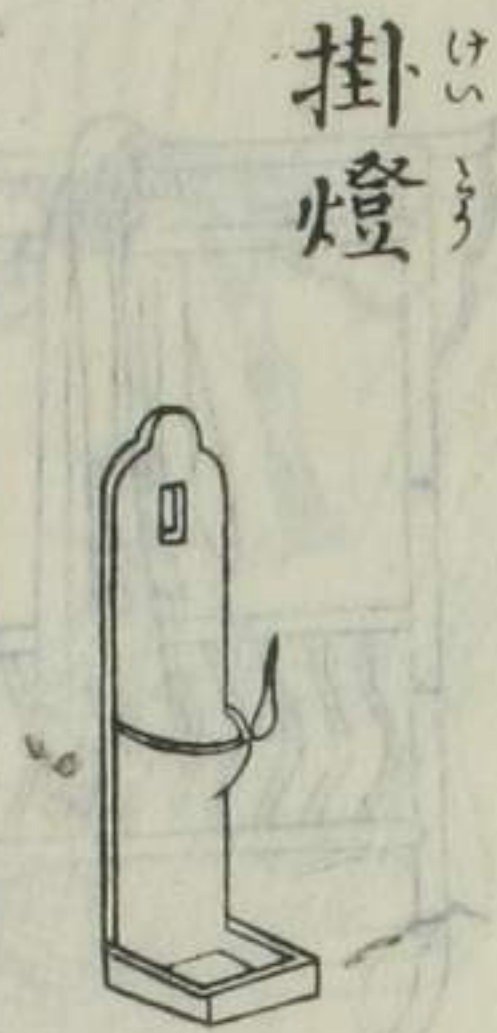


烘かう 籃らん 一いち 名な 茶ち 焙はい





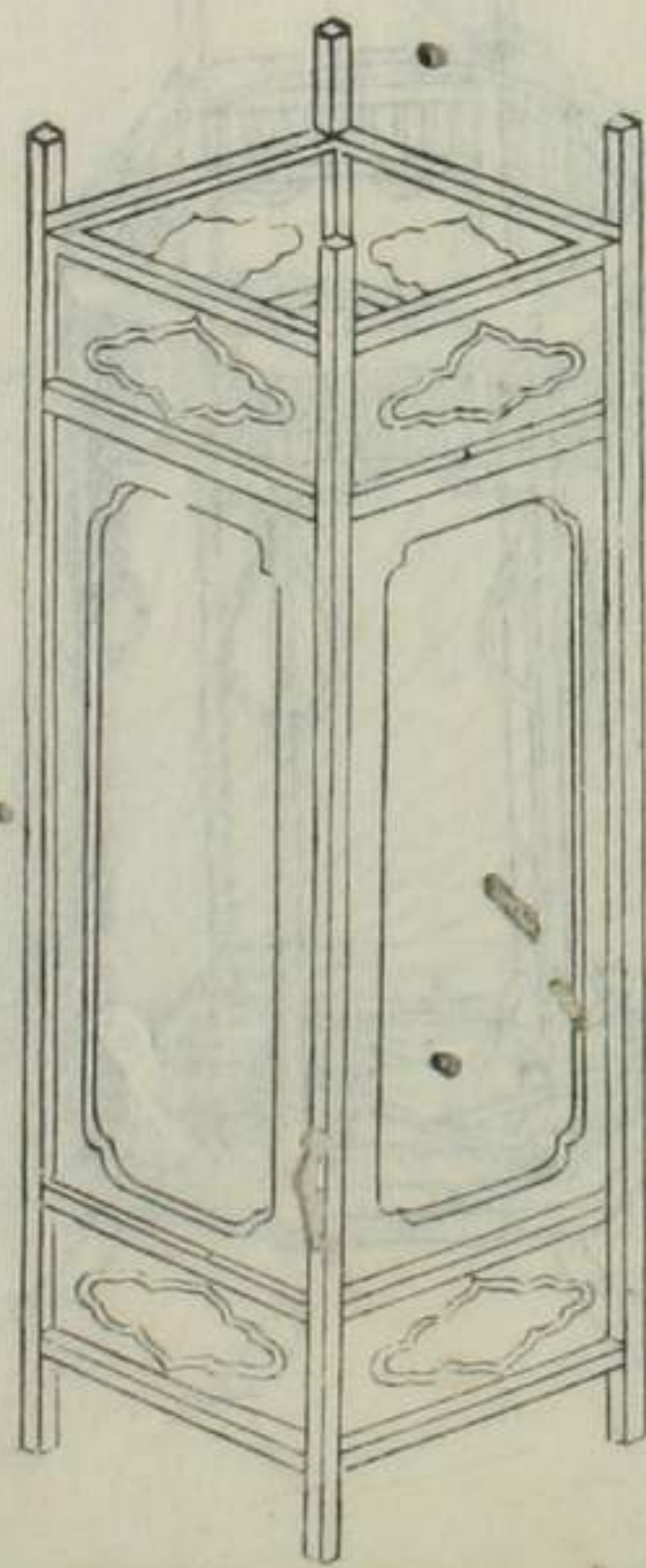
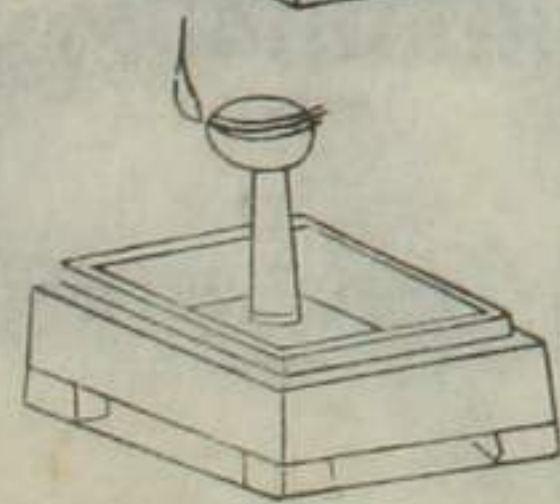
燭臺



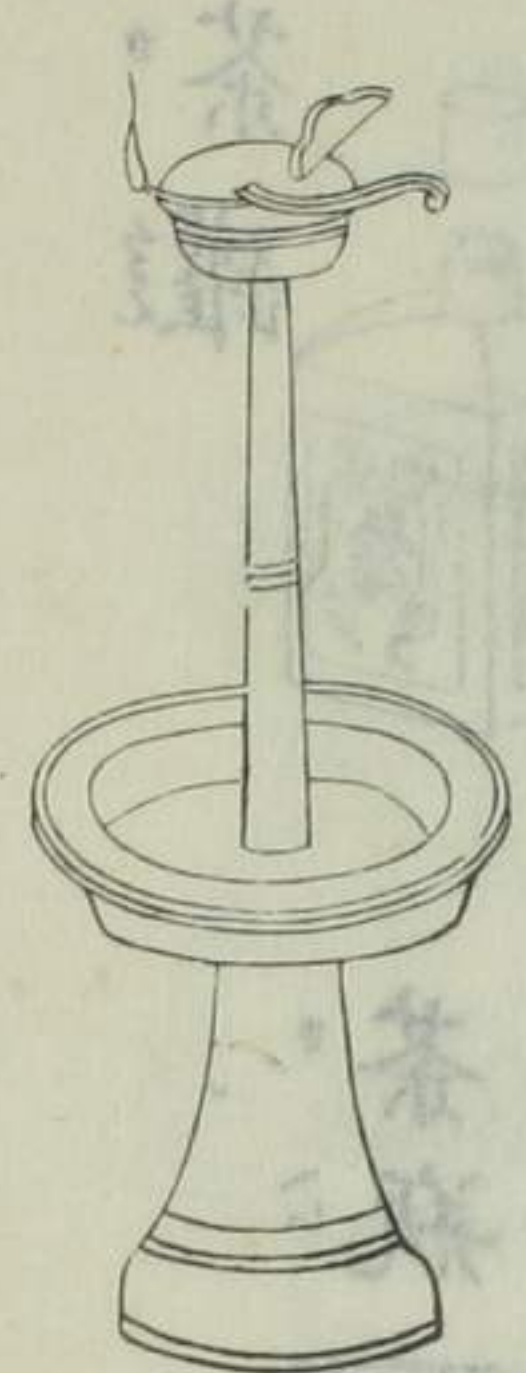
掛燈



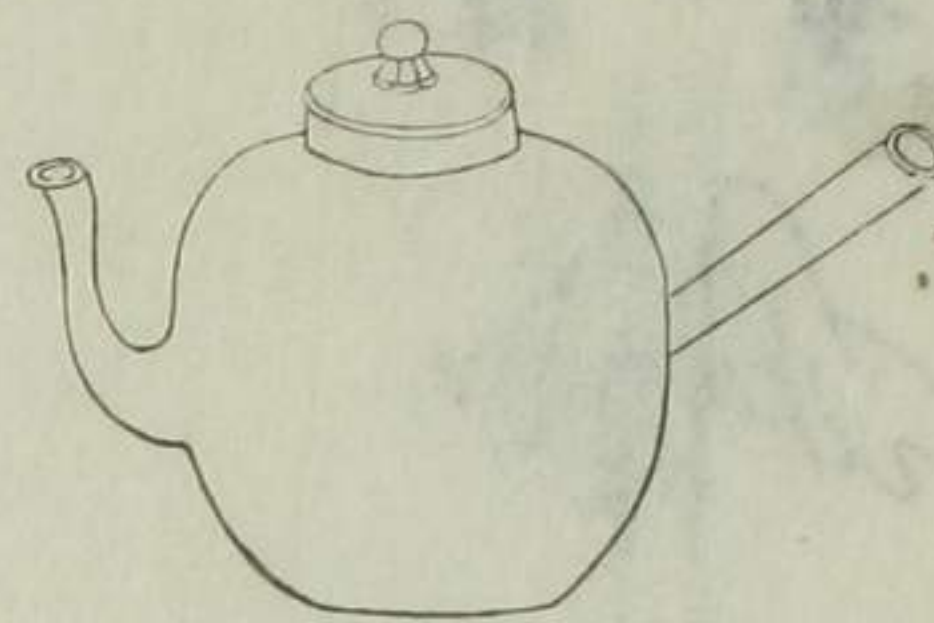
書燈



書燈



燈臺



煎藥器

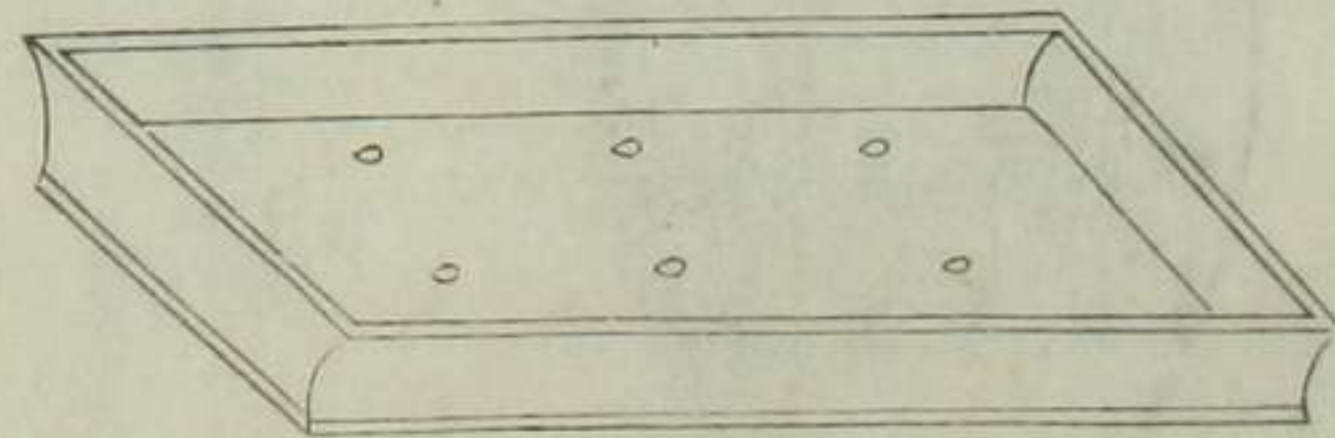
托子

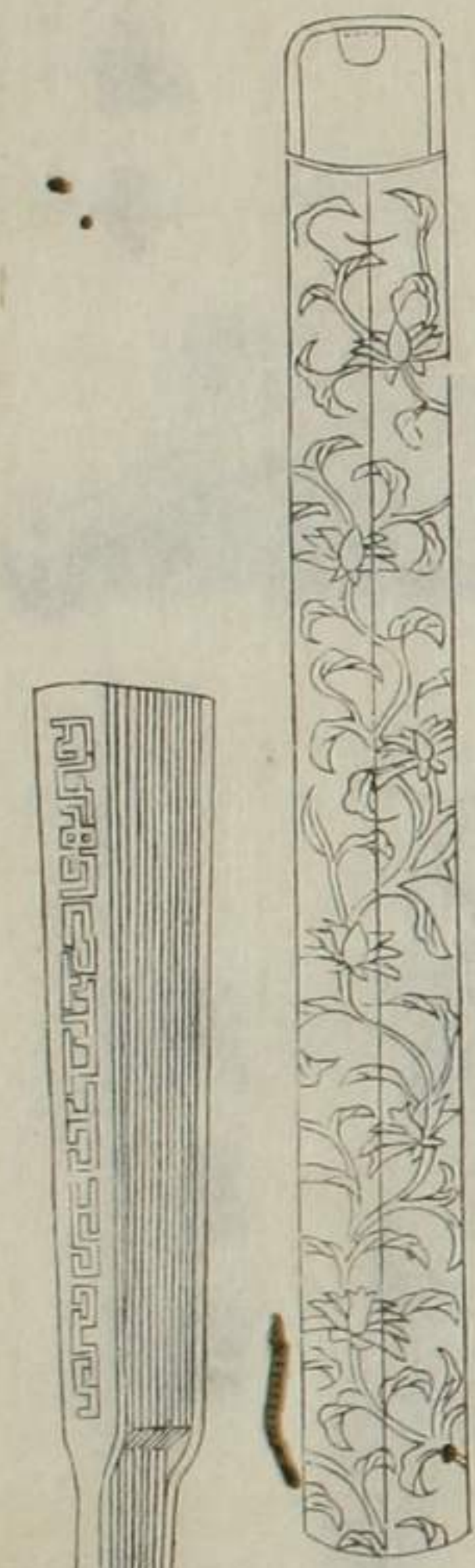


蠟剪



盛春

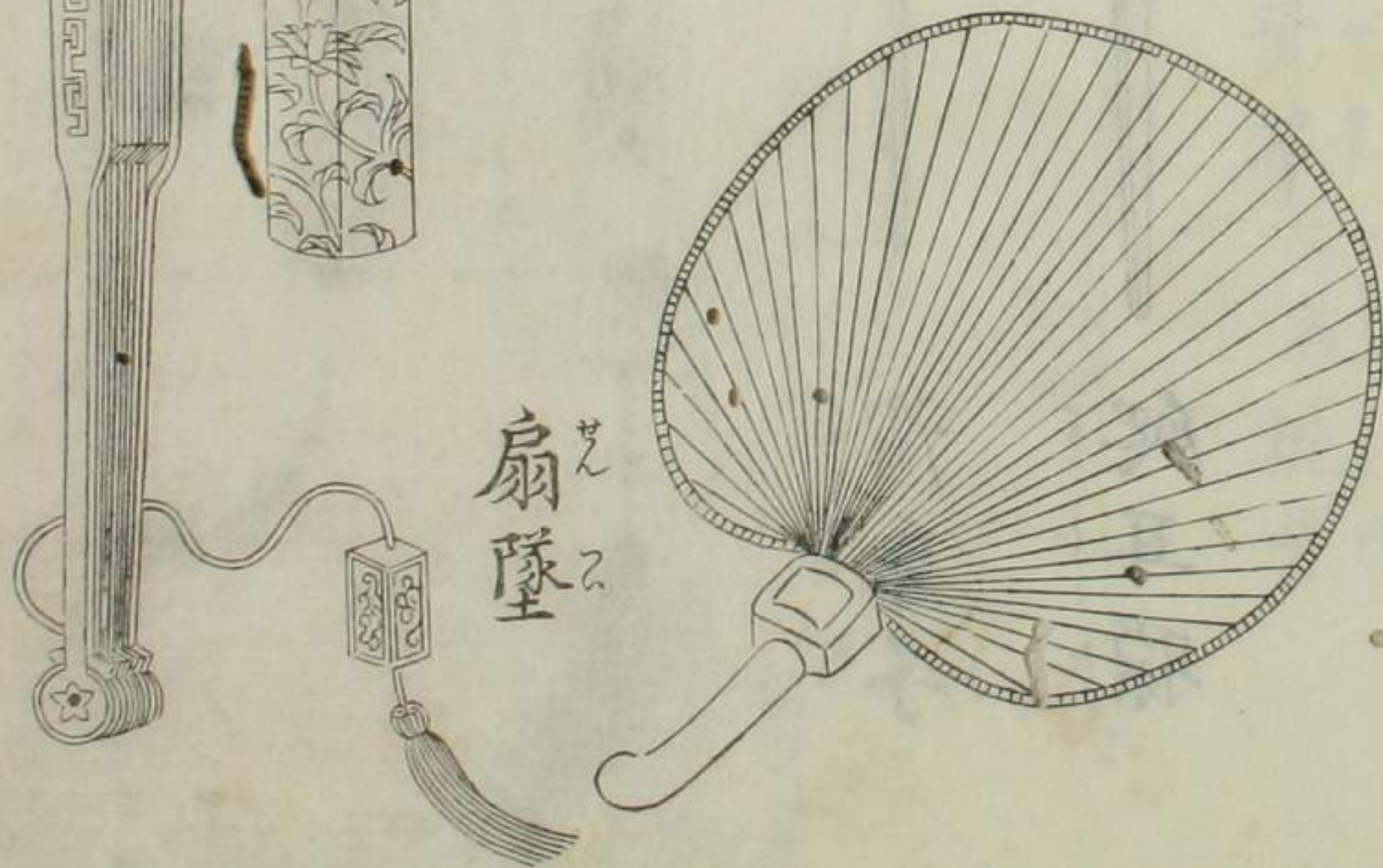




葵扇袋

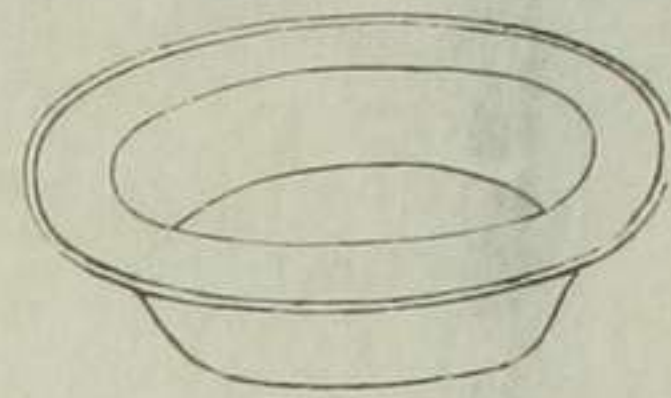


葵扇

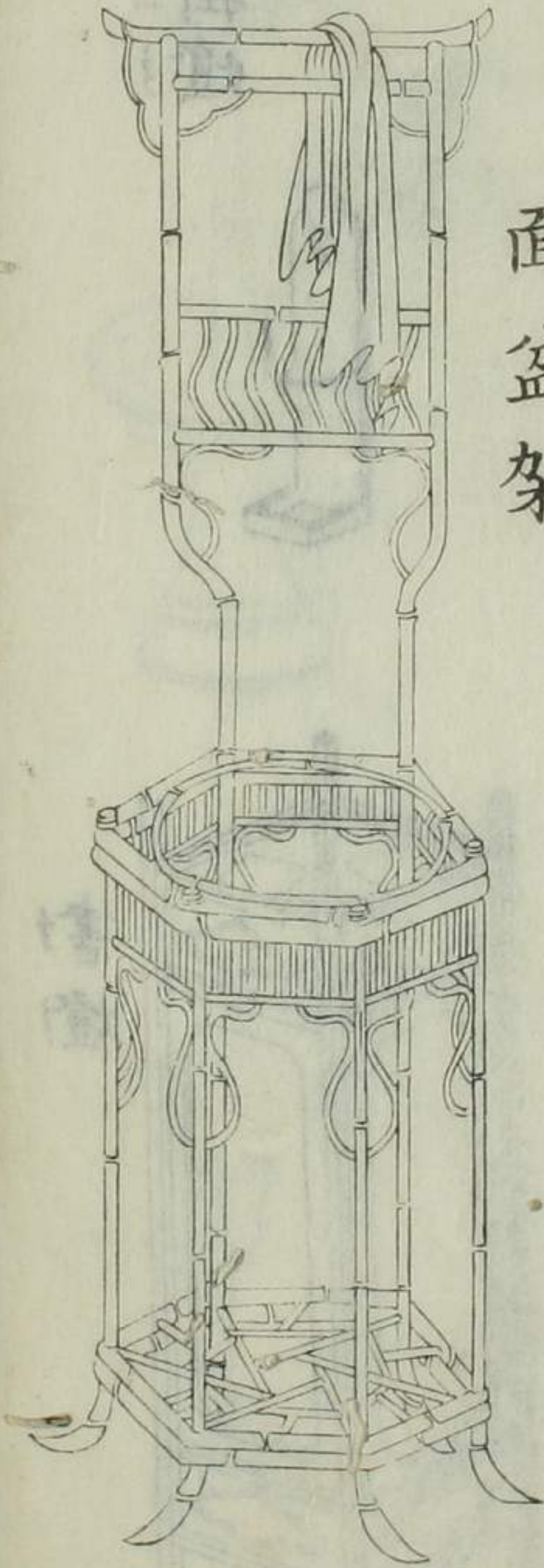


葵扇墜

盆面



面盆架



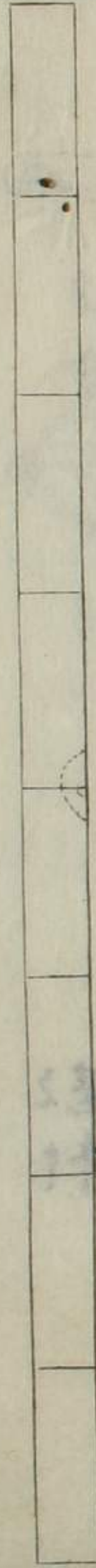
同上



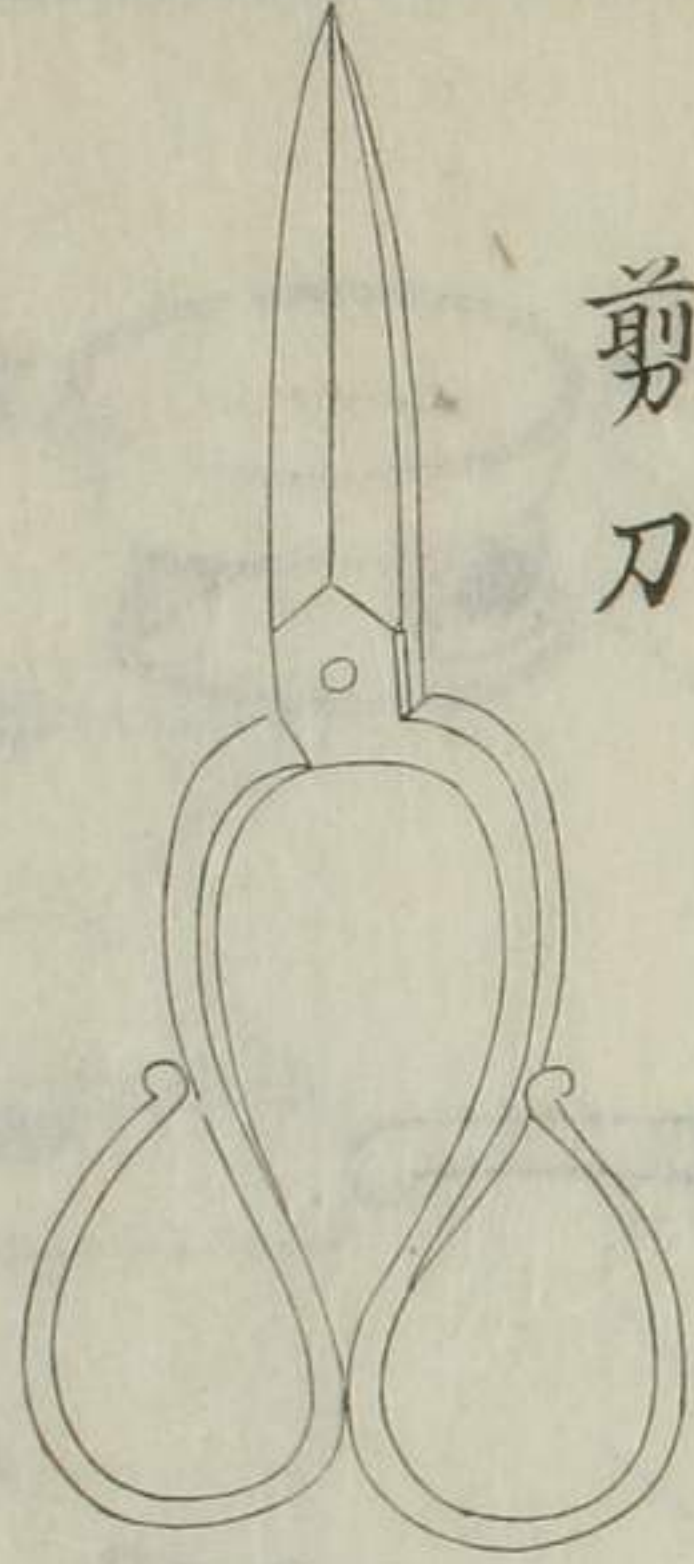
盆漆



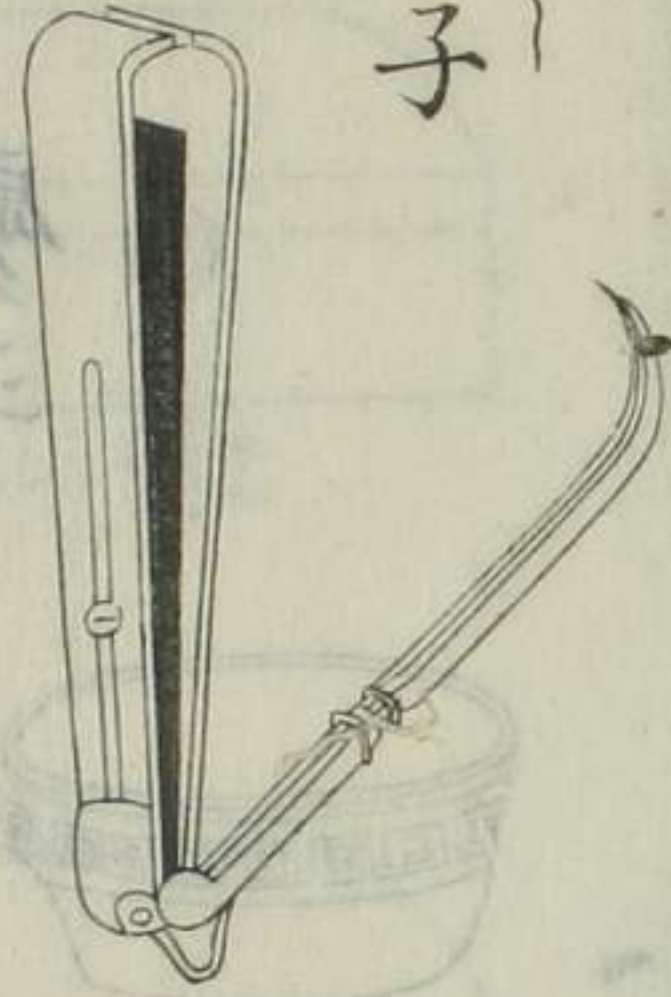
量尺 リヤウシ



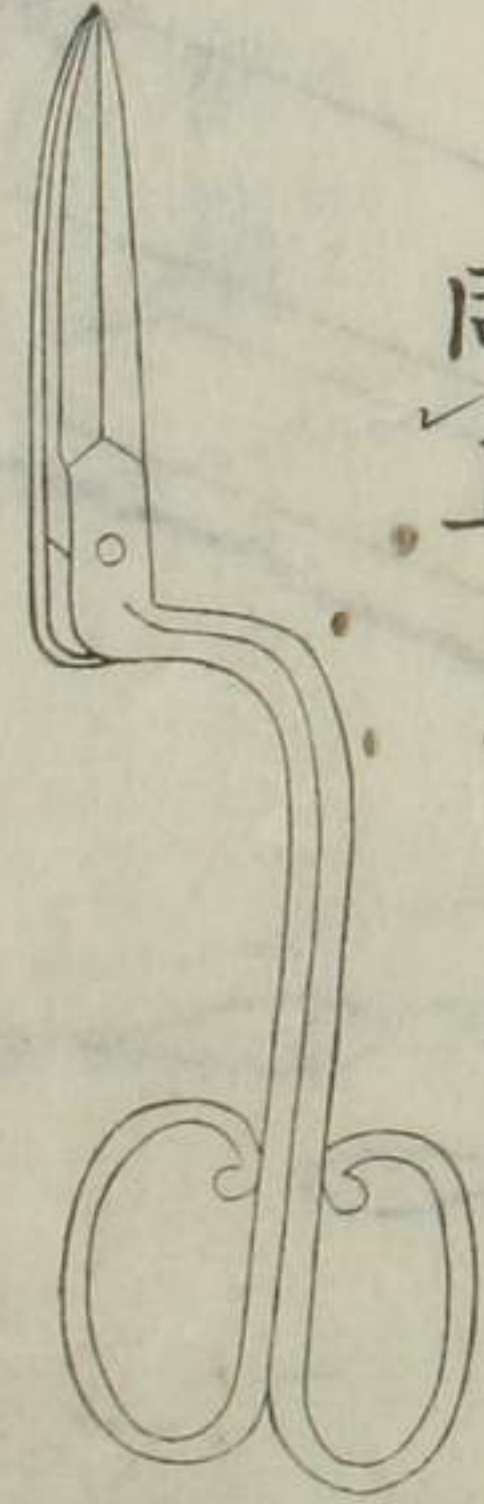
剪刀 シヤウ



鑷子 シヤウジ



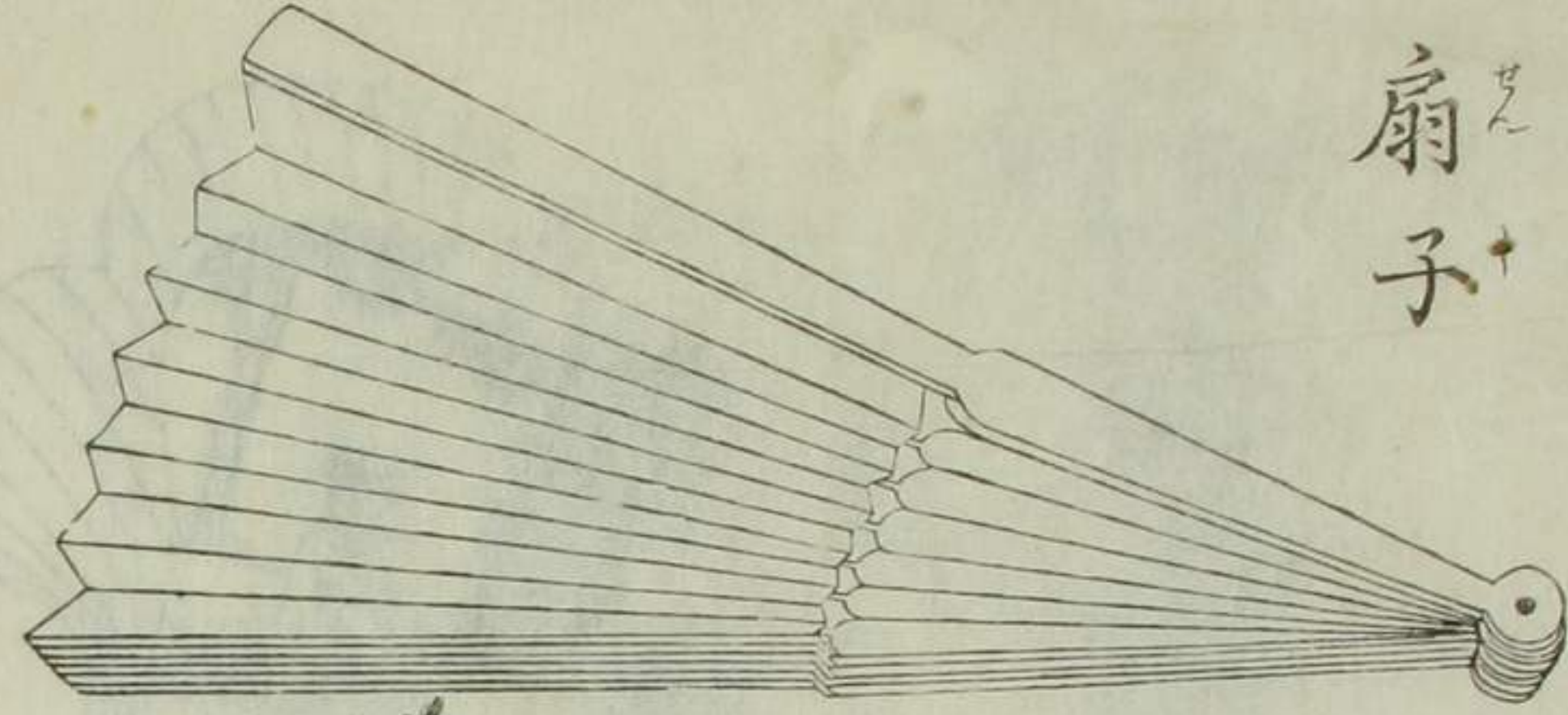
同上



牙竿 一名挑牙 カガシ



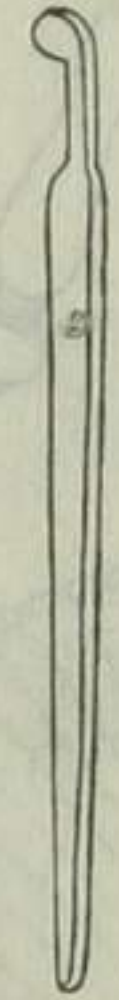
扇子 シヤウシ



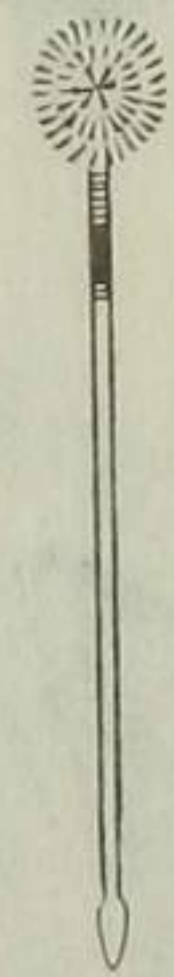
消息筒 シヤウシ



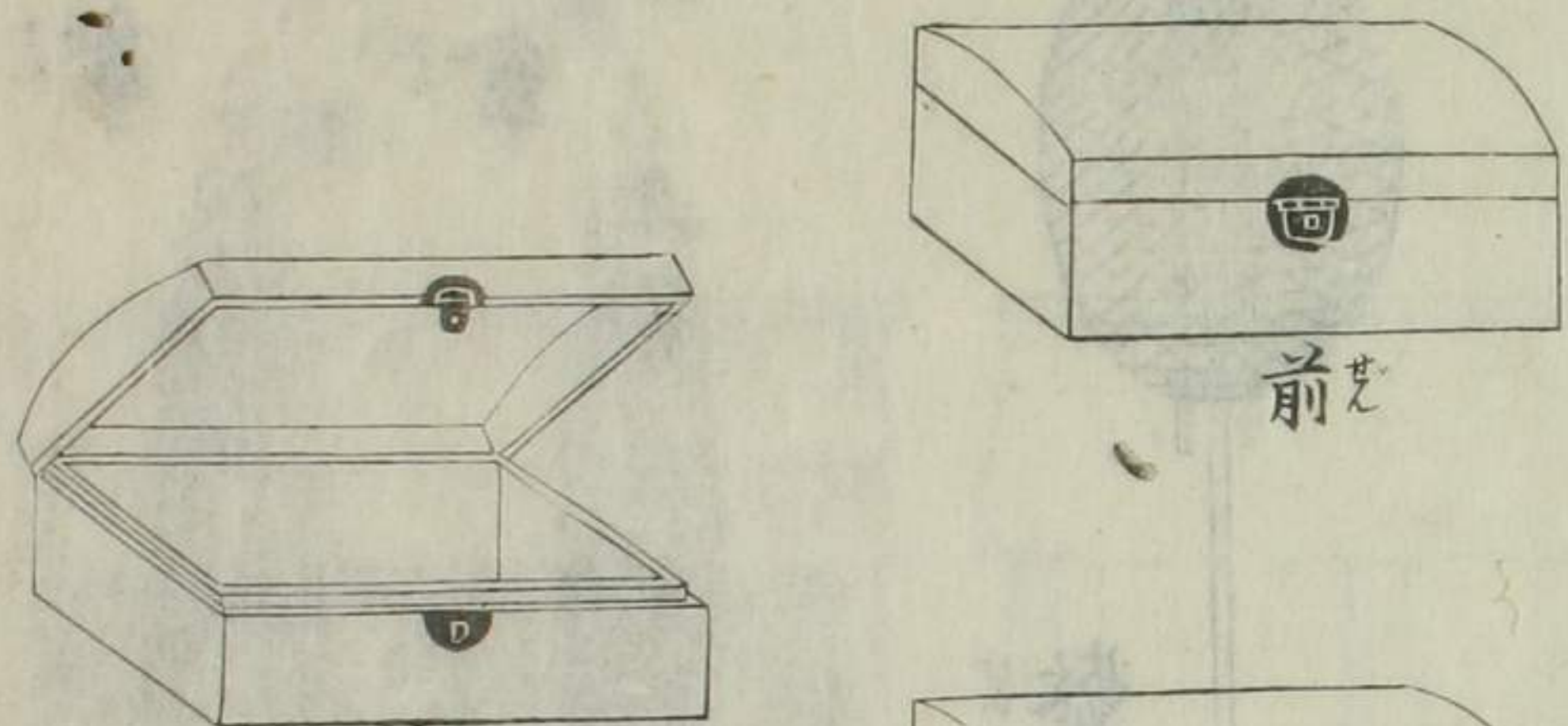
爬耳聾 カミミ



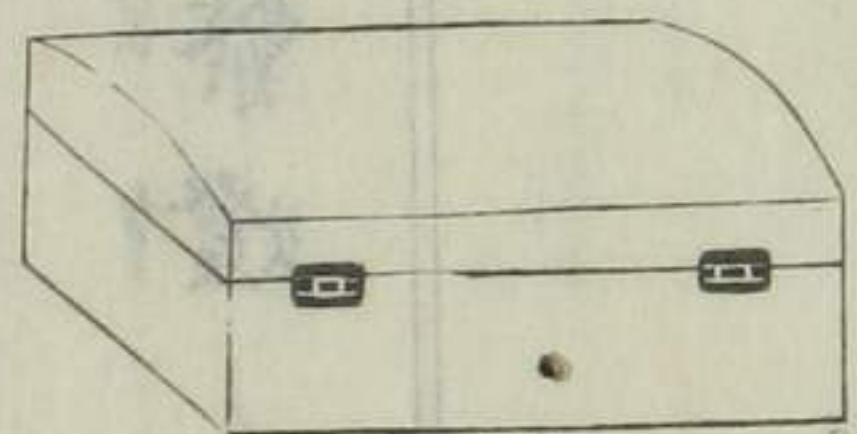
消息子 シヤウシ



箱皮

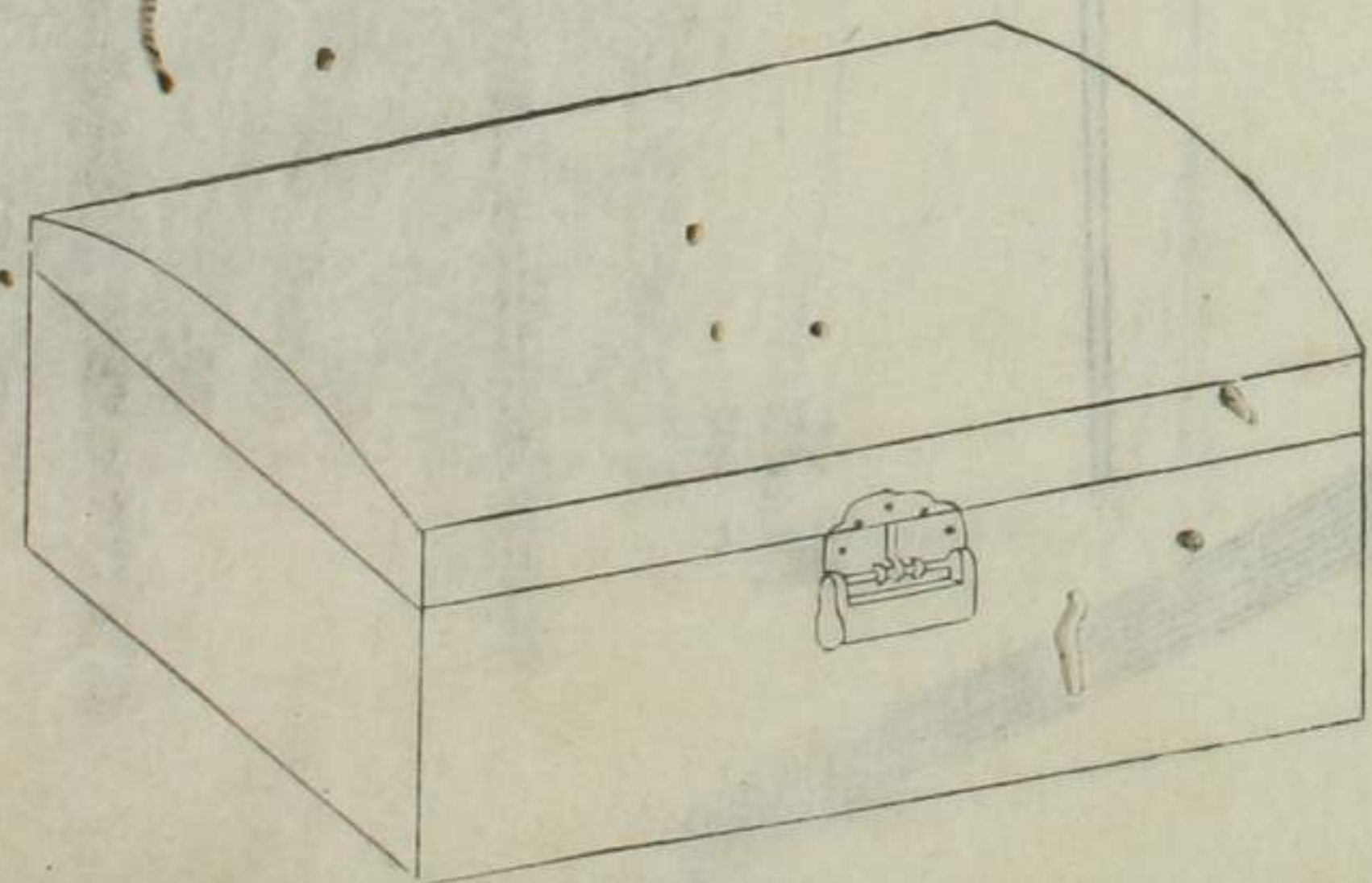


前



後

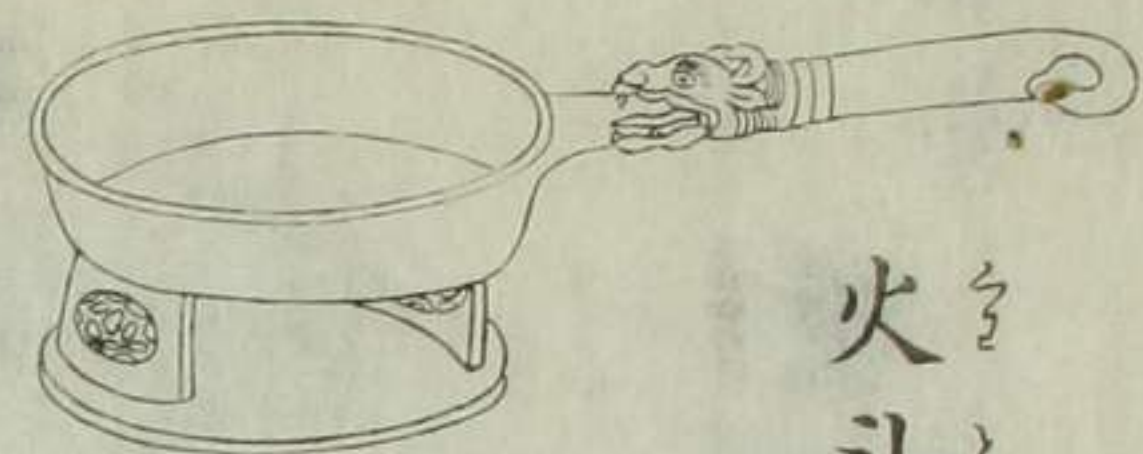
衣箱



居家

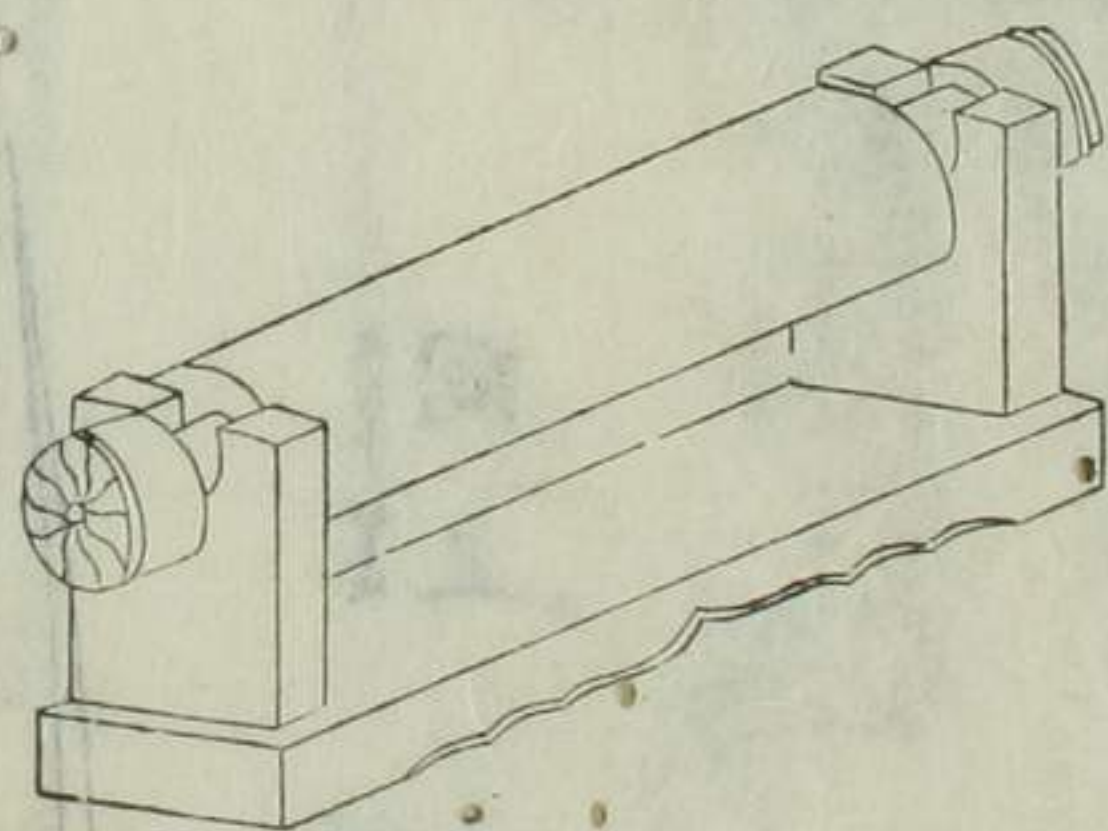
三

熨斗



火斗

礎



礎杵

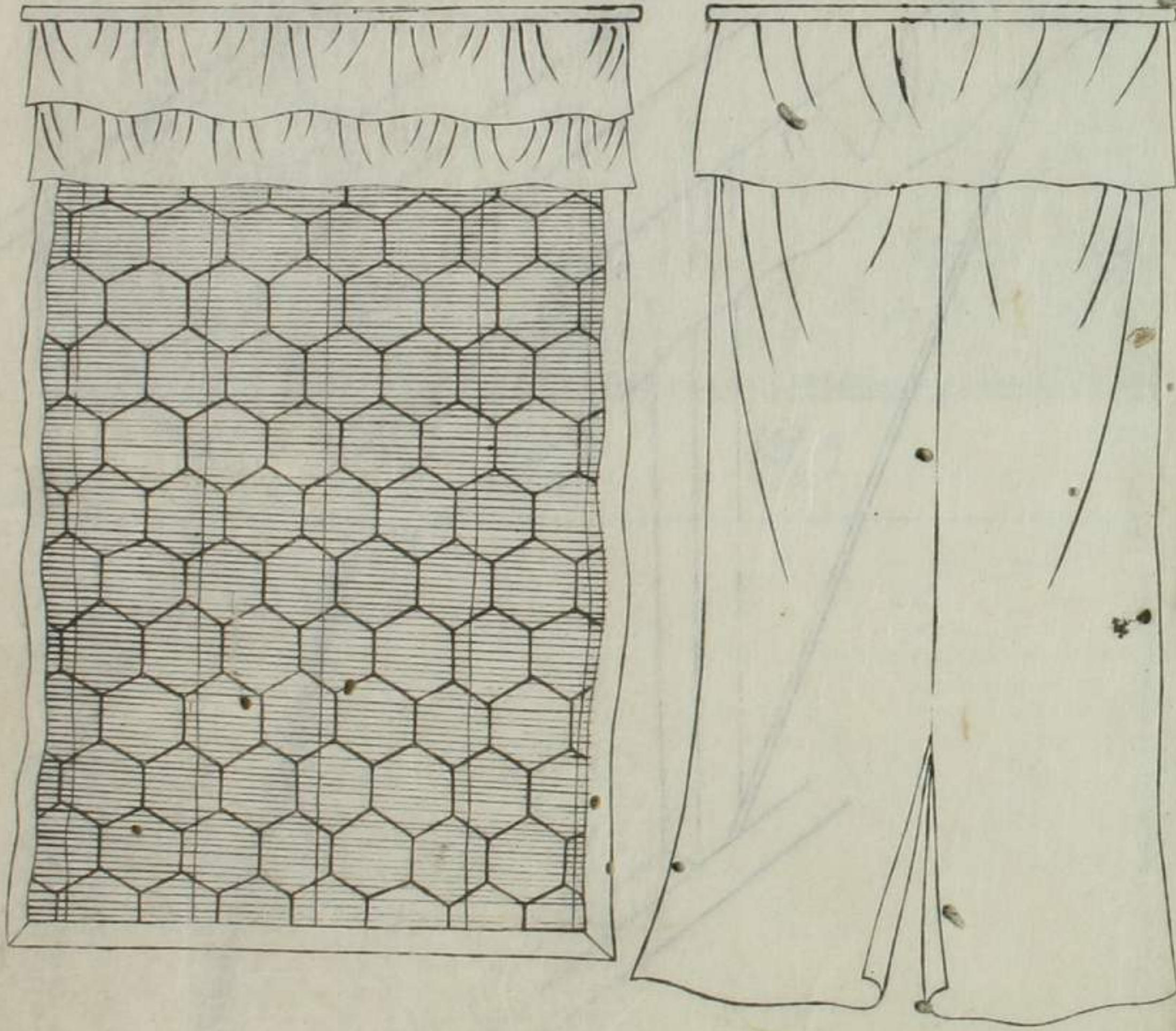
熨斗

安
平
松
味

布ハ簾ハ

綉ハ簾ハ

一名ハ門帷ハ

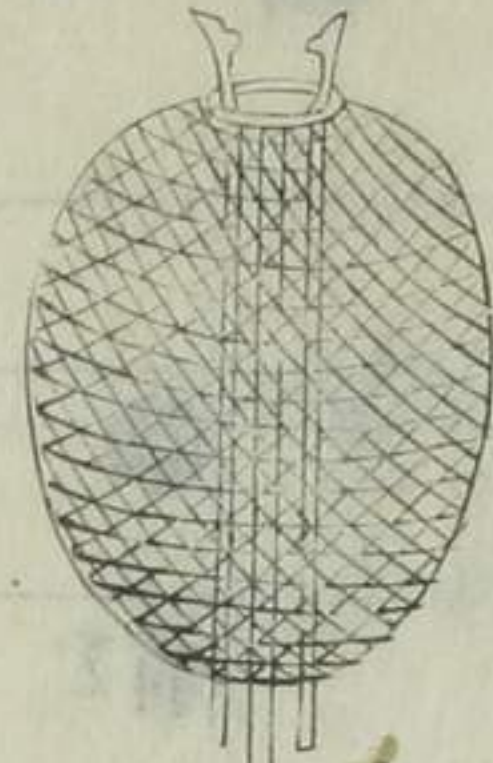


居家

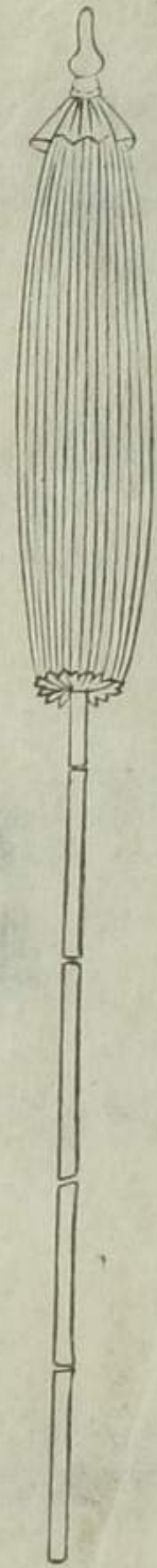
三十三

凉傘ハ

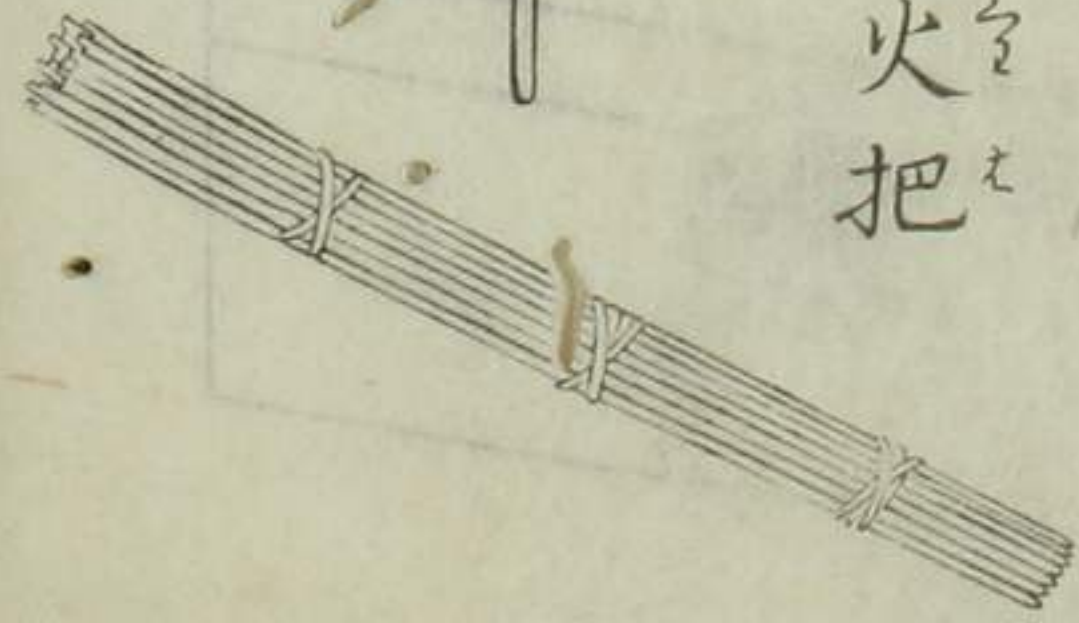
雨傘ハ



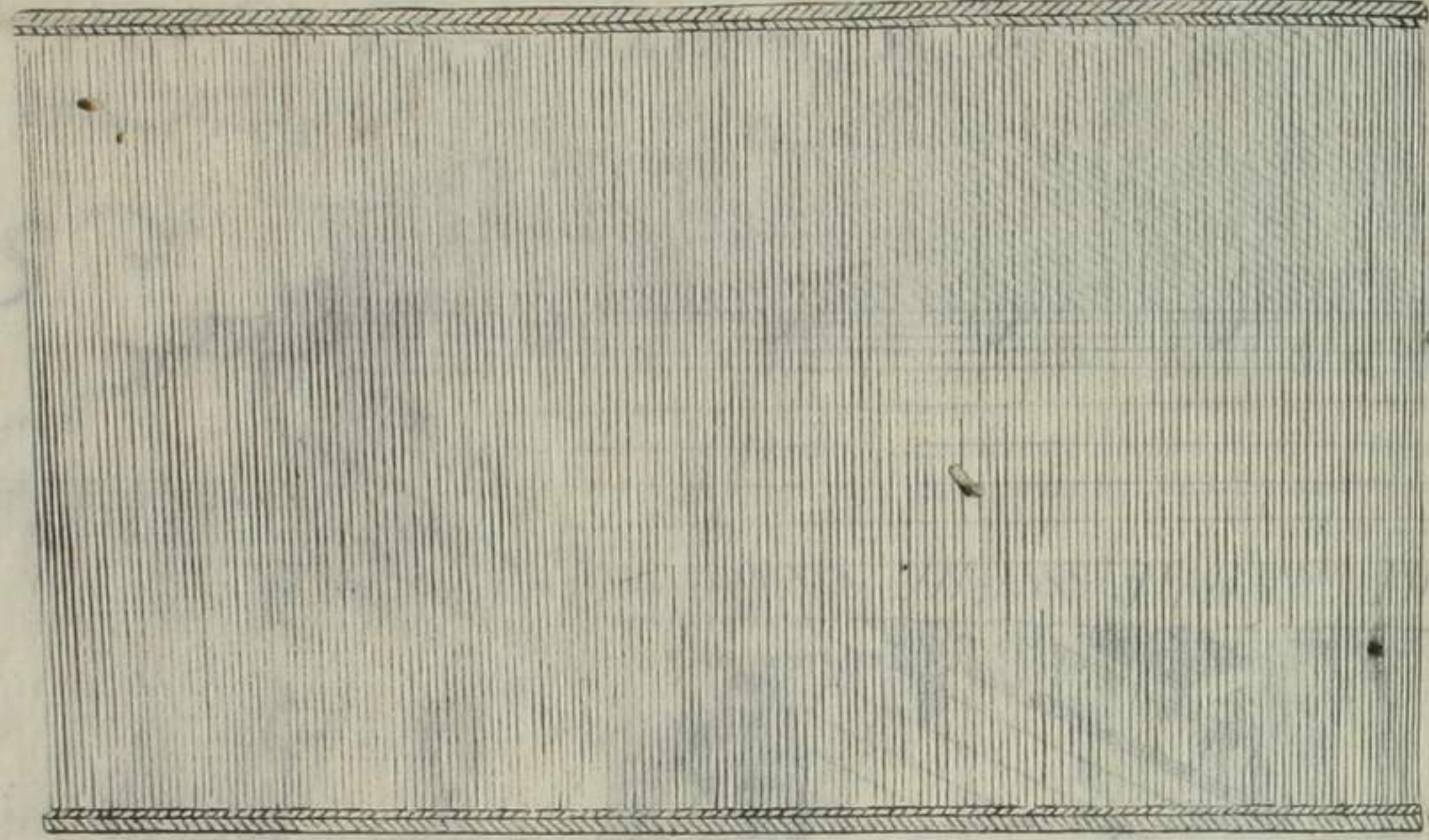
檠燈ハ



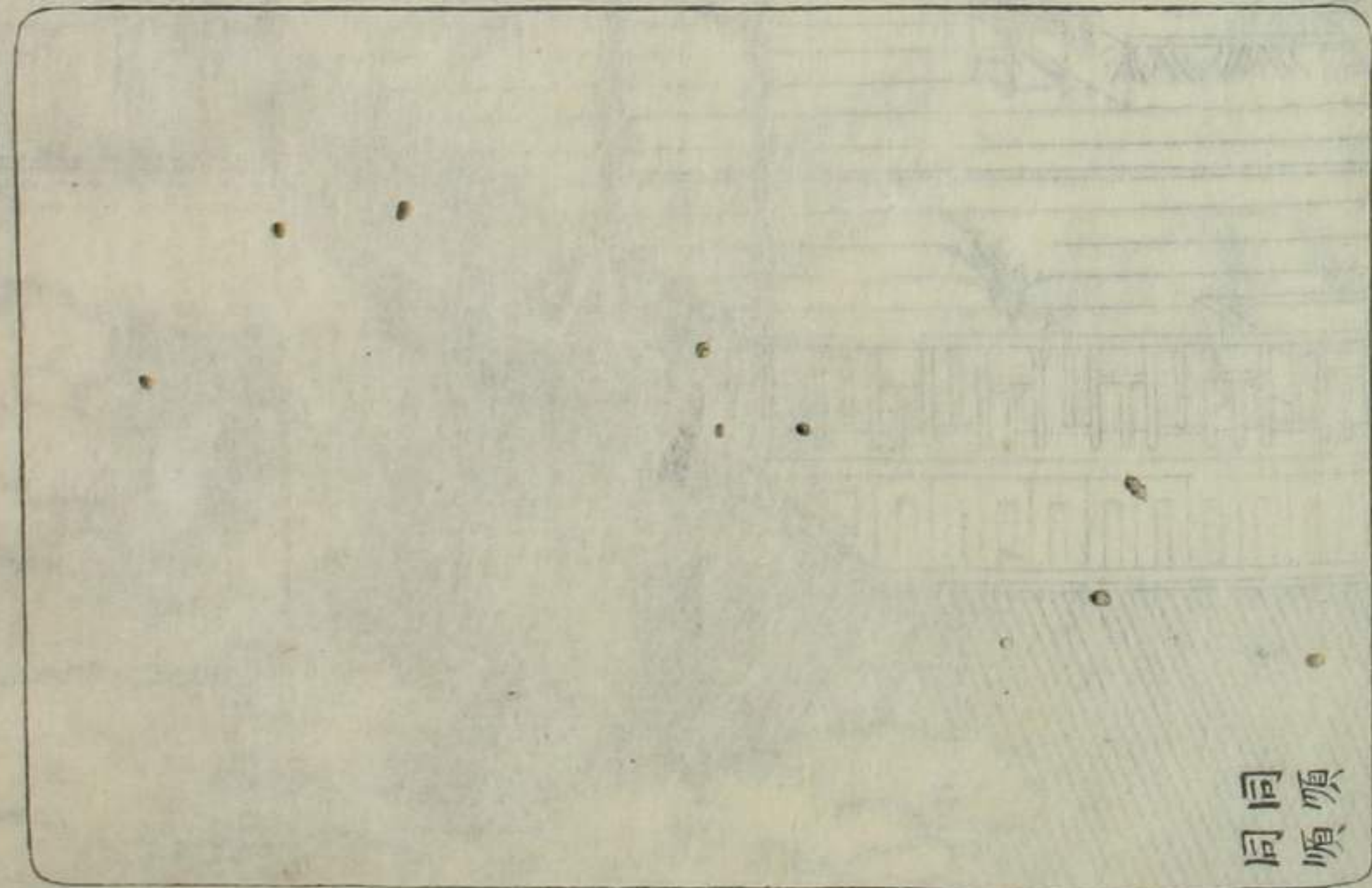
火把ハ



蓆マ 籐マ



條マ 籠マ

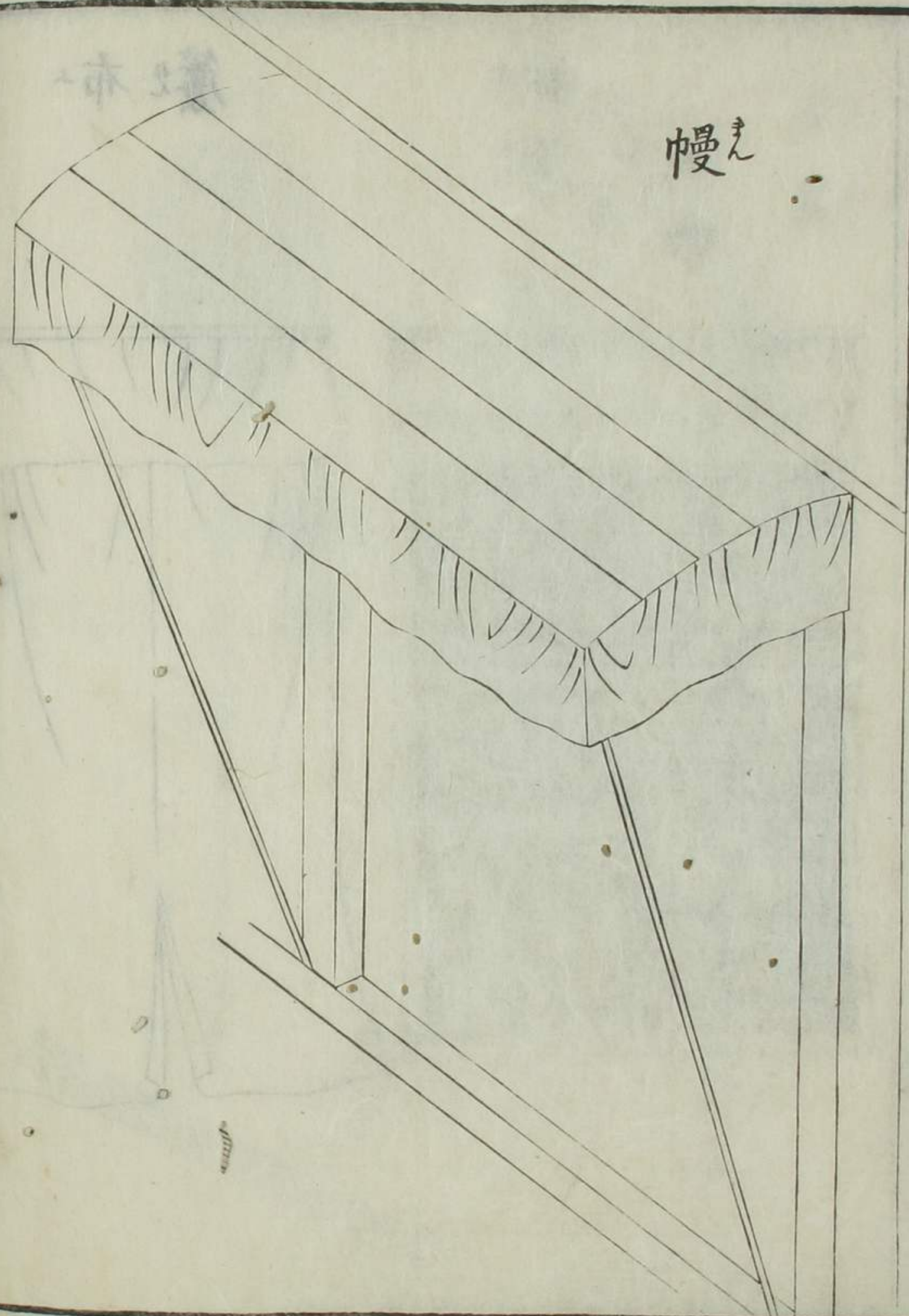


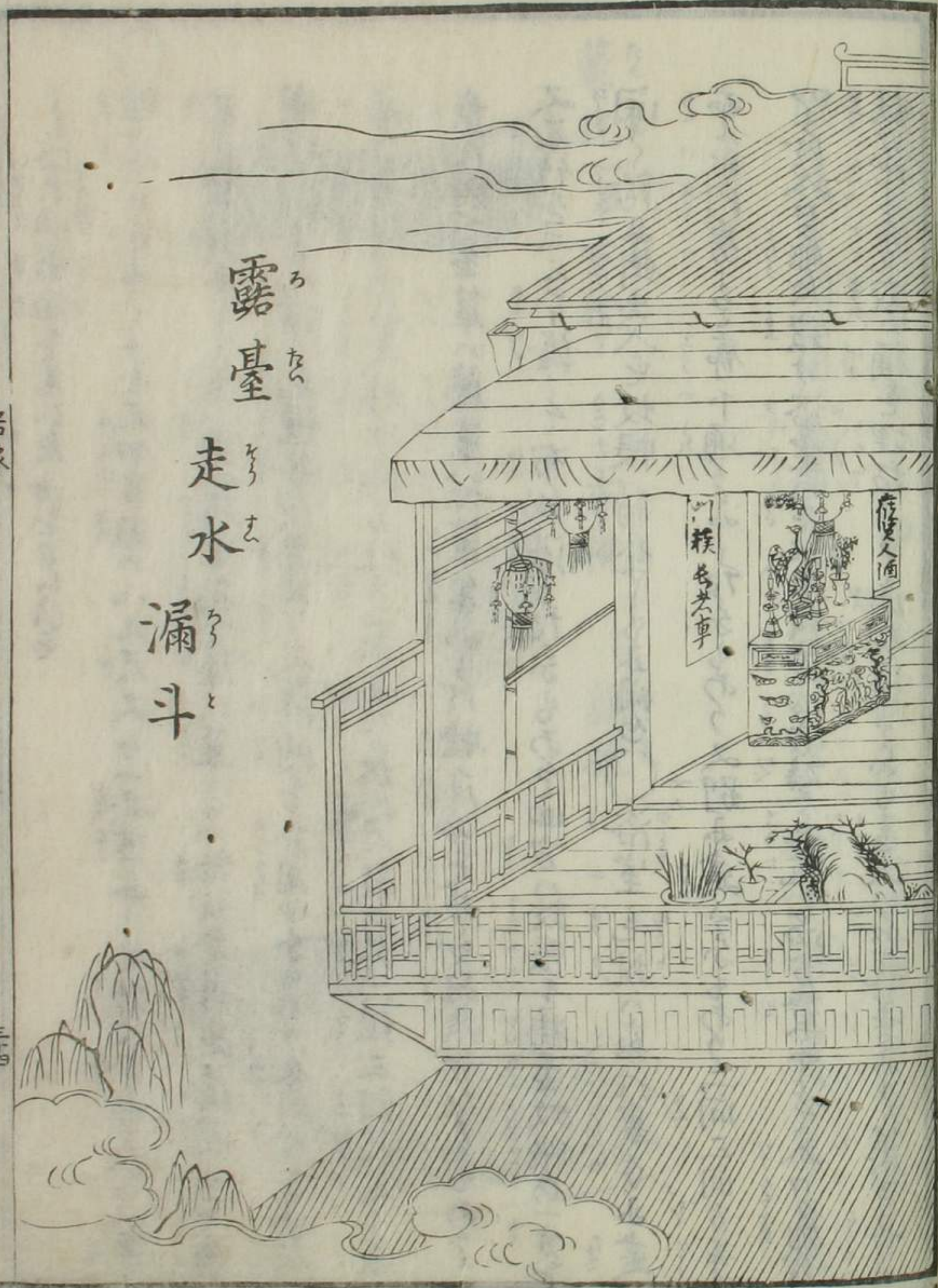
同順
同順

居家

三十三

幔マ



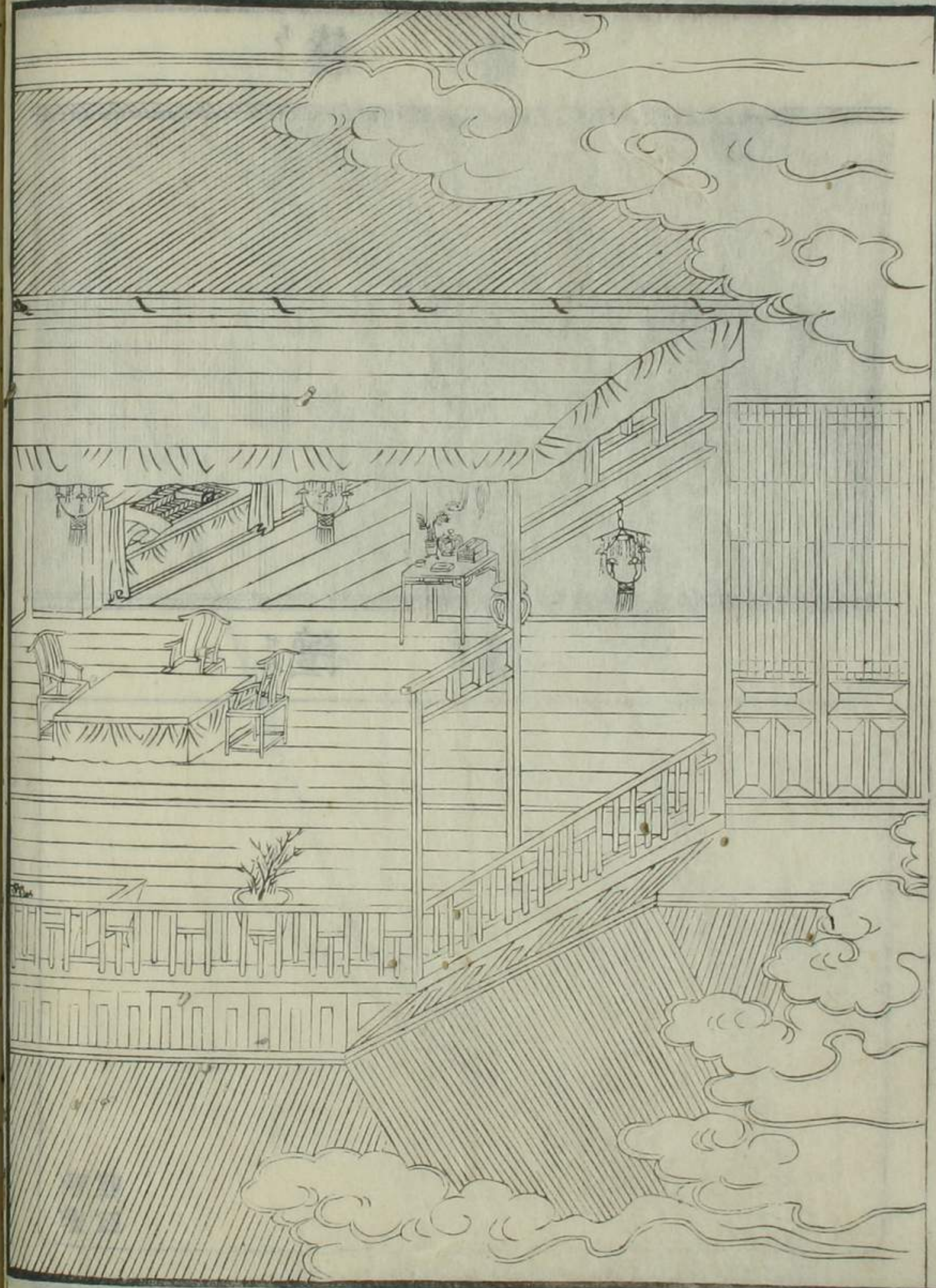


露臺

走水

漏斗

川棟長共車

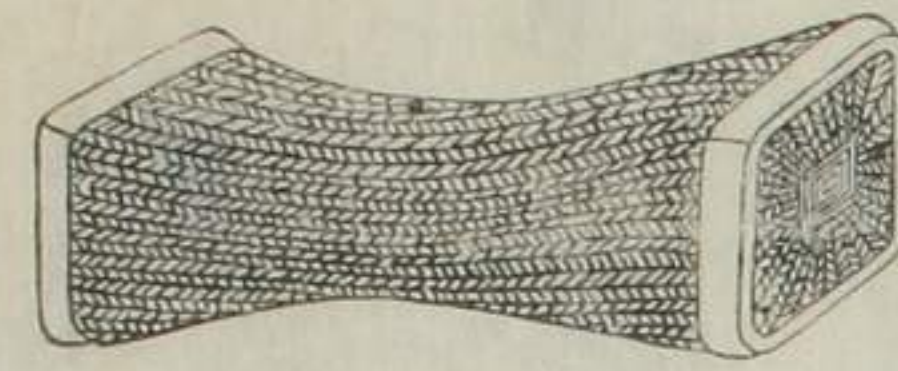


ツアチニテカ
 菜油麻油を用ひ魚油をのちひ也

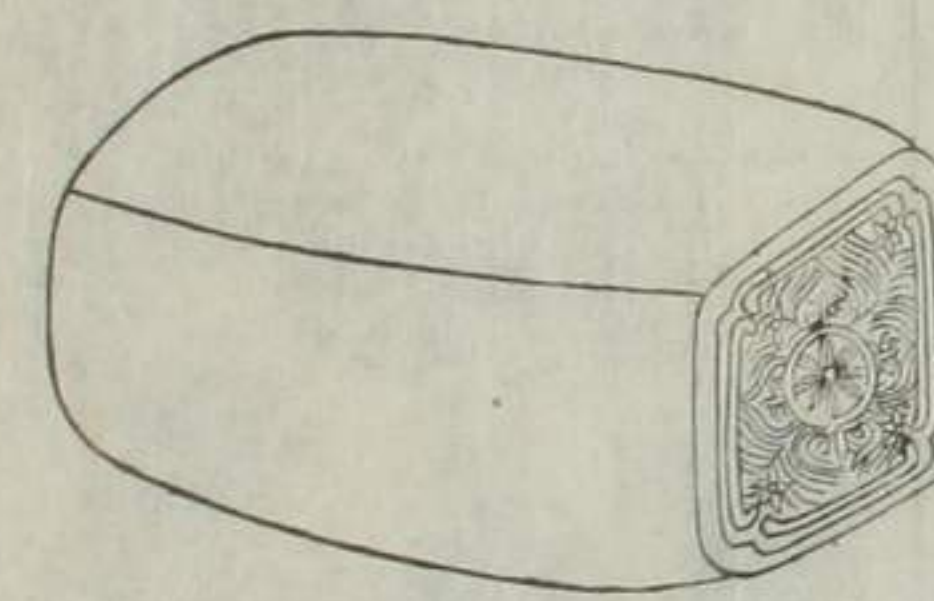
○睡床を本かゝ六七尺四方或ハ八九尺又ハ一丈方かして柱に本ありハ六本
 高さ六尺程にして取崩し板を板に葎と云ふ物に葎其ノ之蒲團又ハ蒲
 團此下にふんばう毛氈等成其ノ之蒲團を敷用ハカモあり冬ハ暖カ夏
 居ハ夏ハ涼カ夏ハ移す板カ仕立家毎に家内人数の外二組三組程宛も用
 意に貯へ葎葎ハ藤葎掠葎等カハ睡床の天井ハ板成打たカモあり
 又本竹を二三本添へて布成張つたカモあり四方ハ蚊帳を掛至蚊帳の一方を
 開く鉤掛出入ハ蚊帳の四季とも用也 ○浴室毛坑ハ家内裏カモ建
 本家内房上を廊下通カモしたカモあり又別カ建カモあり二間三間方等
 カハ入口扉成設け浴室ハ下に石成四方壁毛坑も四方壁カして入口扉成
 設け地カ甕或ハ桶を埋板カモ床を張カモあり又ハ石甕等カモ築カモ

み板を敷くも女入等ハ都て毛坑ハ便カ行カ馬桶を用也内房の隅カ
 隔カ板成圍ハ内ハ馬桶を敷て使用ハ夜カ睡床の側カ馬桶を寄カ也

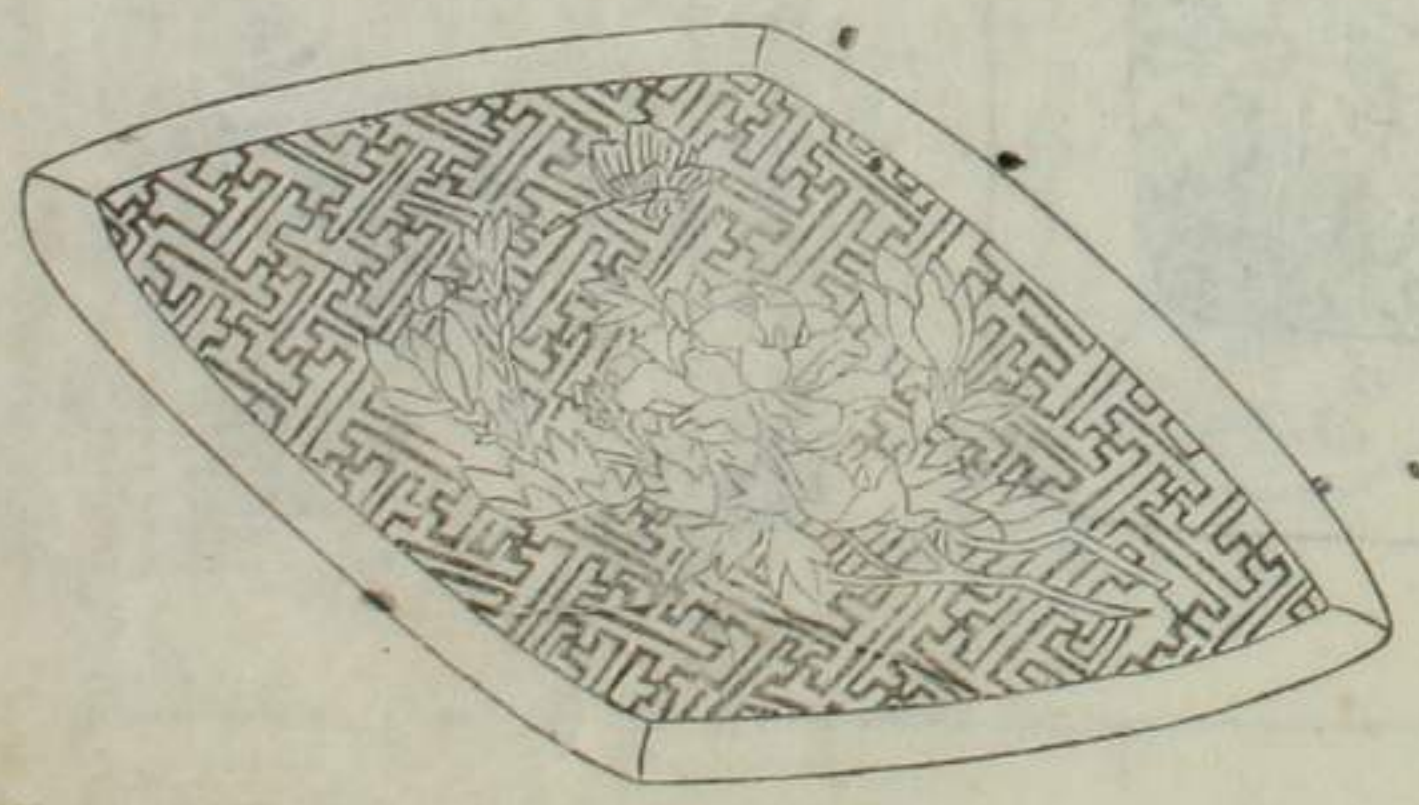
葎枕一名 方枕



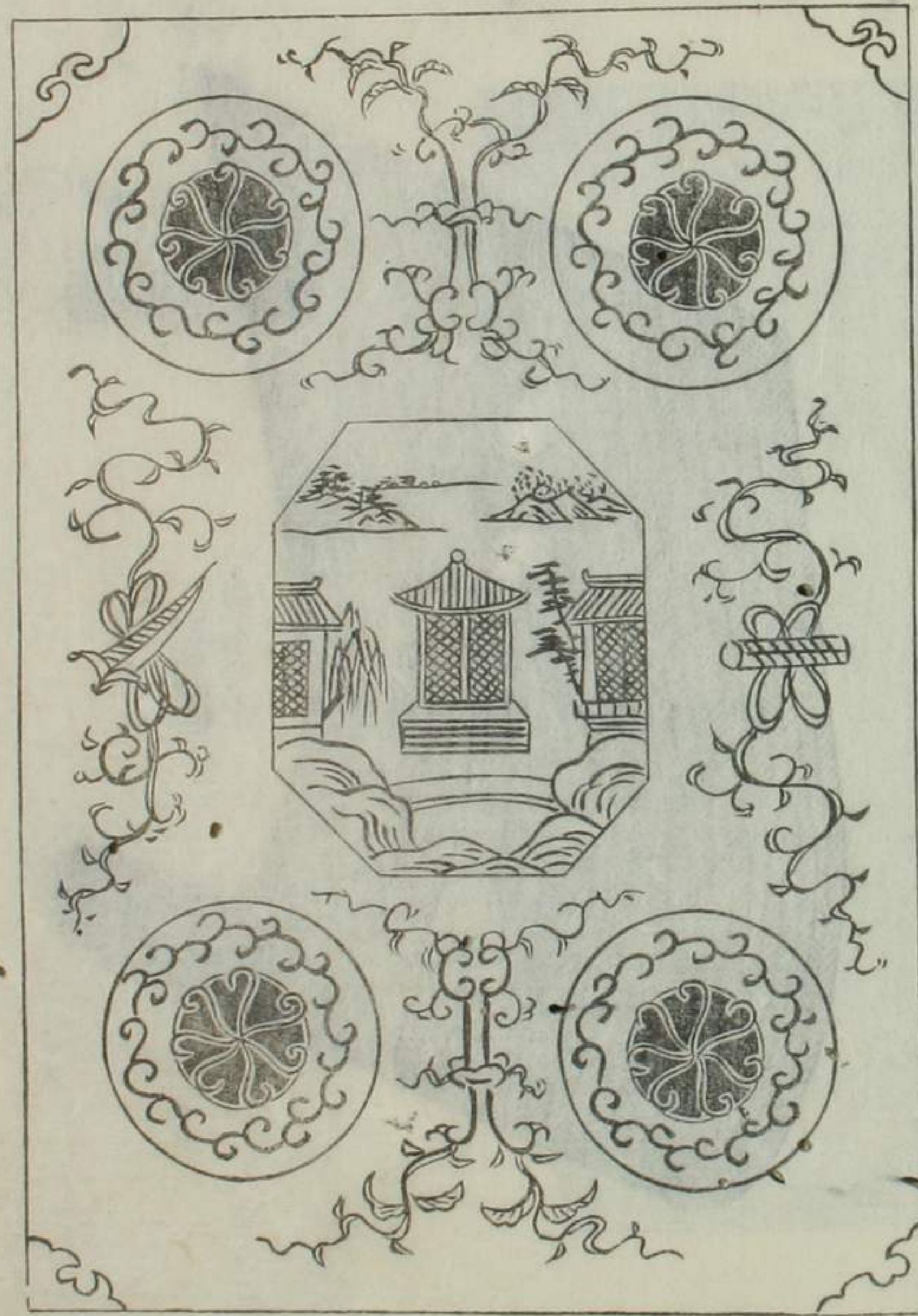
布枕一名 綉枕



褥坐



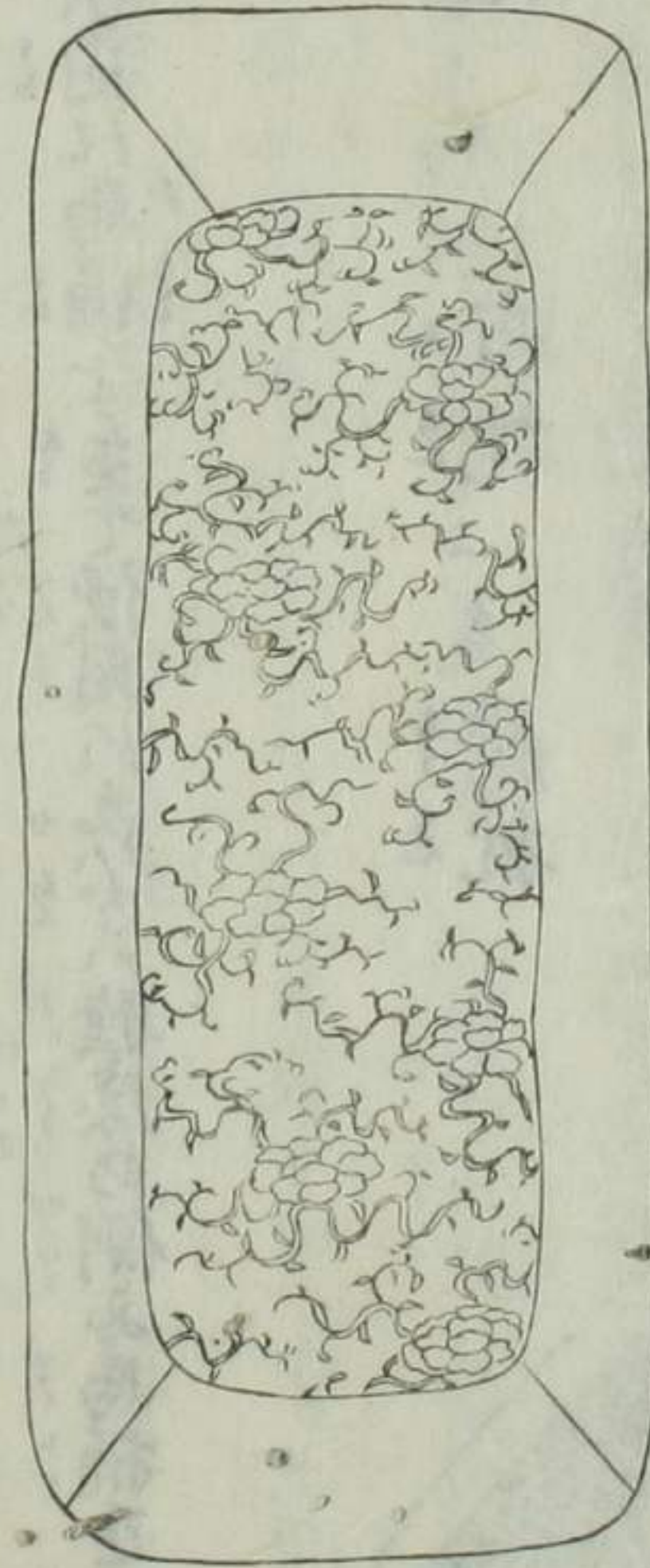
花毯



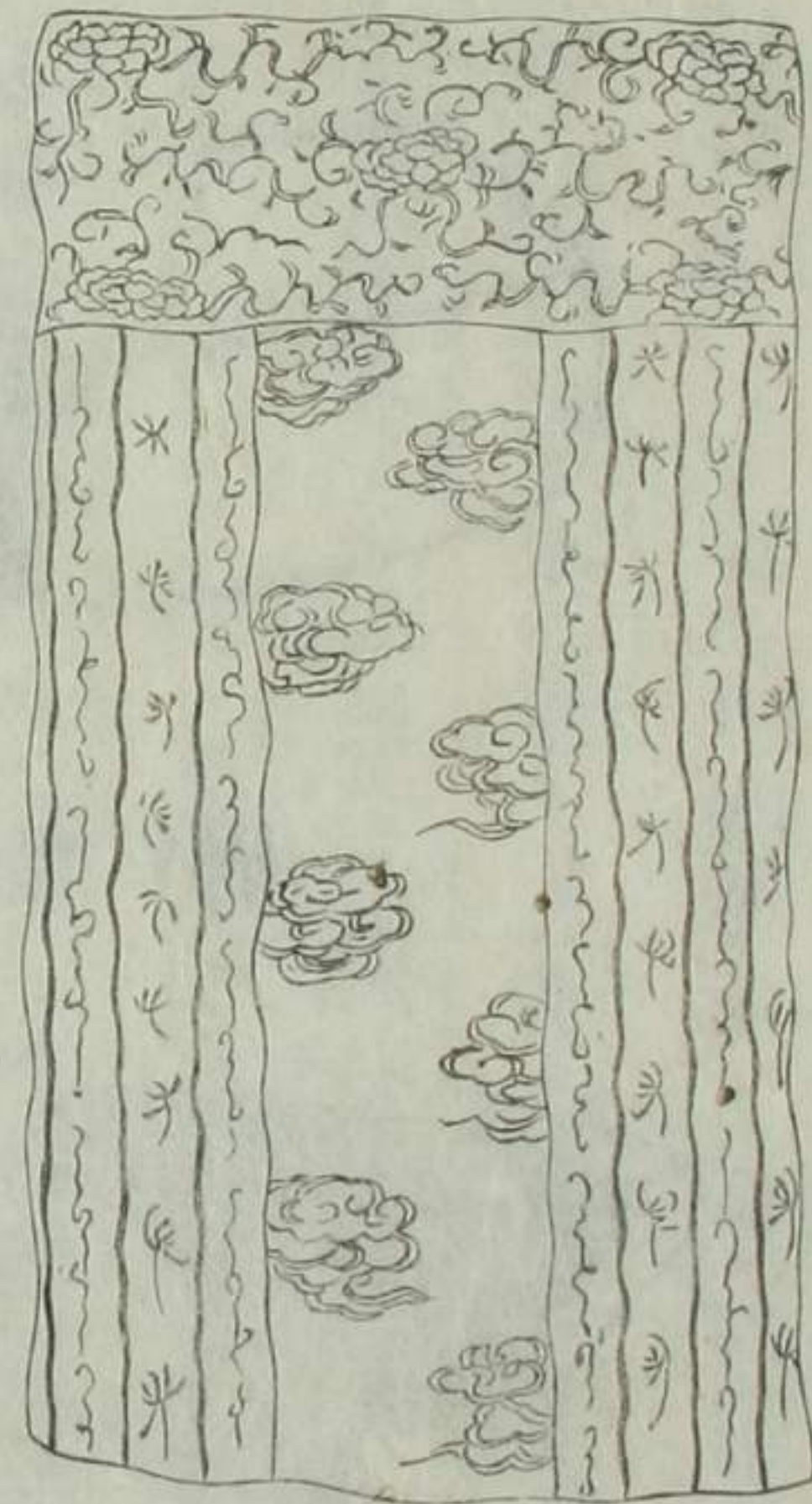
居家

三六

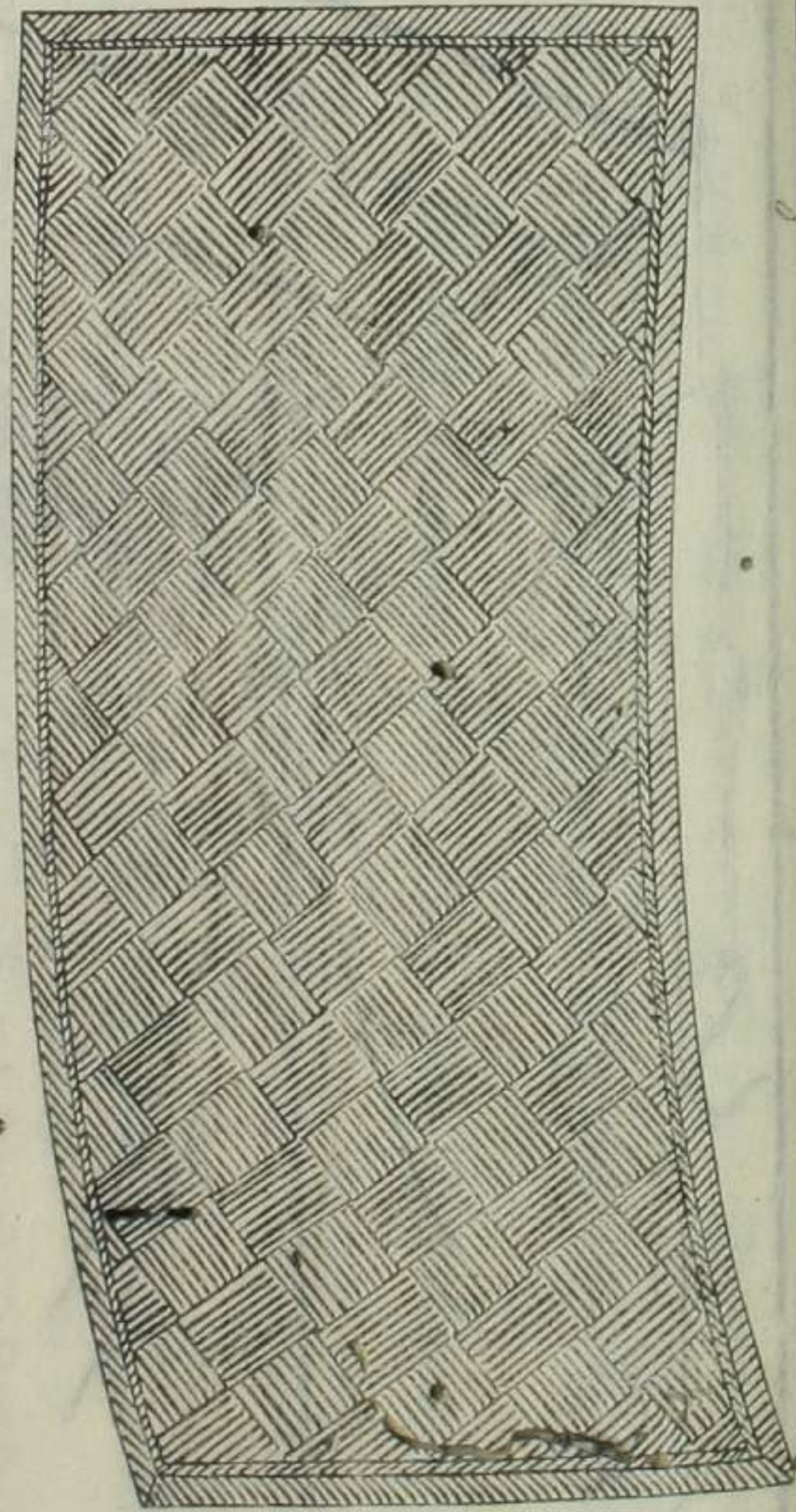
褥



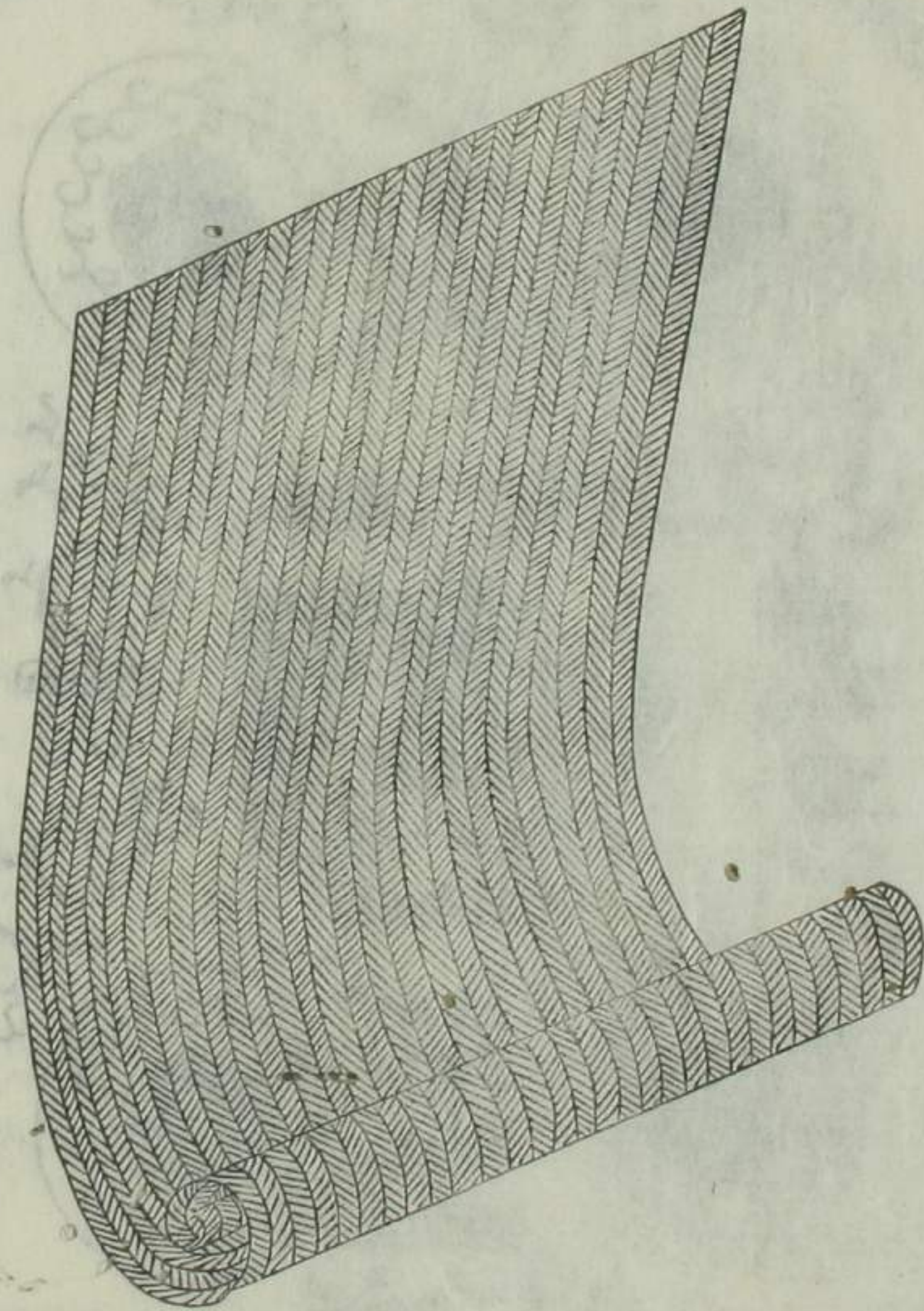
被



筵タタミ



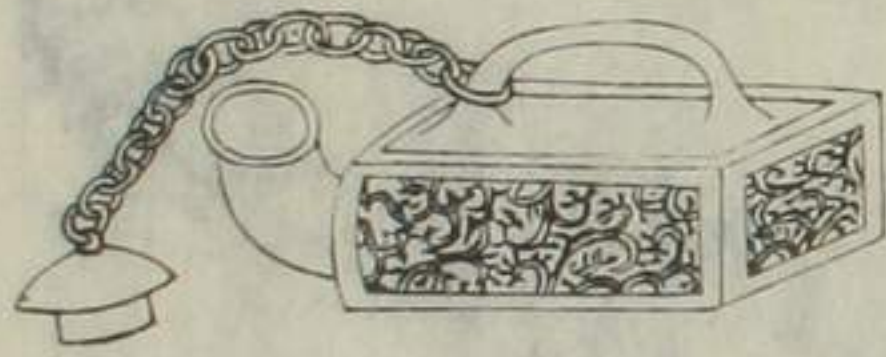
簟タタミ



溺瓶ノソウビン

一名夜不收ヤブコウ

志シ



居家

馬桶ウマバケ

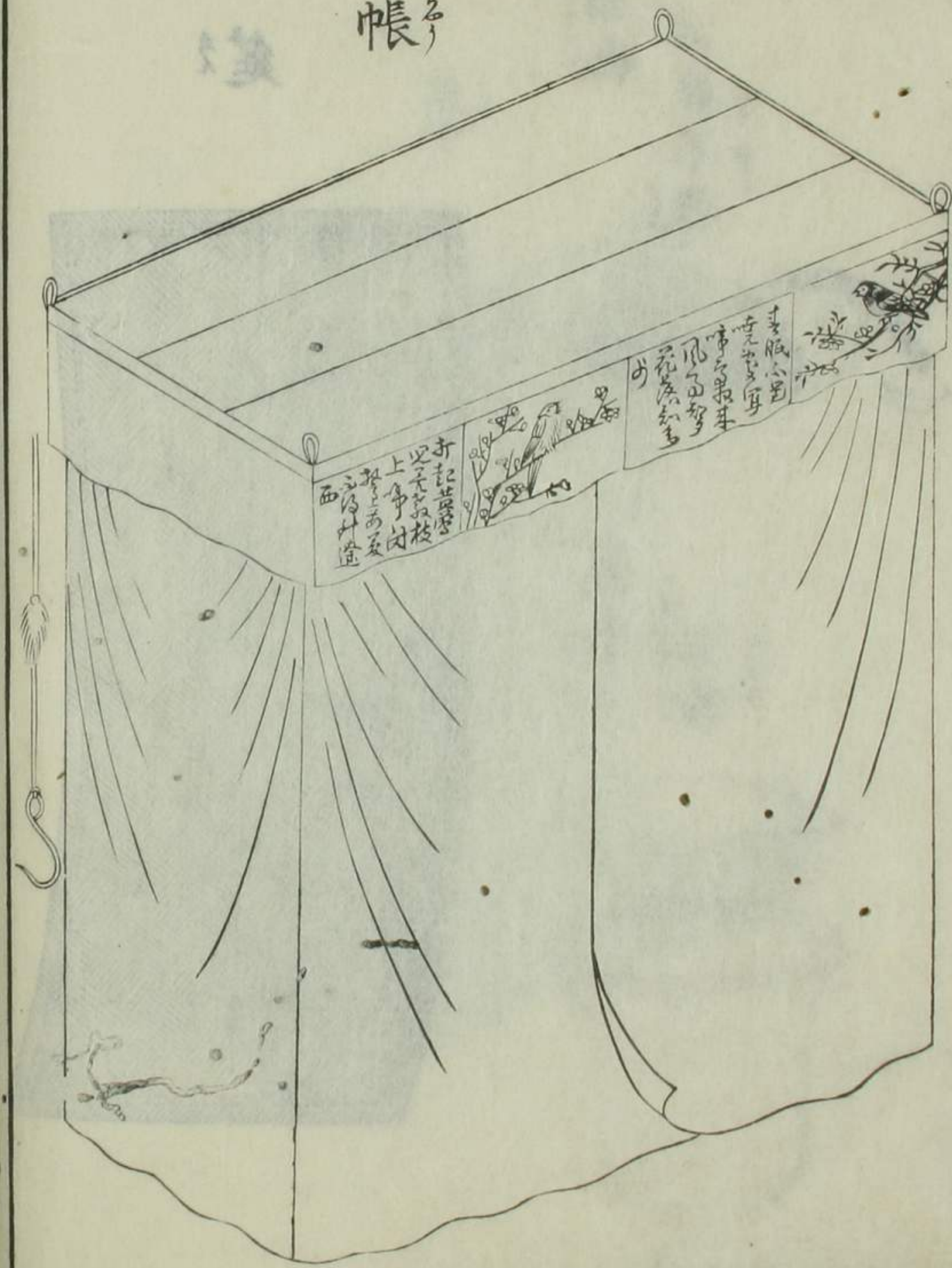
一名浄桶ジヨウバケ

志シ

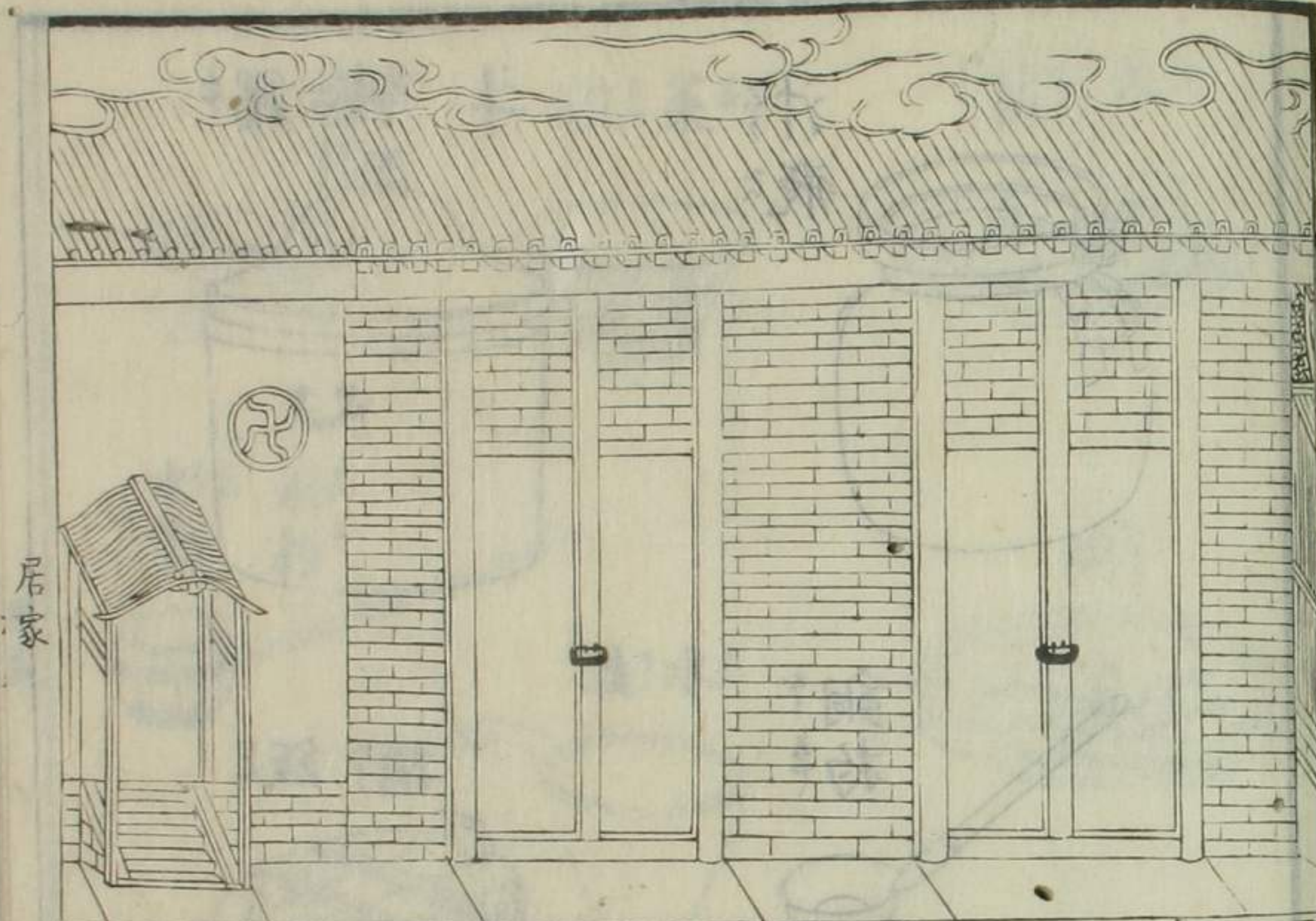


三七

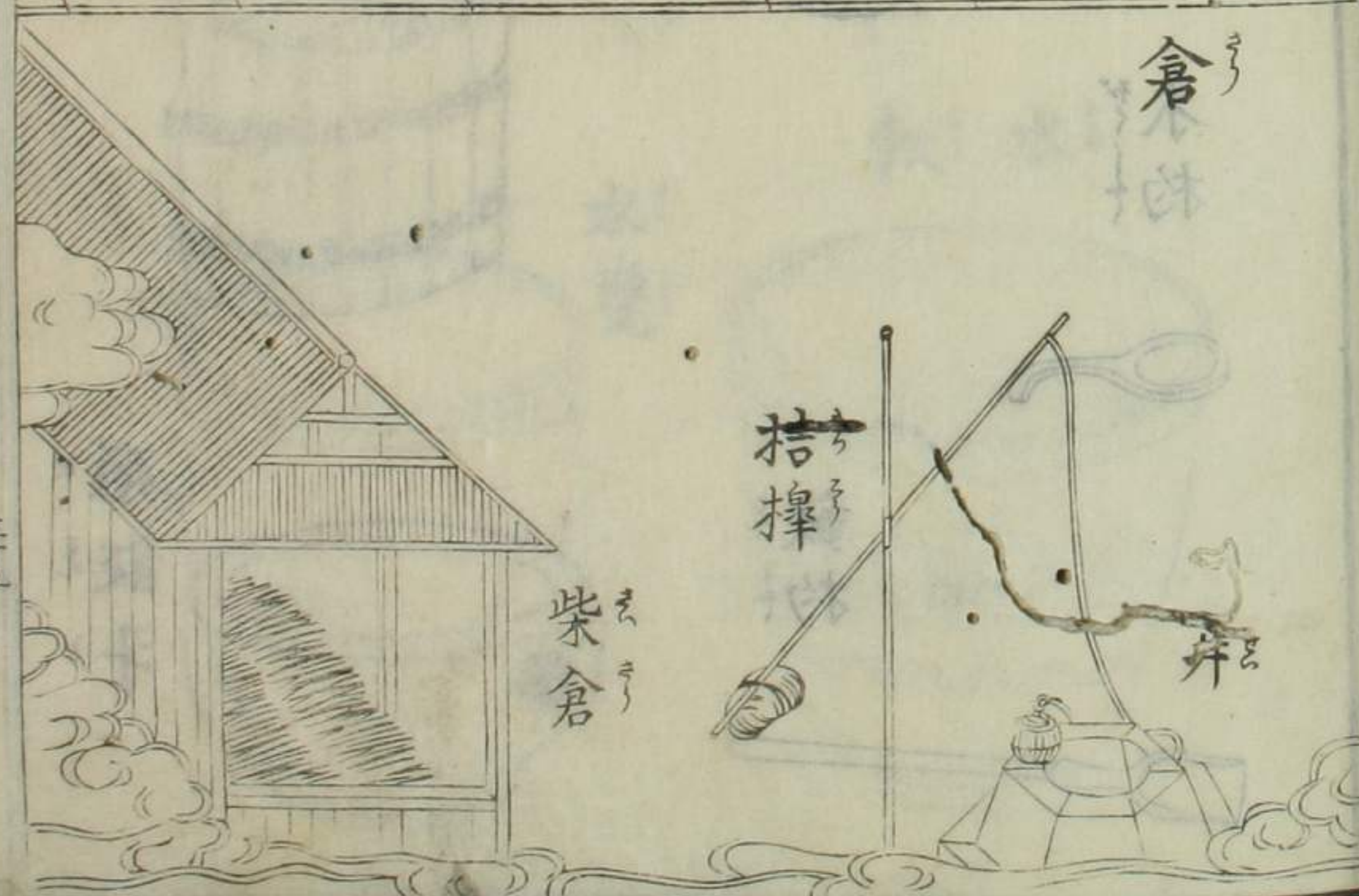
帳



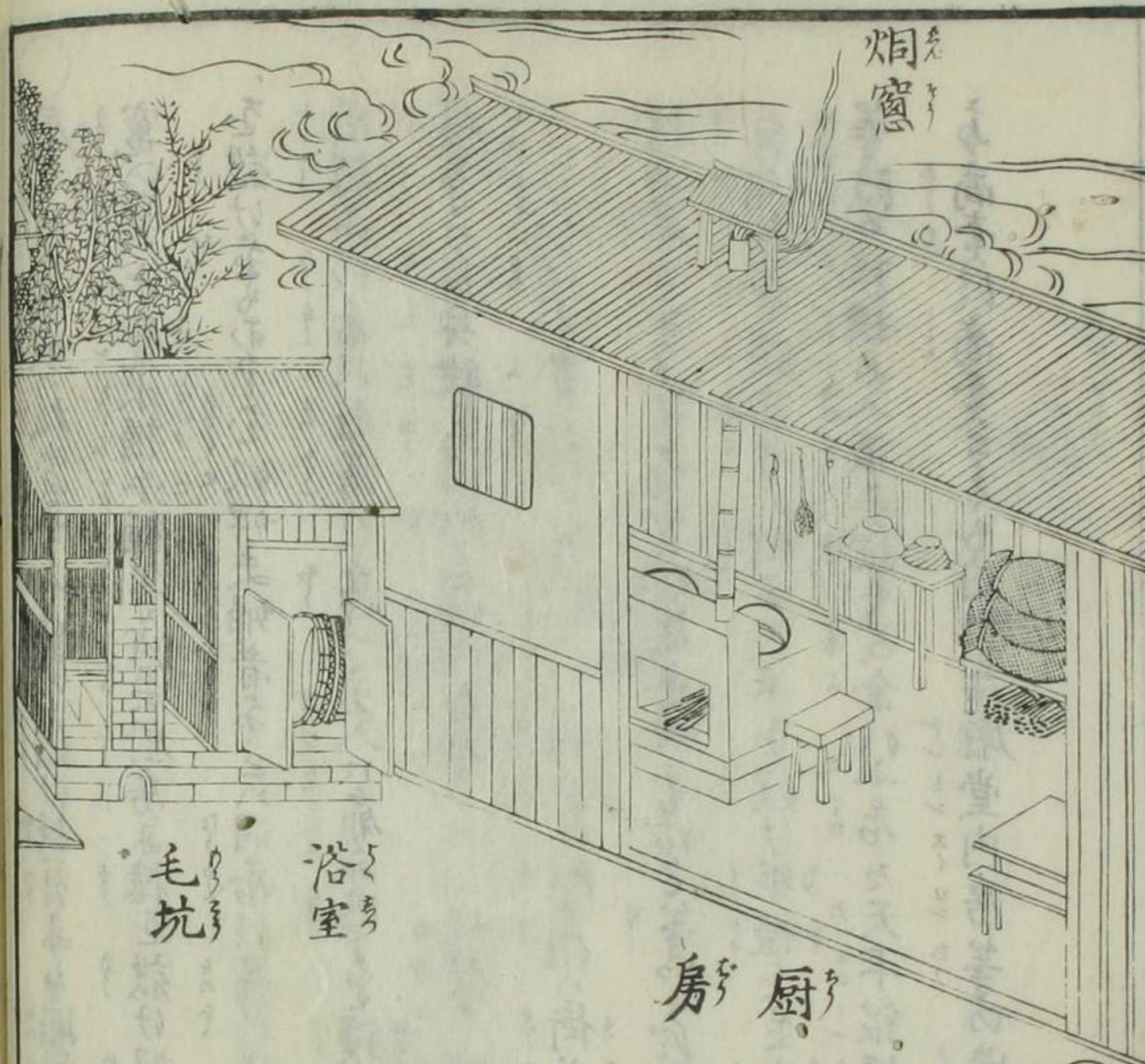
厨下の間或は板敷に電を設け懸付しと帳板等の諸道具食器類は
 竈の側水甕水桶等或は厨房を設け奴婢の睡房と成す(耳房
 を設け是も或は奴婢夫婦者止の同居は其外の者の奴の房を并設け婢の
 厨樓も住居は睡房の一房づ出入の扉内を鎖を以て閉じ奴婢の衣服手道
 具等の自身睡房の側も貯るは形なり ○ 奴婢下婢の朝早く起る發燭兒火刀
 石火刀を以て煮炊の支度なり ○ 舗面の制儀は街道通より店前より内住居
 傍も建てるあり又店の別楹も建てるなり ○ 店の向ふに櫛設け物件成
 品端物薬種店等の側も天平を設け銀櫃を屋主管共居坐して代銀錢
 等改め銀櫃も入帳も記す其れ小居を天平銀櫃等設け置る人店も坐し
 高賣以高賣とくも内住居廳堂内房等の造作異なり事なり



居家



三十九



浴室
毛坑

厨房



碟兒



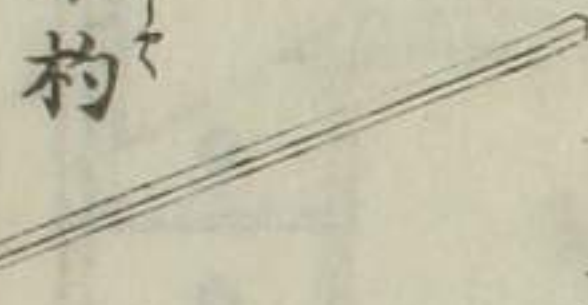
菜碗



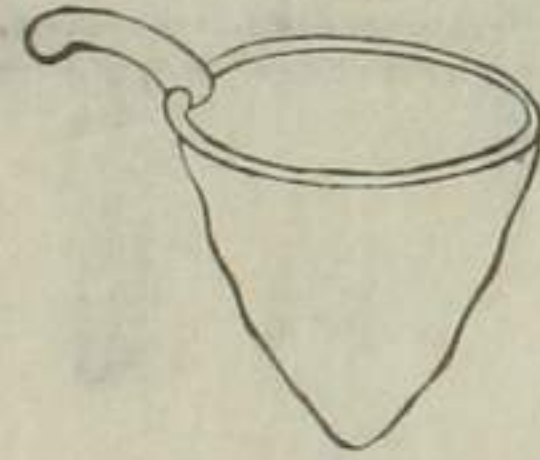
大盆



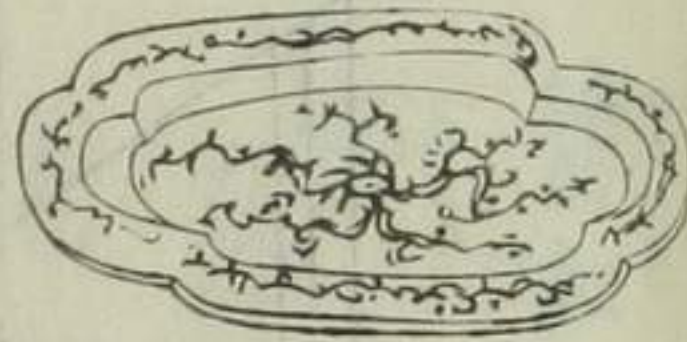
水管
水杓



水漉

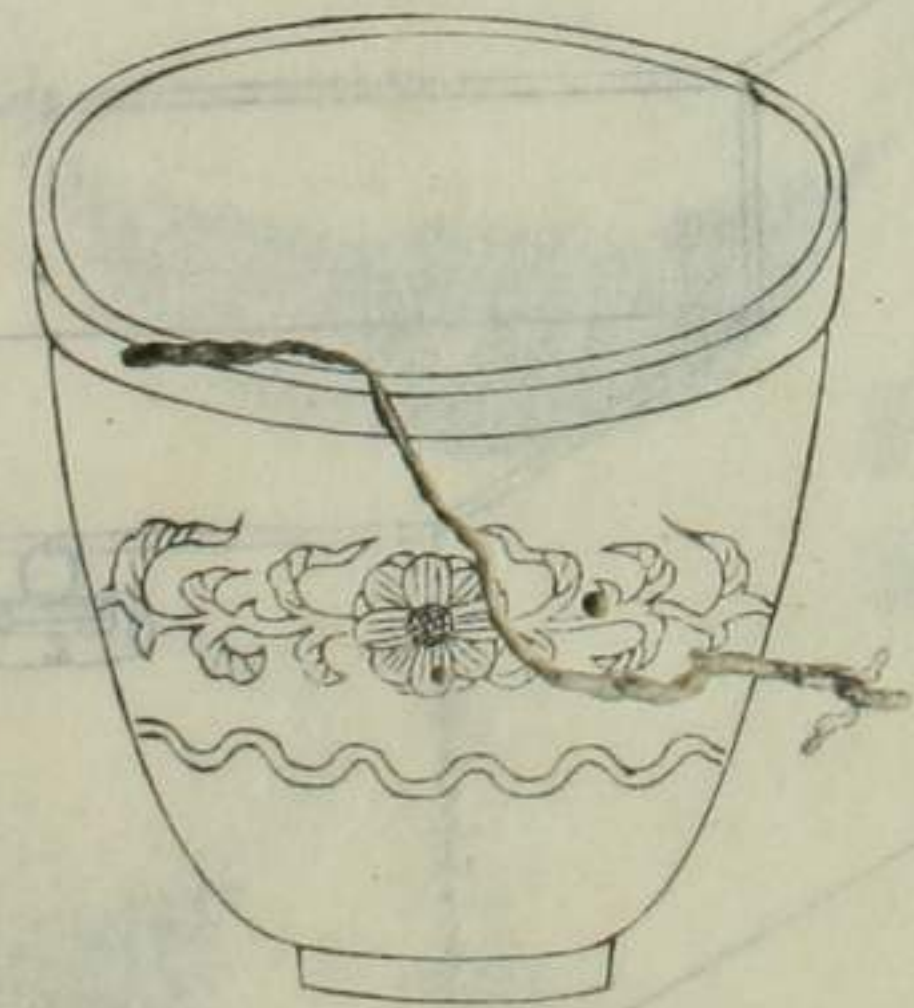


同



水缸

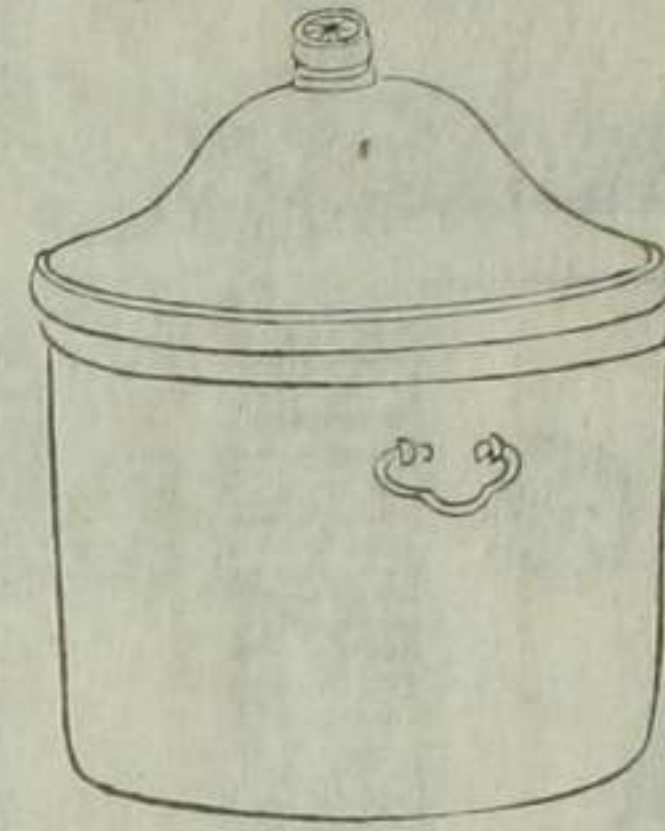
水甕



汁瓶



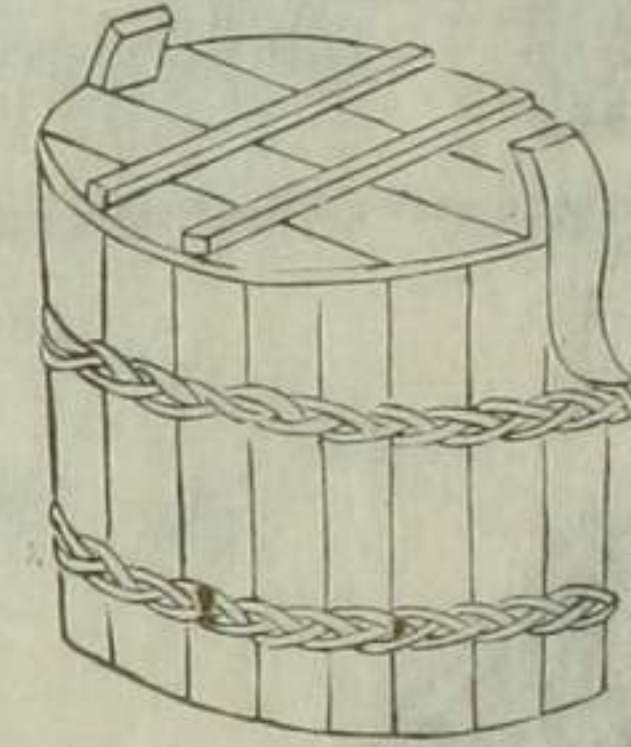
錫飯斗



銅杓



飯桶



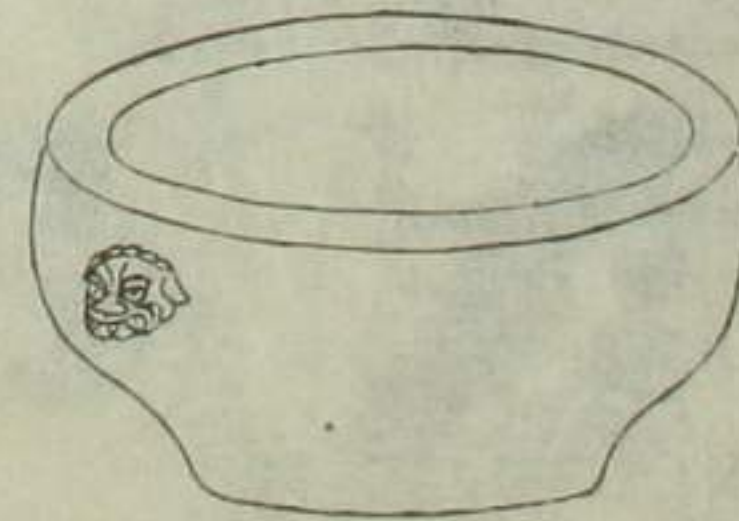
木杓



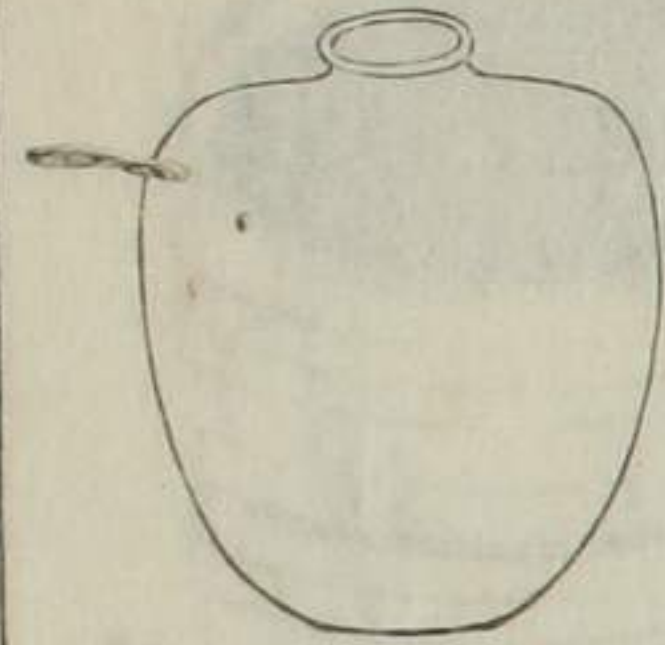
鐵杓



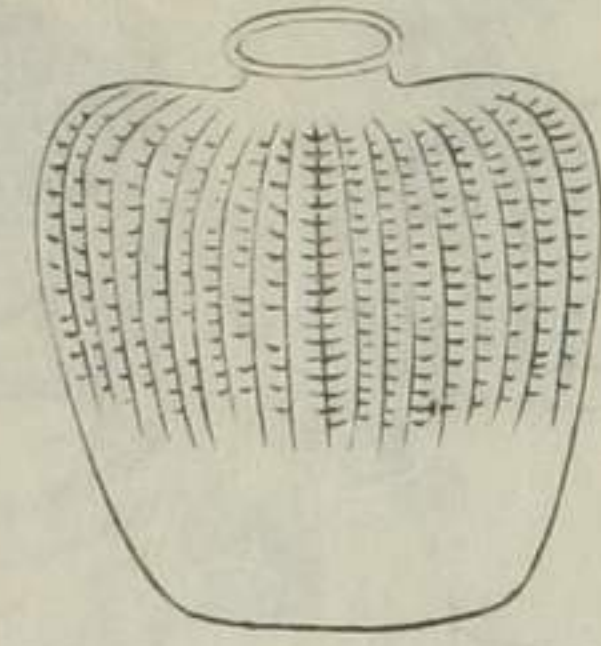
磁飯斗



缸酒



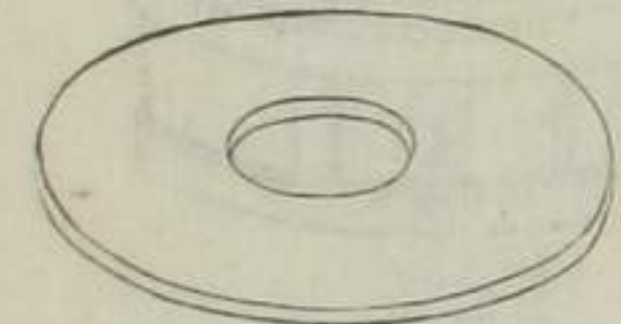
壺油



壺酒



居家



漏斗



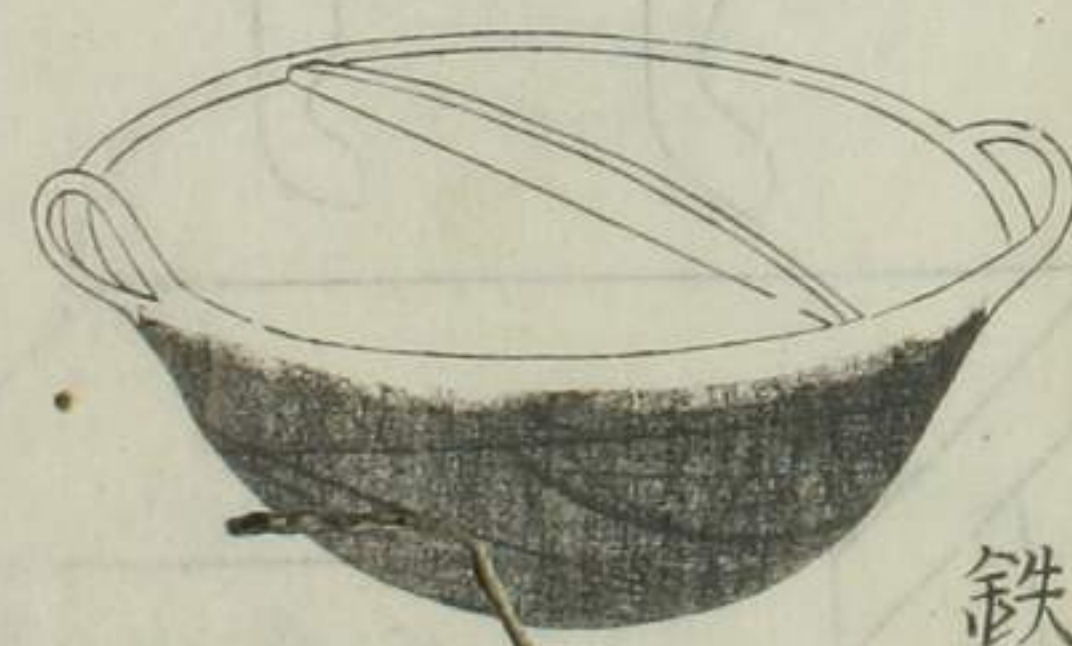
油壺



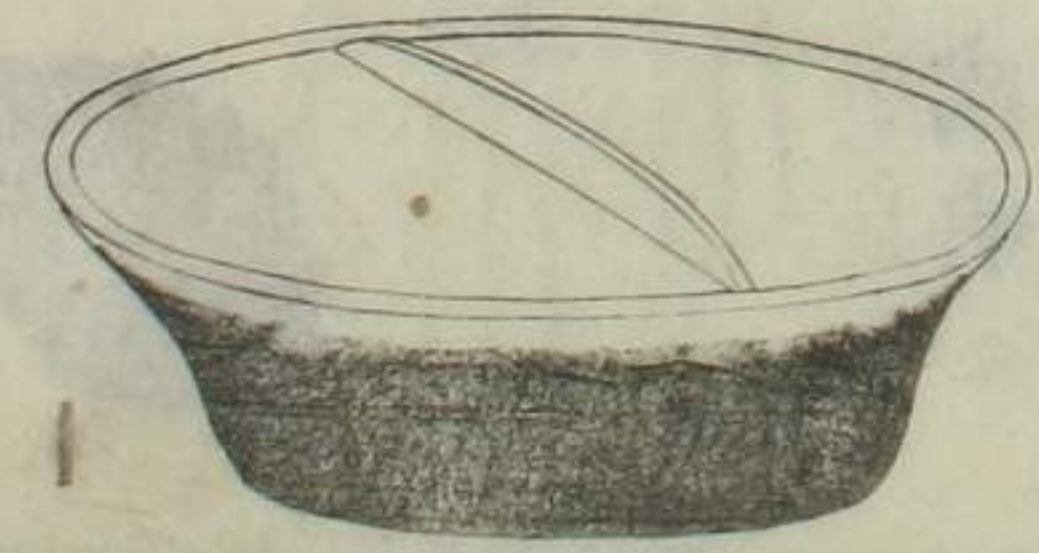
醬缸



煖鍋

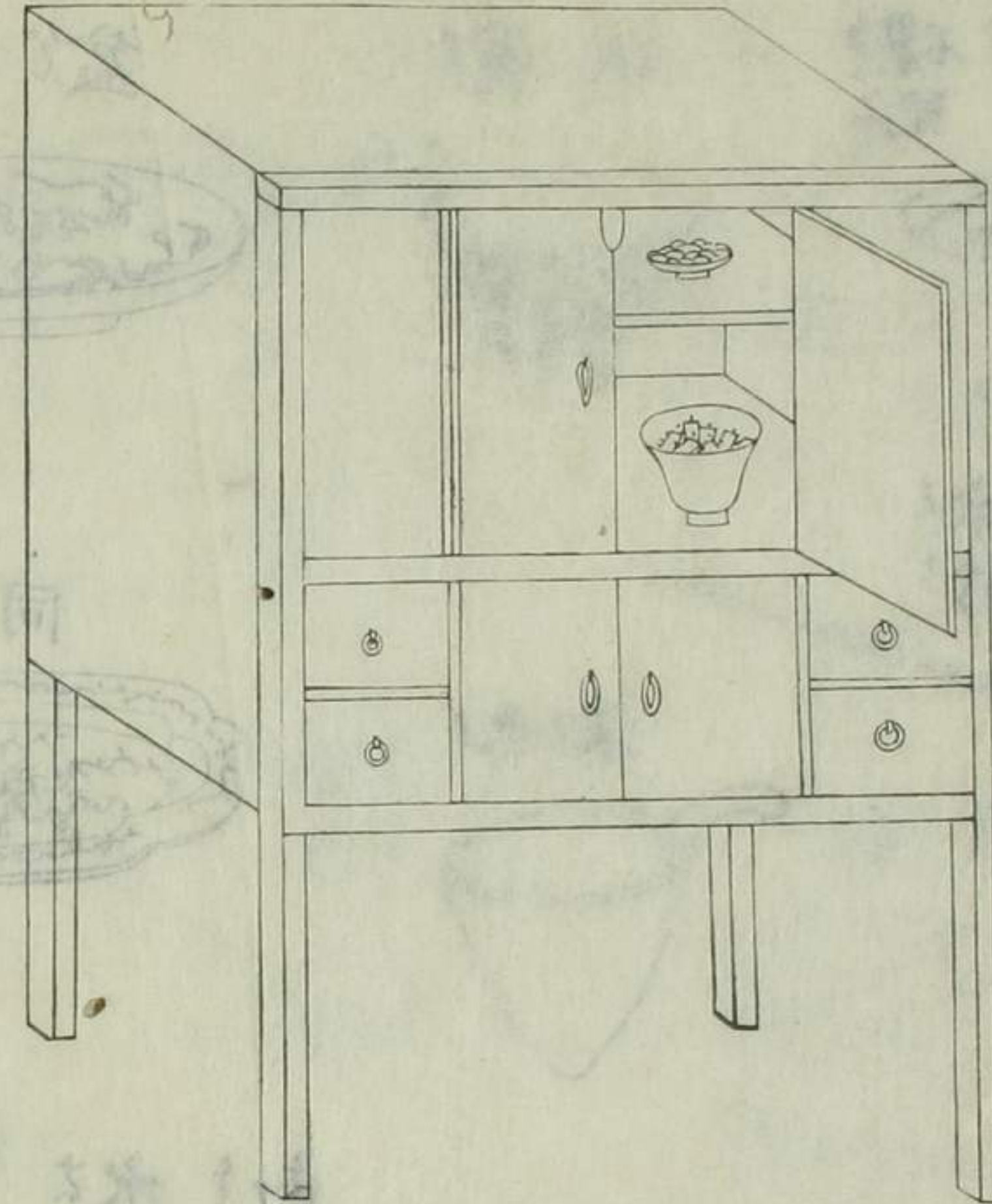


鐵鍋

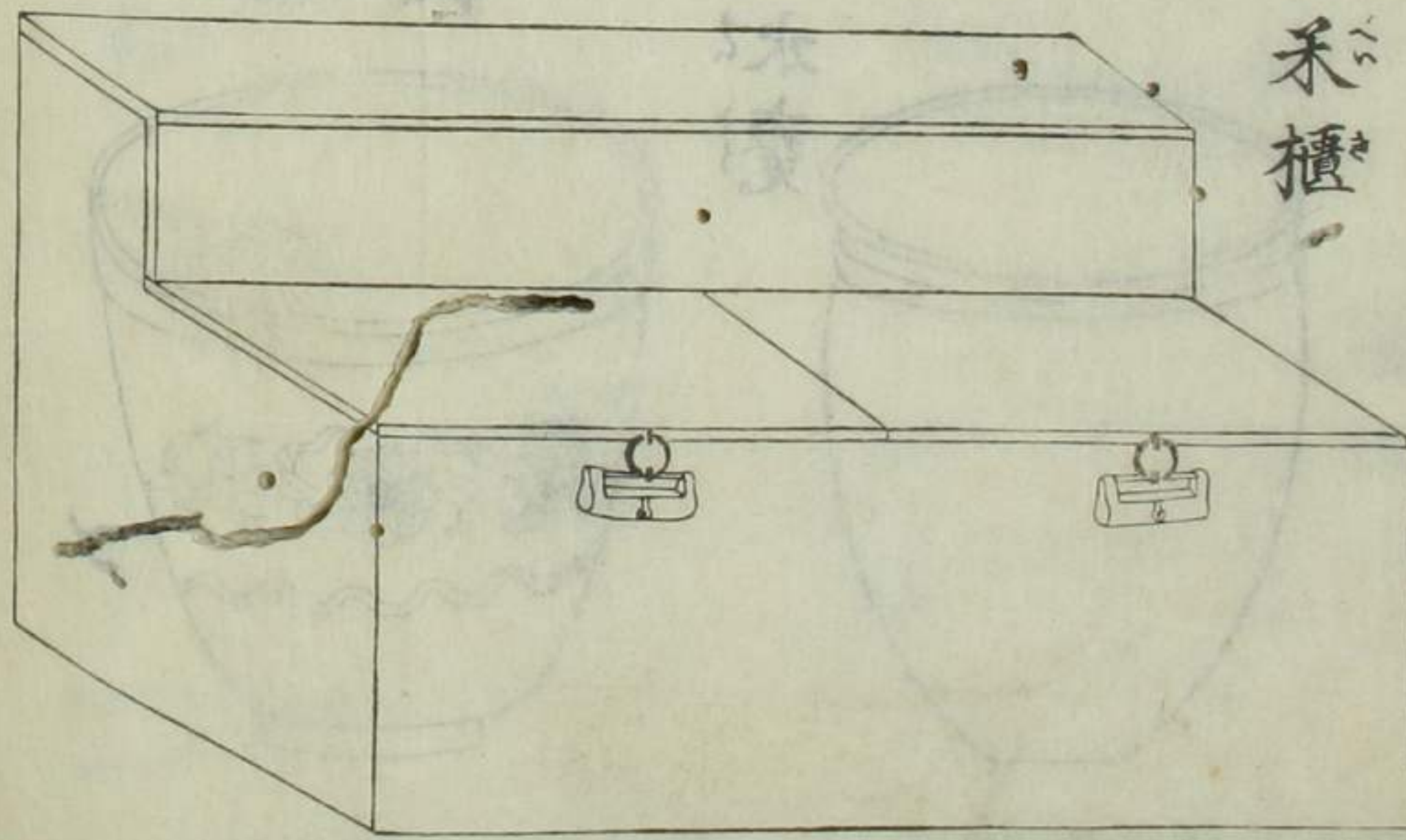


平底鍋

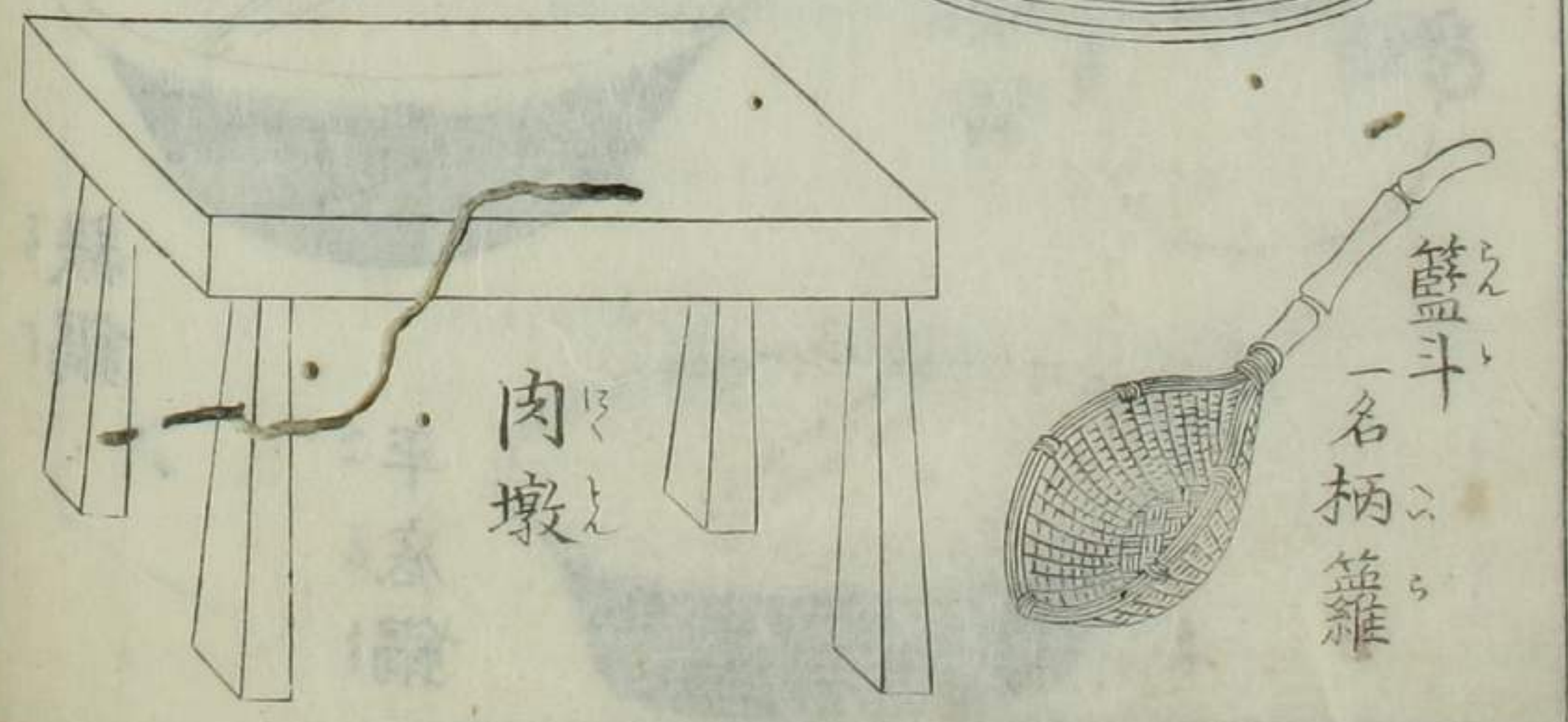
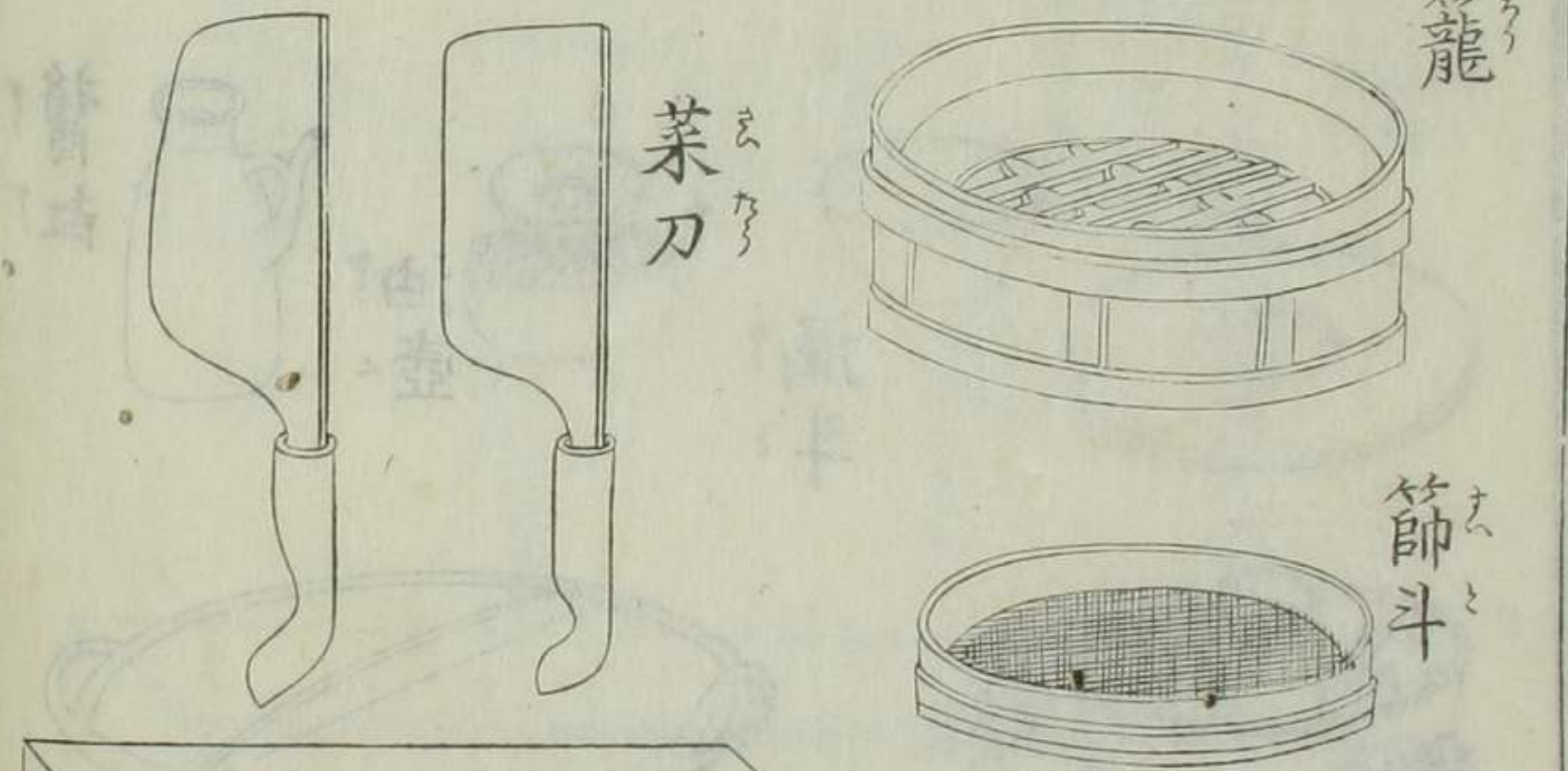
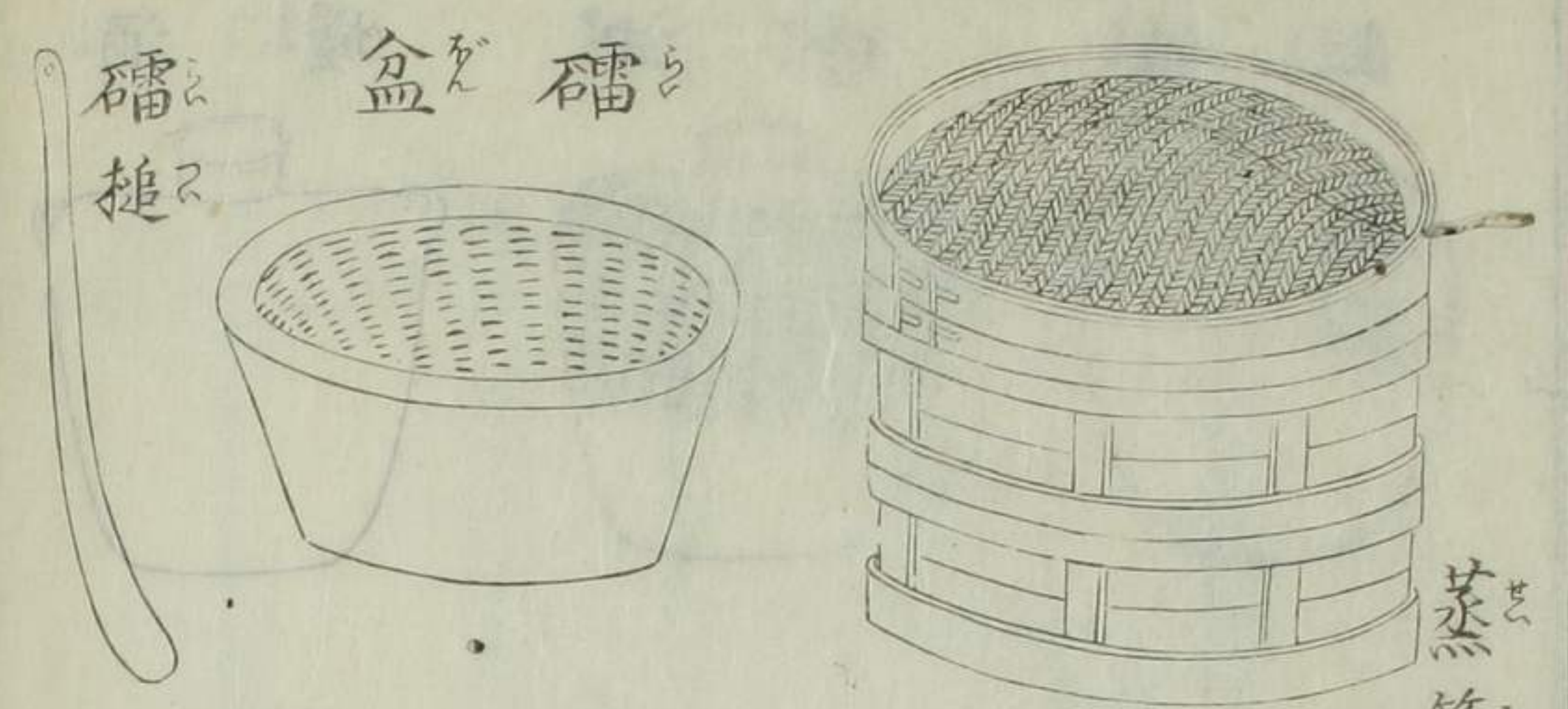
四十一

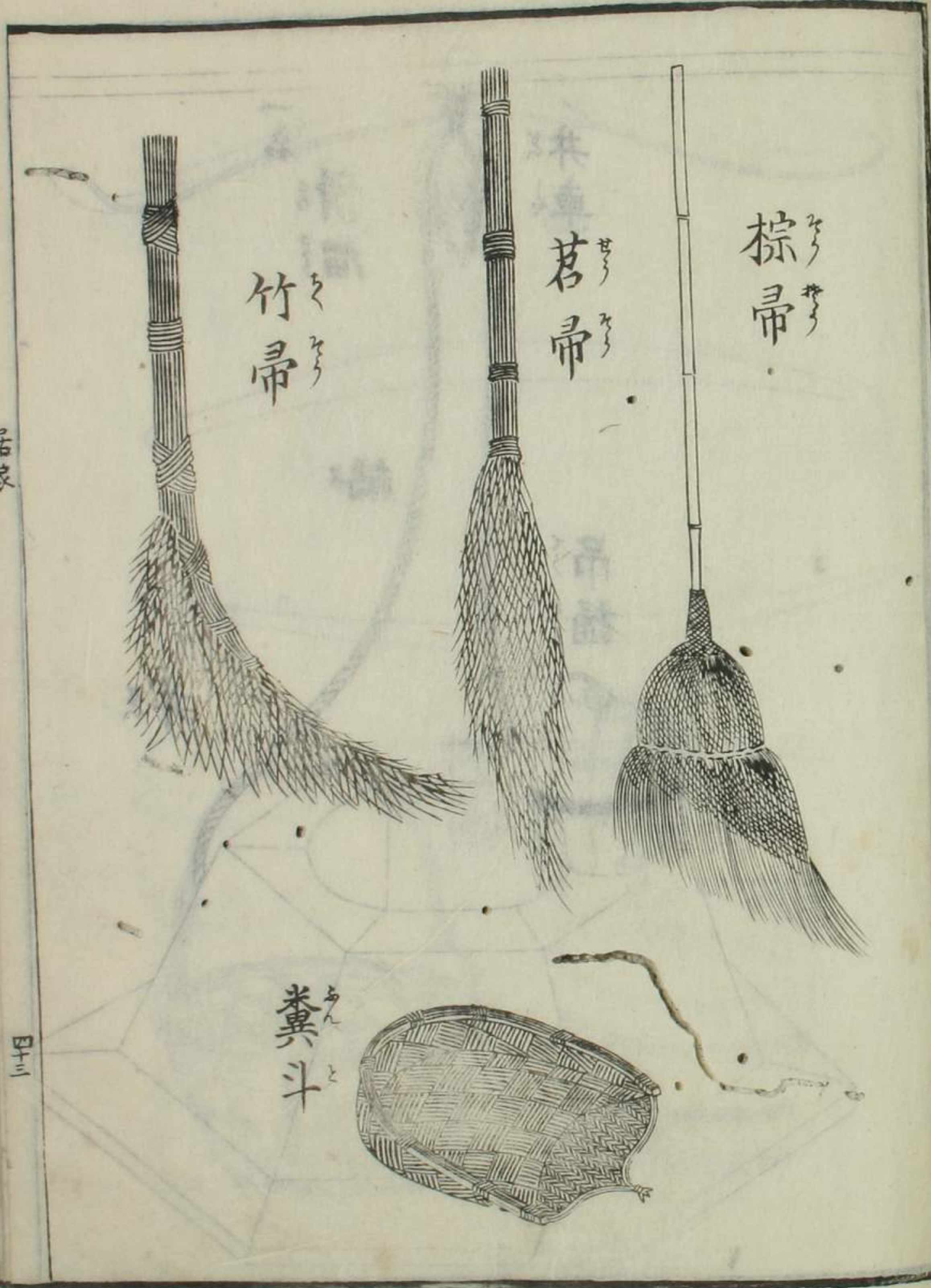


厨櫃



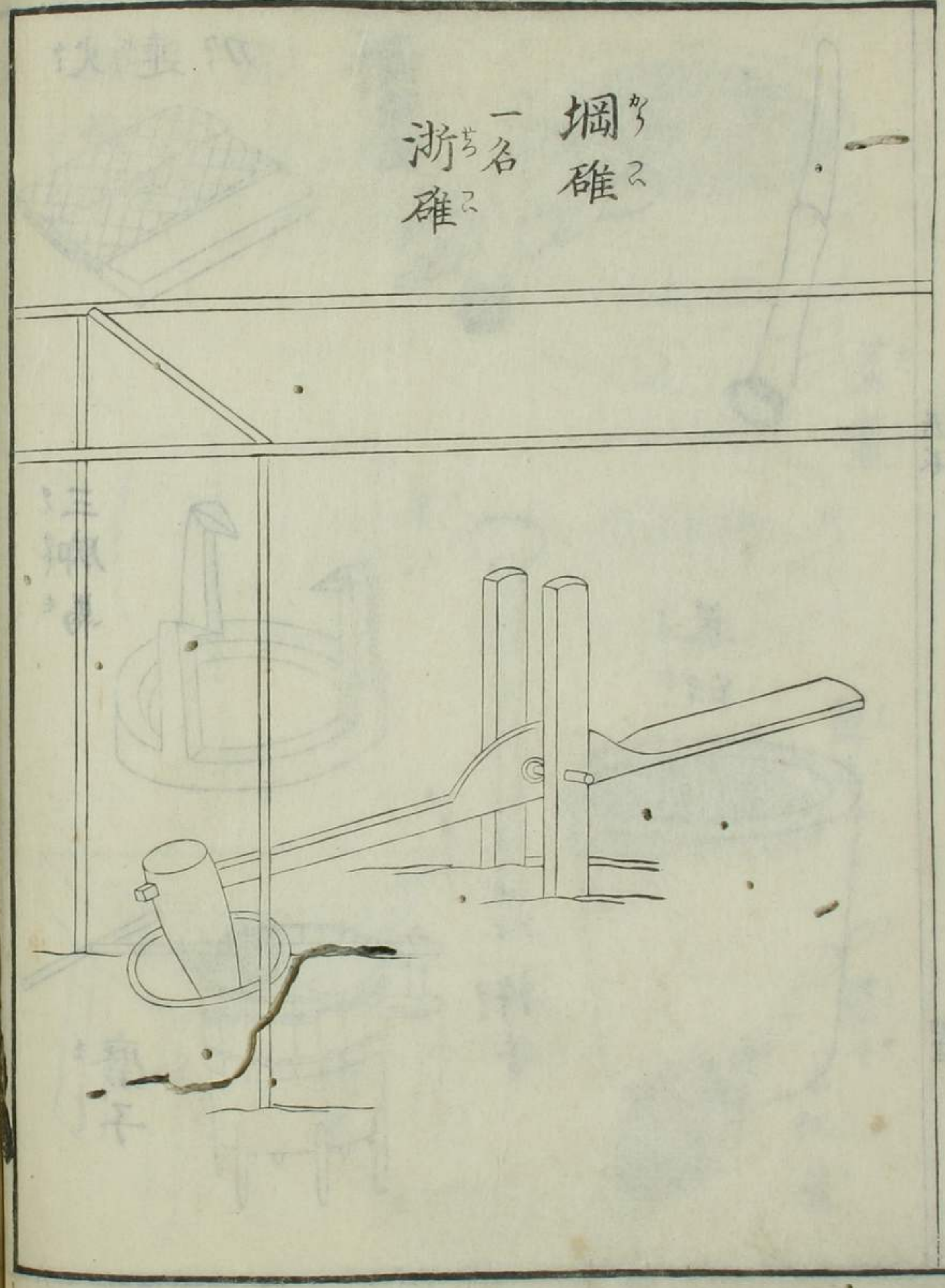
禾櫃

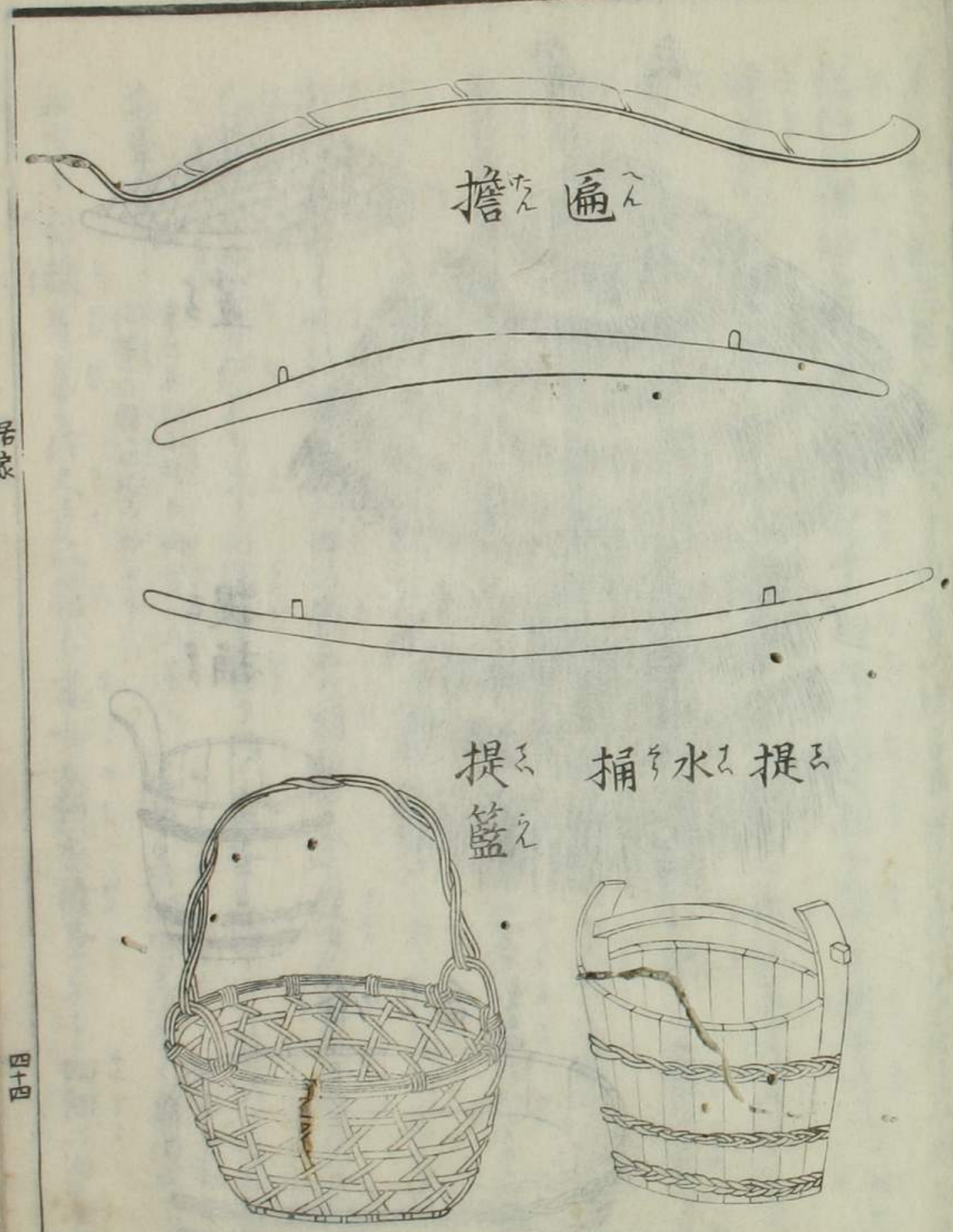




居家

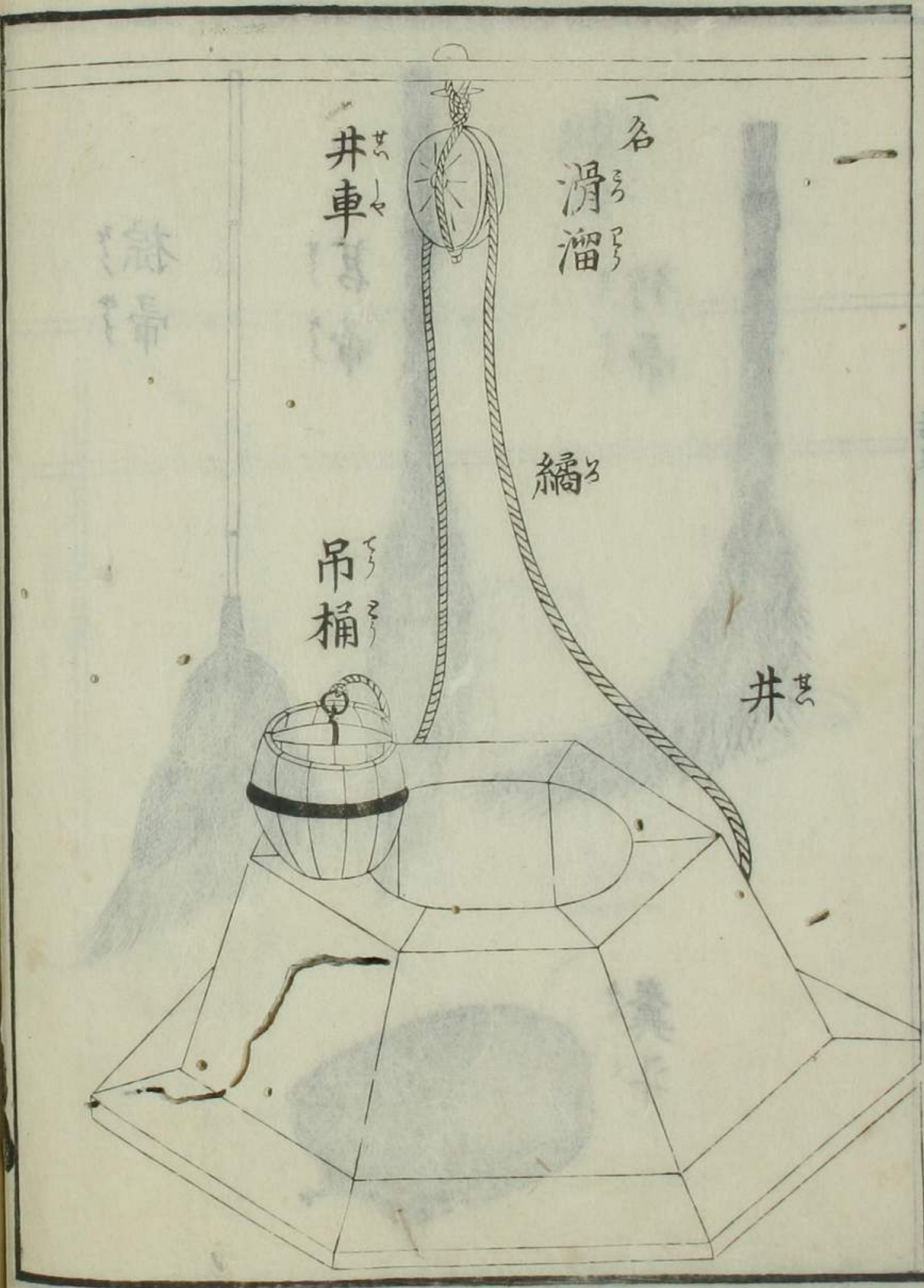
四三



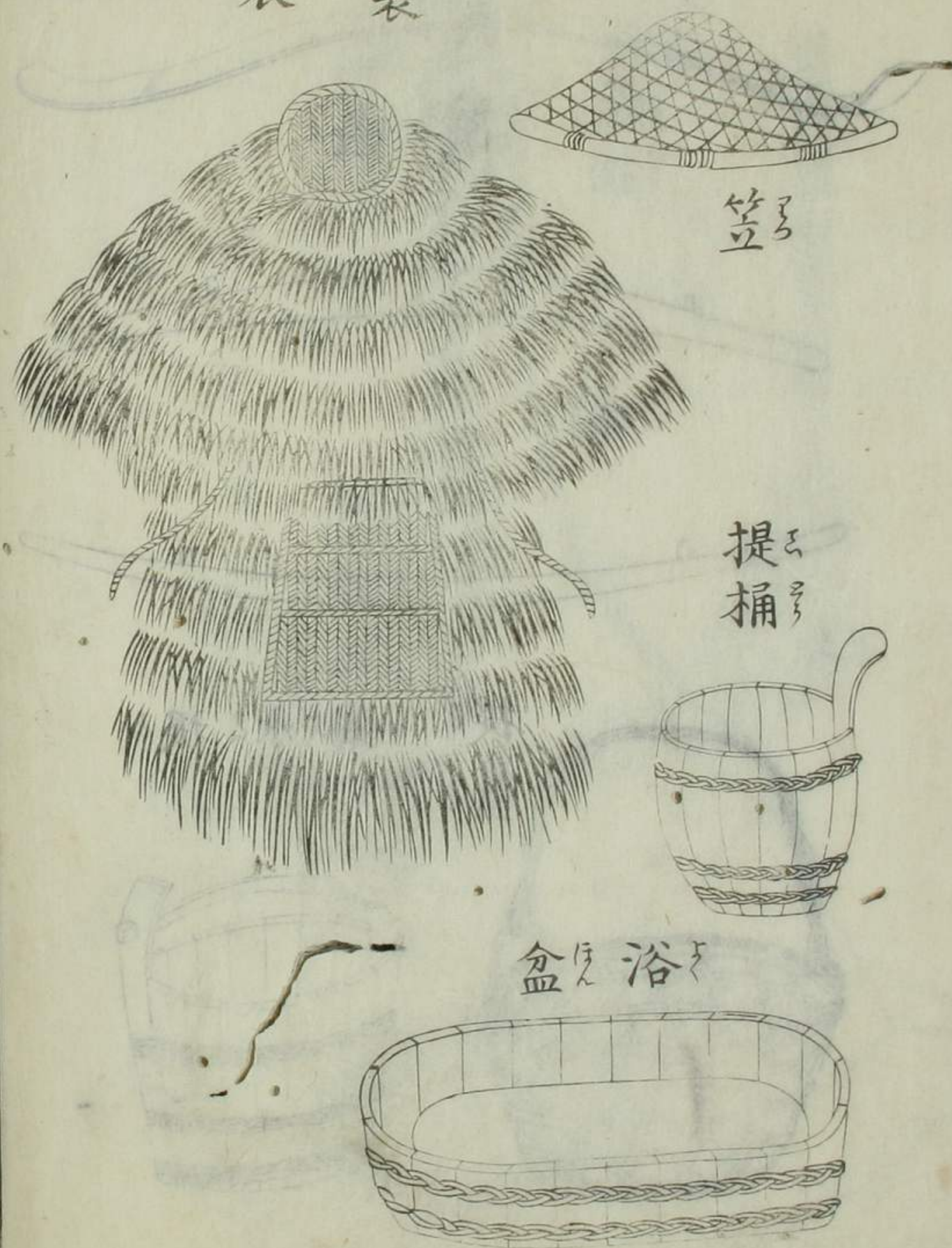


居哀

百十四



衣 蓑



○主人起て梳洗畢く便服のき内房の椅子に坐して茶たどる家廟ありは
 信作の佛神を拜し家内起掃く朝飯成吃て朝と惣して粥を吃は又稀飯も
 遠方空に行くと化ぬ出く用事等成勤ふ時と肉麩を食吃す事有
 常中ら本綿綿細の小衾に上北背馬褂ありハ袍ハ顔を着一頭
 睡帽を一舟小帽戴きて人面残すふと又外出の時と大帽を戴き外套を着
 扱食事の時ハ二三歳頃の男女未だ吃すを父子兄弟姉妹に限る子婦を
 公公と同席せは兄弟の婦らまの兄弟と同席せは多く男子ハ外房に吃し婦
 女ハ内房に吃し給仕ハ奴婢の類あり朝飯とて役方勤ふ者ありハ行商工
 人脚夫坐商等何止もまの職分多りけ家事もほく見はる人なり
 不事皆同 常の衣服小衾馬褂背心外套
 不事皆同 襦袢の圓冠履の部あり
 ○婦女ハ早朝内房に身仕し椅子
 而坐し針線等怠り大戸に坐り妻女衣類を縫事ふ一切細工あり

居家

繡花挑花スミヂカ好おくすくももららの中ちゆうのの小せうのの等とうのの衣い類るい等とう皆みな妻さい女にょ

此業このわざのの男女なんにょとと面おもて洗せんせせぬぬ先まづ袖そでをを捲まき上あげげぬぬみみてて洗せんぬぬ茶ちや

後のち水みづ洗せんぬぬががぬぬ中ちゆうににぬぬ洗せんぬぬかか○○食をく事じのの時ときにに陸りく心しんをを付つ衣い類るいをを汚よごすすぬぬにに

ききくく吃くわく且かつ道みち踏ふ成なり歩あ行ゆの時ときにに泥どろ土つちのの付つぬぬ中ちゆうににぬぬ洗せんぬぬかか仍なほもも仕し業わざありあり時ときにに

着き成なり脱ぬ小せう衣いををぬぬききぬぬ若わ成なり緊きんくく締しめめてて締しめめてて便べん利りをを守まもりりぬぬ

坐ますすぬぬ身みをを定さめめ端は坐ざせせ一いつ両りやう足あしをを飲のめめ手て成なり拮けつ足あし偃えん作さく傾かた斜しゃせせぬぬああららぬぬ几こ席せきにに

倚かた靠かたせせぬぬ若わ人にんとと對たい坐ざせせぬぬ身みをを飲のめめ莊じやう肅しゆししてて臂うでをを張ひききてて妨さ碍がいすすぬぬああららぬぬ

立たちちぬぬ手て成なり拮けつ足あし拮けつ足あしにに心こころをを入いれれてて立たちちぬぬ斜しゃせせぬぬ困こん倦けんすすもも

近ちかくく壁かべ撞つぬぬ倚かた靠かたすすぬぬああららぬぬ○○行い走そうすす兩りやう手てをを袖そでにに入いれれてて徐じゆ々々とと緩ゆる歩あすす足あし成なり

舉あげげぬぬ手て成なり拮けつ足あし拮けつ足あしにに心こころをを入いれれてて立たちちぬぬ斜しゃせせぬぬ困こん倦けんすすもも

高たかにに登のぼりりぬぬ必かならずずず手て成なり拮けつ足あし拮けつ足あしにに心こころをを入いれれてて立たちちぬぬ斜しゃせせぬぬ困こん倦けんすすもも

貴たかししにに跳はねね足あし拮けつ足あしにに心こころをを入いれれてて立たちちぬぬ斜しゃせせぬぬ困こん倦けんすすもも

言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

消くえてて喧けん嘩かすすぬぬああららぬぬ言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

先まづづとと言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

飲のみみぬぬ身みをを飲のめめ卓たくくにに逼せまりりぬぬああららぬぬ言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

世よにに看みるる蔬しよをを撥はきき亂らんしし咀く嚼くすすぬぬああららぬぬ言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

小せう成なり因いん以いてて語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

○○男おとこ子こ四よ五ご歳さい五ご六ろく歳さい止とめめぬぬ書かきき法ぽうをを教おしへへぬぬああららぬぬ言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

教おしへへぬぬ中ちゆうにに女にょ小せう書かきき法ぽうをを教おしへへぬぬああららぬぬ言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

楷かい書しよをを教おしへへぬぬああららぬぬ言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

師し傳でん成なり受うけけぬぬ事ことありあり此この先ま生せい成なり門もん館くわん先せん生せいとと家か内ないにに師し成なり代だい請せいすすぬぬああららぬぬ言こと語ごをを當あたりりにに成なり減へるる積たかりりにに輕かろ忽たちちちにに親おや成なり出いでで言ことをを言いふふ事ことをを言いふふ聲こゑ氣き成なり低ひ

此兒者の寺院に館成設け日く家内より往來して書法成學以讀書等せしむ
を女々外館に出入り讀書等せしむ事絶くけり賣家の子に師成請はて其法成
教授習しむ ○家内小宗を佛神と天后聖母關老爺觀世音菩薩等々
信仰等からば家廟の先祖の本を成立番に祀りしむ

○朋友の探望或は因事あるをめぐりぬれば奴僕公堂にゆく客をも主公羽在麼と

不在宿せしむ有事出外不在家裡と云ふ在宿すしむ請坐と云ふ客を椅子

に坐せしむ内に入り某相公 江南衛江等相公と云ふ又信州府成州と云ふ官成買つるか其命

来りたりしと云ふ人みよるは主人の勞駕と云ふ客より驚動といつて互み寒暄成

叙話話以親類の者より並に奥の部屋へ通り某翁在麼と云ふ 某先生 主人在宿せし

む婦人老姑等出違萬福して時此寒暄を演ぶ 女を時と云ふ 朋友等も堂客

に對話せしむ客序止む親戚と外廳の降手を送る婦女の外廳に

出で男子を送ると門限を出或は外廳に出入り此時客より請留歩ゆは

主人免送と云ふ客ありて尋問す時主人に在宿せしむ時奴僕出で東人

我主人を不在有什麼貴幹説把我と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

東人と云ふ 不在有什麼貴幹説把我と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

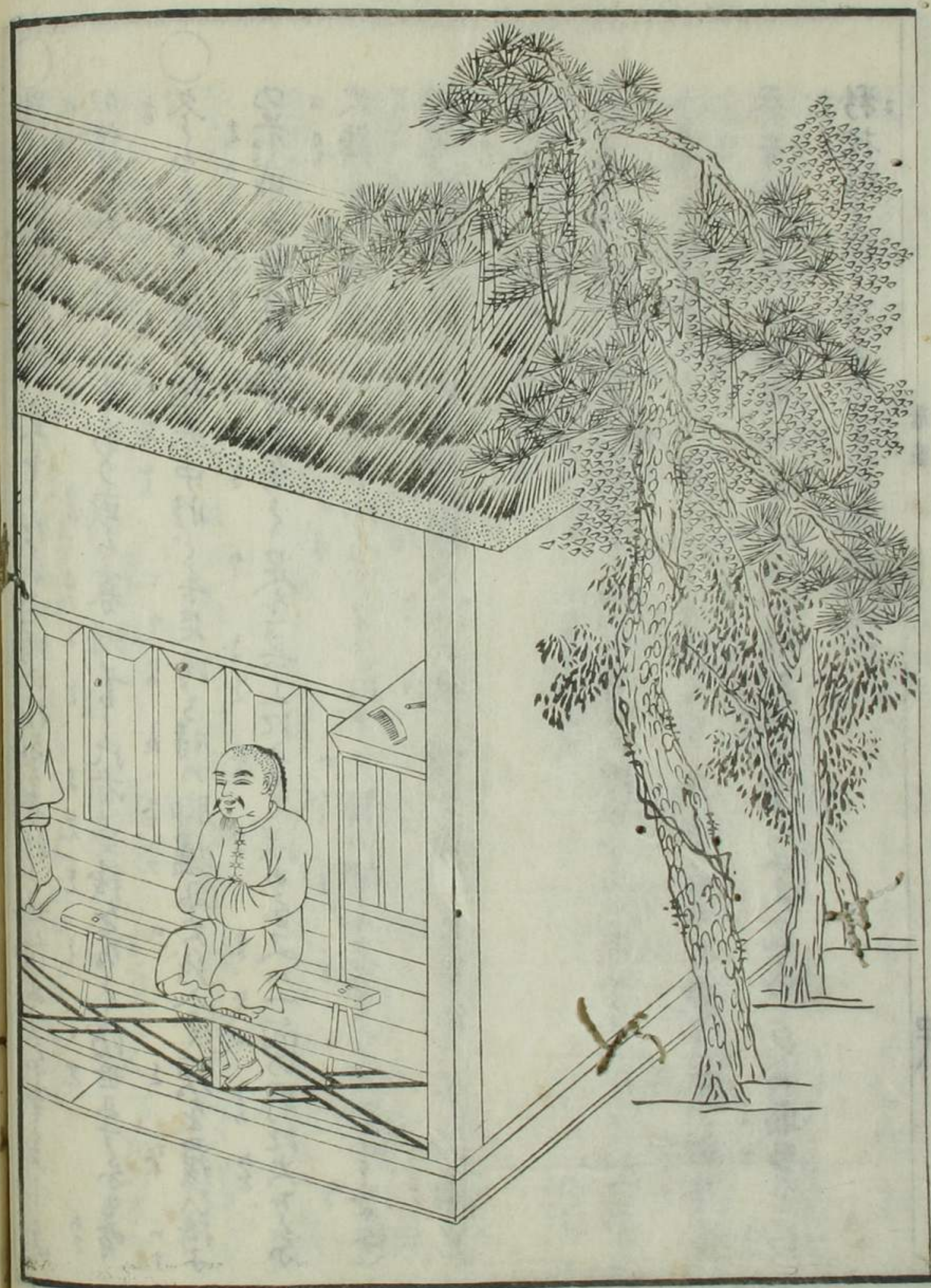
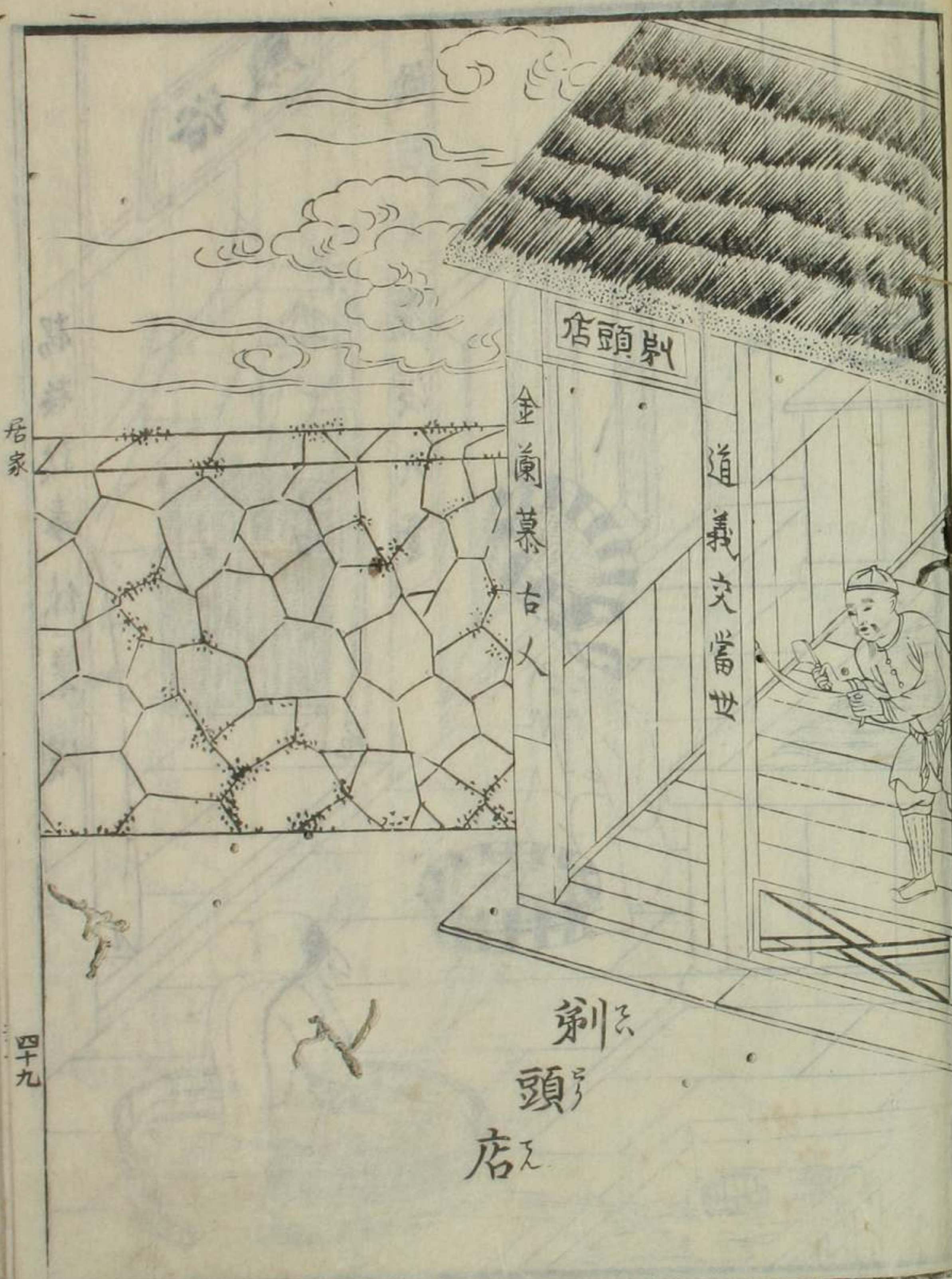
と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

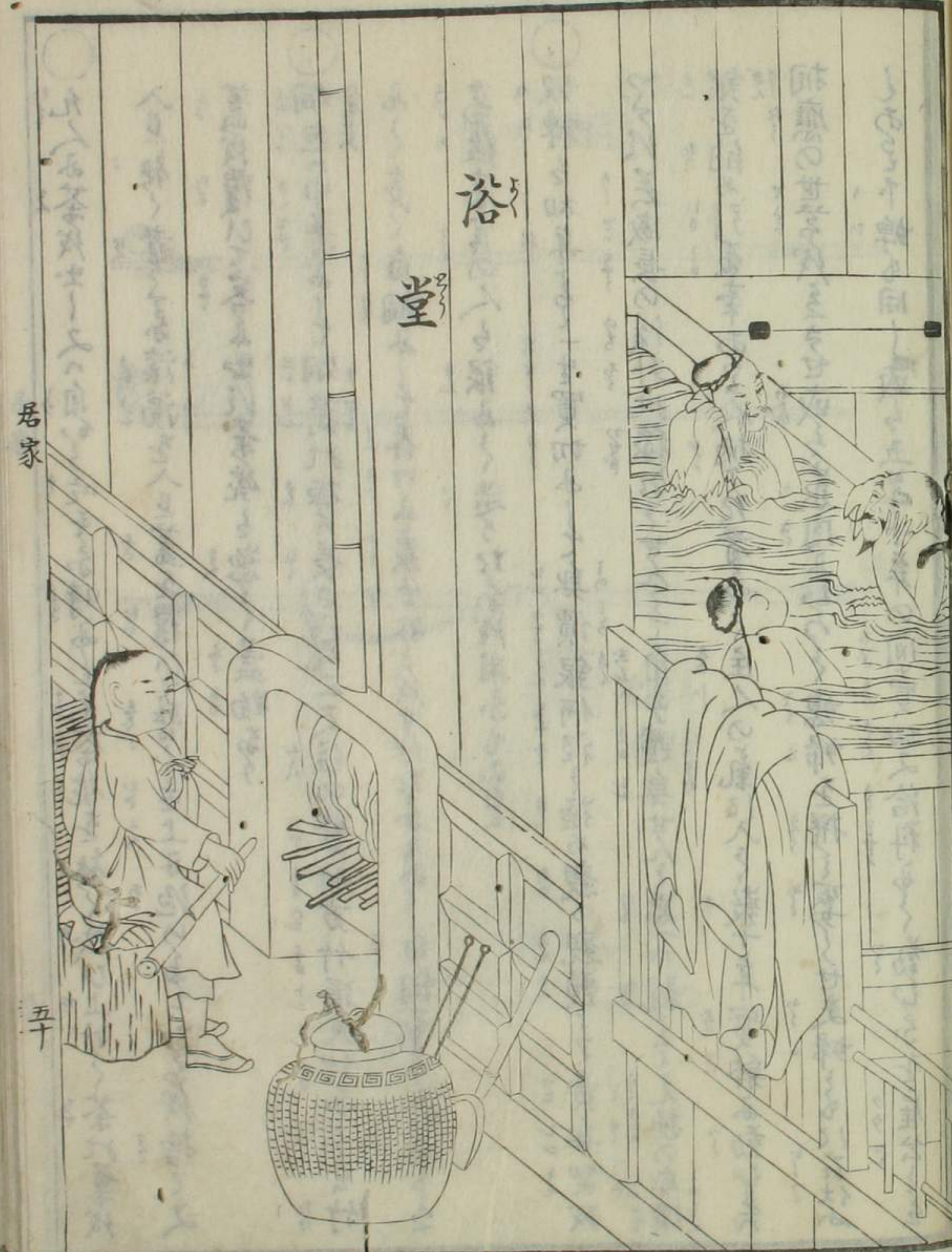
と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

と云ふは主人に事ある奴僕出で又奴僕

埋ふ又官家と云く金銀の出入其外他一不の引を者あり此方此時代の事
 然しと云く中戸以下は家あり主人自分料理の事多し ○惣く沐浴の曆本に
 湯沐の日剃頭此日あり其後二三日成隔く浴の日湯の中に入れて浴する事
 絶てかゝ多く浴盆に湯代とて水中を浸し強き惣身を拭ふ事多し
 ○農夫雇工等此小戸に浴室あり湯沐は浴室の浴池に八九尺方或は二二三
 方の大なる箱に湯を湛へて二十人三十人程も入るゝ浴室の主人又は家人の
 類衣櫃を預る者あり是れ湯に入る人其衣櫃に號數を記して其鑰匙は號
 數の札を付て手中あり同一號數の札を付て其衣櫃に入ると衣櫃は鎖
 を却て浴池に入れて洗浴すそ右れ手中と鑰匙の號數を照し櫃を用ゝ湯銭取
 拂ひ衣裳代者湯銭を二人茶三銅あり ○盆湯と云ふあり一人一鉢の木盆
 を備へ一間宛仕切て一人宛湯浴せし是れ一人茶二四銅宛あり

○惣く衣類の洗濯は年中やうなる老媽の扱ある者好く世給ふ事多し其
 奴僕類も計り事あり或は寡婦者此者賃銭を取らば湯せみすも有
 冬は手爐代用ひ極寒の中形と手足冷し時ハ脚爐も火代入るゝ灰を覆ひ椅子
 の茶或は膳床の茶も並く足を其上に坐して温め又ハ一向の形に大なる
 火鉢も火代入るゝ二ツも居るものも火鉢の側にも火代入るゝ事多
 地爐石爐と云く此方の巨燵の扱も地に爐を掘り並事あり此は南方
 温暖此土地あり用ひ也
 ○往來の書翰ハ皆紅唐紙或ハ斗方紙箋紙を以て紙も去り免封筒に
 入し僕も持せ遣は亦拜盒に入し遣はしあり吊袋も白紙を用ひ願書も
 奏事紙を以て折紙もして上は全啓副啓かゝり文字ありは筋封を紅
 粉摺りてはふあり是を格紙と云

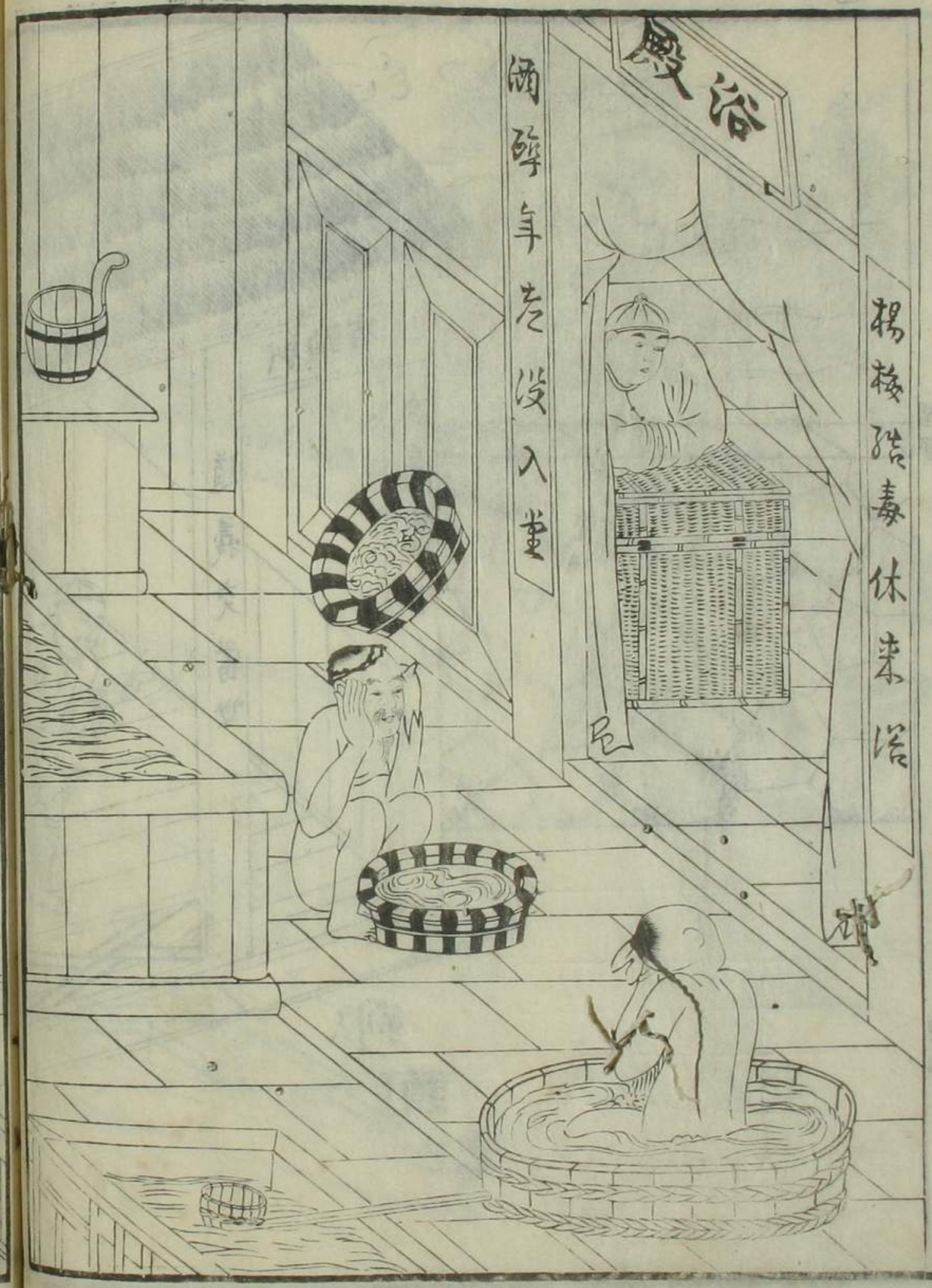




浴堂

居家

五千



浴殿

酒醉年老没入堂

楊梅瘡毒休來浴

○ 凡人み茶伐出し又ハ自の吃まふ時め先茶碗を熱拭ひ上げ茶は蓋伐

入止能く煮たる滾湯を入止蓋を覆ひて暫く蓋上母泡のふちたる伐捨て又

蓋伐覆ひて客み出以茶碗と物と蓋物あり

○ 烟包の中着みして烟筒は棒ハ長さ二尺二尺位の紫竹方竹通天竹ふと竹

みく多く白銅みして呑口み象牙の伐すげたふもあり白銅をとり形ふも之

高位高官の人と銀めく造つた系伐用ふもあり

○ 奴婢々幼年より一生買切みして身價銀何程と極め親親類と賣身契伐

つて以美成長の後外此縁めせんそ自分贖身せんと思ハ親よとえ極の身價

銀を納め引取事あり人柄ハ者めく主人の氣に入る數十年實躰み勤む止ハ

相應の世帯伐させ或る家内みありと媳婦を撰と取あらせ夫婦ともには仕ふ

もあつ下婢も同一或る五年十年の間賣切又俗科めく勤むふを雇公と云

烟筒



煙包

杖丸



賣身文契式

立賣身文契某人今因衣食不週情願
 央中保某人等將自己所生嫡子某賣
 到某府為僕三面議定自價七折制錢
 若干兩其錢當日一併收足自賣之後
 任憑更名使喚倘有不測各聽天命如
 逃亡走失惟中保是問追還並無異言
 立此賣身文契存照

計開

某現年若干歲某月某日某時生原籍某府某縣某鄉人
 年月 日立賣身文契某人畫押

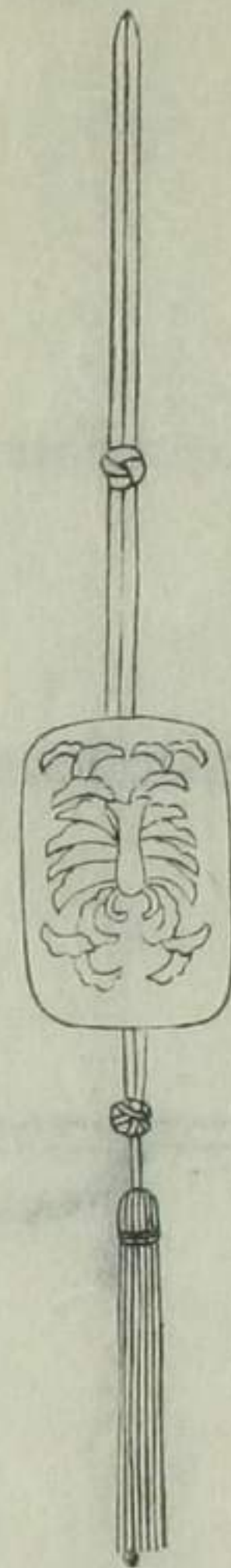
中保

某人畫押
 某人畫押

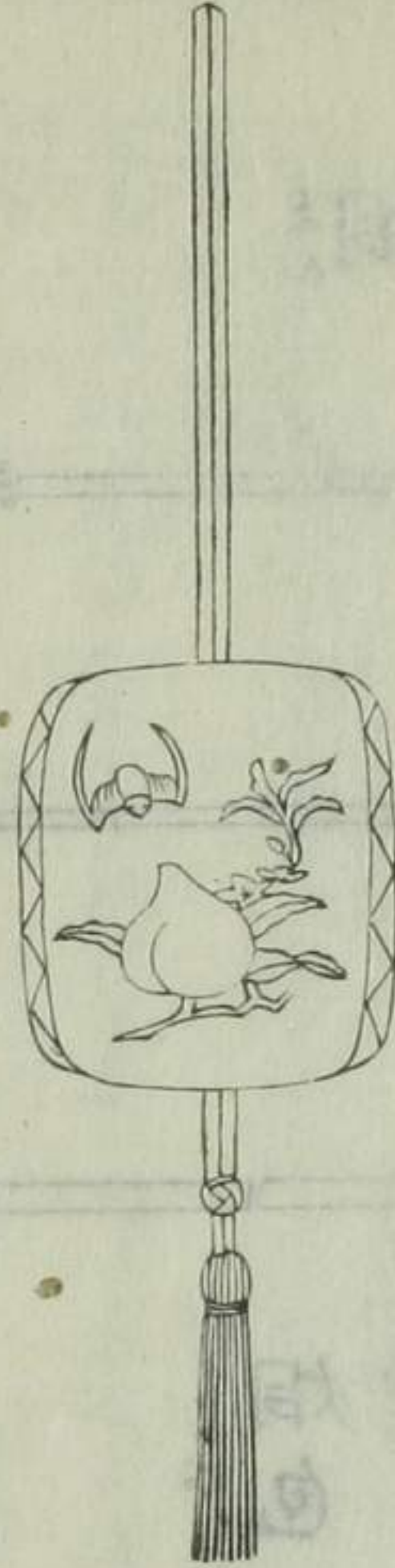
居家

辛二

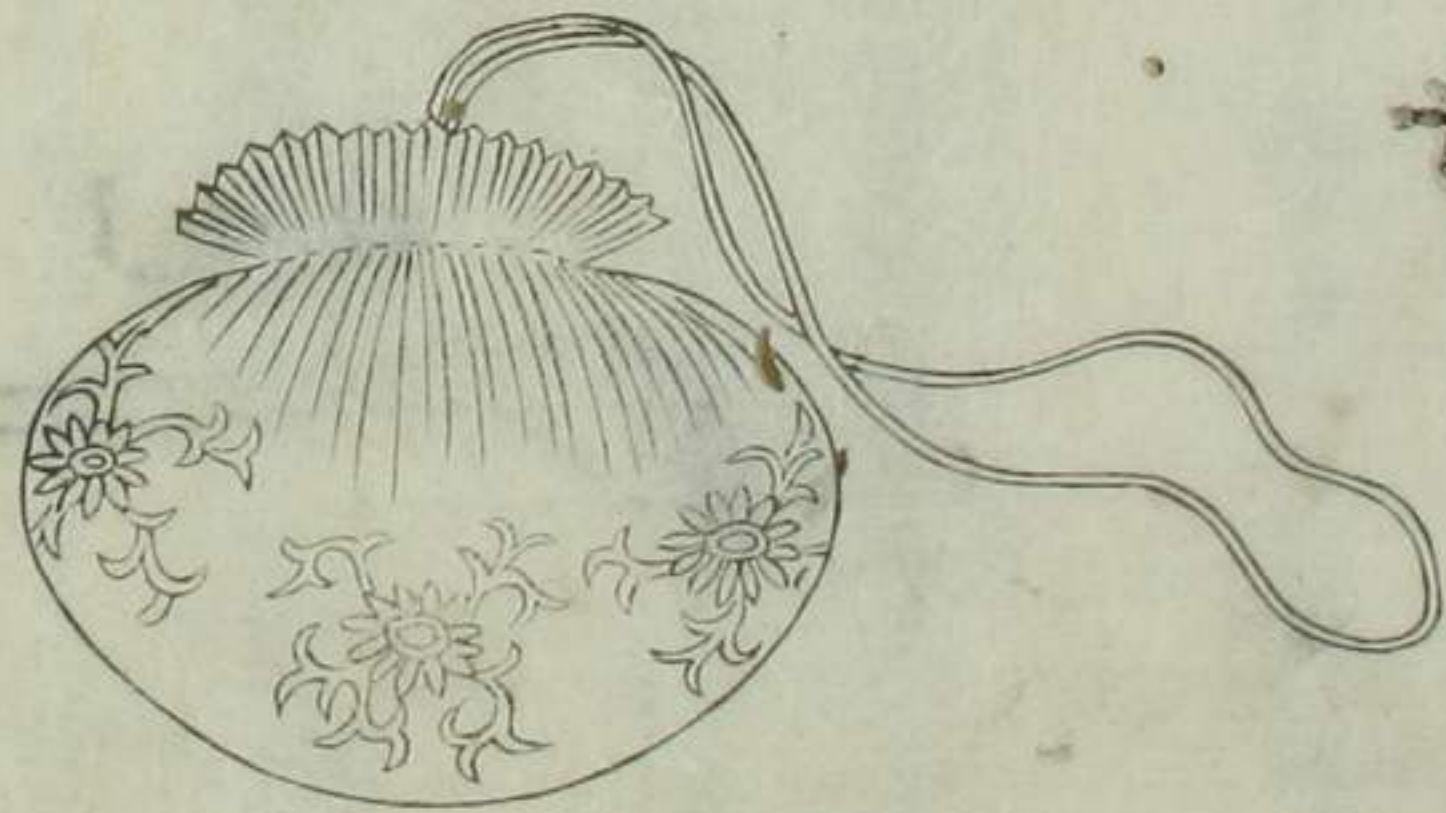
扇墜



香袋



香包



大抵辛錢と一ヶ年五六十月等かゝる一生買切の身價と二十貫文五十貫文と此も
 不同あり婢と皆買切なり

○九五節ありひの婚禮の中は系臨時に往ひありて誰人門前ありて儀儀を
 乞ふ事ありて此を乞ふと云ふ事ありて或は此の節廣し甲頭を呼ばぬ
 目録中は親ひ事ありて門前に誰一人も去らぬ中に銅錢五二十文ありて
 百文二百文もありて甲頭より投票を持越して門前より乞ふ此收
 票を張るとなれば誰一人も去らぬ事あり
 ○官所より尋等の用事ありて又る名成園など呼ぶ事ありて兼局或は
 管家も帖成持せしは此の行向ひ帖を主人より用事ありて法越あり
 と云ふ又居宅ありて此の街の保長等も通し其人も通す事あり

奮 綱
 端 陽 喜 慶
 日 遊
 薑

或
 新 春 喜 慶
 新 冬 大 發

収 票

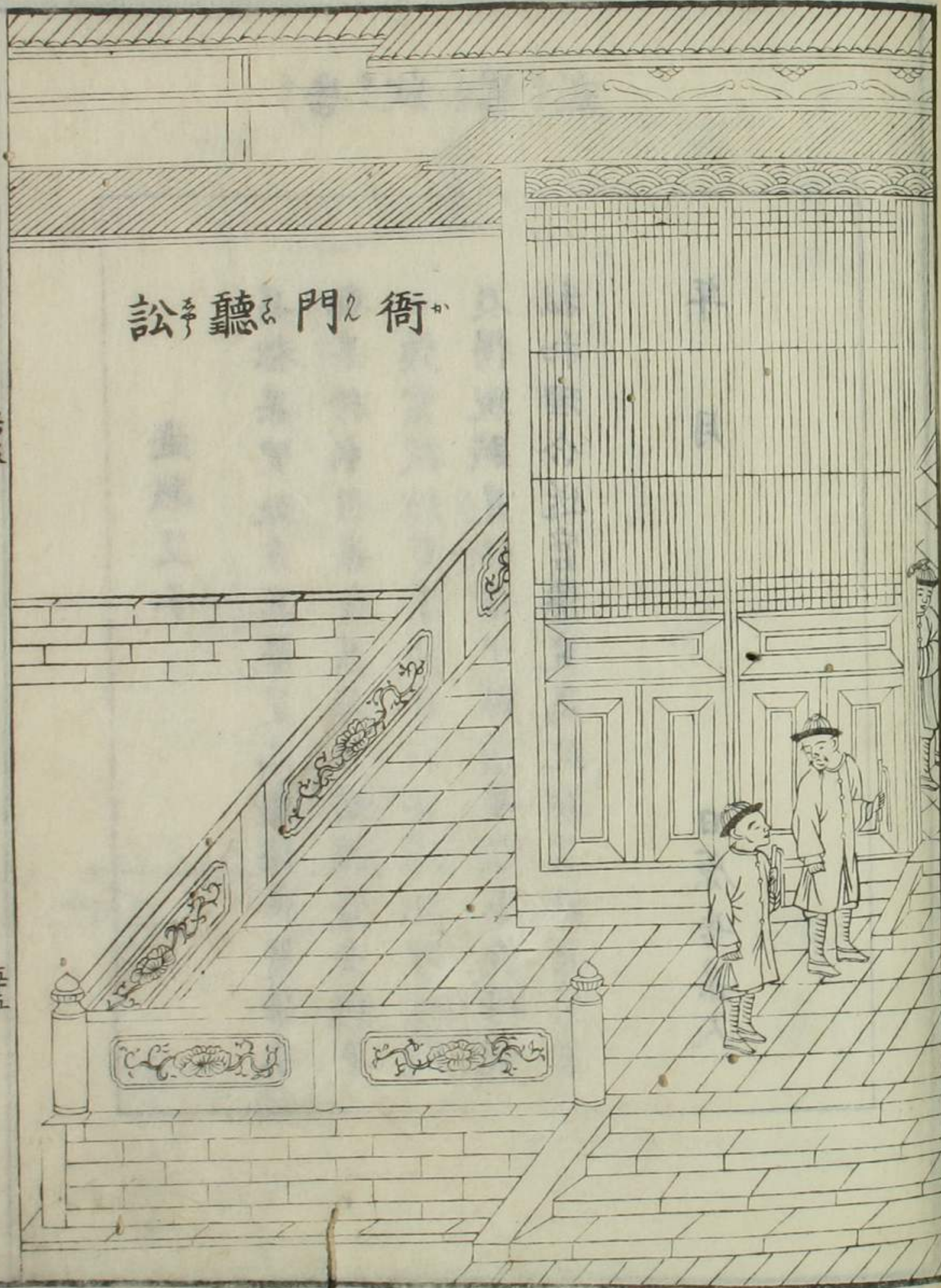
一應乞巧頭上人打發母許強索

居家

平三

○卯の刻衙門の羽屬は吏胥出仕すは本官堂におはせ時皂隸の
領文牌を持われは諸官前よむは公文の申覆をまゝ持事りたる役人み流し
傳進みすはまの舖司み流し其流し投文牌を持せは訴詔の者訴詔成
直み本官の公案に上みせ退く其流し稟事牌を持せは機密の事
等本官み連達せら者出く口稟す右の事くもみ過犯の者流し
出裁許せ○吏胥月外の刻衙門み出仕は是を點卯とす午の刻み退食
そ政事み從ふ者ハ午飯せんで又出仕は此方此御用日放告日期とす
訴詔箱に投文牌み當ふ本官の政事閑暇の節人々の好くもして
詩文書學あひは琴棋騎射等かゝる家業ハ都會より辨理を朝書
自身み家業成あつらふべきは政事を專一とす
高家主人朝飯畢して店成見送り夥計み指圖して賣買此駢引酌

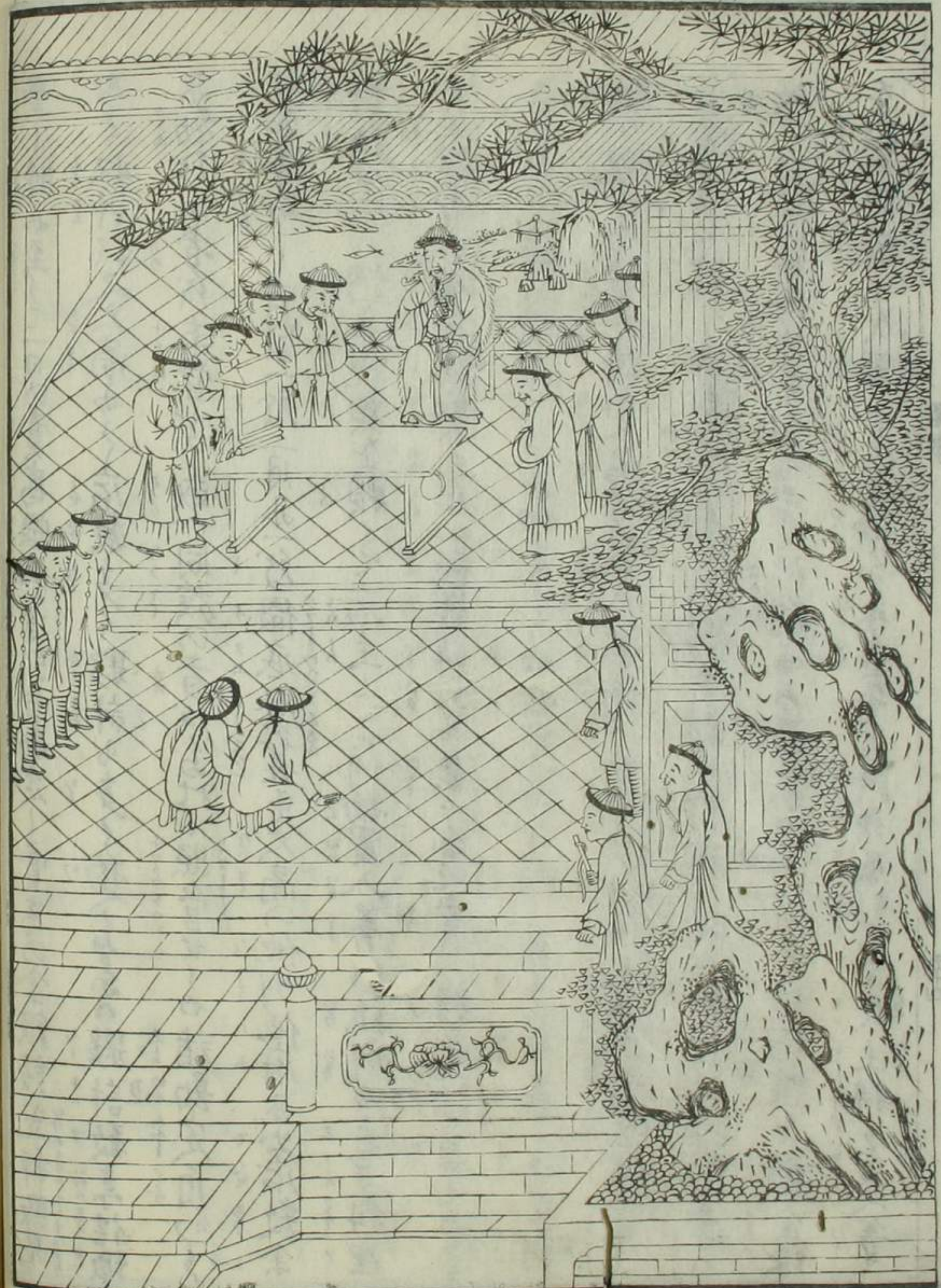
量一晩み至りて一日の賣高帳面等引合勘定一賣高の金銀錢兌換點見
る収賅は又大高み店數多く夥計もよく扱ふるは夥計數年信
み勤たふ者成主管や或は同族の者成多は照管せら諸勘定自
す家業少一月み二月み徹底磨算大高の他州他府み出店數余
計持ふは何と親類を頼もて店主は荷物買入等の引引と自身料理
と遠方の場前或は主店の親類引み急りる者ハ一將を任せ並もあ
賣高の金銀錢一月二月み勘定して其店の入用を減し余分は家業に
債の端午仲秋年邊此三節を定めて其限りみあは債主或は貨物賒賣の
み書付成遺しを夥計に向に債を討ふ物束の通り拂ふあり又此季ハ
延く再限み拂方とるもあは限期中ら本家主人直に諸帳を調金限
を改め記帳し欠帳み点を掛ふ年迄あは終夜取引せ欠主拵不足等



衙門聽訟

若家

五五



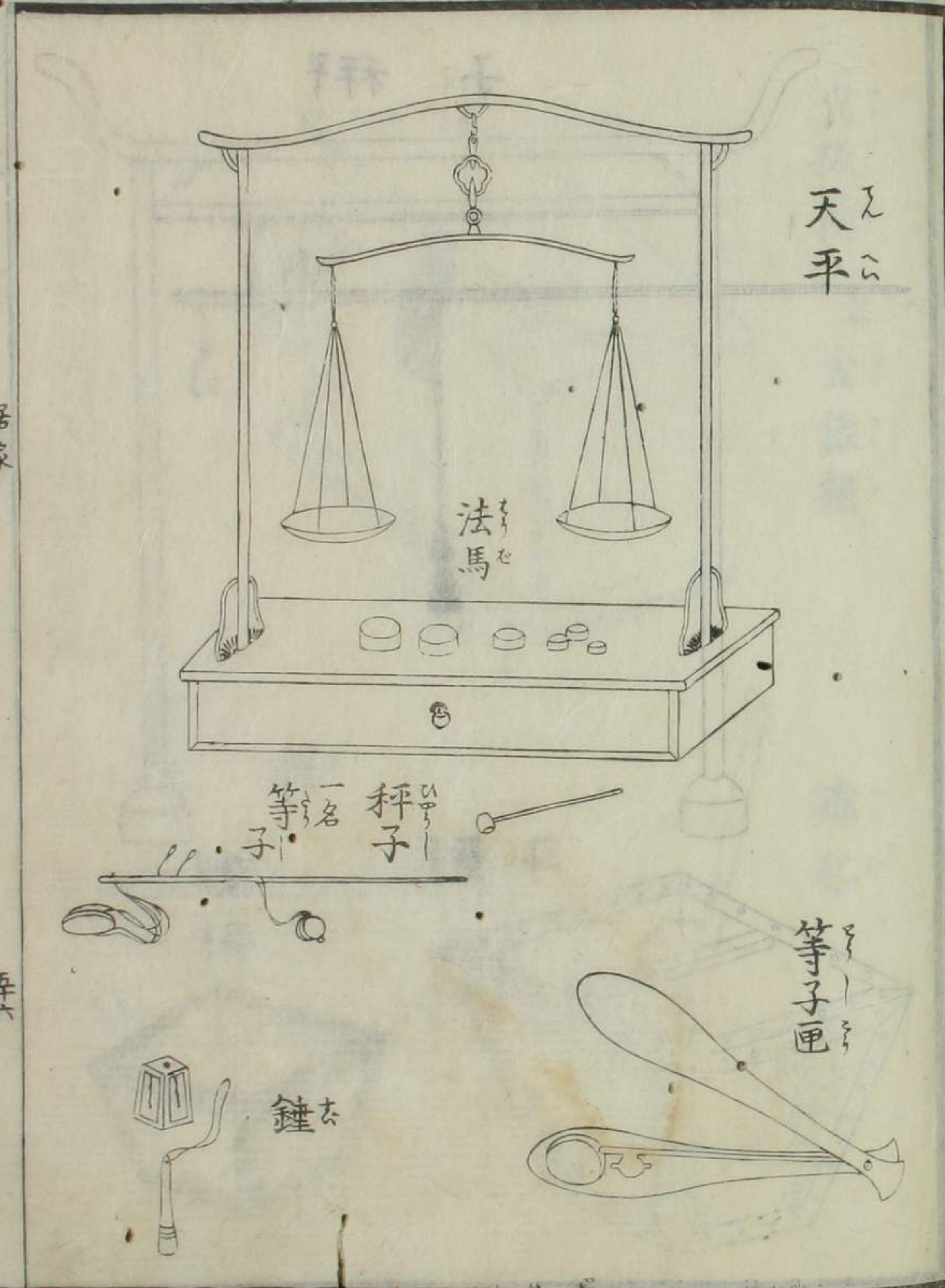
告狀畧式

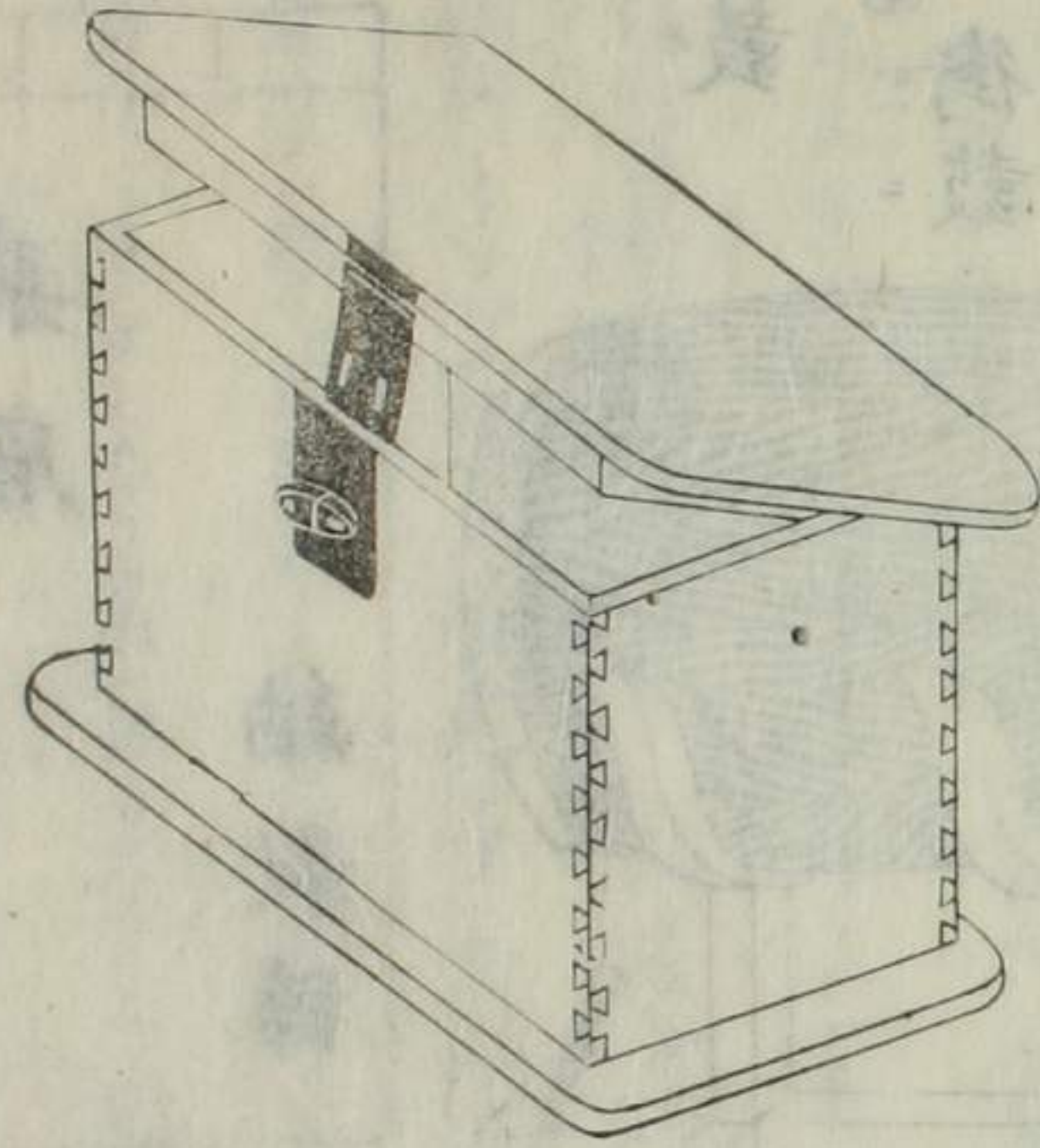
盜賊呈子

某都某里地方某等呈為被盜牛隻事本
 都某於本月某夜某時分被賊盜去耕牛
 一頭當投地方某跟尋到某處地方捉獲
 及得現賊是的係干賊盜事情不敢擅便
 私和理合送官懲究為此具呈須至呈者

年 月

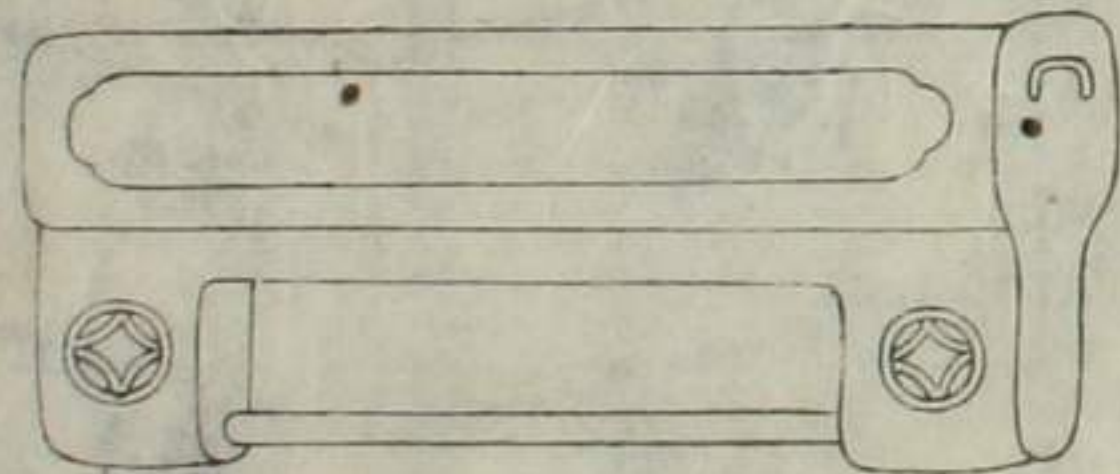
日原告某人



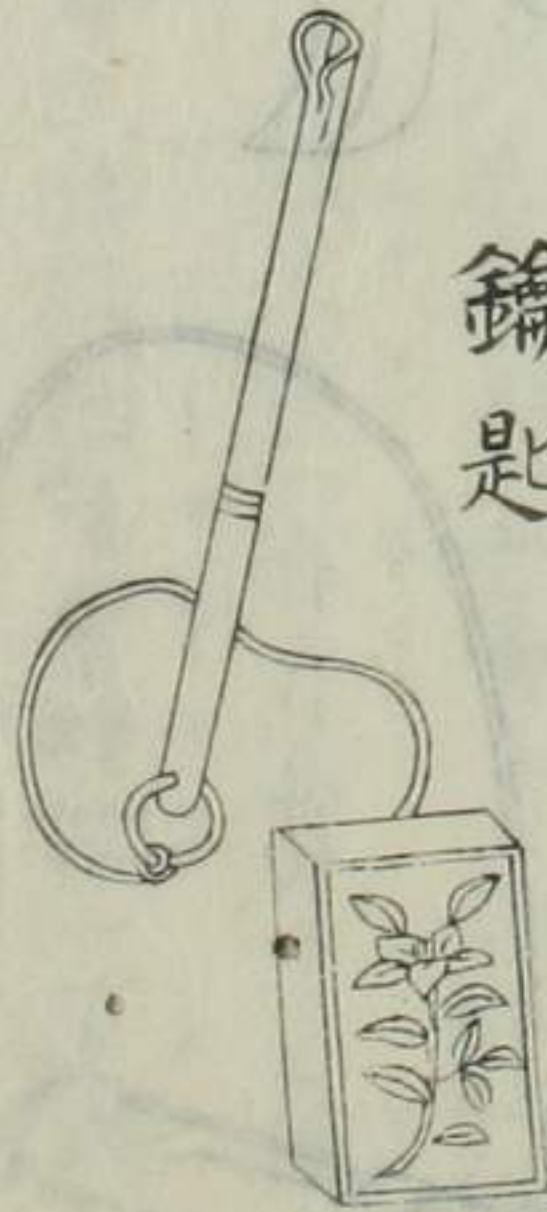


夾板箱 一名 金銀櫃

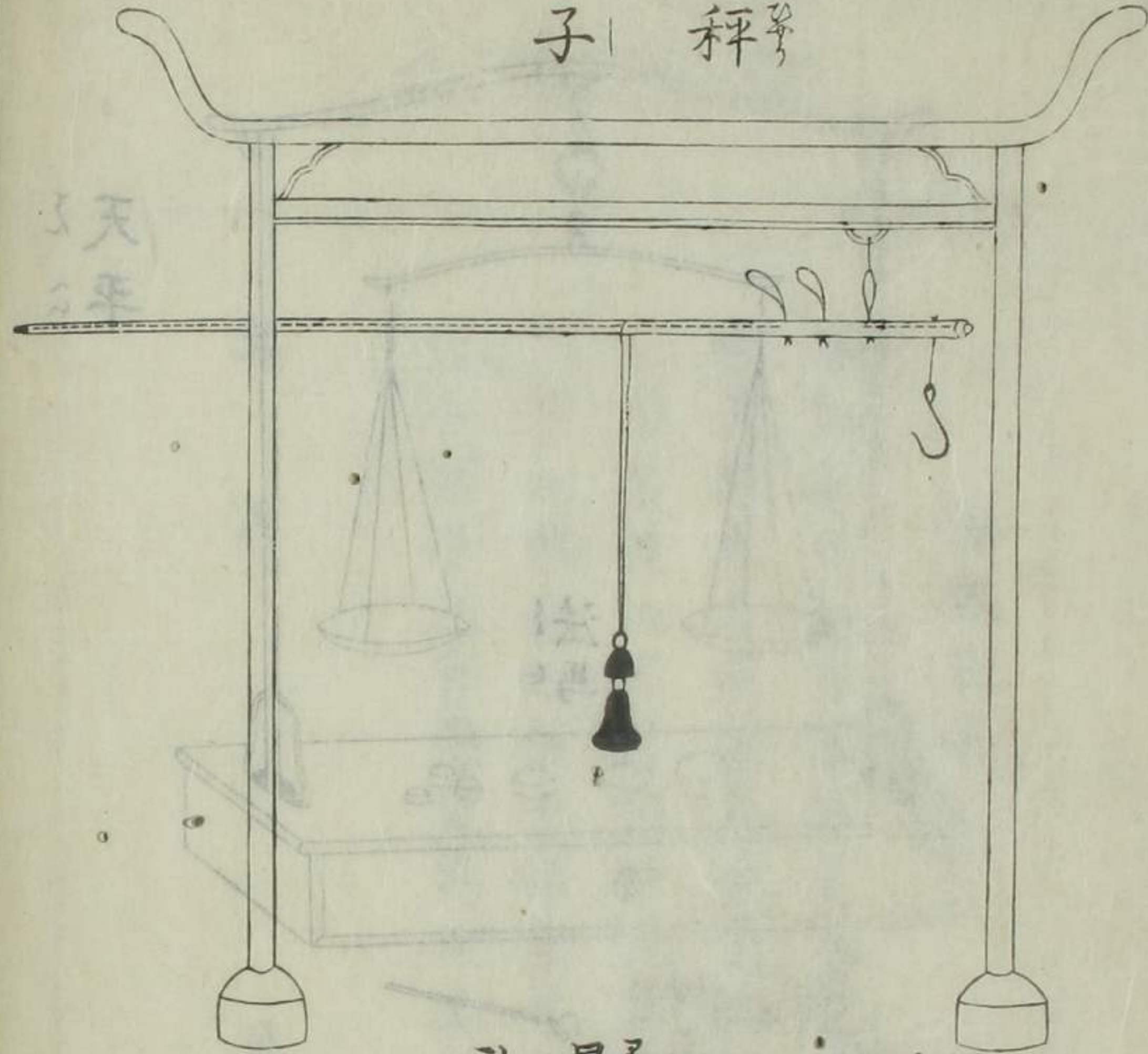
鎖



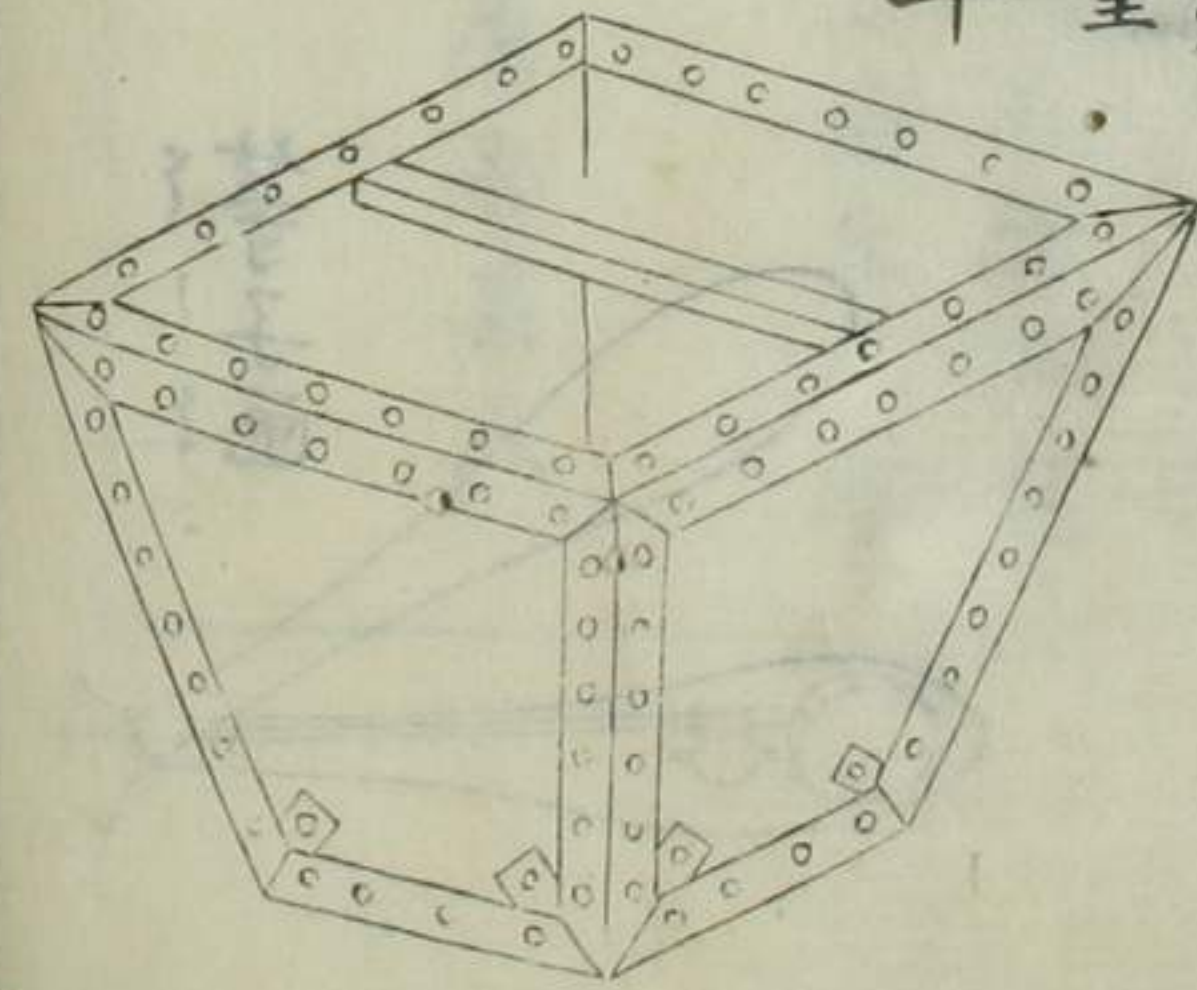
鑰匙



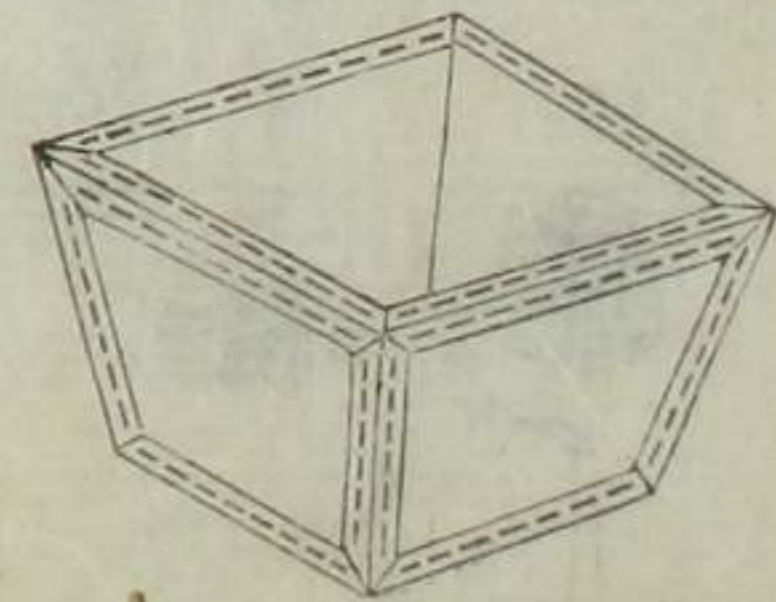
秤子



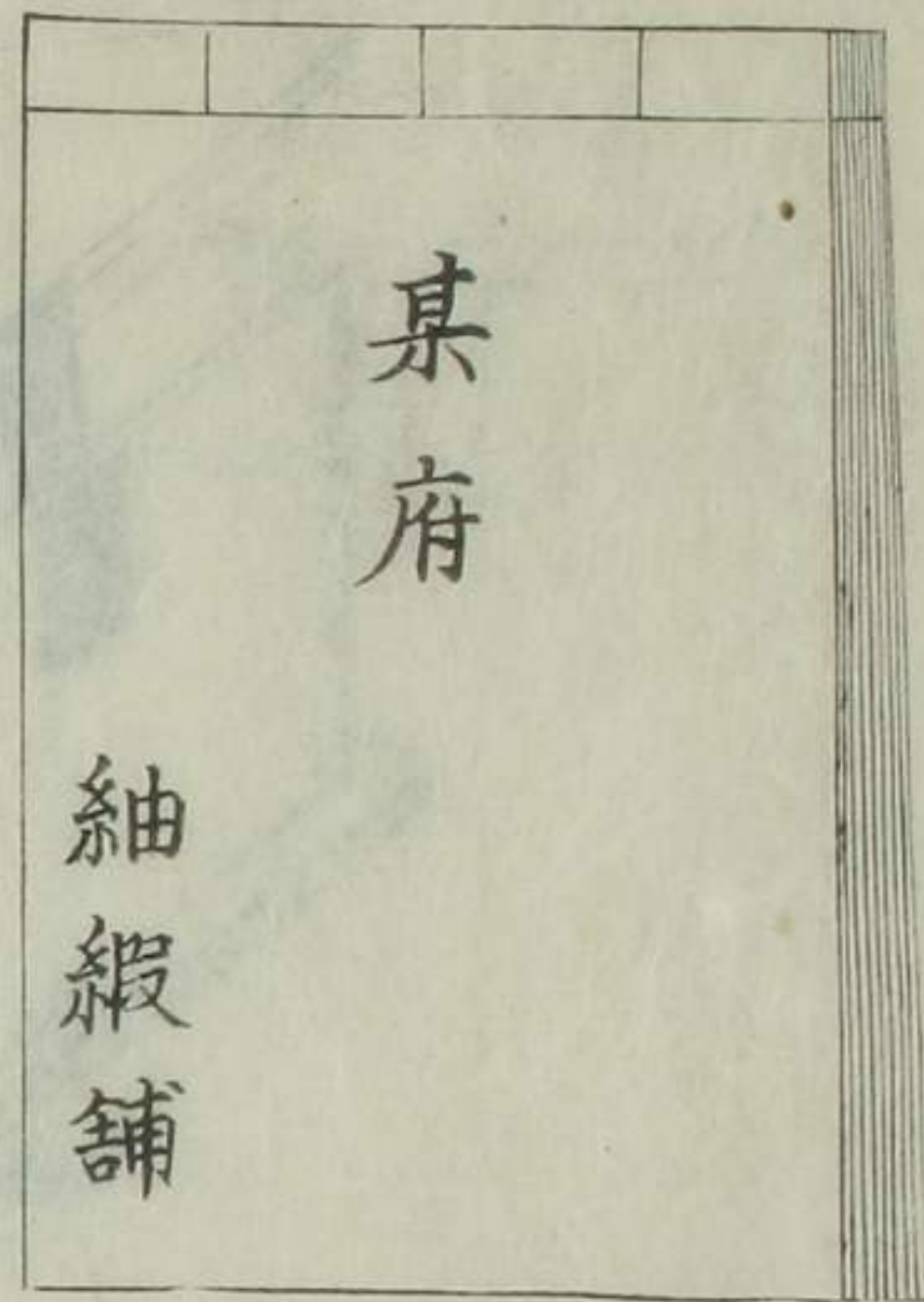
量斗



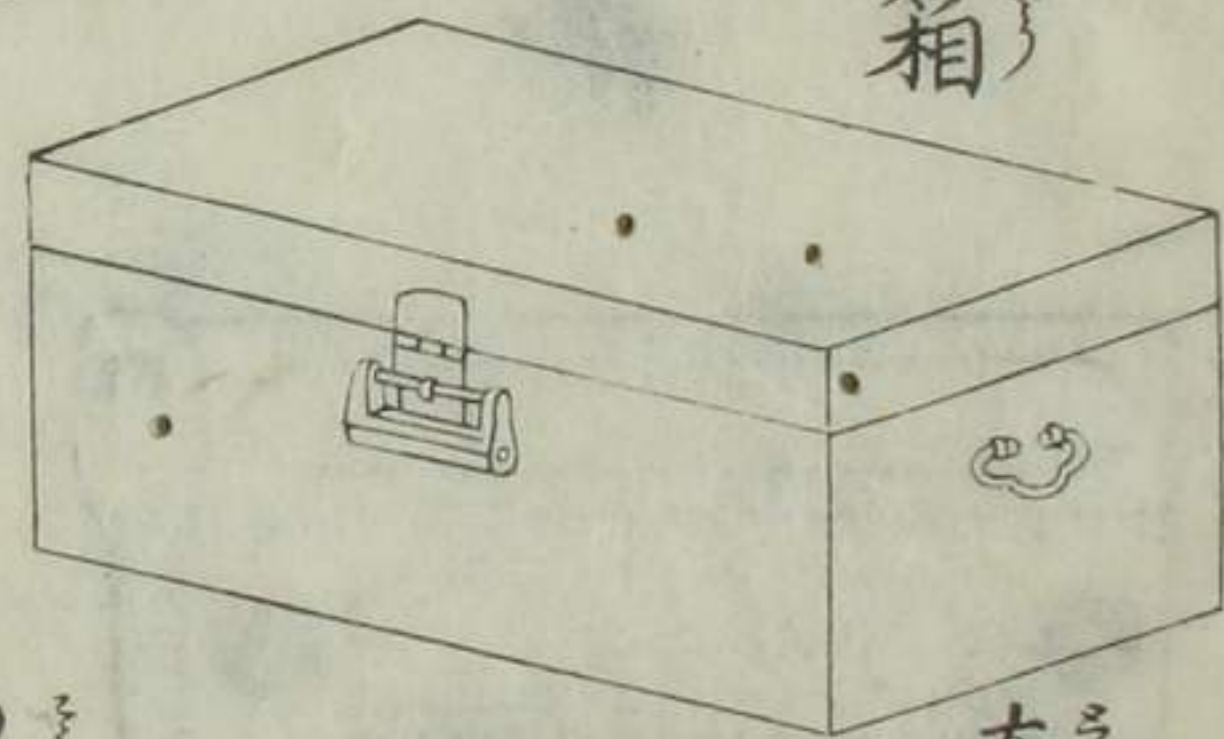
量升



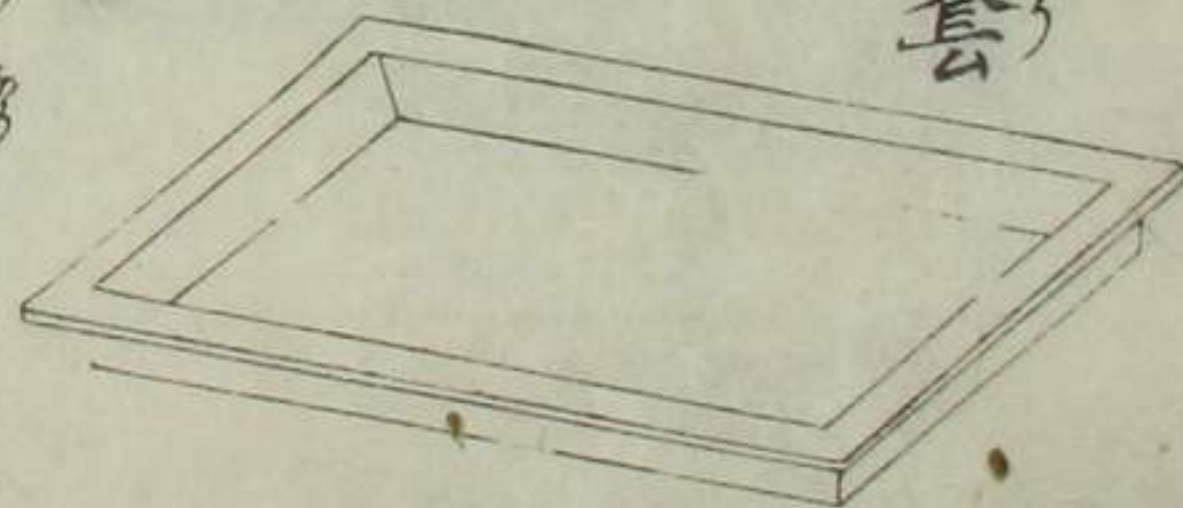
子簿



帳箱

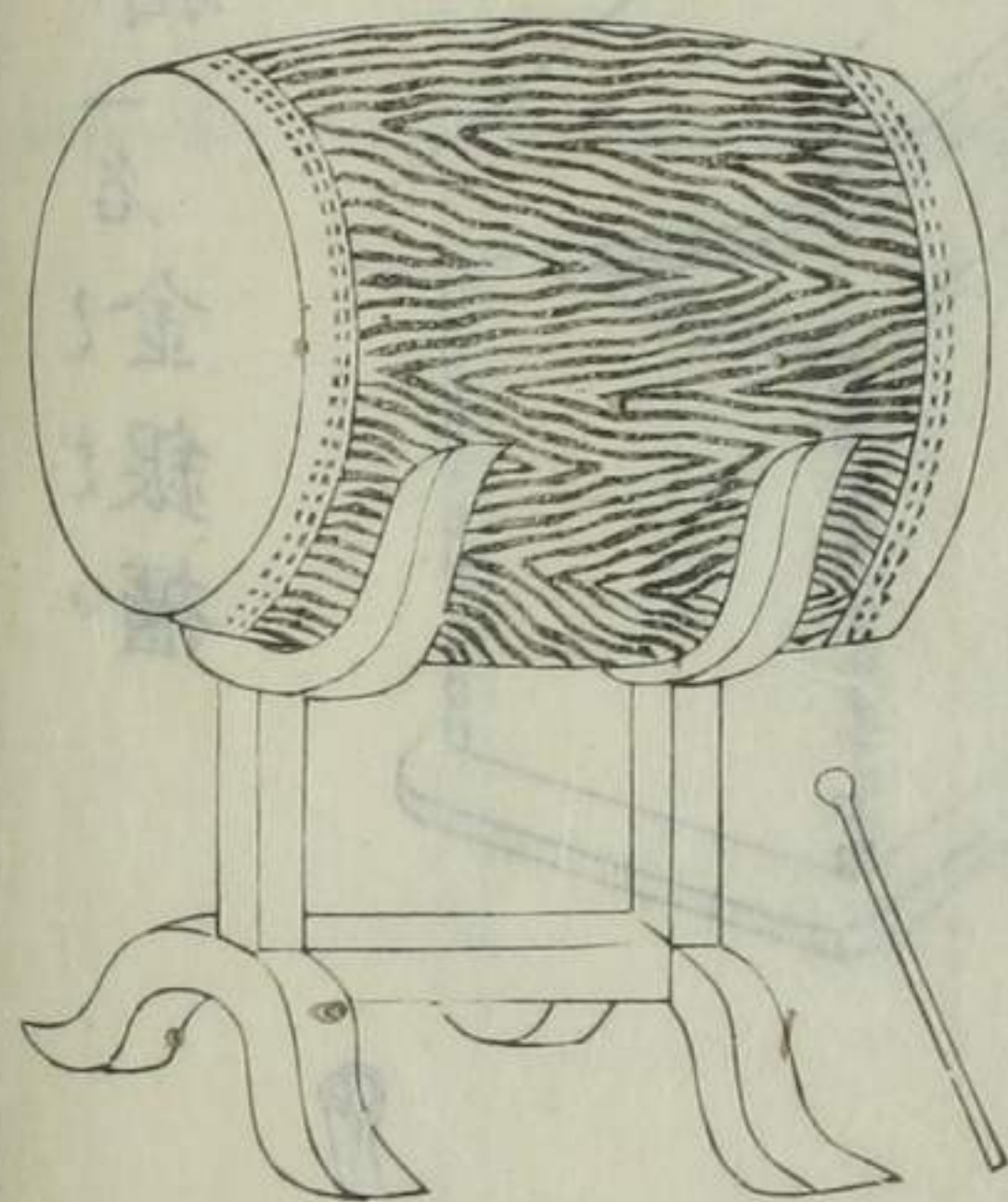


套

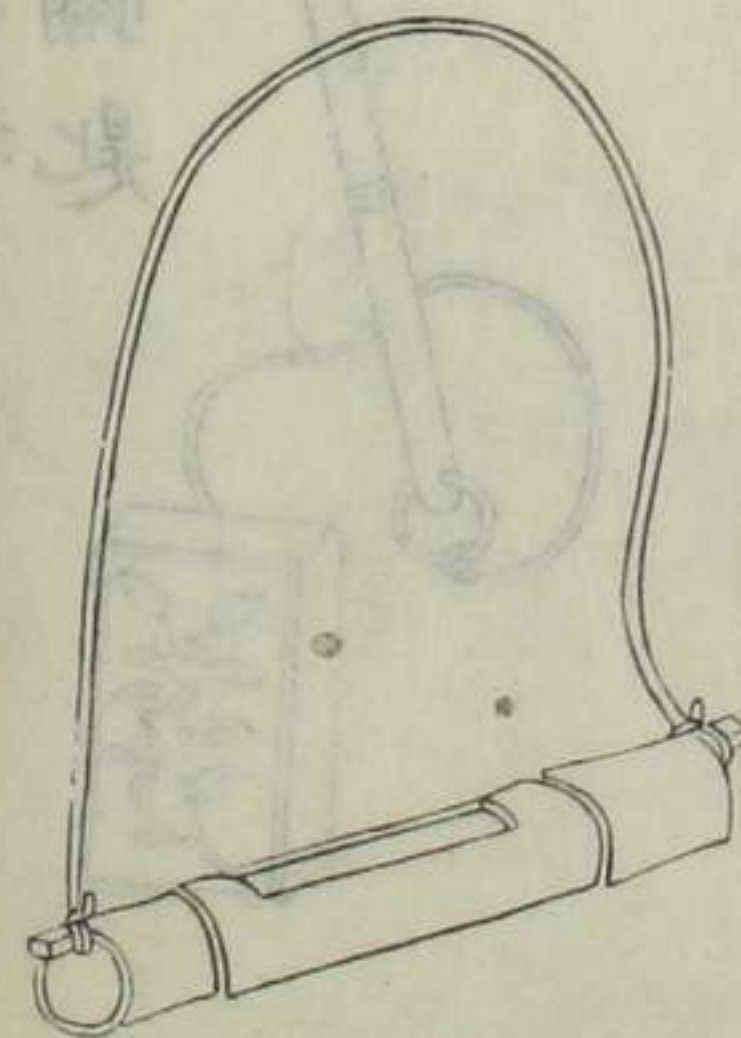


更鼓

一名 街鼓



更柳



あはれ天亮まで燈籠を点く往來は元朝日の出はあきて取引は止む所

○諸店より通ひ帳の括り事あり拂方の三節或は五節あり

大節と立夏中秋の柴租と百斤月二之位火炭の百斤月十之位食鹽と

二節或は三節と一斤月十之位山國と一之位又行家と船宿或船戸と

位時の長巻等か〇問屋を行戸又行家と船宿或船戸と

飄行とも物等賣物等あり問屋口銭あり是は打抽豊とも船宿も同

○農家の都て草葺かして表泥牆板牆等或は設け門構したるもあり小戸の居を

かりに〜とあり農家も大戸と廳堂書房内房等の設け異なすれし行止

も瓦葺かして前後空地のあり所あり納少屋を草葺か建是を打交場と

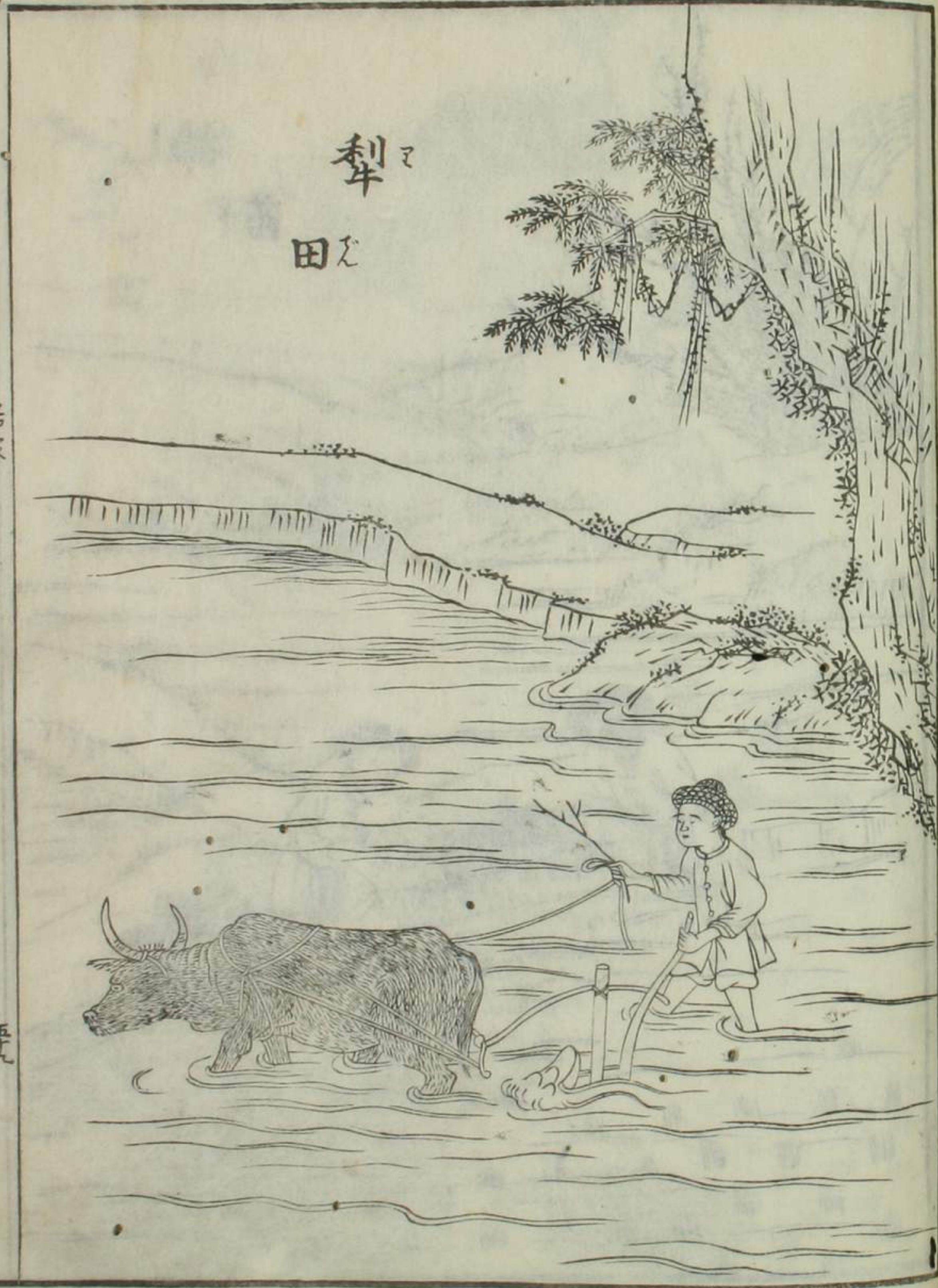
不同しく地面も倉庫を建米穀等貯へ置〇都て庫藏倉と二間方二間方

大小不同あり瓦葺かして四方甄石を以て礎或は石の上内外白灰土は〜

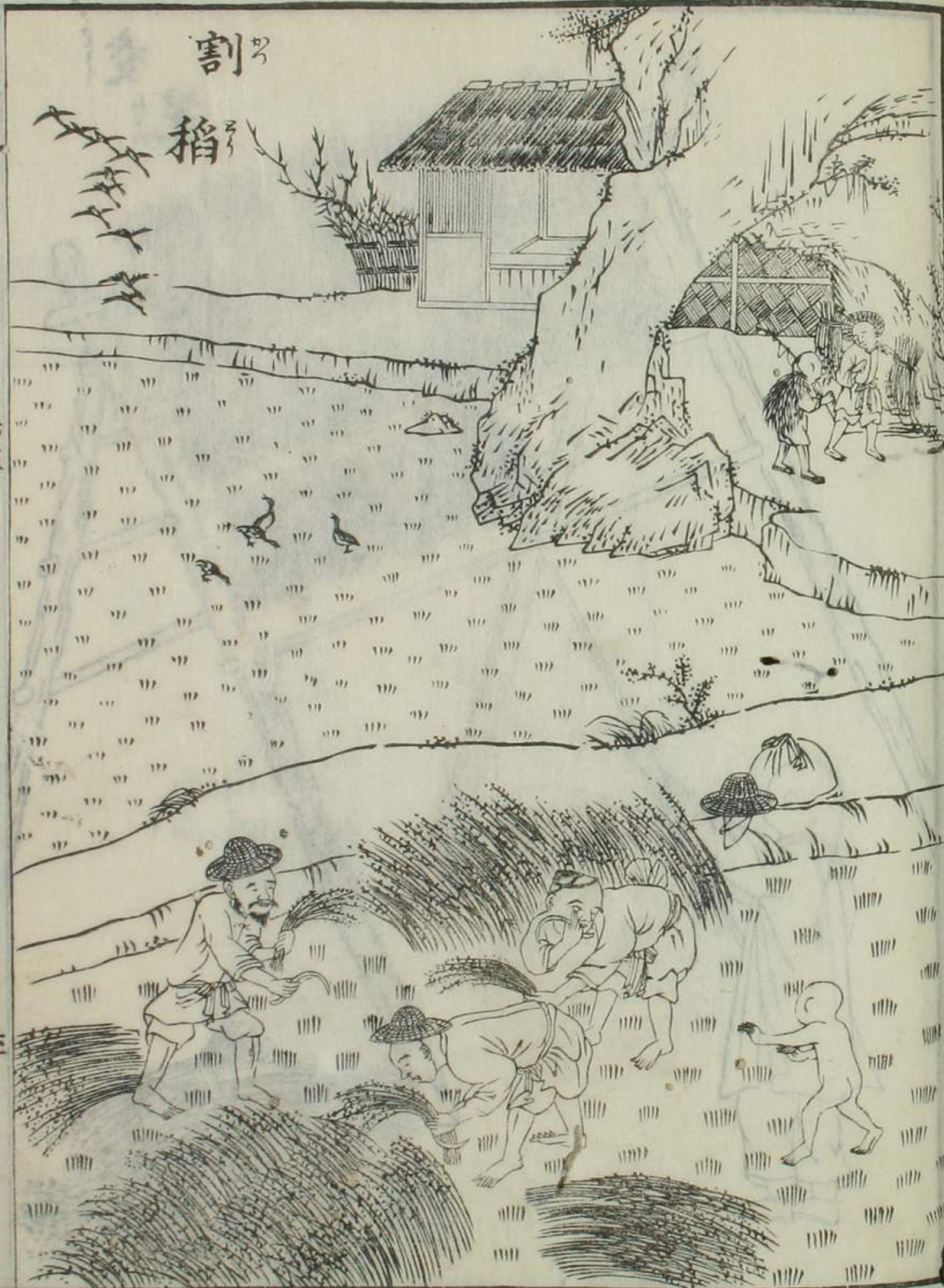
居家

五六

一方(出入口)設け内々板扉外ハ土崩み々關鎖内ハ木樓を造るたふとあり
 半建あり西方(小)牒成以け並樓を造る庫藏を柱成以樓を造作以樓を
 半建の庫藏を多く柱を用ひ四方軌中々築上屋根の(内)梁を多く成
 後蓋を修り瓦葺葺中ハ之間或ハ軌石を敷依物等積並みと成填一
 高積並形(○)農家ハ日朝早く起て耕作成動ハ耕作の繁閑はるて朝出
 の遅速あり多々ハ外ハ刻以朝飯を吃ハ田圃ハ往々(近)食ハ近ハ(別)是ハ
 帰宅して吃ハ是遠方ハ(家)肉ハ(食)事を調ハ碗皿箸等の類ハ竹籃
 入上女房ありハ(小)女等持以て吃セハ(暮)茶ハ(湯)水ハ(晚)飯を吃ハ(休)息以
 是耕作無多ハ(時)秋又ハ(至)小戸の農夫或ハ佃戸等ハ女房も以中々耕作
 事ハあり(家)肉強ハ(耕)作ハ(如)分(時)ハ(食)事(朝)ハ(用)意(以)て(持)越(田)地(如)多
 吃ハ(分)あり(耕)作(の)物(米)麦(等)收(納)して(例)の(如)く(官)糧(を)免(除)分(多)



犁
 田



木
碓



居家

空

麦
笊





水碓すゐくわ

居家

六十三



土羅つろみ

吾家



阿鏡あかん



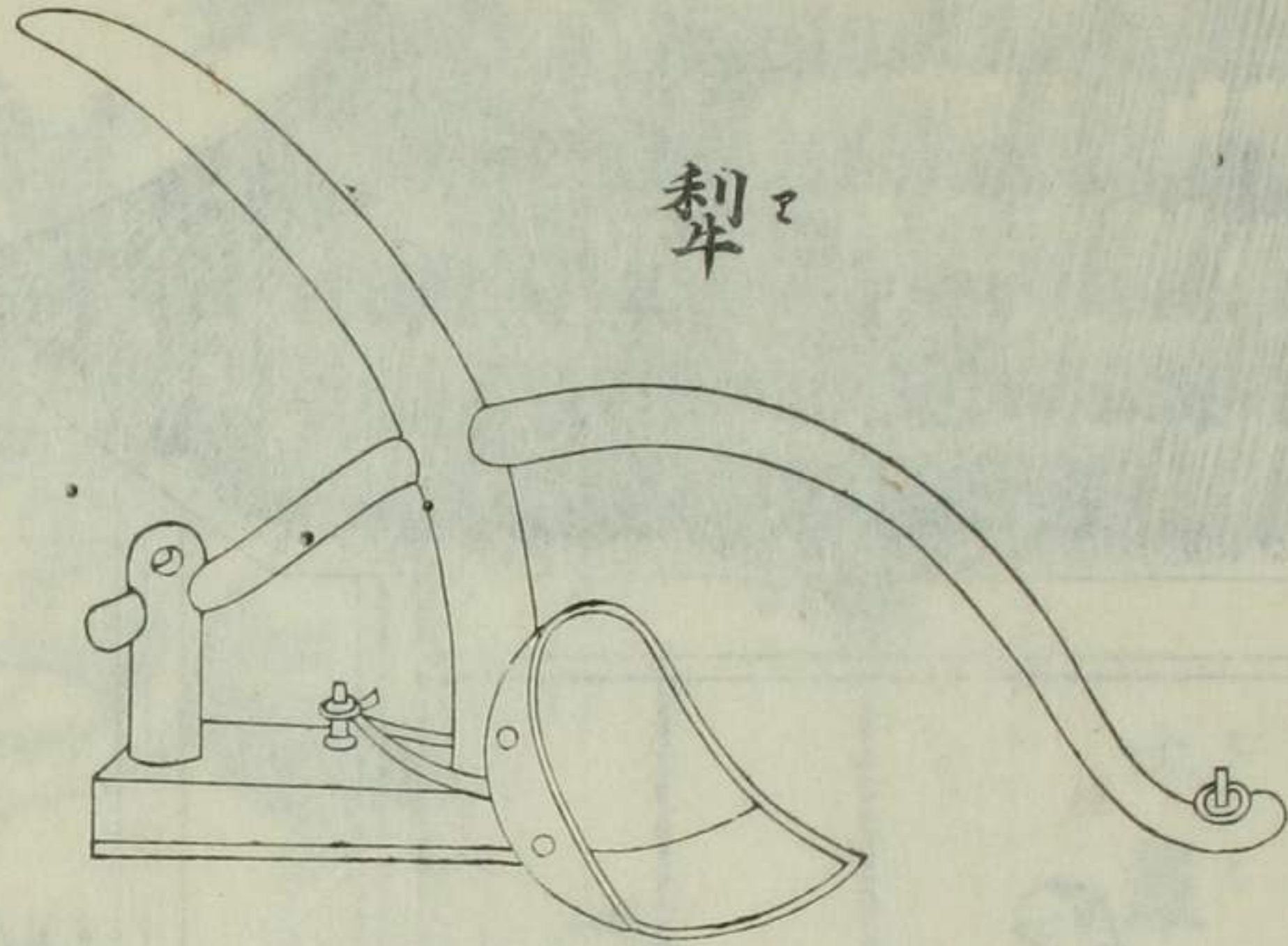
鉏あ



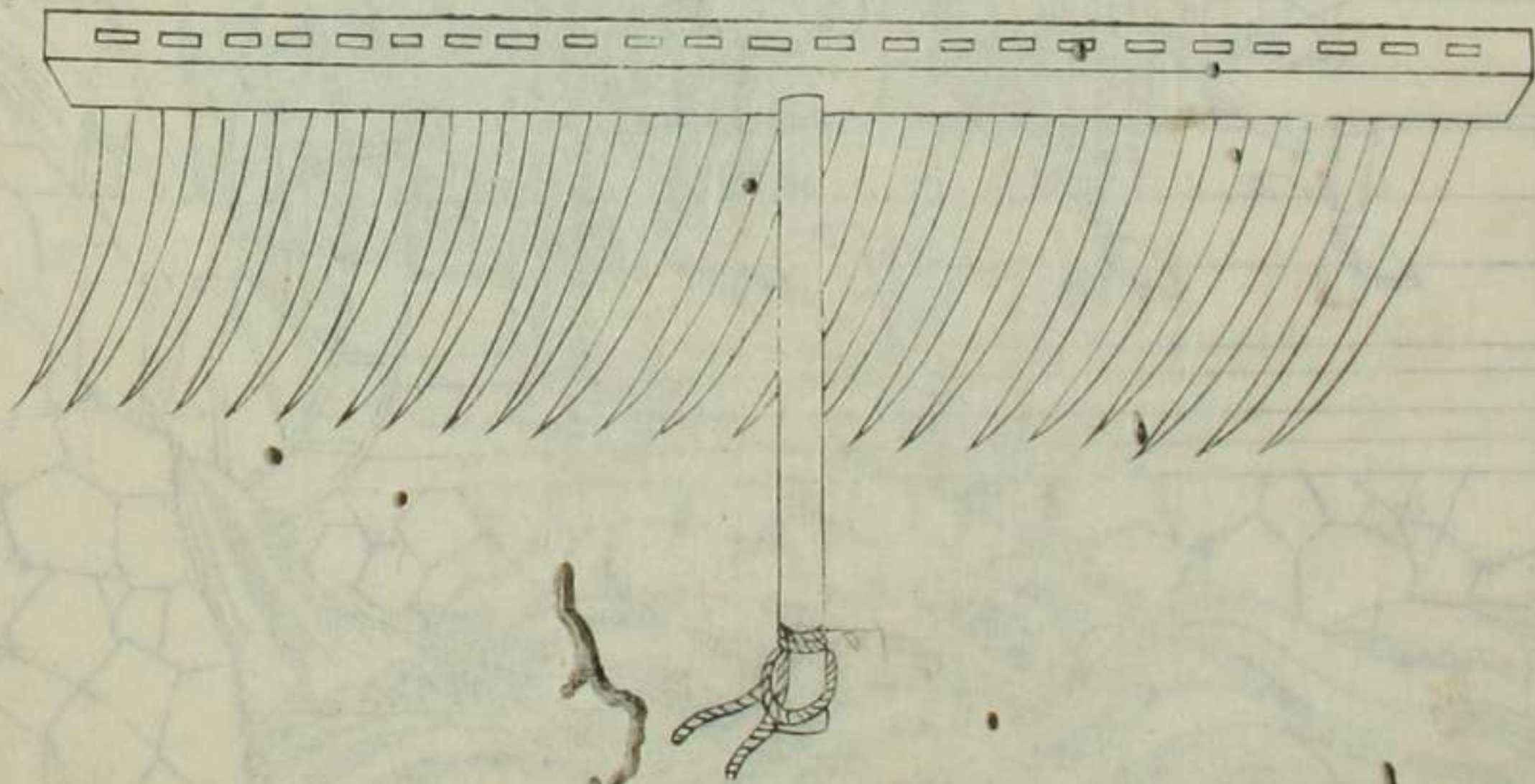
木斫きき

六十三

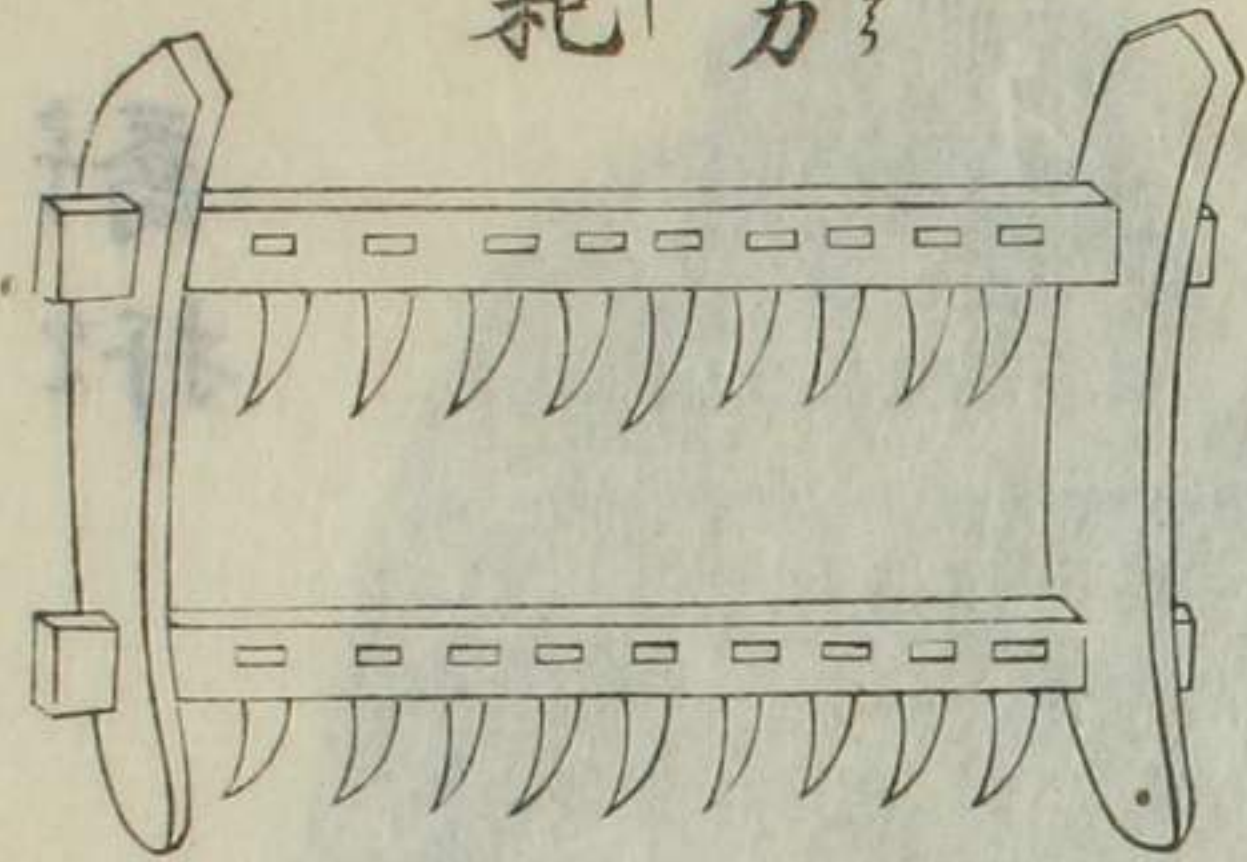
犁あらい



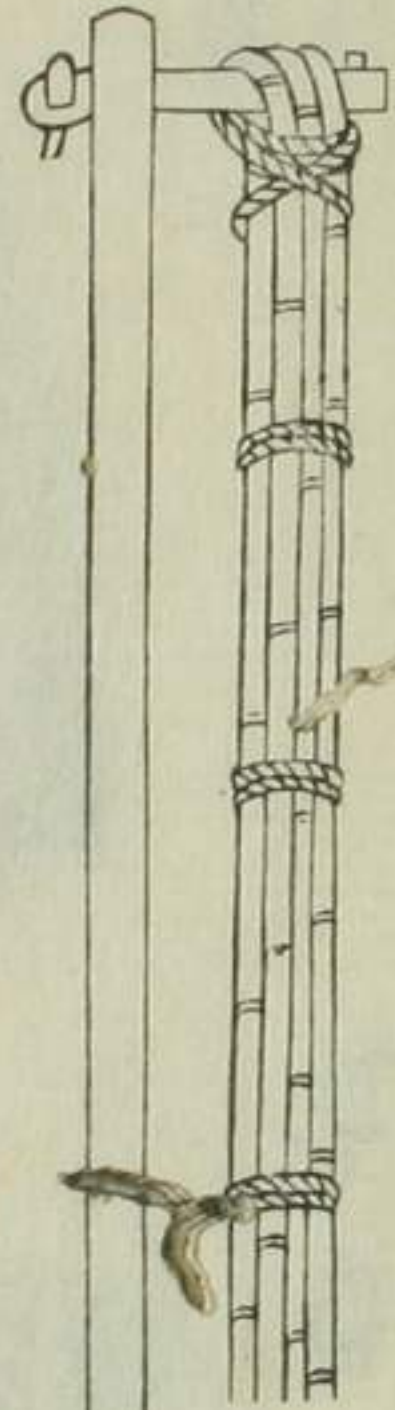
把あ 拖あ



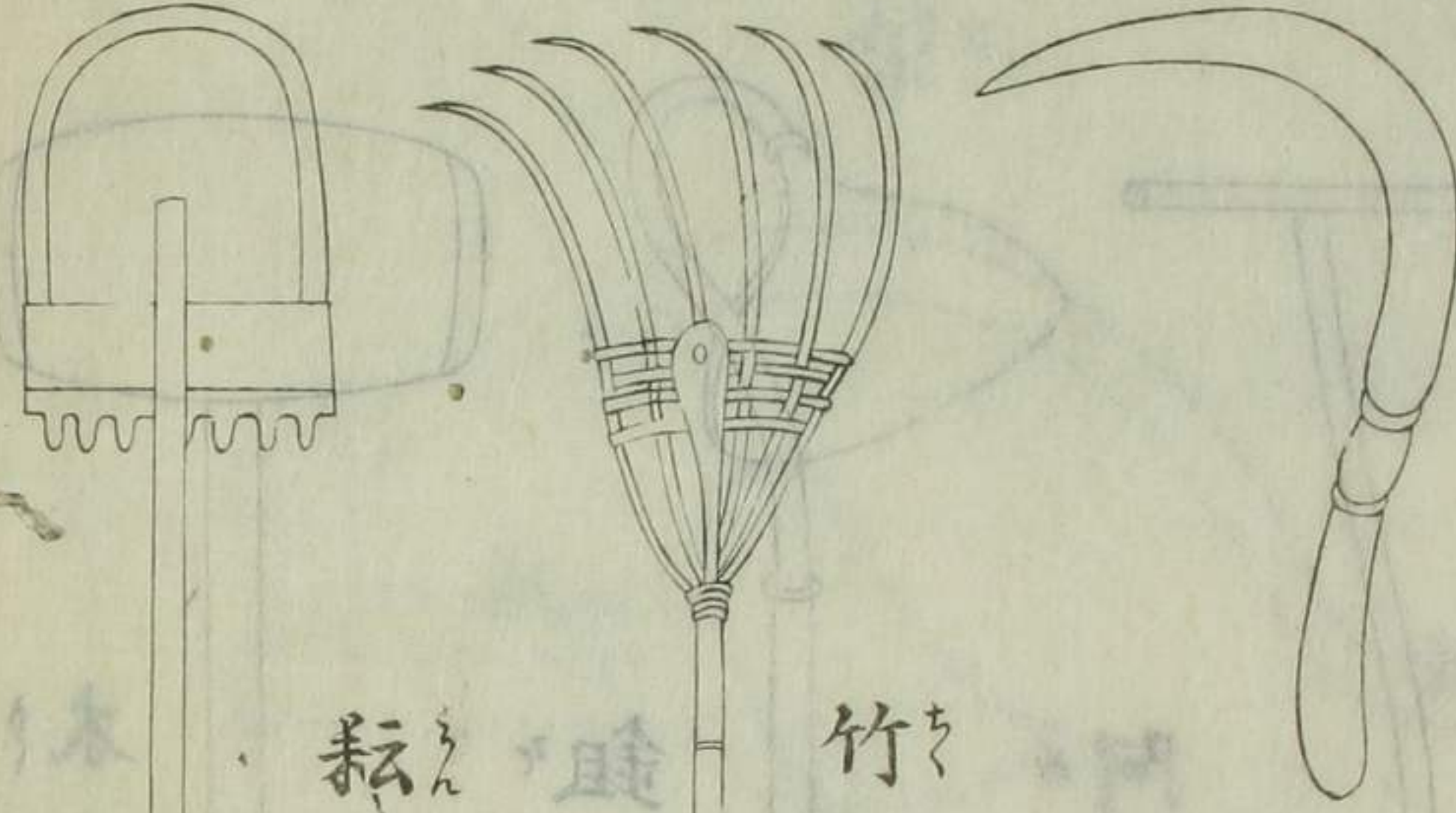
方耜



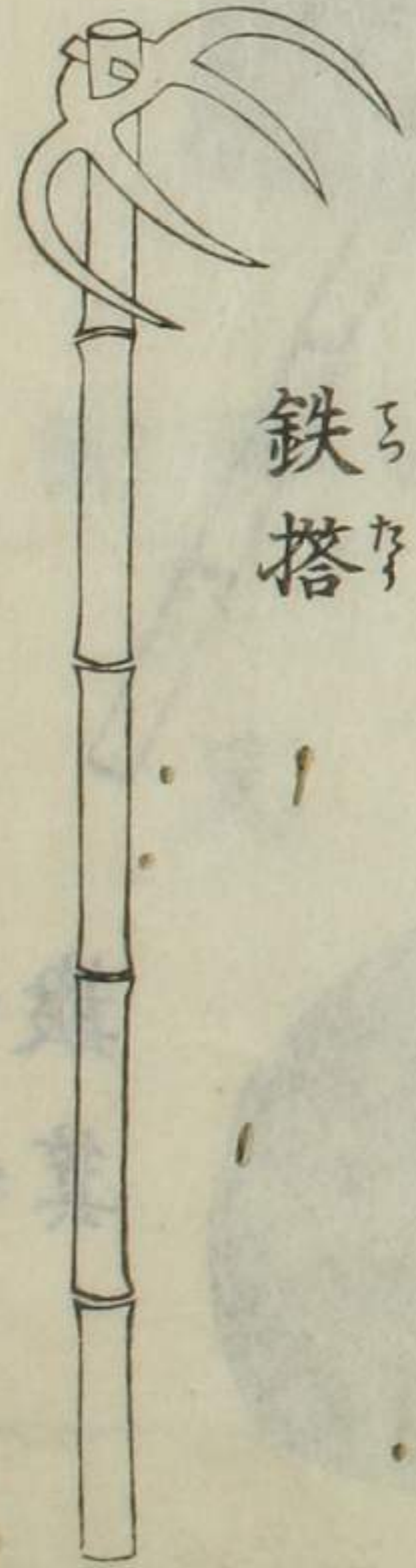
連耜



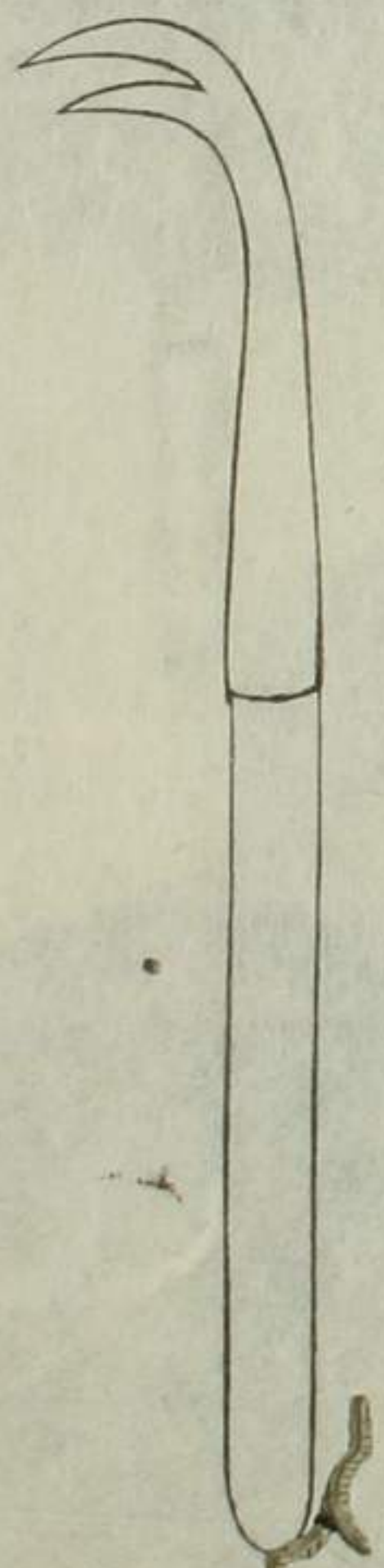
艾



居家



鐵搭

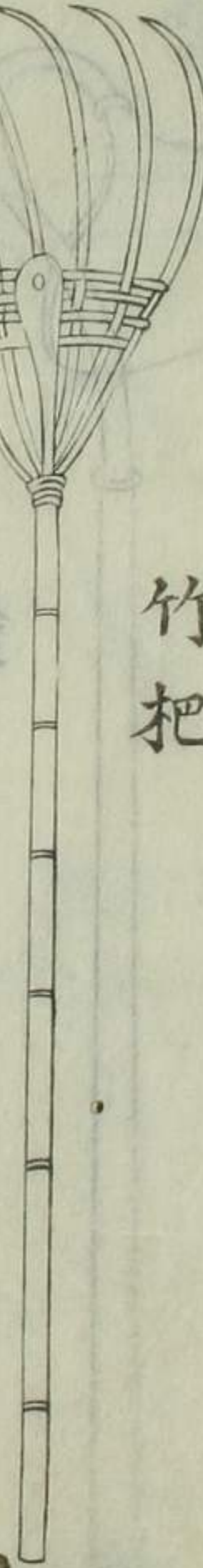


搭爪

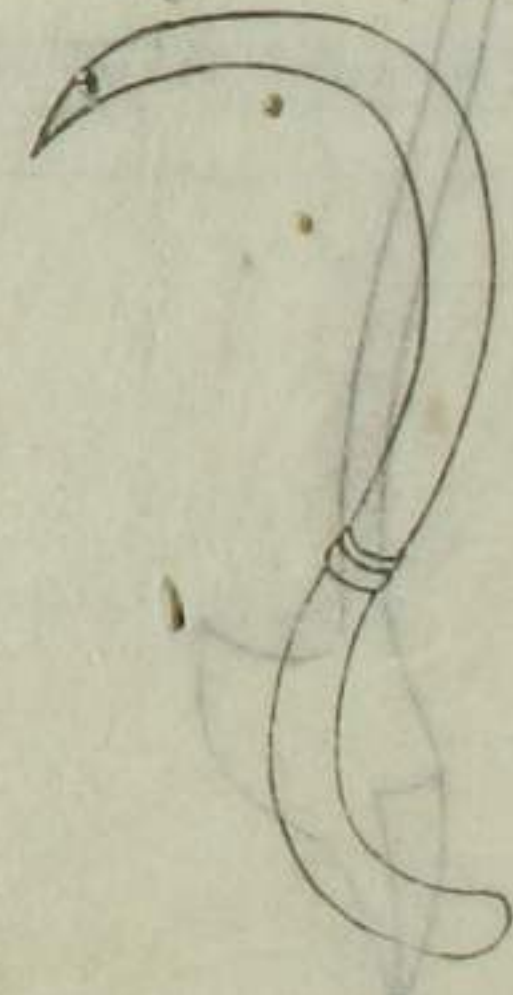
耘把



竹把

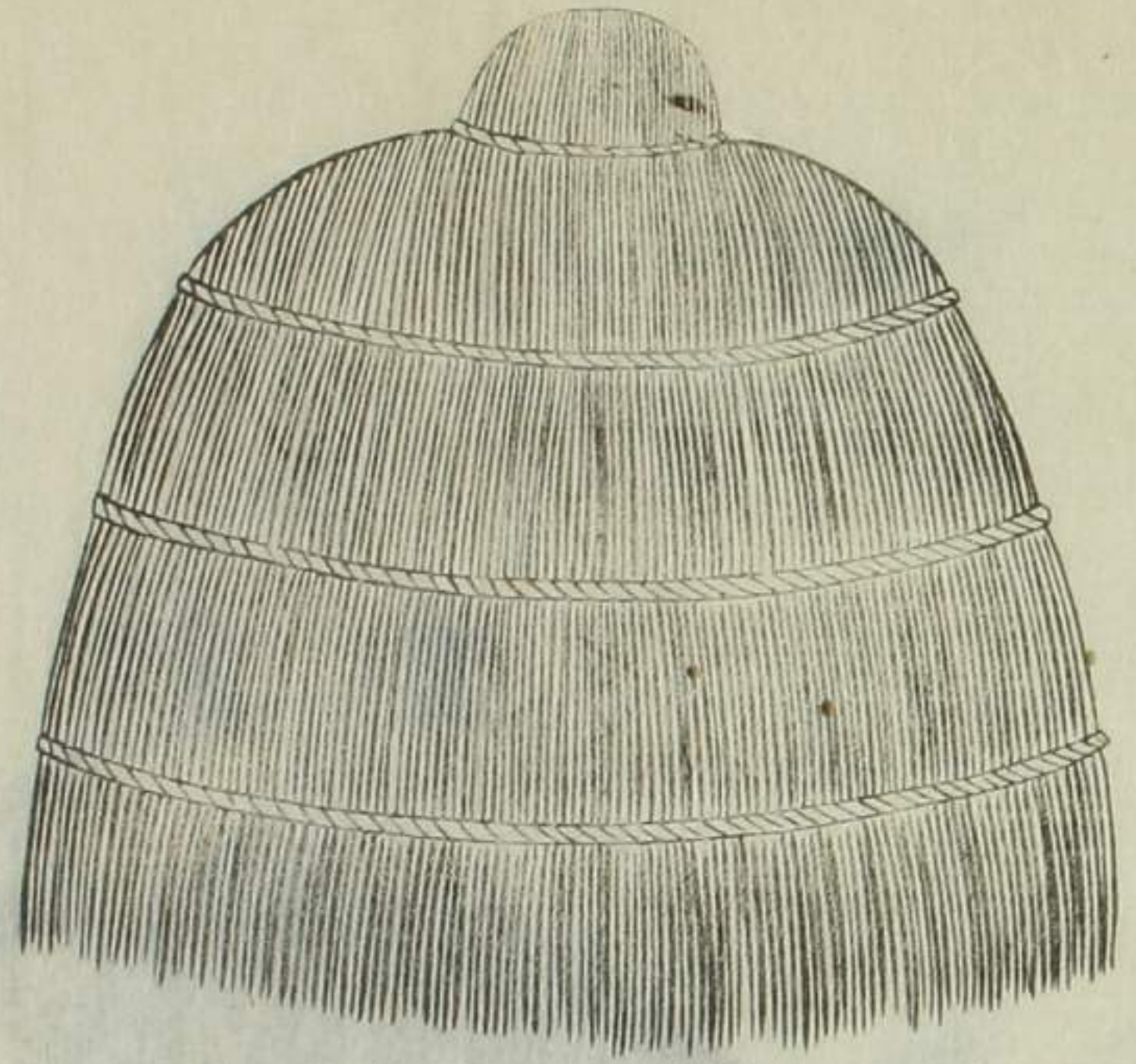


鉦



六十四

六十五



積せん
苫せん

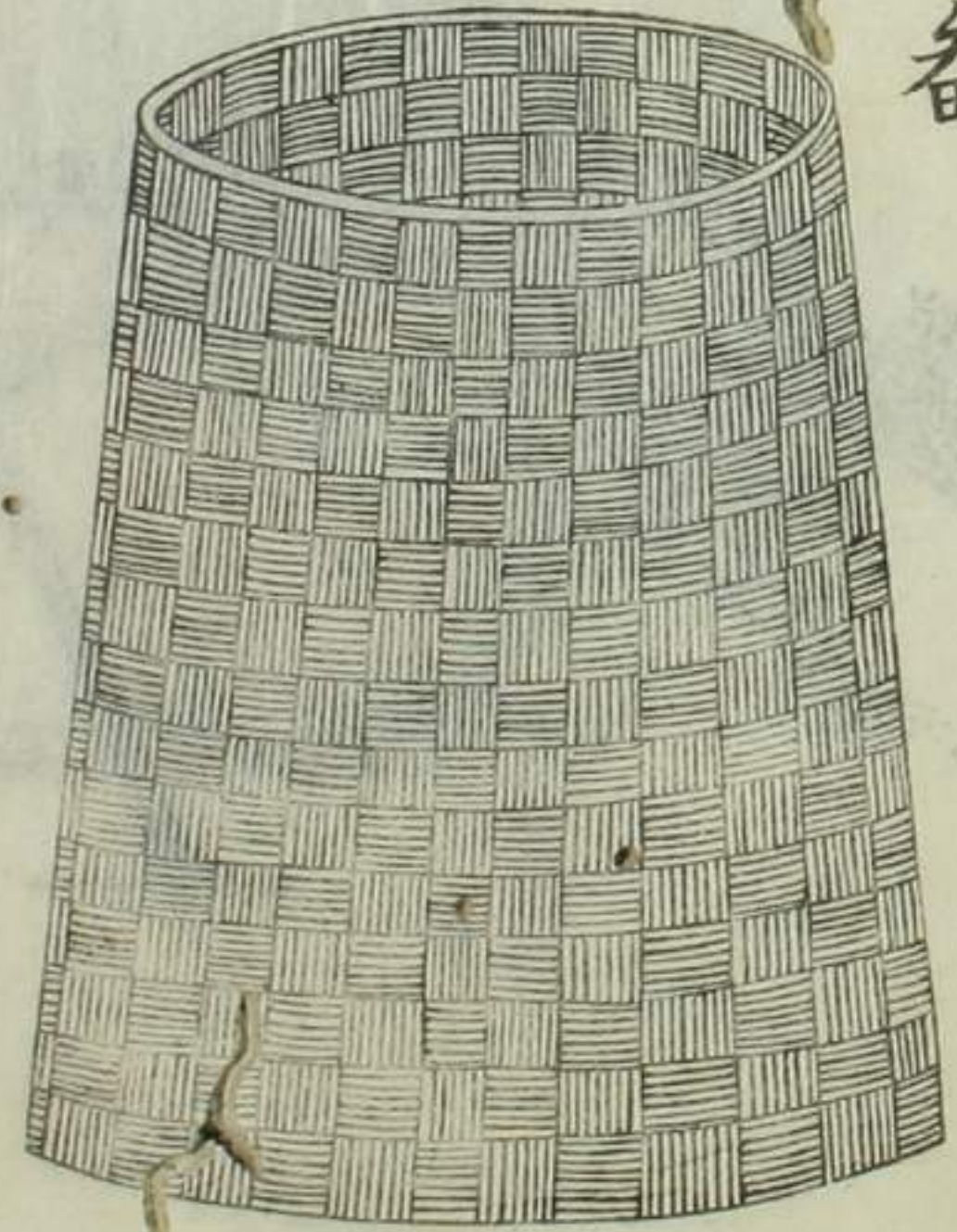
居家

筒す 銀ぎん 包か

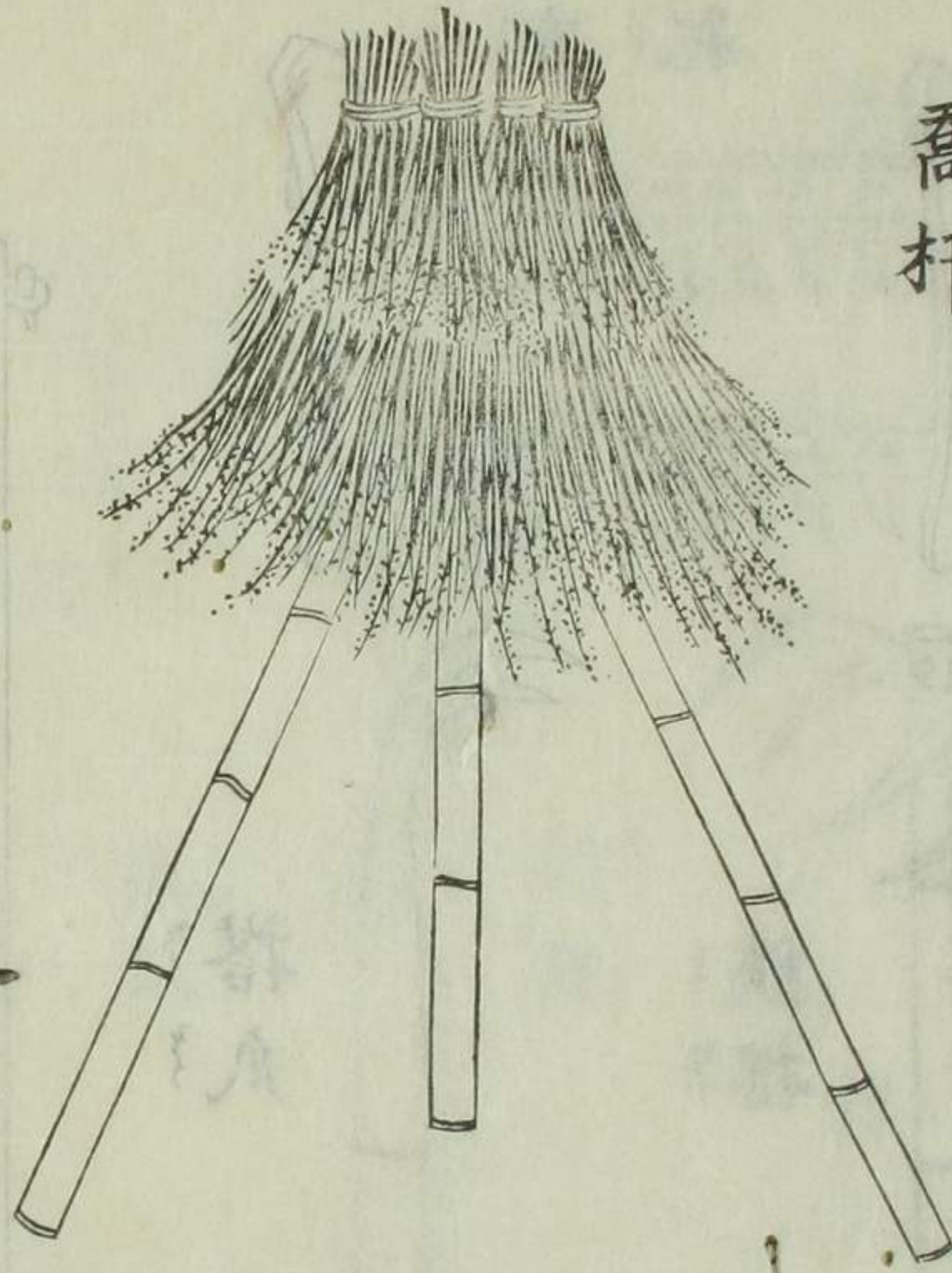


定

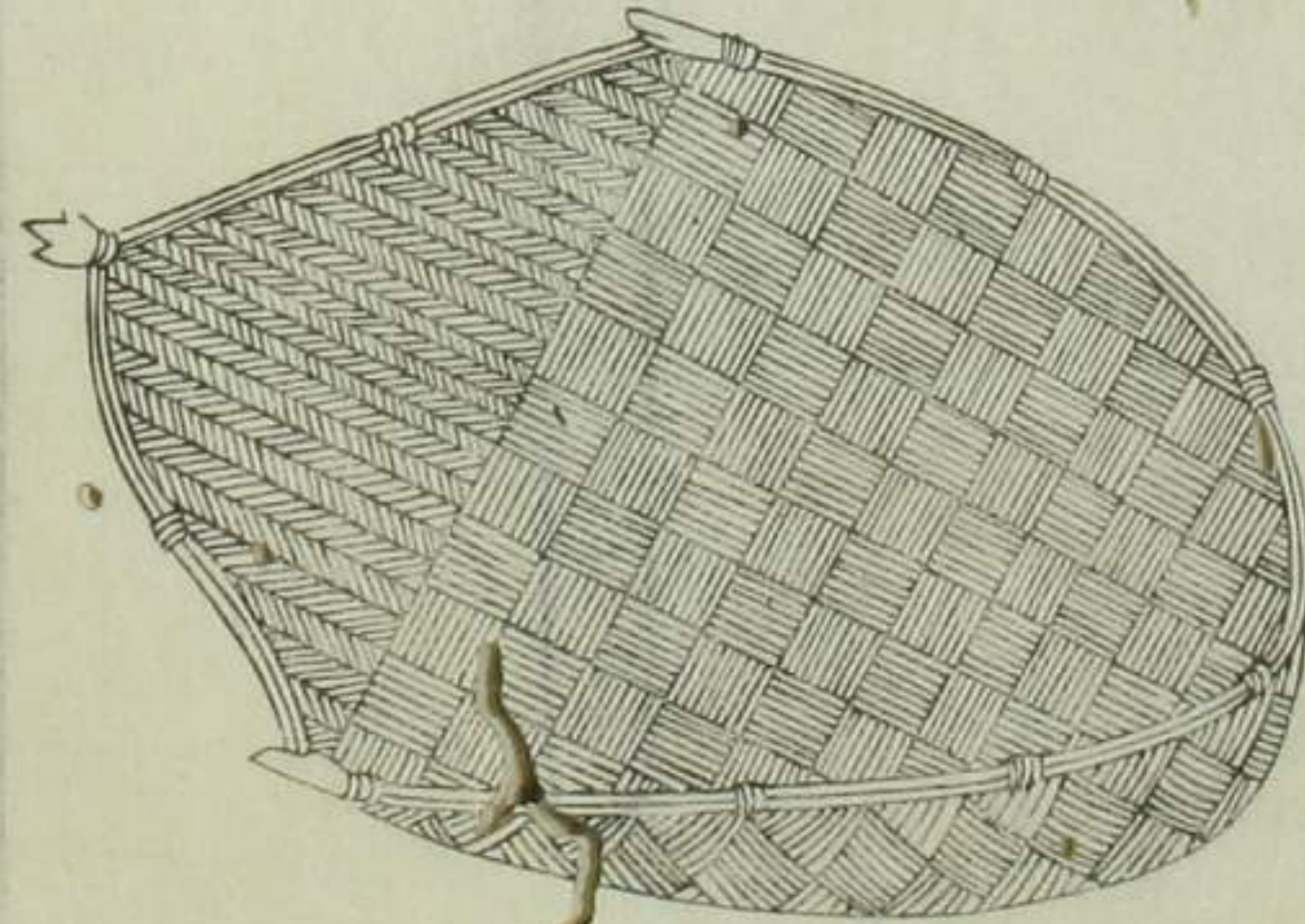
六五



草くさ
畚べん

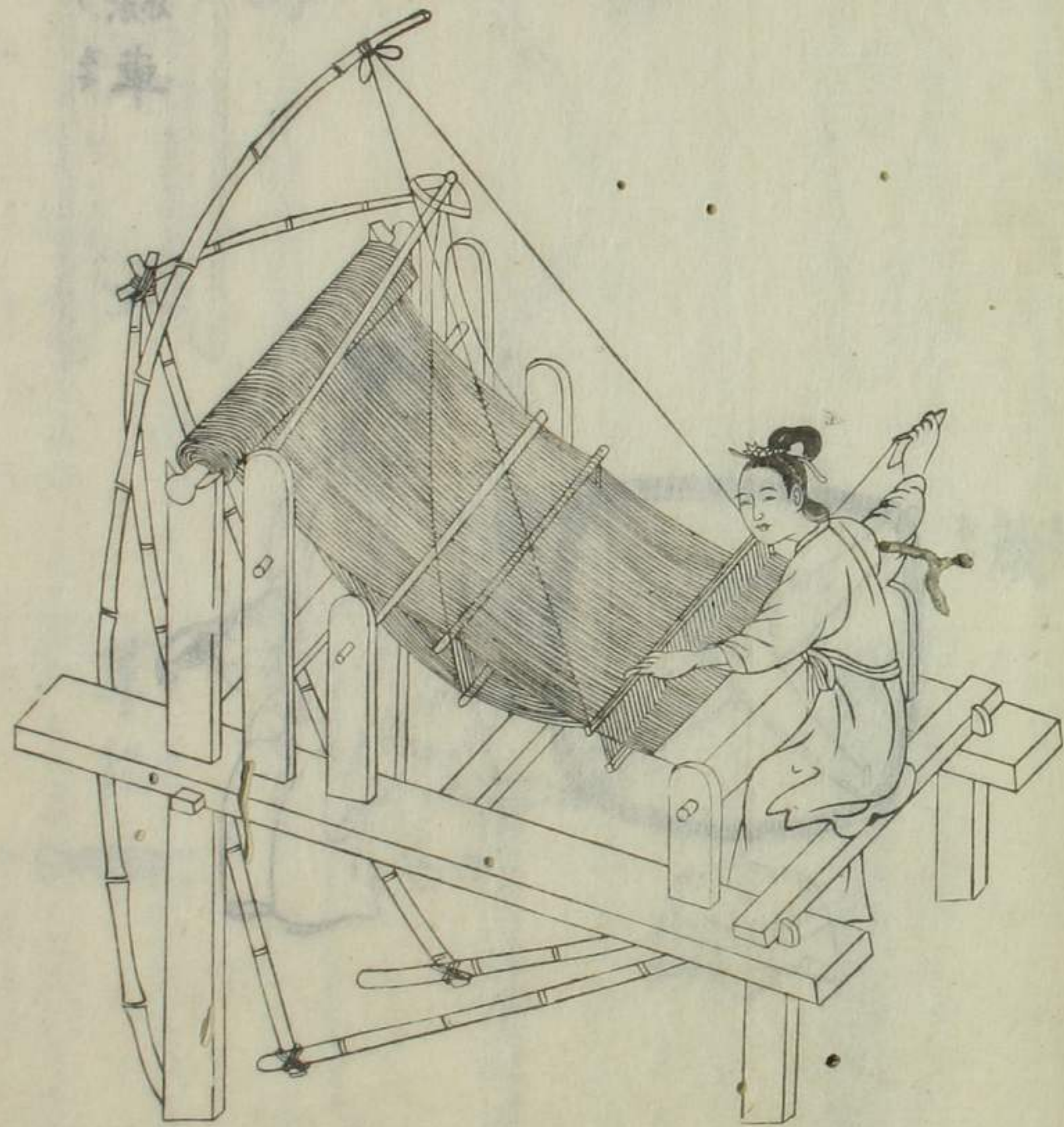


喬たか
杆かん



簸ひ
箕き

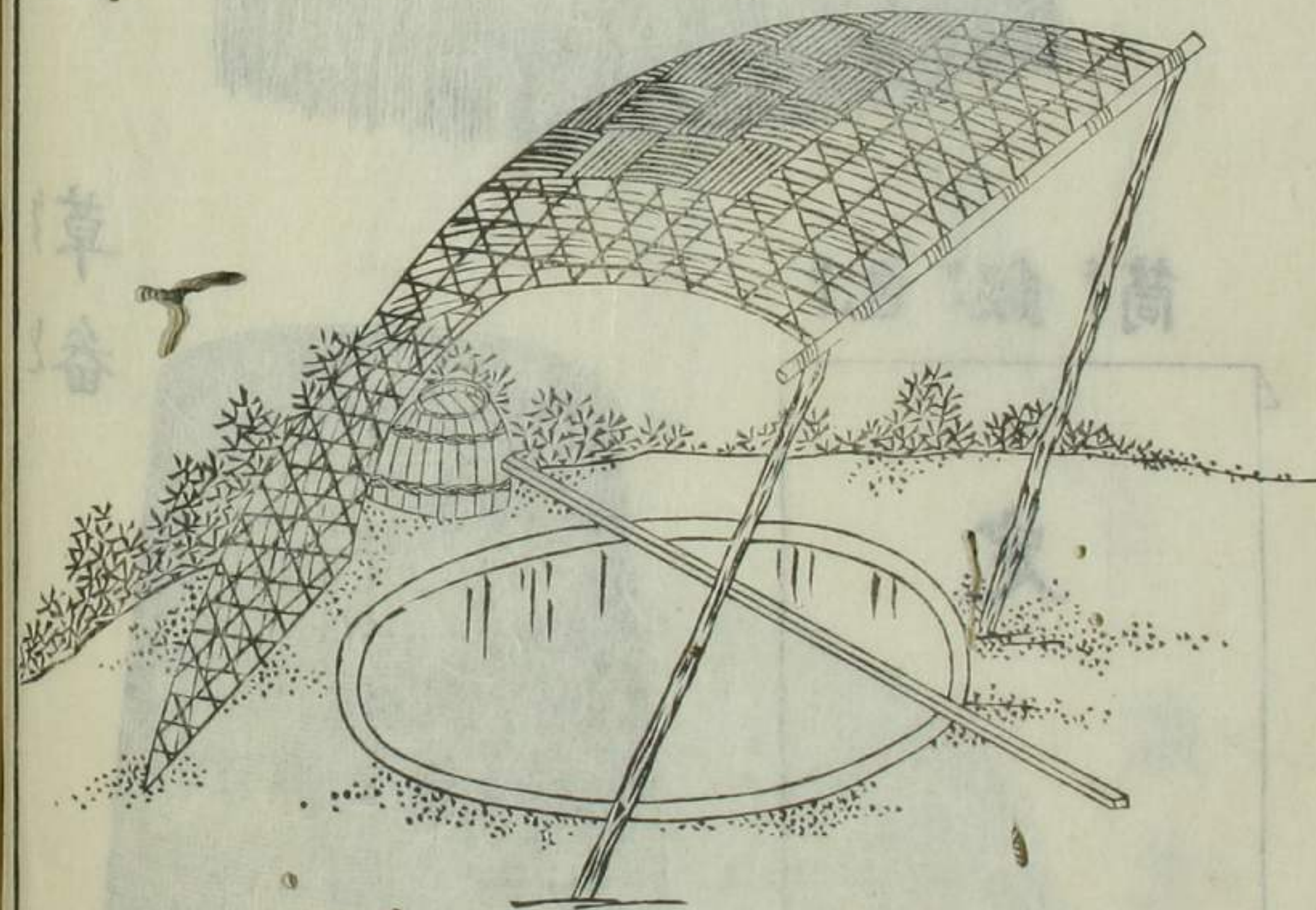
機



居家

六十六

窰 糞

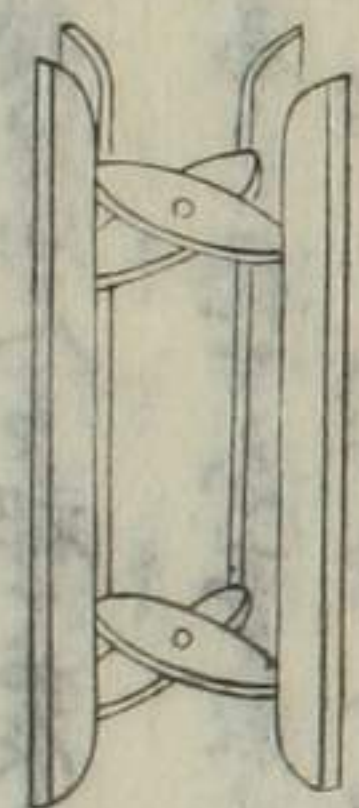


糞
草

草
谷

居家

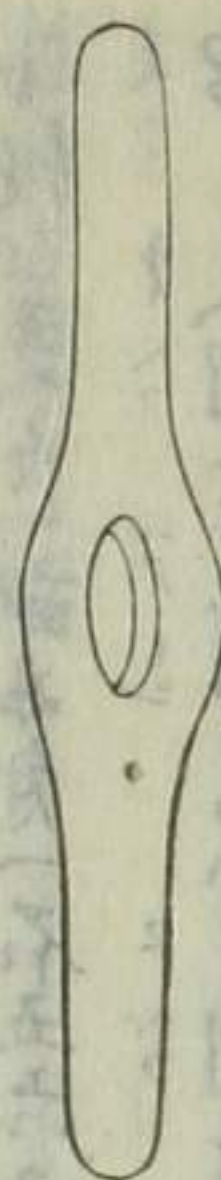
籠子
かご
かご



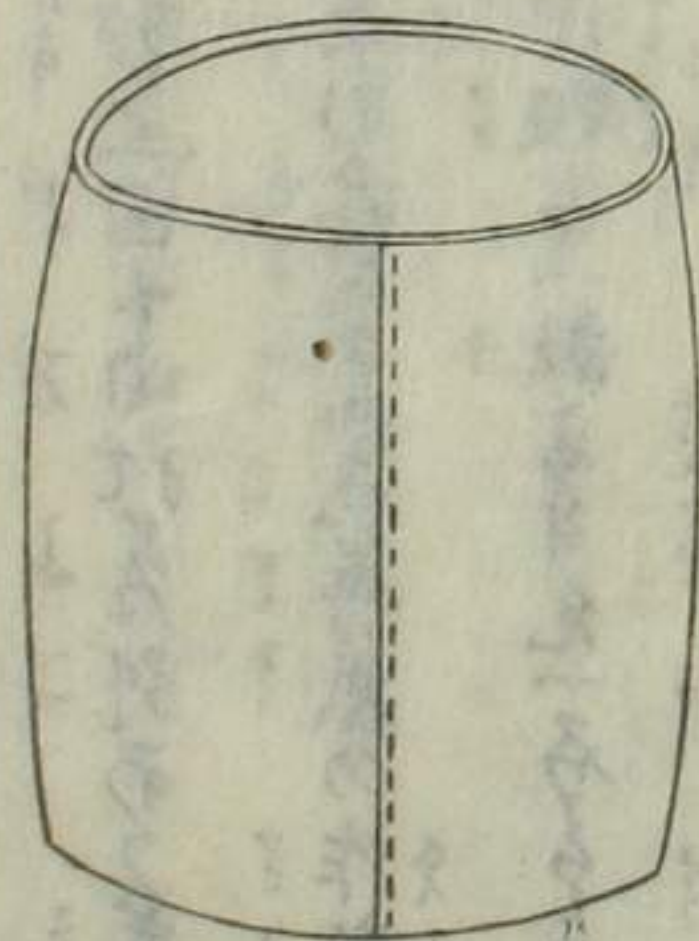
布
ぬい
撐
もち



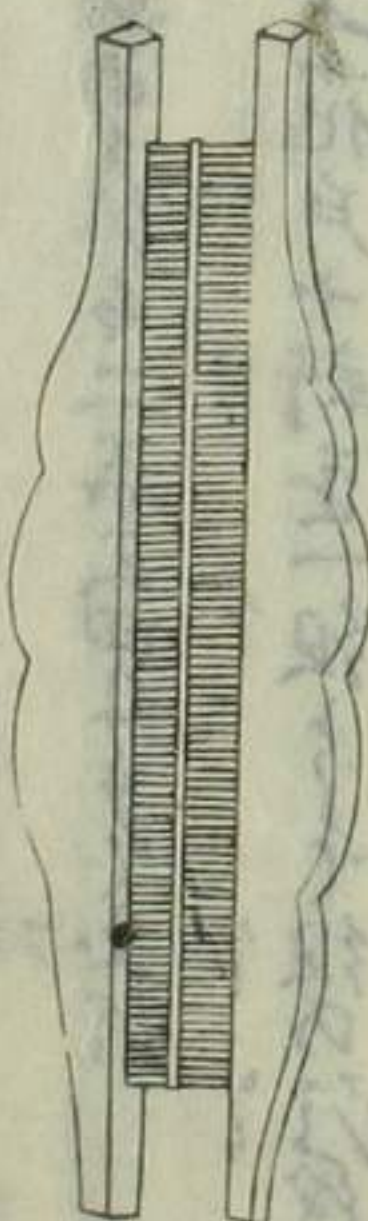
梭
すい



績桶
なり
けり
けり



箴
せん



筆兒
ふ
し



六七

繅車
さく
くるま



家内貯貯(金時)みまかひ賣りもわき

○大戸田地持さか入ら都て農まみ命と耕作せ先年分何程く不田租を三

己自家みく作すふ事私く佃戸よと約定の通り種を納め其内めく官

種を納め残るは成貯(並家内)年分此食種を存苗(餘分)時み随ひ賣去

○官種と九田一畝み分と米一斗程税を納む上田下田此差別あり米めさ

納めはり銀納ありは銀米納あり米納と耗米ありは米色善悪の作難ありて

至く面倒ありは大戸の定り多くは銀納あり田租と一畝み分九一石と一畝六斗

まで不同あり田地の善悪農夫の貧富によて不同あり官種の穀を去糠米も

多納むまら一畝み分一石五六斗よと二石ありは二石三四斗よと出

物く人別を花名とふ戸別を花戸とふ花戸十軒を一組とて組の成戸頭

と云此戸頭と十軒分の銀米成催促して取らるなり此戸頭十人の成甲

長らふ村里の大小に依り甲長多少あり此惣頭を里長と云此里長一村の納銀

米成催促して縣み納む此時花戸自身み納む其納銀成包成袋あり厚紙二

枚合せみく送る定の字此摺判あり納銀と櫃吏とよ役人包の銀を請取袋此

上み某の村某此項納銀米何程何月何日請取役人某と相總收簿みも同紙

み記と米納成上倉交種とふ納米の外み加耗茶果倉書斗級紙張量斛

看倉等此入目あり又船運漕米水脚塾船神福等の入目あり

○米成貯(並み)倉の下に五二寸角の木を埋り上み板を敷て米成積至

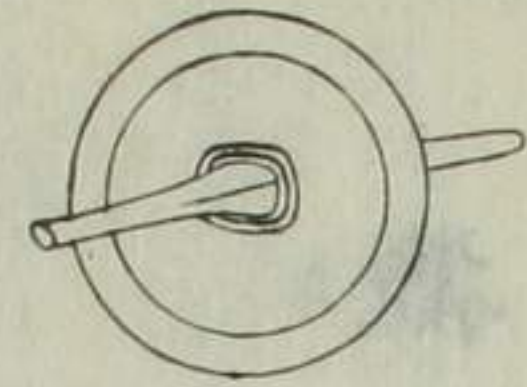
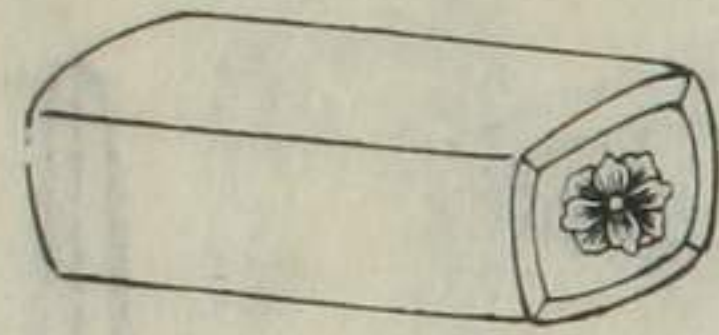
時倉の扉總門を開け風成透し虫入るは板成用也其一年貯(至)新

種を收ふまで餘分残ありは皆陳米を賣出(新)米成貯(倉)の方位は空

地の有(並み)従ひて制(並み)作(並み)等(並み)か(並み)家道殷實あり善事を行人んと思ふ人ら

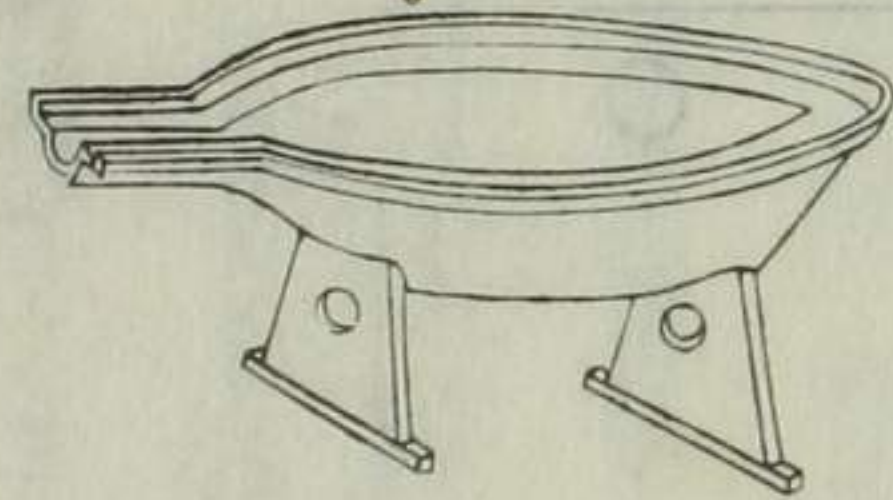
官に願(並み)く(並み)年分何程の米成納(並み)く(並み)非常の備(並み)み(並み)く(並み)米穀を輸納するも有

枕まくら 脉まき



藥くすり 研けん

褥まくら 脉まき



床とこ 脉まき



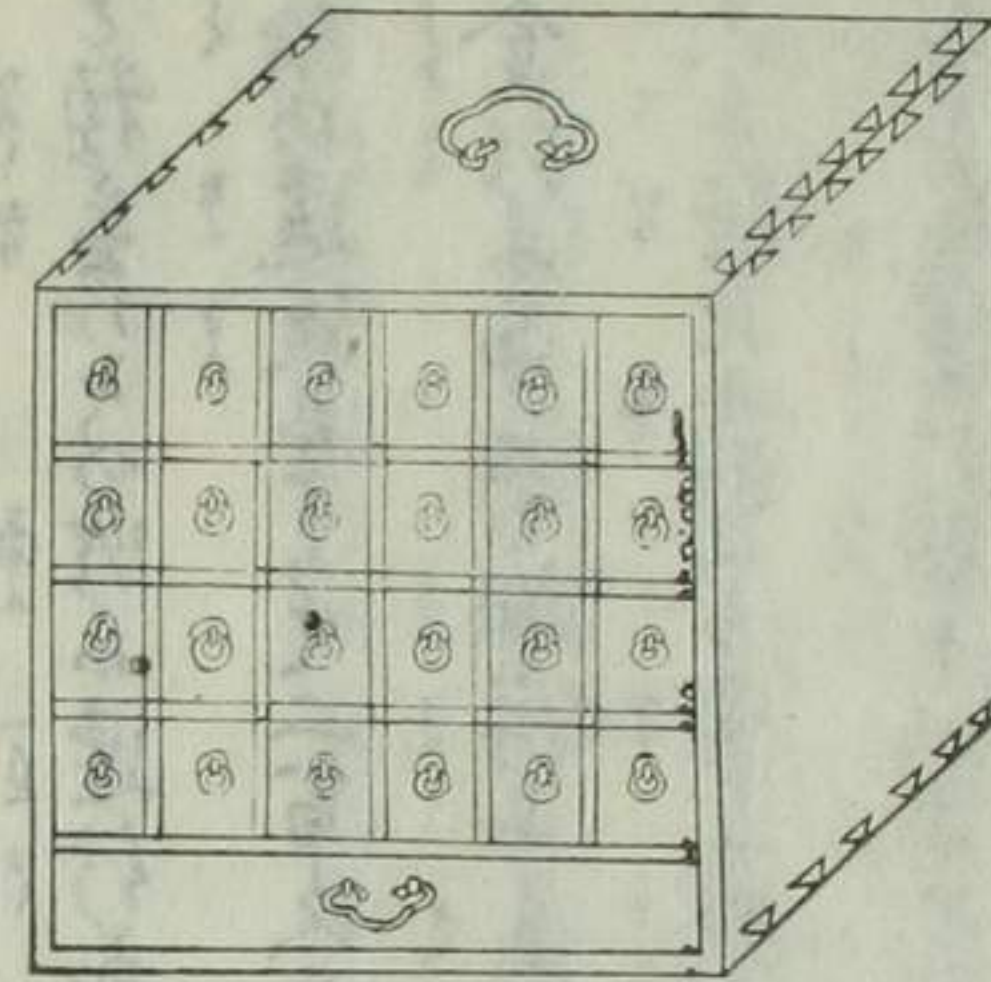
刀やいば 藥くすり



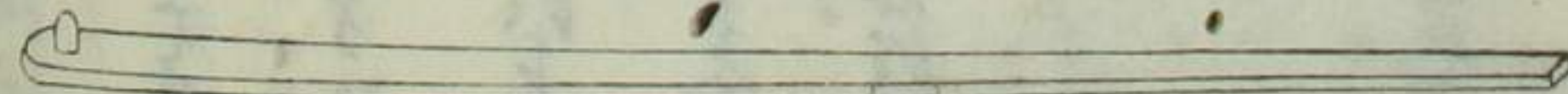
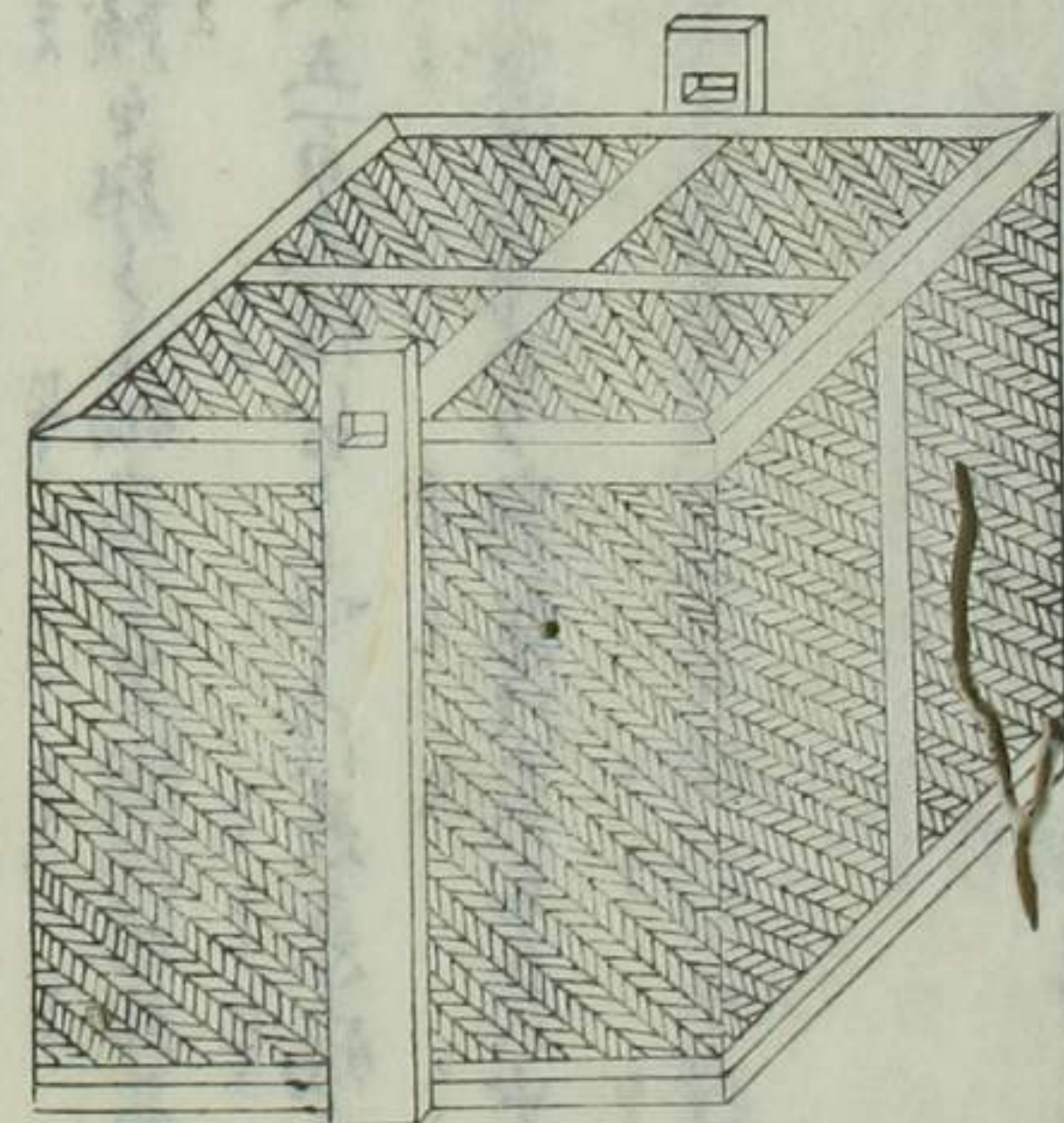
居家

主

藥くすり 箱ばこ



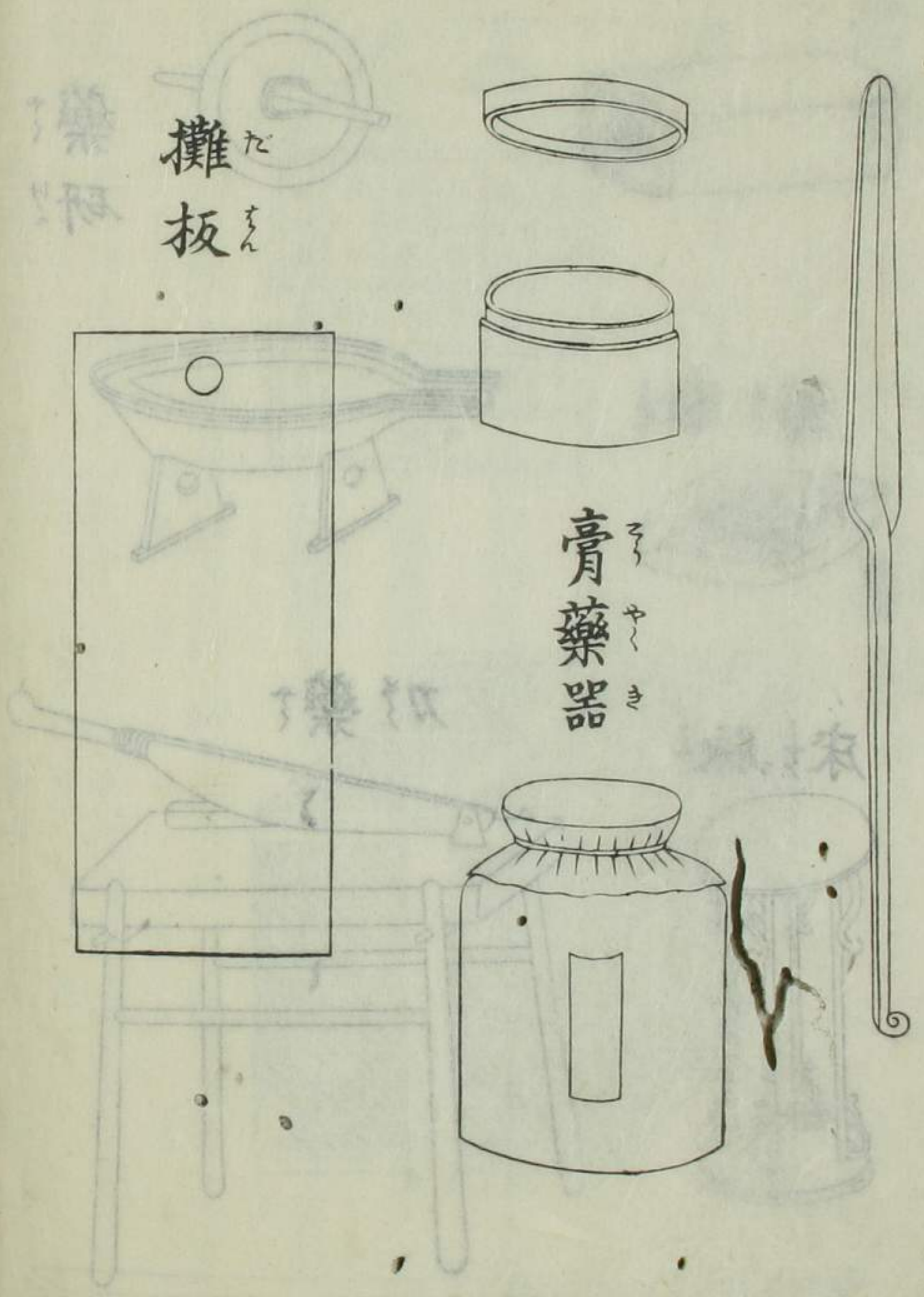
套かぶせ 子こ



膏藥刀

膏藥器

攤板



○金の上品は足赤金と云ふ正金也其次に九程一歩八程二歩七程一極下品は六程

より量目通例五百目以下折あり分厘の小切は零碎金と云ふ惣じて金と國の

珍宝あり少平日調物等の通用あり銀中買ふ時は十六七双位その餘の金は

足赤金の別準は十に五双又十二三双位等なり

○銀は元寶足紋元系は名目あり何れも真吹あり元寶は足紋は辨より付

銅は少く歩差は只紋を元系に辨る時銀十文は九四五分位此二品と

上品は中品は鼓封と下品は二種と三種と元系の別あり一刻五

歩は鼓封と元系銀より五歩は別あり元寶銀一挺量目五百

足紋銀は三十三文宛元系銀一挺量目十文宛小形は子と云ふ又碎

銀と云ふは入用は切げのみす

○金銀の産る省府州縣ともあり布及司の下司は庫司ともあり此庫司

居家

主

ゆく金銀成改多事あり兩都屋を金銀とよ又元鋪より則金銀又傾限道
少之金銀を鑄化して鑄利を出入止足後元系等色くお鑄をふりて元宝銀
むらりに年月地名金銀通の姓名成記也

○錢の銅錢一文の量目一ふ二ふお吹き成定法より相場當時下五の所
ゆく七ふ八九ふは行あり後ハ借お貫元百文二百文ありふ文を一串より
借と麻成とよて錢を費たり銀札は久絶くおし

○河津等お民間有徳の者よと金銀成出して公用をゆふ事ありと成代
捐とよ○官庫お貯ふ金銀と皆元寶此形おして貯並たり
○米の高下等から江浙の米成上穀より今當地お持越す湖廣等の
産おと仙米と稱し下穀あり而早稻あり江浙上穀の並成より一割二
割も相場下並たり一石二十五文との米ハ江浙の上穀あり一日一人乃食

○九条一升と成○惣して馬お成成員廿馬と驛路の用成あり又駟をせ成
一人おと成成何おと成九百二十斤程米二三俵何おと成小車お載せ二人よて
推致又と米に挽りて十俵より成時と大車お載せ牛一疋又と二疋お挽り成又山
東と大場の都會おと成と成換成場おと成牛車に橋を立帆を懸順風
お吹くせふ事もあり○市中米問屋あり表向定りたふ事たりまよと成定りたる
株外米行とて諸省此成成諸成相場を見合せ賣出成のこ

○米一斛を五斗二斛を一石と成 又一擔
重三百二十斤俵造りハ通例五斗俵あり
一石代銀九二十五文と成一升お此方の升おと成五合お此當お白米を米おに
店小賣あり貧民と日買して日用成并成○麦一升錢十文と成江浙福建山東
と成同し○大豆一升同十五文と成專油を搾る用成○黑豆一升同二十文と成

○赤豆一升同十五文と成類の穀物成店中お賣出もあり又ハ此品の小賣の所も有

○糠一斗同三十文程屠ふるを買く家猪飼養に用ひ又牛馬の飼養に用ひ
 兼く得意ありて麻布持越く買調へ ○米麦等の柄に制限は升賣也
 其餘の諸物皆介賣 ○絹本綿類品々名目多し代銀等から本綿一端
 七八分より十分位衣類一表裏本綿ありて一番庄屋九十六七分綿入と二十日
 二十三分位掛ふ在綿よる本綿を持越して城下の同庄屋の別み賣込一不あり
 是を字號と唱ふ是ハ年行ふと遠し格別大金成貯た者めあはれは能は
 紙類品々多く代銀等から奏本紙あり一丈十寸五分又と二十日位練紙
 一帖百廿八枚あり五分位時あり五分位の事もあり上品五分四五分位
 もあり松江美とて五色の紙を一帖二十五枚又と二十枚づつ定式なり上品一帖
 七八分位あり五分位下品を三四分位の事あり
 ○茶一斤中品の別九銀二十分位上品を二三十日四五十月まであり竜井雨前武夷
 茶一斤中品の別九銀二十分位上品を二三十日四五十月まであり竜井雨前武夷

在上品より ○塩一斤九錢五十分位是も江南浙江の産物上品とす
 ○酒一斤九錢同三十分位六七分位程 飲食の部 種油一斤百四十五文物にて燈
 油あげ物何れも種油代用白種油代用菜油と唱ふ菜種を油とす
 ○薪百斤九銀二十分位蘆柴本柴西品代用白蘆柴と唱ふ成長さ二三尺位は
 切竹あり 胴二所に輪を入持運ふ本柴も同じ九二尺位あり一把握三十四斤
 位 ○銅一斤九錢百四十五文位 ○鉄一斤銀二十分位鉄釘一斤七十八文位
 ○石大小による代銀等から長さ一尺位方一尺位あり 礎石一石九十分
 位 礎の積粗あり七十分位もあり ○竹長さ四間程あり四寸九寸位一本積
 二百文程 ○柵本大小長短本料美悪本名の差別あり代銀等から柵
 六七寸角長さ一丈五尺位の別あり二十日位あり又六七分位
 あり八九分のものあり柵を柵より二別あり並り本の上下によりて代銀等から

○石灰百斤銀四文程 ○炭百斤同十文程 ○大根一斤銀二文程 ○水菜一斤
 同二文程 ○たもと上品一斤同四五文程 下品百六七十文程まで ○鶏一斤同五
 十文程 ○七文程 ○鳩一斤同八文程又を百文程 ○妻粉一斤銀二文又
 三分程 ○錫一斤同三文程 ○鉛一斤同二文五分程 ○大工手同賃銀百
 四十文程 手茶漬も此の二百文程上細工人を二文下程 ○日雇人足手同賃
 一日同百文又丸宿石匠等も百四十文程 ○在郷者月奉一人一人一ヶ月の
 給料同三百文程 ○金付一年分請なる作人より代目物より種油つり
 ○家屋舗地租銀一畝毎年一ヶ年九銀三ヶ程上納田地を科別あり等あり
 ○家賃と家の大小廣狭みよ等から凡五間表口から店張る家江種
 の地あり一ヶ年九銀三貫目程又二三間口の屋敷一ヶ月家賃五六百文程の
 ところ好場所あり二三十目位のもあり春家と月掛者等々の類を問ふ

の人々三季拂 ○下賤の者一人暮一方一人茶錢二十四文ありハ等ハカ
 如正も三人合食あり百文程あり安く暮らす食事を魚野菜等也
 肉食と出来程 ○中々商人躰あり家口九十人程あり一ヶ年暮り加
 三貫目程あり ○吉凶音物諸雜費貧富相應し等あり

清俗紀聞卷之二

居家

五

